



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2019 年度

シラバス 保健医療学部

理学療法学科





## 目次

理 001 基礎教養ゼミ .....	1
理 002 日本語表現法 .....	4
理 003 日本国憲法 .....	7
理 004 法学 .....	9
理 005 経済学 .....	11
理 006 社会学 .....	14
理 007 生涯健康論 .....	17
理 008 生涯学習概論 .....	21
理 009 生命と環境の科学 .....	24
理 010 国際関係論 .....	28
理 011 体育理論 .....	32
理 012 体育実技 .....	34
理 013 キャリア形成論 .....	36
理 014 哲学 .....	40
理 015 倫理学 .....	43
理 016 心理学 .....	46
理 017 文学と人間 .....	48
理 018 芸術論 .....	51
理 019 ボランティア・市民活動論 .....	54
理 020 人権論 .....	57
理 021 人間関係論 .....	60
理 022 ジェンダー論 .....	62
理 023 共生の倫理 .....	65
理 024 チーム医療アプローチ論 .....	68
理 025 国際医療事情 .....	71
理 026 Introduction to healthcare sciences .....	74
理 027 囲碁の世界 .....	77
理 028 英語 I A .....	80
理 028 英語 I B .....	83
理 029 英語 II A .....	85
理 029 英語 II B .....	88
理 030 英語 III A .....	91
理 030 英語 III B .....	94
理 031 英語 IV A .....	97
理 031 英語 IV B .....	100
理 032 Integrated English I .....	102

理 033 Integrated English II .....	105
理 034 ドイツ語 .....	108
理 035 フランス語 .....	110
理 036 ポルトガル語 .....	112
理 037 中国語 .....	115
理 038 ハンゲル語 .....	118
理 039 コンピュータ入門 I .....	121
理 040 コンピュータ入門 II .....	124
理 041 コンピュータ実習 I .....	127
理 042 コンピュータ実習 II .....	130
理 043 論理学 .....	133
理 044 人間発達論 .....	135
理 045 人間行動学 .....	138
理 046 化学 .....	141
理 047 統計学 .....	144
理 048 生物学 .....	146
理 049 生活科学概論 .....	149
理 050 国際保健医療論 .....	151
理 051 解剖学 I .....	154
理 052 解剖学 II .....	159
理 053 解剖学実習 .....	162
理 054 生理学 .....	165
理 055 生理学実習 .....	168
理 056 運動学 .....	172
理 057 運動学実習 .....	179
理 058 生化学 .....	183
理 059 栄養学 I .....	185
理 060 栄養学 II .....	187
理 061 病理学 .....	189
理 062 薬理学 .....	192
理 063 公衆衛生学 .....	195
理 064 画像診断学 .....	198
理 065 臨床医学 I (内科学・外科学) .....	200
理 066 臨床医学 II (内科学・外科学) .....	206
理 067 臨床医学 III (老年医学) .....	210
理 068 臨床医学 IV (小児医学) .....	214
理 069 臨床医学 V (女性医学) .....	217
理 070 臨床医学 VI (精神医学) .....	220
理 071 言語障害治療学 .....	223

理 072 リスクマネジメント .....	225
理 073 整形外科学Ⅰ .....	228
理 074 整形外科学Ⅱ .....	231
理 075 神経内科学Ⅰ .....	233
理 076 神経内科学Ⅱ .....	236
理 077 リハビリテーション概論Ⅰ .....	240
理 078 リハビリテーション概論Ⅱ .....	242
理 079 リハビリテーション統計学 .....	245
理 080 臨床心理学 .....	247
理 081 保健医療福祉行政論 .....	250
理 082 社会調査特論 .....	253
理 083 チーム医療アプローチ演習 .....	255
理 084 社会福祉概論 .....	257
理 085 理学療法概論 .....	260
理 086 理学療法基礎学 .....	263
理 087 理学療法基礎学実習 .....	266
理 088 理学療法セミナー 1 .....	269
理 089 理学療法セミナー 2 .....	272
理 090 理学療法セミナー 3 .....	275
理 091 理学療法セミナー 4 .....	277
理 092 理学療法研究法 .....	280
理 093 臨床運動学 .....	283
理 094 理学療法評価学Ⅰ .....	286
理 095 理学療法評価学Ⅱ .....	289
理 096 理学療法評価学実習Ⅰ .....	292
理 097 理学療法評価学実習Ⅱ .....	295
理 098 動作解析学 .....	298
理 099 動作解析学実習 .....	301
理 100 症候障害論 .....	304
理 101 運動器系理学療法学 .....	306
理 102 運動器系理学療法学実習 .....	309
理 103 神経系理学療法学 .....	313
理 104 神経系理学療法学実習 .....	316
理 105 内部障害系理学療法学 .....	319
理 106 内部障害系理学療法学実習 .....	322
理 107 日常生活活動学 .....	326
理 108 日常生活活動学実習 .....	329
理 109 義肢装具学 .....	332
理 110 義肢装具学演習 .....	335

理 111 物理療法学.....	338
理 112 物理療法学実習 .....	341
理 113 理学療法症例基盤型演習 I .....	343
理 114 理学療法症例基盤型演習 II .....	346
理 115 理学療法技術実習 I .....	349
理 116 理学療法技術実習 II .....	352
理 117 スポーツ障害系理学療法.....	355
理 118 嚥下障害系理学療法.....	357
理 119 発達障害系理学療法.....	359
理 120 産婦人科系理学療法学.....	361
理 121 地域在宅理学療法学.....	363
理 122 生活環境支援学.....	365
理 123 生活環境支援学演習.....	367
理 124 介護予防理学療法学.....	370
理 125 理学療法早期体験実習 .....	372
理 126 機能・能力診断学臨床実習.....	374
理 127 理学療法総合臨床実習 I .....	376
理 128 理学療法総合臨床実習 II .....	377
理 129 卒業研究.....	378
理 130 運動指導実践論.....	380
理 131 運動指導の心理学的基礎.....	383
理 132 エアロビックダンスの実際.....	386
理 133 ジョギング・ウォーキングの実際.....	389
理 134 水泳・水中運動の実際.....	392
理 135 ストレッチングおよび補強運動の理論と実際.....	395
理 136 救急処置.....	398

理 001 基礎教養ゼミ

科目名	基礎教養ゼミ（基礎教養）			LAB001	講義
英文名	Freshman Seminar (FYE)				
担当教員	吉田 剛, 他学科教員				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教育を受けるために必要な学習方法を学ぶ。</li> <li>2. ものの見方や考え方を多角的に行うために事例検討などを通して考えを深める場を作る。</li> <li>3. 様々な立場での考え方、共感する力、現実検討能力などの基礎を身につけて問題解決能力を高める。</li> <li>4. 専門家になる前の人間力を高め、自ら専門性に必要な要素を見つける。</li> </ol>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教育を受けるための学習方法が身に付く。</li> <li>2. 考えをまとめ整理するスキルが獲得できる。</li> <li>3. 広く問題解決能力が身につく。</li> <li>4. 理学療法士としての社会における役割などの自覚が生まれ、責任ある行動がとれる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	講義で提出されるレポート 70%、グループワークにおける役割と講義参加状況 30%				
課題に対するフィードバック	課題については 10 点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。				
使用教材	特に指定せず、随時資料を渡します。				
1	講義内容	大学における学習への取り組みと学習方法について			
	該当する到達目標	予習	シラバスを確認し、これから学ぶ内容に関する準備を行う。		1 時間
	1	復習	教わった学習方法を実践するための準備を行う。		1.5 時間
2	講義内容	自己分析と目標の立て方および生活管理について			
	該当する到達目標	予習	自己分析をしてみてその必要性について考える。		1.5 時間
	1,2,4	復習	自分の生活状況を見直し、大学生活を送るために現状を分析する。		1.5 時間
3	講義内容	理学療法士の道と基本的なコミュニケーションスキル■			
	該当する到達目標	予習	理学療法士の仕事について調べ、どのような資質が必要か考える。		1.5 時間
	1,2,4	復習	理学療法士になる者として必要なコミュニケーションスキルについて考える。		1.5 時間
4	講義内容	書くためのスキル(レポート作成など)、自分の考えをまとめて意見を述べる■			
	該当する到達目標	予習	レポートの書き方のポイントを調べる。		1.5 時間

	1,2,3	復習	自分の書いたレポートをチェックし、考えのまとめ方を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	医療人としての心構え■		
	該当する到達目標	予習	医療に携わる際の心構えについて調べておく。	1.5 時間
	1,4	復習	医療人としての心構えのポイントを整理しておく。	1.5 時間
6	講義内容	チームアプローチの必要性■		
	該当する到達目標	予習	チーム医療論で学んでいる内容をまとめて整理しておく。	1.5 時間
	1,4	復習	チームアプローチの必要性についてのポイントについて整理しておく。	1.5 時間
7	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ①社会問題(グループワーク)		
	該当する到達目標	予習	新聞などから身近な社会問題について抽出し、ポイントを捉える。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
8	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ②医療問題(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	日本の医療・介護制度について調べてポイントを整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
9	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ③倫理的問題(グループワーク)		
	該当する到達目標	予習	医療の中で生じる倫理的問題にはどのようなものがあるか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
10	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ④道徳的問題(グループワーク)		
	該当する到達目標	予習	学生生活の中で人の迷惑になる行為にはどのようなものがあるか抽出しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
11	講義内容	物事を多角的な視点でとらえる ⑤問題解決方法(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	問題解決のプロセスにはどのようなものがあるか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
12	講義内容	プロフェッショナルの条件について(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	どのような人をプロフェッショナルと考えるかまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
13	講義内容	高齢社会について考える(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	今の高齢社会の問題点について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
14	講義内容	障がいをもつということ(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	身体障害を持つとどのようなことで困るか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
15	講義内容	障がいをもつということ(グループワーク)■		
	該当する到達目標	予習	障害疑似体験を元にどのような対応が必要か考える。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5 時間
備考	理学療法学科教員がオムニバス形式で講義を行い、グループワークや障がい体験などを行う。 オフィスアワーは月曜日の4時限(14:45-16:15)			

不在の場合は、メール(tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp)にて質問を受け付ける。

予習・復習の不足時間については、グループ内の学習で補完すること

■:実務経験に基づく内容を示す

理 002 日本語表現法

科目名	日本語表現法（教養基礎）		LAB002	講義				
英文名	Japanese Expression Method							
担当教員	武藤 洋一							
科目に関連した実務経験	記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆。（経験）							
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 2単位					
講義目標	日本人の極端な日本語能力低下が問題視されている中で、「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。同時に他者の「考え」を発言や文面から把握、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。</li> <li>2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。</li> <li>3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■</li> <li>4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。</li> <li>5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■</li> </ol>							
学位授与方針との対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観</li> <li>2. 専門知識・技術の活用力</li> <li>3. 論理的思考力</li> <li>4. チームへの貢献力</li> <li>5. 生涯学習力</li> </ol>							
評価方法	筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって、総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。							
課題に対するフィードバック	提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。							
使用教材	『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）							
1	講義内容	「考え」をまとめるための5段階■						
	該当する到達目標	1,4	<table border="1"> <tr> <td>予習</td> <td>テキストの該当箇所を詠み、自分なりの5段階法を考察しておく。</td> <td>1.5時間</td> </tr> <tr> <td>復習</td> <td>実際に5段階法で文章を書き、文章構成の手法を振り返ってみる。</td> <td>1.5時間</td> </tr> </table>	予習	テキストの該当箇所を詠み、自分なりの5段階法を考察しておく。	1.5時間	復習	実際に5段階法で文章を書き、文章構成の手法を振り返ってみる。
予習	テキストの該当箇所を詠み、自分なりの5段階法を考察しておく。	1.5時間						
復習	実際に5段階法で文章を書き、文章構成の手法を振り返ってみる。	1.5時間						
2	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」■						
	該当する到達目標	予習	「公的」「私的」の違いを把握し、教科書のテスト1を解いておく。	1.5時間				

	1,5	復習	作文と小論文の違いをノートにまとめ、理解してみる。	1.5 時間
3	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト2を解いておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	「慣用句」についての理解を深めてみる。	1.5 時間
4	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト3を解いておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	「慣用句」～「故事成語」をノートにまとめ、自分でも調べてみる。	1.5 時間
5	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト4を解いておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	「四字熟語」の見識を深めるため日常的に使われている熟語を調べてみる。	1.5 時間
6	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法■		
	該当する到達目標	予習	比喩法の違いを把握しておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	比喩法を正確に識別できるか、試してみる。	1.5 時間
7	講義内容	日本語表現のミスⅠ 主述関係■		
	該当する到達目標	予習	主述関係のミスによる例文を考えておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	主述関係が正確に伝わる文章の条件を、ノートにまとめてみる。	1.5 時間
8	講義内容	日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語■		
	該当する到達目標	予習	修飾語・被修飾語の基本的知識を学んでおく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	修飾関係の乱れを生じさせない条件を、例文を使ってノートにまとめてみる。	1.5 時間
9	講義内容	日本語表現のミスⅢ 重複表現■		
	該当する到達目標	予習	重複表現の例を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	重複表現を故意に使った駄洒落文を作ってみる。	1.5 時間
10	講義内容	日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用■		

	該当する到達目標	予習	陳述の副詞の誤用例を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	社会の流れによって変わる「誤用」の要因を考えてみる。	1.5 時間
11	講義内容	日本語表現のミスⅤ 日本語表現の誤用■		
	該当する到達目標	予習	日常的に使われている誤用を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	オリジナルの誤用を作り出してみる。	1.5 時間
12	講義内容	文章の組み立て方Ⅰ 起承転結■		
	該当する到達目標	予習	「起承転結」の意味を調べておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	「起承転結」に従って 400 字程度の小論文を書いてみる。	1.5 時間
13	講義内容	文章の組み立て方Ⅱ 5W1H■		
	該当する到達目標	予習	テキストを基に、5W1H の基本知識を習得しておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	5W1H に従いながら文章構成を考え、100 字以内の文章を作ってみる。	1.5 時間
14	講義内容	文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス■		
	該当する到達目標	予習	新聞の社説を利用し、キーワード・キーセンテンスを見つけておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	キーワード・キーセンテンスを選択する際の必要事項ををノートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	文章の組み立て方Ⅳ 字数制限■		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布された課題文の要旨を字数制限に従ってまとめておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	800 字の文章を 200 字に、200 字の文章を 400 字にする訓練を試みる。	1.5 時間
備考	<p>受講に必要な資格はなし。</p> <p>毎回、現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、その都度実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。</p> <p>小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。</p> <p>オフィスアワーは授業実施時限の前後 1～2 時間。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 003 日本国憲法

科目名	日本国憲法（基礎教養）			LAB003	講義
英文名	Constitution of Japan				
担当教員	新田浩司				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。				
到達目標	1. 国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。 2. 一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験の成績により評価する。				
課題に対するフィードバック	小テスト実施した場合、評価の上返却する。				
使用教材	名雪健二編著『公法基礎入門』八千代出版 2400円＋税				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。		1時間
2	講義内容	憲法の基礎知識（1）			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。		1時間
3	講義内容	憲法の基礎知識（2）			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる		1時間
4	講義内容	憲法の基礎知識（3）			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。		1時間
5	講義内容	日本国憲法の制定過程			

	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	日本国憲法の基本原理		
6	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	国家の安全保障		
7	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	精神的自由権 (1)		
8	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる	1 時間
	講義内容	精神的自由権 (2)		
9	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	経済的自由権 1,2		
10	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	社会権 (1)		
11	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	社会権 (2)		
12	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	参政権、国務請求権		
13	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	統治機構 (1)1,2		
14	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	統治機構 (2)		
15	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる	1 時間
備考	<p>授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。</p> <p>授業の進め方：毎回、授業のまとめとして小テストを行う。</p> <p>予習・復習について、試験前後の学習にて補完すること。</p> <p>オフィスアワー 4 限</p>			

理 004 法学

科目名	法学（基礎教養）			LAB004	講義
英文名	Law				
担当教員	新田浩司				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、我々が社会人として身につけるべき能力である法的思考(リーガル・マインド)を身に着けることが目標です。				
到達目標	1.社会における法規範の意義について理解する。 2.法的思考を身につけることにより、社会における様々な問題を法的に分析できるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	出席状況ならびに期末試験の成績により評価する。				
課題に対するフィードバック	小テスト実施した場合、評価の上返却する。				
使用教材	名雪健二編著『公法基礎入門』八千代出版 2400円＋税				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	配布資料と教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。		1時間
2	講義内容	第1章 法と法学			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。		1時間
3	講義内容	第2章 法と国家			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。		1時間
4	講義内容	第3章 法と他の社会規範との関係			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。		1時間
5	講義内容	第4章 法の目的			
	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。		1時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。		1時間
6	講義内容	第5章 法の構造			

	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 6 章 法の淵源		
7	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 7 章 法の分類		
8	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 8 章 法の解釈		
9	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 9 章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関 1,2		
10	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 10 章 法の効力		
11	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	第 11 章 権利と義務		
12	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	まとめ(1)		
13	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	まとめ(2)1,2		
14	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
	講義内容	まとめ(3)		
15	該当する到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1 時間
備考	<p>授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁</p> <p>授業の進め方：毎回、授業のまとめとして小テストを行う。</p> <p>予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。</p> <p>オフィスアワー 4 限</p>			

理 005 経済学

科目名	経済学（基礎教養）			LAB005	講義
英文名	Economics				
担当教員	町田修三				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	<p>経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の経済の現状を説明できる</li> <li>2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる</li> <li>3. 景気やGDPについて理解を深め、概説できる</li> <li>4. 国の予算や税金制度について説明できる</li> <li>5. お金の流れや物価変動について説明できる</li> <li>6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる</li> <li>7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる</li> <li>8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	<p>学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%</p>				
課題に対するフィードバック	<p>コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する</p>				
使用教材	<p>必修テキストはない。推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。講義では毎回資料、データを配布する</p>				
1	講義内容	イントロダクション(一部AL[アクティブラーニング]実施)			
	該当する到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく		1時間
	8	復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する		1時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく		1時間

	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
3	講義内容	経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得 I (国の経済力はどう測るんだろう? GDPって何?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得 II (あなたが1万円使うとGDPはいくら増える?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部AL実施)1,3,8		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすところ?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートのメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字?赤字?)(一部AL実施)1,7,8		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間

15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		
	該当する到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1~8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー: 月曜日4限目、金曜日2限目      研究室: 1号館6階603</p> <p>授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。</p> <p>メールアドレス: machida@takasaki-u.ac.jp</p> <p>AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど</p> <p>予習・復習については、期末試験前の学習で補完すること</p>			

理 006 社会学

		<b>社会学（基礎教養）</b>		LAB006	講義
英文名	Sociology				
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にもの考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本的理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。</li> <li>2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。</li> <li>3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。</li> <li>5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	平常点（毎回、提出してもらおうアクションペーパーについては、第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。				
課題に対するフィードバック	各受講生の提出したアクションペーパーに書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前にリプライを実施する。場合によって、担当教員と受講生、あるいは受講生同士のディスカッションをおこなうことを通じて、社会学の理解を深める。				
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。				
1	講義内容	オリエンテーション、第1章社会学とは何か(1~12頁)について解説する。			
	該当する到達目標	予習	第1章を読んでおくこと。1頁の予習課題をしておくこと。		1.5時間
	1,2,3,4	復習	第1章の内容を理解しておくこと。9頁の課題をしておくこと。		1.5時間
2	講義内容	第2章 社会を観察する方法(13~24頁)を解説する。			
	該当する到達目標	予習	第2章読んでおくこと。13頁の予習課題をしておくこと。		1.5時間
	1,2,3	復習	第2章の内容を理解すること。22頁の課題をしておくこと。		1.5時間
3	講義内容	第3章 社会で生きる「私」(25~35頁)を解説する。			
	該当する到達目標	予習	第3章を読んでおくこと。25頁の予習課題をしておくこと。		1.5時間
	1,2,3	復習	第3章の内容を理解すること。34頁の課題をしておくこと。		1.5時間
4	講義内容	第4章 変容する家族のかたち(36~47頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■			

	該当する到達目標	予習	第4章を読んでおくこと。36頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3	復習	第4章の内容を理解すること。47頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第5章 性の多様なあり方を考える(48～59頁)を解説する。		
5	該当する到達目標	予習	第5章を読んでおくこと。48頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3	復習	第5章の内容を理解すること。57頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第6章 「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60～72頁)を解説する。		
6	該当する到達目標	予習	第6章を読んでおくこと。60頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	第6章の内容を理解すること。70頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第7章 日本で進展する環境・災害社会学(73～86頁)を解説する。		
7	該当する到達目標	予習	第7章を読んでおくこと。73頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第7章の内容を理解すること。84頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第8章 社会学から医療を見つめる(87～97頁)を解説する。		
8	該当する到達目標	予習	第8章を読んでおくこと。87頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	第8章の内容を理解すること。96頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第9章 社会学は教育とどう向き合うのか(98～109頁)を解説する。		
9	該当する到達目標	予習	第9章を読んでおくこと。98頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	第9章の内容を理解すること。108頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第10章 逸脱行動と社会問題(110～121頁)を解説する。1,2,3,4,5		
10	該当する到達目標	予習	第10章を読んでおくこと。110頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第10章の内容を理解すること。119頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第11章 「格差」の社会学(122～134頁)を解説する。		
11	該当する到達目標	予習	第11章を読んでおくこと。122頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第11章の内容を理解すること。132頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第12章 生活空間としての地域社会(135～149頁)を解説する。		
12	該当する到達目標	予習	第12章を読んでおくこと。135頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第12章の内容を理解すること。144頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第13章 グローバル社会とエスニシティ(150～162頁)を解説する。		
13	該当する到達目標	予習	第13章を読んでおくこと。150頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第13章の内容を理解すること。162頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	第14章 宗教から社会を捉える(163～176頁)を解説する。1,2,3,4,5		
14	該当する到達目標	予習	第14章を読んでおくこと。163頁の予習課題をしておくこと。	1.5時間
	1,2,3,4,5	復習	第14章の内容を理解すること。173頁の課題をしておくこと。	1.5時間
	講義内容	全講義を振り返り、社会学の考え方についてまとめる。		
15	該当する到達目標	予習	教科書とノートを読み直して、全講義の理解の確認をしておくこと。	3時間
	1,2,3,4,5	復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3時間
備考	講義の進め方としては、毎回、講義後にリプライカードを受講生に配布して、その回の講義内容と質問・意見を記入してもらい、次回には質問・意見に応えながら前回の講義を振り返り理解を定着化させてか			

ら、講義をおこなっている。

各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。

オフィスアワー：火曜日 5 限・水曜日 3 限

■：実務経験に基づく内容を示す。

理 007 生涯健康論

科目名	生涯健康論（基礎教養）			LAB007	講義
英文名	Lifelong Health Theory				
担当教員	鈴木 忠				
科目に関連した実務経験	非常勤医師(循環器内科)として病院に勤務				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に着けることを目的としている。				
到達目標	1.健康の定義と集団の健康評価指標を理解する。■ 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解する。■ 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解する。■ 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解する。■				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業参加度(課題に対する回答等)およびレポート:60点、期末試験:40点で総合60点以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートに対しコメントする。				
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。 参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向」を利用する				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標 WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。			
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。		1.5 時間
	1	復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。		1.0 時間
2	講義内容	健康を維持するための構造と働き■ 健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。			
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。		1.5 時間
	2	復習	物質代謝を理解し関わる体の構造とその働きについて理解を深める。		1.0 時間

3	講義内容	恒常性維持システムの役割と相互作用■ 物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持(ホメオスタシス)システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2	復習	生体の恒常性(ホメオスタシス)維持機構について理解する。	1.0 時間
4	講義内容	食物と健康■ 物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできないエネルギー源(栄養素)だけでなく、生体調節機能を有する成分が含まれることを理解し、食生活が健康維持に密接に関連することを学習する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	食物の代謝過程を理解するとともに、食生活と健康との関連を学習する。	1.0 時間
5	講義内容	運動と健康■ 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立した生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延に伸向けた運動について理解する。	1.0 時間
6	講義内容	ストレスと生活環境 現代の社会・生活環境は個体にとって多くのストレスを生む。ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケア・休養が健康維持にいかに重要であるかを理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3	復習	ストレスが、健康を害するメカニズムを理解し、その対策について理解する。	1.0 時間
7	講義内容	喫煙による健康障害■ たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.0 時間
8	講義内容	21 世紀における国民健康づくり運動(健康日本 21) 2000 年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及		

		び③心の安静を<健康維持の3本柱>とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する<予防医学>のスタートした。		
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	21 世紀における国民健康づくりと取り組みを理解する。	1.0 時間
9	講義内容	メタリックシンドロームおよび特定健診■ 肥満<内臓脂肪症候群(メタリックシンドローム)>の病態を理解し、動脈硬化性疾患発症の高リスクとなることを理解する。メタリックシンドローム対策として特定健診の結果を基に包括的生活指導・介入により、肥満(内臓脂肪肥満)改善により発病を予防できることを理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	メタリックシンドロームの病態・対策を理解する。	1.0 時間
10	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病■ 生活習慣が発症に関連する<糖尿病>II 型は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化の危険因子となるのみならず、微小血管障害による腎障害、視力障害及び神経障害の<三大合併症>を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第 1 位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣病の危険因子としての糖尿病 を理解する。	1.0 時間
11	講義内容	生活習慣病(心疾患・脳卒中)と生活習慣■ 死亡原因の 2 位及び 3 位の<心疾患(狭心症・心筋梗塞症)>及び<脳卒中>は、動脈硬化<血液循環障害> による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣病(心疾患・脳卒中)の病態と発症と生活習慣との関連を理解する。	1.0 時間
12	講義内容	ロコモティブシンドローム 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.0 時間
13	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣■ 日本人の死亡原因の 1 位はがん、2 位は心疾患、3 位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起		

		<p>因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣&lt;(がん発症危険因子)&gt;を知る。また、&lt;がん予防のための生活習慣&gt;及び早期発見・早期治療のための&lt;がん検診&gt;の重要性について理解する。</p>		
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.0 時間
14	講義内容	<p>最近の微生物・ウイルス感染症 ■          感染症は死因として必ずしも上位ではないが、感染症の流行は社会生活に大きな影響をもたらす。新興・再興感染症が問題となっている。日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所(入院)者の&lt;院内感染症&gt;発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因&lt;(医原性感染症)&gt;となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。</p>		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	最近の感染症の動向を理解しその対策について学習する。	1.0 時間
15	講義内容	<p>地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療) ■          これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる&lt;健康支援チームによるチーム医療&gt;が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。</p>		
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	4	復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。:	1.0 時間
備考	<p>オフィスアワー: 月曜日 12:30~13:30 15:30~16:30 研究室 4号館 2階学部長室          メールアドレス suzuki-t@takasaki-u.ac.jp          予習・復習については、試験前の学習で補完すること          講義においては前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。          レポートについても発表する時間を持ちたい。          ■: 地域医療における取組みの現状を踏まえ各講義をすすめる。</p>			

理 008 生涯学習概論

科目名	生涯学習概論（基礎教養）			LAB008	講義
英文名	Introduction to Lifelong Learning				
担当教員	小西 尚之				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	我々の多くは「学校教育」を中心に「教育」を受けてきたが、人間が学ぶ場は学校だけではない。本授業では、「教育」ではなく「学習」の視点から、公民館・博物館・図書館等の社会教育施設における学習など、「生涯学習」について学ぶ。授業の進め方としては、各テーマについての説明を聞くだけでなく、話し合い活動を通じて課題に取り組むことによって理解を深めていく。				
到達目標	1.「生涯学習」や「生涯学習社会」の理念について理解している。 2.社会教育施設等における学びの概要・特徴について理解している。 3.他者と協力しながら課題に積極的に取り組むことができる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	小テストに約 20%、レポート・発表に約 50%、日常点（授業への参加、授業態度、課題への取り組み、討論、授業に対する貢献度等）に約 30%を配分して総合評価する。				
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。				
使用教材	授業担当者の作成資料による。				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	資料を読んで、授業の概要を確認し、生涯学習を学ぶ意味を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	「学習」とは何か			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	今なぜ「生涯学習」がクローズアップされるのか			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	人は発達段階に応じて何を学ぶか			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間

5	講義内容	就職すると人はどのような学習をするのか		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	公民館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	図書館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	博物館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	美術館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	青年の家・少年自然の家とは何か 1,3		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	グループ発表①		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	グループ発表②		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	グループ発表③		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	グループ発表④1,3		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	グループ発表⑤		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
備考	<p>授業の進め方：少人数や全体での話し合い活動に加え、フィールドワーク(生涯学習施設への訪問)、その成果の発表など多様な学習活動を行います。</p> <p>学校教育の最終段階である大学で学ぶ皆さんにとって、今後の人生で重要となる「生涯学習」について学ぶ意義は大きいと思います。ただし、上記のような活動を重視するため、他者と協力しながら積極的に</p>			

「学ぼう」という意欲が無い人には不向きです。

予習・復習については、小テストの学習等で補完してください。

オフィスアワー: 火曜 5 限、金曜 2 限

メールアドレス: [konishi@takasaki-u.ac.jp](mailto:konishi@takasaki-u.ac.jp)

研究室: 8 号館 4 階 409 研究室

## 理 009 生命と環境の科学

科目名	生命と環境の科学（教養基礎）		LAB009	講義
英文名	Science of Environment and Life			
担当教員	奥 浩之			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	<p>毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。（パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。）</p>			
到達目標	<p>1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。  2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。  3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。  4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。  5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。</p>			
学位授与方針との対応	<p>1. 豊かな人間性と倫理観  2. 専門知識・技術の活用力  3. 論理的思考力  4. チームへの貢献力  5. 生涯学習力</p>			
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%			
課題に対するフィードバック	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。			
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)			
1	講義内容	生命と環境－地球における化学進化と生命における元素の役割		
	該当する到達目標 1,5	予習	元素周期表( <a href="http://stw.mext.go.jp/series.html">http://stw.mext.go.jp/series.html</a> )を読んでもみよう。	1 時間
		復習	(1)人体を構成する元素の存在比 (2)主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3)様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5 時間
2	講義内容	生命と環境－地球における元素の循環		
	該当する到達目標	予習	ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大	1 時間

	標		量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	
	1,5	復習	(1)大気・土壌における物質循環 (2)水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3)人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当する到達目	予習	温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
	標 1,5	復習	(1)地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2)IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO <sub>2</sub> 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3)国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
4	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当する到達目	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1)当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) <a href="http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145">http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145</a> (2)1953 年の論文 <a href="http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf">http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf</a> (3)DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう <a href="http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397">http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397</a>	1 時間
	標 2,5	復習	(1)DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2)ブラッグの回折条件式 (3)DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造解析における 2 つの方法		
	該当する到達目	予習	(1)タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2)アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
	標 2,5	復習	(1)アミノ酸 20 種類の分子構造 (2)X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3)NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当する到達目	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)アイスクリームの成分について。 (3)低脂肪アイスクリームの成分がわかったら調べてみよう。	1 時間
	標 2,5	復習	(1)swiss-pdb によってカリウムチャンネルの分子構造を見てみよう	1.5 時間

			(2)低脂肪アイスクリームにおける不凍タンパク質の機能について	
7	講義内容	生命と生体分子…さまざまなタンパク質		
	該当する到達目標 標 2,5	予習	(1)70S リボソームにおけるタンパク質合成 (2)電子伝達系における ATP 合成 (3)ビタミン B12 の役割 (4)マメ科植物における根粒菌とは？	1 時間
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)F1-ATPase プロトン濃度勾配による ATP 合成 (3)カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
8	講義内容	生命と生体分子…酵素・タンパク質の反応機構		
	該当する到達目標 標 2,5	予習	(1)セリンプロテアーゼによるタンパク質の加水分解機構 (2)加水分解酵素の活性中心における触媒反応を行うアミノ酸残基について (3)光合成における二酸化炭素固定反応について	1 時間
		復習	(1)酵素の活性中心におけるさまざまな金属イオンとその役割について (2)光合成における RuBisCO (二酸化炭素と水とリブロース 1,5 ビスリン酸から二分子の 3-ホスホグリセリン酸を得る反応を触媒する) の反応機構について。	1.5 時間
9	講義内容	生命と生体分子…ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当する到達目標 標 2,5	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4 とは？	1 時間
		復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境: 食品の安全確保 (加工食品の成分)		
	該当する到達目標 標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政 (農水省) では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境: バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当する到達目標 標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間

12	講義内容	ヒトの活動と環境: 外科手術用の接着剤		
	該当する到達目標	予習	(1)ポリウレタンの分子構造とは? (2)ポリウレタンはどのような原料から作られるか?	1 時間
	3,5	復習	(1)ウレタンプレポリマーによる血管の吻合メカニズム (2)血管の吻合における瞬間接着剤の欠点は? (3)血管の吻合におけるウレタンプレポリマーの優れている点は?	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分		
	該当する到達目標	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
	4,5	復習	(1)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境・・・グローバル化と感染症(ジカ熱、デング熱など)		
	該当する到達目標	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは? (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
	4,5	復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか? (2)ワクチンの開発例について	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境・・・食べると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当する到達目標	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
	4,5	復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか? (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は? (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
備考	<p>毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題などを説明してゆく。生命分子の構造学習を行うことがある。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p> <p>質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。</p>			

理 010 国際関係論

科目名	国際関係論（教養基礎）			LAB010	講義
英文名	International Relations				
担当教員	片桐 庸夫				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	1.現代世界の理解 2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3.国家間の対立要因の理解 4.国家間の相互理解の理解 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6.現代の戦争の特徴についての理解 7.国家の安全保障の理解 8.核の下の平和の理解 9.国際秩序概念の理解 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11.戦後日本の原型についての理解 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 14.日本の課題である国際貢献問題の理解				
到達目標	新聞やテレビ等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。				
学位授与方針との対応	1. 豊かな人間性と倫理観				
	2. 専門知識・技術の活用力				
	3. 論理的思考力				
	4. チームへの貢献力				
	5. 生涯学習力				
評価方法	講義中に行う3回程度の試験(60%)、講義に臨む態度(20%)、講義参加度(20%)等により総合評価を行う。				
課題に対するフィードバック	原則として試験を行った翌週の講義の際に答案を返却する予定である。その際には、一人一人に論文やレポートの文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。				
使用教材	配布するプリントを教材として用いる。				
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、試験の方法、成績評価等)についての説明を行う。			
	該当する到達目標	予習	必要ナシ		時間
		復習	必要ナシ		時間

2	講義内容	世界の混迷した状況や米国トランプ政権の一国主義、中国の影響力の拡大等について理解する。		
	該当する到達目標	予習	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	1.5時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	1.5時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまとめること。	1.5時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当する到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD画像による)について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	1.5時間
	6,7,8	復習	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	1.5時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		

	該当する到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当する到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生を理由を理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本外交の課題について理解する。		
	該当する到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13,14	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
備考	配布プリントを中心に、教員の実体験を交えつつ講義を行います。また、試験を 3 回程度実施します。返却の際には、一人一人に文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導します。			

「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねています。随時利用して下さい。予習・復習の結果、不明な点、わからない点などありましたら質問して下さい。

オフィスアワーは、前期木曜日の昼休み、場所は非常勤講師控室です。随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可です。

理 011 体育理論

科目名	体育理論（基礎教養）		LAB011	講義
英文名	Theory of Physical Education			
担当教員	入澤孝一			
科目に関連した実務経験	① 中学校・高等学校保健体育教諭、及び県教委指導主事としての実務を経験 ② 日本スケート連盟上級コーチとして医科学研究、及びオリンピックヘッドコーチ等の実務経験			
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論を身に付ける事、及びスポーツの社会的役割について知識を学ぶことにより、人々が健康に生き生き生活する社会の形成に貢献する人材を育成する。			
到達目標	1.トレーニングの基礎、理論についての知識を習得する。 2.各種の体力要素とトレーニングの関係について知識を習得する。 3.スポーツの果たす社会的役割、教育的役割について理解する			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	毎授業の課題についてレポート提出による評価 60% 授業時の小テストによる評価 40%			
課題に対するフィードバック	課題レポートは評価し、コメントをつけて返却する。 授業時の小テストは、前時の知識の定着度を図る。			
使用教材	自作のパワーポイント資料をプリントして配布する。			
1	講義内容	日本人の健康・体力についての現状を把握し、問題点、課題について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1、2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	人体の構造と特徴と効果的なスポーツ活動について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1、2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	加齢と体力低下と生活習慣病の予防・改善のための運動処方について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	スポーツ活動の至適年齢と身体活動について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間

5	講義内容	競技力向上や健康維持増進のためのトレーニングの原則について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	基本的な生活習慣とスポーツ栄養について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	ウォーミングアップ・クーリングダウン及びオーバートレーニングについて検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	オリンピックでメダル獲得を目指す日本の競技力向上対策について検討する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布プリントに目をとおす。	1.5 時間
	1,2	復習	授業終了後のレポートにより授業内容を確認する。	1.5 時間
備考	<p>授業後に、次の授業に使う資料を配布する。</p> <p>授業形態 座学説明50分 課題の検討・発表20分 本時のまとめレポート 20分</p> <p>オフィスアワー:木曜日1~2 限 メールアドレス:irisawa@takasaki-u.ac.jp 3号館 202号室</p>			

理 012 体育実技

科目名	体育実技（基礎教養）			LAB012	実習
英文名	Physical Education:Sports&Physical Activities				
担当教員	入澤孝一				
科目に関連した実務経験	① 中学校・高等学校の保健体育教諭としての実務及び県教委指導主事としての実務を実務 ② 日本スケート連盟上級コーチとして医科学研究、及びオリンピックヘッドコーチ等の実務経験				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論及び体力測定について身に付ける。特に新体カテストの測定方法と測定結果に基づいたトレーニングを実施する。中・高齢者が健康に活動するためのスポーツや動きづくりの実技・方法について習得する。				
到達目標	1.新体カテストの測定方法と評価について理解する 2.身体組成と有酸素トレーニングの理論と実施方法について理解する 3. バドミントンや各種レクリエーションゲームの基礎的な動きづくりについて習熟する 4.初動負荷マシンの使用に習熟し、中・高齢者を対象とした初動負荷トレーニングを実施する。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業終了時に出したレポート課題の提出による評価 40% 出欠状況、授業態度 40% 最終授業でレポート試験 20%				
課題に対するフィードバック	レポート課題について評価し、コメントをつけて返却する。 正確な動きが自ら出来て、指導できるように練習する。				
使用教材	自作パワーポイント資料のプリント配布 及び著書を利用する				
1	講義内容	ガイダンス及び新体カテストの概要について(目的と方法) ■			
	該当する到達目標	予習	シラバスについて目をとおしてくる。		1.5 時間
	1	復習	授業内容、評価方法、新体カテストについて確認する。		1.5 時間
2	講義内容	新体カテストの実施 ■			
	該当する到達目標	予習	新体カテストの実施方法を練習してくる。		1.5 時間
	1	復習	新体カテストが正しくできたかを確認する。		1.5 時間
3	講義内容	新体カテストの結果と評価 ■			
	該当する到達目標	予習	自分の測定結果について評価してまとめてくる		1.5 時間
	1	復習	事故の測定結果、全体の結果の分析について確認する。		1.5 時間
4	講義内容	身体組成(インピーダンス)測定と評価について ■			
	該当する到達目標	予習	身体組成について事前に調べてくる。		1.5 時間
	1	復習	自己の測定データについて確認する。		1.5 時間

5	講義内容	有酸素運動の理論と実践 ■		
	該当する到達目標	予習	有酸素運動について調べてくる。	1.5 時間
	2	復習	有酸素運動について確認する。	1.5 時間
6	講義内容	有酸素運動の理論と実践 ■		
	該当する到達目標	予習	予め測定に向け、日常生活で有酸素的な運動を心がけておく。	1.5 時間
	2	復習	測定データを確認する。	1.5 時間
7	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの実践と方法を習得する ■		
	該当する到達目標	予習	有酸素運動について調べてくる。	1.5 時間
	2	復習	有酸素運動について確認する。	1.5 時間
8	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの実践と方法を習得する ■		
	該当する到達目標	予習	予め日常生活で無酸素的な運動を心がけておく。	1.5 時間
	2	復習	測定データを確認する。	1.5 時間
9	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの指導を実践する ■		
	該当する到達目標	予習	レジスタンストレーニングについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	レジスタンストレーニングの理論と留意点について確認する	1.5 時間
10	講義内容	初動負荷マシンの使用方法の習得 ① ■		
	該当する到達目標	予習	初動負荷マシンについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	初動負荷マシンの使用方法の習得 ② ■		
	該当する到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる。	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング ① ■		
	該当する到達目標	予習	中・高齢者の運動の留意点につて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する。	1.5 時間
13	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング ② ■		
	該当する到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる。	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング ③ ■		
	該当する到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる。	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する。	1.5 時間
15	講義内容	試験 課題レポート ■		
	該当する到達目標	予習	授業で実施した各種トレーニングの方法について復習してくる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	トレーニングの基礎理論や方法が理解できたかを確認する。	1.5 時間
備考	<p>① 第2体育館及び初動負荷トレーニング室で実施する。</p> <p>② 十分なアップ・ダウンを実施する。</p> <p>③ 主運動では、実施方法と指導方法を考慮したグループ編成を中心として授業を組み立てる。</p>			

## 理 013 キャリア形成論

科目名	キャリア形成論（教養基礎）		LAB013	講義
英文名	Career Development			
担当教員	小泉 英明			
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	<p>社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容が大きく変化しています。本講座では、大学生が社会（企業・組織）から求められている「能力」について理解を深め、社会ですぐに役立つ人材となることを目指します。授業ではSGD(スモール・グループ・ディスカッション)を通じてお互いを高め合い、コミュニケーション能力・思考力・問題解決能力を醸成するとともに、様々なケーススタディによって社会・職場適応力を習得します。さらに、本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理を行いながら、将来のキャリア形成につながる基礎を固めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■</li> <li>2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。</li> <li>3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■</li> <li>4. 読む・聞く・書く・話す力の基本を身につけ、コミュニケーション能力を高める。■</li> <li>5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。</li> <li>6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。</li> <li>7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。</li> <li>8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■</li> <li>9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■</li> <li>10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■</li> <li>11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。</li> </ol>			
学位授与方針との対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観</li> <li>2. 専門知識・技術の活用力</li> <li>3. 論理的思考力</li> <li>4. チームへの貢献力</li> <li>5. 生涯学習力</li> </ol>			
評価方法	<p>最終レポート 60%、授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。</p>			
課題に対するフィードバック	<p>授業後の提出課題については、随時コメントをつけてフィードバックします。 最終レポートの後に、出題テーマの意図を掲示によって示します。</p>			
使用教材	講義内容を随時プリントして配布します。			

1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成に必要なこと		
	該当する到達目標	予習	新聞、テレビなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む	1.5時間
	1	復習	社会が求めていること、キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第2回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。■	1.5時間
3	講義内容	自己の理解		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第3回講義プリントを読む。自己理解シートに記入する。	1.5時間
	2	復習	自己理解と、自己効力感を理解する。自分のパーソナリティを確認する。	1.5時間
4	講義内容	コミュニケーション力■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第4回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第5回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間
	3,4	復習	ディスカッションを振り返り、自身のストロング・ウィークポイントを知る。	1.5時間
6	講義内容	気づく力		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第6回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間
	3,7	復習	事例研究課題に取り組む。気づく力が問題解決の入り口であることを理解する。	1.5時間
7	講義内容	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング）		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第7回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。（課題→第9回のBSで使用）	1.5時間
8	講義内容	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング）		
該当する到達目標	予習	事前に配布する第8回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5時間	

	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想演習。	1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす(BS 演習ほか)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 9 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	ブレインストーミングをはじめ、創造力を伸ばす技法の理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力 I (問題点を探る・WHY ツリー) ■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 10 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。(課題→提出)	1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 11 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	「仕事観」「就業観」を理解し、レポートを書く。(課題→提出)	1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力 II (問題解決の手法・HOW ツリー／目標設定・キャリアマニフェスト) ■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 12 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を解決するため、目標設定と計画立案を行う。(課題→提出)	1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 13 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジション) ■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 14 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、自己を確立することの重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 15 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	ストレス対処法を理解し、ストレスに対する耐性力に高める。	1.5 時間
備	オフィスアワー: 木曜日(12~17 時)			

考

事前に配布するプリントをもとに予習して授業に臨んでください。配布プリントはファイリングし、毎回持参してください。授業は積み上げ方式で進めていくので、授業後は必ず復習してください。新聞やテレビなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。

〔健康福祉学部の学生に求められる基本的な資質〕

- ①人の役に立つという心構え
- ②生活者本位の視点
- ③コミュニケーション能力
- ④チームワーキングへの参画
- ⑤自己研鑽

■：実務経験に基づく内容を示す。

## 理 014 哲学

科目名	哲学（人間理解）			LAH001	講義
英文名	Philosophy				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。				
到達目標	1.人與人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。				
学位授与方針との対応	1. 豊かな人間性と倫理観 2. 専門知識・技術の活用力 3. 論理的思考力 4. チームへの貢献力 5. 生涯学習力				
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。				
使用教材	講義中にプリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。		1時間
		復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。		1時間
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル			
	該当する到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。		1時間
		復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。		1.5時間

3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5時間
4	講義内容	自分と他者(3) 人と人の関係性——ブーバー、サルトル		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 1,3	復習	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5時間
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと		
	該当する到達目	予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1時間
	標 1,3,4,5	復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5時間
6	講義内容	平等と共生(1) 誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5時間
7	講義内容	平等と共生(2) 環境は人の心にどう影響するのか		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5時間
10	講義内容	心と身体(2) 人間の中心は脳なのか		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5時間
11	講義内容	エンハンスメント(1) 変化する「病」の定義		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間
	標 2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当する到達目	予習	配布プリントに目を通す。	1時間

	標 2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当する到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1) 責任の範囲はどこまで? ——アリストテレスほか		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	標 1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2) 「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	標 1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
備考	<p>配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設けます。</p> <p>本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。</p> <p>予習・復習については試験前の学習で補完して下さい。</p> <p>オフィスアワー: 水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付けます。</p> <p>メールアドレス: oishi@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室: 1 号館 6 階 601</p>			

理 015 倫理学

科目名	倫理学（人間理解）			LAH002	講義
英文名	Ethics				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択・2 単位		
講義目標	現在、医療の場では「生む・生まれる」「生きる」「死を迎える」というそれぞれの段階に、価値観の違いによる様々な葛藤がある。本講義では、安楽死や出生前診断など、医療にたずさわる者として考えておきたいトピックを取り上げる。そうした対立が生じる背景、問題を理解するとともに、みずから判断する力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療倫理の四原則、自己決定の重要性と課題について理解し、説明できる。</li> <li>2. 善悪の判断基準（目的論と義務論）について理解し、説明できる。</li> <li>3. 出生前診断や安楽死など、現代医療の問題を多角的に理解し、説明できる。</li> <li>4. 個人と社会の関係性を考察し、よりよい議論と合意形成のあり方を理解し、説明できる。</li> <li>5. 各テーマに関してみずから考え、その考えを適切に表現、伝えることができる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験（60%）、予習課題・ミニレポート（40%）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	レポート課題については、コメントを添えて講義中に紹介する。				
使用教材	講義中にプリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1 時間	
		復習	倫理を学ぶ意義について理解する。	1 時間	
2	講義内容	医療倫理の四原則			
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間	
	1,5	復習	医療倫理の四原則について理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	意志と自己決定 (1) インフォームド・コンセントとアドボカシー			
	該当する到達目標	予習	インフォームド・コンセントの定義を確認する。	1 時間	
	1,5	復習	自己決定重視の背景、医療従事者の役割を理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	「善」の基準 (1) 「よさ」は利益で決まるのか			

	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	目的論（功利主義）の考え方を理解する。	1.5 時間
	講義内容	「善」の基準 (2) 誰もが共有する「よさ」はあるか		
5	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	義務論の考え方を理解する。	1.5 時間
	講義内容	意志と自己決定 (2) 治療の差し控えと代理決定		
6	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	ケース・スタディのプリントを完成させる。	1.5 時間
	講義内容	グループワーク① 代理決定はどこまで許されるか		
7	該当する到達目標	予習	第1回～第4回のノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,5	復習	ディスカッションの内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
	講義内容	脳死と移植医療		
8	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	脳死への多様な見方を理解できる。	1.5 時間
	講義内容	安楽死 (1) 日本の判例とオランダの法整備		
9	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	積極的安楽死について国内外の現状を理解する。	1.5 時間
	講義内容	安楽死 (2) 新生児・胎児への安楽死と優生思想		
10	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	安楽死を法制化する社会的影響、安楽死を避けるための取組みを理解する。	1.5 時間
	講義内容	生殖の倫理 (1) 出生前診断：子どもを選ぶ権利はあるか		
11	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	VTRの内容について、プリントを完成させる。	1.5 時間
	講義内容	生殖の倫理 (2) 「子どもをもつ権利」と「子どもの権利」		
12	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	AIDや代理母の問題について理解する。	1.5 時間
	講義内容	ディスカッション② 家族のあり方と医療技術		
13	該当する到達目標	予習	第11回～第12回のノート・資料に目を通す。	1 時間
	3,5	復習	ディスカッションの内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
	講義内容	QOL向上への取り組み		
14	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4,5	復習	VTRの内容について、プリントを完成させる。	1.5 時間
	講義内容	個人の意志と社会、合意形成——よりよい決定のために		
15	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4,5	復習	個人と社会の相関関係、合意形成のあり方について理解する。	1.5 時間
備	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下			

考

さい。

配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見を交換する場を設けます。

オフィスアワー:水曜日の2時限、金曜日の2時限。質問はメールでも受け付けます。

メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」

研究室:1号館6階601

予習・復習については試験前の学習で補完すること。

理 016 心理学

科目名	心理学（人間理解）			LAH003	講義
英文名	Psychology				
担当教員	内田祥子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。</li> <li>2. 人間の行動の基礎過程について説明できる。</li> <li>3. 人間の発達と心理との関係について説明できる。</li> <li>4. 社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。</li> <li>5. 心理的支援の方法と実際について説明できる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	宿題 30%、学期末テスト 70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。				
課題に対するフィードバック	小テスト(予習・復習課題)の解説を次回の授業で毎回おこなう。				
使用教材	授業内で必要に応じて提示する				
1	講義内容	オリエンテーション「心理学を学ぶ意義」			
	該当する到達目標	予習	シラバスに目を通す		1.5 時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題		1.5 時間
2	講義内容	心理学とは			
	該当する到達目標	予習	心理学を学ぶ意義について考える		1.5 時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題		1.5 時間
3	講義内容	環境を認知する心の働き(1)知覚			
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題		1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題		1.5 時間
4	講義内容	環境を認知する心の働き(2)学習			
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題		1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題		1.5 時間

5	講義内容	環境を認知する心の働き(記憶)		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
6	講義内容	環境を認知する心の働き(4)言語・思考		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
7	講義内容	環境を認知する心の働き(5)情動・動機づけ		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
8	講義内容	社会の中の人間(1)人格		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
9	講義内容	社会の中の人間(2)自己		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
10	講義内容	社会の中の人間(3)社会 4		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
11	講義内容	生涯発達のしくみ、アイデンティティの生涯発達		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
12	講義内容	脳科学と心理学		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
13	講義内容	発達臨床・心理臨床(1)発達臨床		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
14	講義内容	発達臨床・心理臨床(2)心理臨床 5		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 医療事故と心理学		
	該当する到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワーは月曜 1・2 限(8 号館 410 研究室)です。uchida-s@takasaki-u.ac.jp</p> <p>授業は教員の作成した資料に基づき、講義形式でおこないます。また復習課題のなかで疑問点などを確認します。</p>			

## 理 017 文学と人間

科目名	文学と人間（人間理解）		LAH004	講義
英文名	Literature and Humanity			
担当教員	斎藤 順二			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD で味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。			
到達目標	1.視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることができる。 2.歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	まとめのレポートを 100 点満点で採点し、それに授業参加度を加味(10%)して総合評価する。			
課題に対するフィードバック	共通課題「授業で学んだ近代文学の名作の中から、人間と人間生活の理解に役立つと思われる 10 作品を選び、それぞれ 80~90 字で論評なさい」を採点し、その結果を講評する。			
使用教材	小田切進『日本の名作』(中央公論新社)定価(本体 720+税)			
1	講義内容	二葉亭四迷『浮雲』・森鷗外『舞姫』		
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
		復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
2	講義内容	森鷗外『高瀬舟』・『雁』		
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
		復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
3	講義内容	幸田露伴『五重塔』・樋口一葉『たけくらべ』		
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
		復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
4	講義内容	尾崎紅葉『金色夜叉』・徳富蘆花『不如帰』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間

	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
5	講義内容	泉鏡花『高野聖』・島崎藤村『破戒』『夜明け前』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
6	講義内容	夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
7	講義内容	伊藤左千夫『野菊の墓』・田山花袋『田舎教師』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
8	講義内容	芥川龍之介『羅生門』『鼻』『地獄変』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
9	講義内容	有島武郎『或る女』・武者小路実篤『友情』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
10	講義内容	川端康成『伊豆の踊子』・小林多喜二『蟹工船』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
11	講義内容	林芙美子『放浪記』・尾崎士郎『人生劇場』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
12	講義内容	谷崎潤一郎『春琴抄』『細雪』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
13	講義内容	志賀直哉『暗夜行路』・太宰治『人間失格』		
	該当する到達目	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	標 1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間

	講義内容	壺井栄『二十四の瞳』・井上靖『天平の甍』		
1	該当する到達目標 1,2	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
4		復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
	講義内容	学習の整理と展望(まとめのレポート)		
1	該当する到達目標 2	予習	これまでに学んだ近代文学の名作の中から 10 作品に絞り込む。	1.5 時間
5		復習	知的好奇心から問題意識を持ち、さらに読書の幅を広げる。	1.5 時間
備考	授業では、朗読 CD を活用して日本文学作品の梗概を理解しながら、人物相関図の板書とテキストの読解を行う。これをきっかけにして、さらに各自が近代文学に興味関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげることが望ましい。なお、質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

## 理 018 芸術論

科目名	芸術論（人間理解）			LAH005	講義
英文名	Art Theory				
担当教員	石原綱成 志尾睦子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	芸術を学ぶことで、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、等）を深く理解する。				
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	中間テストとして筆記試験を実施、期末試験はレポート提出とする 中間テストの筆記試験(50%)と期末試験のレポート提出(50%)を総合評価する。				
課題に対するフィードバック	講義形式をとるが、一方的な講義にならぬよう、受講生の意見、学習状況は逐一確かめる。				
使用教材	教科書は使用せず、逐次プリントを配布する。また、授業においてはパワーポイントを使用する。				
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。		1.5 時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー			
	該当する到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく。		1.5 時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する。		1.5 時間
3	講義内容	芸術史概説			
	該当する到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく。		1.5 時間
	1,2,4	復習	芸術史の区分についてそれぞれの特色を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か			
	該当する到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する。		1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル			
	該当する到達目標	予習	シンボルの本質について理解する。		1.5 時間

	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	ルネサンス美術—古典古代の芸術—		
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える。	1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術—図像解釈学と美術—		
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	イデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	中間テスト		
	該当する到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ ■		
	該当する到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る ■		
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ ■		
	該当する到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る ■		
	該当する到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習1:見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する ■		
	該当する到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習2:演出とは何か ■		
	該当する到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論:映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る ■		
	該当する到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
備考	<p>パワーポイントを使用した講義形式をとるが、一方的な講義にならぬよう、受講生の意見、学習状況を確認しながら進める。</p> <p>尚、講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)</p> <p>石原オフィスアワー:月曜日の3限、木曜日の4限、質問はメールで受け付ける。</p> <p>石原メールアドレス:ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館5階501</p> <p>志尾メールアドレス:m-shio@takasaki-cc.jp</p>			

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 019 ボランティア・市民活動論

科目名	ボランティア・市民活動論（人間理解）		LAH006	講義
英文名	Voluntary Action			
担当教員	金井 敏			
科目に関連した実務経験	前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事していました。また、様々なボランティア活動実践者と交流があります。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター（VSC）でセンター長としてVSCを運営しています。			
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動です。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在です。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成します。			
到達目標	1. ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2. ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3. ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4. 参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	<p>成績評価</p> <p>①学期末に課すレポートによる評価（75%）。 ②ボランティア実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25%）。</p> <p>その他の評価</p> <p>①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとします。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなします。 ③ボランティア実践の時間（例：1回当たり4時間×5回＝20時間相当）も本時の講義時間に含めます。</p>			
課題に対するフィードバック	実践や授業内容などに関する質問や意見については、授業のなかで取りあげるなど随時、学生にフィードバックします。			
使用教材	各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布します。テキストは使用しません。参考文献は随時、紹介します。			

1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘いボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法, 授業の進め方を確認する。■		
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容をよく読んで, 現時点でのボランティアの理解を把握する。	1.5 時間
	1,3	復習	講義内容, 学位授与方針, 成績評価方法, VSC 利用方法などを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割 ■		
	該当する到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金 ■		
	該当する到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動 ■		
	該当する到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	被災地に届け, 災害支援ボランティア活動 ■		
	該当する到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史 ■		
	該当する到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動 ■		
	該当する到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	新しい支え合いの必要性～20年後のあなたへ ■		
	該当する到達目標	予習	地域における生活のしづらさや今後の課題などについて自分なりに考える。	1 時間
	1,2,3,4	復習	地域において生ずる生活課題や住民同士の支援のあり方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	バリアフリー社会と心のバリアフリー ■		
	該当する到達目標	予習	日常生活におけるバリアフリーについて調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	誰にも優しいバリアフリーの実践方法を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	ボランティアとNPO～学生でも創れるNPO法人 ■		

	該当する到達目標	予習	NPO 法人の概要について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件, ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係		
11	該当する到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
	講義内容	小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか ■		
12	該当する到達目標	予習	小中高校で取り組まれている福祉実践について調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	小中高校における福祉教育のあり方や自身の関わり方について理解する。	1.5 時間
	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～ ■		
13	該当する到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の介護予防や健康, 子育て家庭を住民が支える活動について理解する。	1.5 時間
	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～ ■		
14	該当する到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し, 自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
	講義内容	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方		
15	該当する到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題を自分なりに考える。	1 時間
	1,3,4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて, ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
備考	<p>毎回の授業は, ボランティアに関する映像視聴, テーマに基づく講義, ゲストスピーカー講義(6 回予定), ディスカッション, 振り返り, 次週の予定, という流れで進めます。</p> <p>オフィスアワー: 月曜日 12 時 15 分～13 時・水曜日 12 時 15 分～13 時で相談に応じます。研究室: 1号館 3階310研究室。</p> <p>質問・意見はメールでも対応します。</p> <p>シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表しています。</p> <p>ボランティア・市民活動支援センター(VSC, 9号館1階)を活用してください。活動を始める前には必ず, ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じます。</p> <p>VSC 直通 TEL:027-352-1108, VSC メールアドレス: <a href="mailto:vsc@takasaki-u.ac.jp">vsc@takasaki-u.ac.jp</a></p>			

理 020 人権論

科目名	人権論（人間理解）		LAH007	講義
英文名	Theory of Human Right			
担当教員	金井 洋行			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。</li> <li>2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。</li> <li>3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。</li> <li>4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。</li> <li>5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応	1.	豊かな人間性と倫理観		
	2.	専門知識・技術の活用力		
	3.	論理的思考力		
	4.	チームへの貢献力		
	5.	生涯学習力		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%)</li> <li>・中間テストは概ね3回の知識テスト又は、定期試験は知識と思考力のテスト</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)			
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) *テーマによって DVD の視聴あり			
1	講義内容	人権の観念と内容		
	該当する到達目標 1	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の教科書等による再チェック	2時間
		復習	予備知識アンケート	0.5時間
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係		

	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,2	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,2,4	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	幸福追求権の意義と具体化		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,2,4	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,2,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 1,3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 3,4,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標 3,4,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当する到達目	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	標	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間

	3,5			間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当する到達目標	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1時間
	3,4,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当する到達目標	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1時間
	3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5時間
14	講義内容	人権の国際化		
	該当する到達目標	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1時間
	3,5	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5時間
15	講義内容	人権の現状と今後の課題		
	該当する到達目標	予習	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1時間
	1,4	復習	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5時間
備考	<p>講義内容はできるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。</p> <p>出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。</p> <p>最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p>			

理 021 人間関係論

科目名	人間関係論（人間理解）			LAH008	講義
英文名	Theory of Human Relations				
担当教員	富田 純喜				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	人間関係論といえば、ホーソン実験を基盤として体系化された理論を指すことが多い。また、社会科学における研究アプローチを指すこともある。本講義では、広く生活上の諸現象を人と人との関係から理解することを目的とする。				
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.人間関係を多角的な視点から説明できる。 3.人間関係の構築に関する基礎的なアプローチを説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験(70%)、授業参画度(30%)				
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。				
使用教材	必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。		1時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。		1.5時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。		1.5時間
3	講義内容	自己と他者			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。		1.5時間
4	講義内容	身体の個別性と共同性			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。		1.5時間
5	講義内容	発達と人間関係(1) 対人関係のはじまり			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。		1.5時間

6	講義内容	発達と人間関係(2) 親子関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	発達と人間関係(3) 甘えと自律(自立)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	個体能力論としての人間関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	関係論としての人間関係(1) 個と個の関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	関係論としての人間関係(2) 社会的関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	人間関係におけるコミュニケーション能力		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	人とのかかわり方(1) 一人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	人とのかかわり方(2) 二人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	人とのかかわり方(3) 三人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会における人間関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	2 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
備考	<p>授業は主に講義形式で進めるが、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p> <p>オフィスアワー:(8号館4階406研究室)</p> <p>メールアドレス:tomita-t@takasaki-u.ac.jp</p>			

理 022 ジェンダー論

科目名	ジェンダー論（人間理解）			LAH009	講義
英文名	Gender Theory				
担当教員	前田 由美子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	人間の性とはどういう意味をもつのか。それによって形成されている秩序と、それゆえに起こるさまざまな葛藤を真摯にみつめ、性を制度設計に組み込む社会の問題を解き明かす。その上で、それらをどのように解決して行ったら良いのかを深く思索する。そうすることによってより豊かで包容力のある社会を創造する力を備え、行動する人になり、新しい自分や社会を発見することになるであろう。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の内部にある「性」のとらえ方を見つめ直す。</li> <li>2. 内面化している固定的な性のイメージや制度に対する固定観念に気づく。</li> <li>3. 他者や社会への豊かなまなざしを持てる。</li> <li>4. 豊かな社会創造への力を身につける。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観</li> <li>2. 専門知識・技術の活用力</li> <li>3. 論理的思考力</li> <li>4. チームへの貢献力</li> <li>5. 生涯学習力</li> </ol>				
評価方法	レポートを4日間それぞれに提出(1日につき25%相当)。合計で評価する。 総合評価60%以上で合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートを返却し、コメント解説を行う。				
使用教材	授業用プリント、文献資料等を随時配布する。必要に応じてメディア教材を使用する。				
1	講義内容	講義全体の説明			
	該当する到達目標	予習	性別についての自分の考え方を見つめておく。		1時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。		1.5時間
2	講義内容	ジェンダーという概念			
	該当する到達目標1	予習	文献資料に目を通す。		1時間
		復習	ジェンダー概念について理解する。		1.5時間
3	講義内容	生き物としての性とその多様性			
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。		1時間

	標 1,2	復習	性の多様性を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	セクシュアリティ・性的指向		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3	復習	セクシュアリティの多様性について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	性役割と性規範		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2	復習	身の回りの性役割や性規範について気づく。	1.5 時間
6	講義内容	ジェンダー・アイデンティティ		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3	復習	ジェンダー・アイデンティティについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	性別と経済		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3	復習	経済と性別のつながりを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	女性と子ども		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3,4	復習	女性と子どものつながりへの偏重を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	男性と子ども		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3,4	復習	男性と子どものつながりの困難を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	労働と性別		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3,4	復習	労働と性別のつながりの問題を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	労働と性別とそれぞれの暮らし		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3,4	復習	ワーク・ライフ・バランスを理解し、問題解決法を考える。	1.5 時間
12	講義内容	男性のかかえる問題		
	該当する到達目	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	標 1,2,3,4	復習	男性をとりまく問題を理解し、女性の問題との関連を考える。	1.5 時間

13	講義内容	セクシュアル・ハラスメント		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	問題の本質を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ドメスティック・バイオレンス		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	社会問題として理解する。	1.5 時間
15	講義内容	性別と社会の問題		
	該当する到達目標	予習	全ての文献のつながりを理解する。	1 時間
	3,4	復習	問題の確認と解決法を考える。	1.5 時間
備考	<p>レジュメに基づき解説を行う。時にグループワークも行い、課題について考察を深める。集中講義なので、日ごとに短いレポートを作成提出してもらおう。予習・復習については、予め配布される資料を読み込んで行い、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p> <p>仕事の選択、恋愛、卒業後の人生設計において、この授業で学ぶ知識は大きな影響をもたらすはずである。自身のために、社会を創るために是非学んでほしい。</p> <p>質問等は、授業中もしくは終了後に応じ解説する。</p>			

理 023 共生の倫理

科目名	共生の倫理（人間理解）			LAH010	講義
英文名	Ethics of Symbiosis				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	現代では多様な価値観・文化をもった人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。差別や排除をのりこえ、共生を実現するためのどのような取り組みができるのか、基礎的な理論と方法の知識を習得することを目標にする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。</li> <li>2. 共生の歴史について理解し、説明できる。</li> <li>3. 共生を支える社会学、倫理学また教育や臨床的なアプローチを理解し、説明できる。</li> <li>4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。</li> <li>5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観</li> <li>2. 専門知識・技術の活用力</li> <li>3. 論理的思考力</li> <li>4. チームへの貢献力</li> <li>5. 生涯学習力</li> </ol>				
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。				
使用教材	講義中にプリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。		1時間
		復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。		1.5時間
2	講義内容	共生とは何か、共生に関わる社会意識			
	該当する到達目標	予習	共生の定義を調べる。		1.5時間
		復習	なぜ共生が必要とされるのか理解する。		1.5時間
3	講義内容	多文化社会と価値の多様化			

	該当する到達目 標 1,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	価値の多様化の社会的な影響について、事例を考え課題を作成する。	1.5 時間
4	講義内容	分断と隔離の歴史		
	該当する到達目 標 2,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	近代以降に障がい者などの隔離が進んだ背景を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当する到達目 標 2,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	共生の歴史：ノーマライゼーションからエンパワーメントへ		
	該当する到達目 標 2,4,5	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1 時間
		復習	ノーマライゼーションの意義と、他の概念へ置き換わった背景を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	公共空間のユニバーサルデザイン		
	該当する到達目 標 4,5	予習	ユニバーサルデザインの定義を調べる。	1 時間
		復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
8	講義内容	共生をめざして(1) 社会学からのアプローチ		
	該当する到達目 標 3,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	世代間保障について理解し、課題を作成する。	2 時間
9	講義内容	共生をめざして(2) 倫理学からのアプローチ		
	該当する到達目 標 3,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	共感の道徳的な役割を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	共生をめざして(3) 教育学からのアプローチ		
	該当する到達目 標 3,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	学校教育での共生の取り組みを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	共生をめざして(4) 非行臨床からのアプローチ		
	該当する到達目 標 3,5	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	矯正教育の意義と成果について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	共生をめざして(5) 認知症ケアの臨床からのアプローチ		
	該当する到達目 標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	介護での QOL 向上やコミュニケーション改善の取り組みを理解する。	1.5 時間

	3,5			間
13	講義内容	「排除型社会」がもたらすリスク		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	価値多様化の時代の「自己」のあり方、共済、相互扶助の意義を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	事例研究:多民族、多文化の共生		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4,5	復習	講義の内容をふまえ、課題を作成する。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
備考	<p>授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料に関する分析、考察する機会を設ける。</p> <p>予習・復習については試験前の学習で補完すること。</p> <p>オフィスアワー:月曜日の3時限、金曜日の2時限。質問はメールでも受け付ける。</p> <p>メールアドレス:oishi@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室:1号館6階601</p>			

理 024 チーム医療アプローチ論

科目名	チーム医療アプローチ論（人間理解）		LAH011	講義
英文名	Interprofessional Education (IPE)			
担当教員	原田欣宏、竹内真理、土井信幸、小笠原映子、鈴木忠、篠原智行、丸山健一、大川喜代美			
科目に関連した実務経験	急性期および回復期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。 生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。			
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。			
到達目標	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%			
課題に対するフィードバック	・他学科の学生が参加していることから講義中に双方向型講義を行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートを読んで感じた点や補足すべき点について文章化し、次回の授業時に受講生に配布する。			
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配布する。			
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について		
	該当する到達目標 1	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5時間
		復習	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5時間
2	講義内容	チーム医療における看護師・保健師の役割と活動		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	最近の多職種連携に関連する書籍、雑誌等を読んでおく	1.5時間
		復習	看護師と多職種の役割との違い、連携について講義内容なら復習しておく。	1.5時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■		
	該当する到達目標	予習	リハビリテーションチームを構成する各職種について調べる	1.5時間

	1,2,3	復習	チームの中でその役割を果たすために、なすべきことを確認する	1.5 時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	チーム医療における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1 時間
	1,2,3	復習	講義受講後のレポート作成。チーム医療における薬剤師の役割について、地域包括ケアシステムの観点から整理すること	2 時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	事前に学習した他のコメディカルの役割と活動について復習し授業に臨む	1.5 時間
	1,2,3	復習	管理栄養士と他のコメディカルのチーム医療と、チーム内での役割や活動について考察する	1.5 時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域医療の進展を調べる ③ 社会福祉専門職の職場を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	疾患と障害の関連を理解し、地域で自立した生活支援に必要なチーム医療のあり方を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	チーム医療における保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務について調べてみる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務について得た知識を整理する。	0.5 時間
備考	<p>予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。</p> <p>【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>原田(福祉):火 2 限、金 3 限(1 号館 506 研究室)</p> <p>竹内(栄養):木曜 2-4 時限(1 号館 308 研究室)質問等はメールでも受け付けます。 mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp</p> <p>小笠原(看護):月曜日 3 限(4 号館 505 研究室)</p> <p>鈴木(理学):月曜日 12:30~13:30、15:30~16:30(4 号館 2 階学部長室)</p> <p>篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます(shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</p>			

土井(薬学):12:00~13:00(7号館 319 研究室)doi-n@takasaki-u.ac.jp

丸山(子ども):金曜 4 限(8号館 408 研究室)[k-maruyama@takasaki-u.ac.jp](mailto:k-maruyama@takasaki-u.ac.jp)

大川(情報):月曜日 1・2 限(1号館 609 研究室)

質問等はメールでも受付可. okawa-ki@takasaki-u.ac.jp

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 025 国際医療事情

科目名	国際医療事情（人間理解）			LAH012	講義
英文名	International Healthcare				
担当教員	クリストファー・ターン、町田修三				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	<p>学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる</li> <li>2. 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる</li> <li>3. 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる</li> <li>4. 諸外国の病院について学び、日本との違いを説明できる</li> <li>5. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	<p>最終レポート(50%)、提出物(20%)、発表、討論など授業参加度(30%)                  海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)、研修レポート(30%)、研修中のパフォーマンス(40%)</p>				
課題に対するフィードバック	<p>レポートや提出物については、コメントを付して返却する。発表や討論等のパフォーマンスについては、その都度コメントやアドバイスを伝える</p>				
使用教材	特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと				
1	講義内容	イントロダクション			
	該当する到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく		1時間
	0	復習	自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する		1.5時間
2	講義内容	医療の国際化とは			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1時間
	1~4	復習	講義内容の復習、特に世界で進行中の医療の国際化についてしっか		1.5時間

			りと理解する	
3	講義内容	日本の医療教育, 医療制度, 医療事情 (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育, 医療制度, 医療事情を英語で説明してみよう		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	5	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
5	講義内容	先進国(アメリカ, イギリス, ドイツ)の医療教育		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
6	講義内容	先進国の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
7	講義内容	先進国の医療事情 II (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
8	講義内容	先進国の病院		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	その他の先進国(北欧, カナダ, オーストラリアなど)の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
10	講義内容	その他の先進国の医療事情 II (一部 AL 実施) 1~4		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
11	講義内容	中進国(台湾, シンガポール, 中国など), 途上国(ベトナム, インドネシア, タイなど)の医療教育		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
12	講義内容	中進国, 途上国の医療事情 I (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
13	講義内容	中進国, 途上国の医療事情 II (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1~4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
14	講義内容	学生プレゼンテーション 1~5		
	該当する到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間

	1~5	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
15	該当する到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間
	1~5	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
備考	<p>海外研修に参加して、実際に海外の医療現場を経験することを強く勧める。その際、どのような視点を持ってリサーチするかの示唆と、見聞したことの要約法・分析法を教授する。リサーチ原稿の作成と発表までをもって1クールとする。</p> <p>オフィスアワー: 月曜日 4 限目, 金曜日 2 限目      研究室: 1 号館 6 階603</p> <p>メールアドレス: machida@takasaki-u.ac.jp</p> <p>AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク, グループワーク, ディスカッション, クローズドクエスチョン, オープンクエスチョンなど</p>			

理 026 Introduction to healthcare sciences

科目名	Introduction to healthcare sciences (人間理解)			LAH013	講義
英文名	Introduction to Healthcare Sciences				
担当教員	小澤瀨司、町田修三、クリストファー・ターン、下川哲昭、今井純、長谷川恵子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	<p>学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる</li> <li>2. 理解した内容について、第三者に説明できる</li> <li>3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる</li> <li>4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する				
課題に対するフィードバック	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する				
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する				
1	講義内容	Introduction of the course (町田)			
	該当する到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく		1時間
	1	復習	講義内容の復習、特に専門用語(英語)を覚える		1時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておき、授業に参加する準備をしておく		1.5時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解		1.5時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)			

	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	U.S. healthcare in the media I (長谷川)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	U.S. healthcare in the media II (長谷川)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Immunity and diseases III (今井)1~4		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Genes and cancer : basic understanding of the disease I (下川)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	Genes and cancer : basic understanding of the disease II (下川)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を	1.5 時間

			予習しておき、授業に参加する準備をしておく	
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	Mental Health (ターン)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)1~4		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておき、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1~4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー(町田): 月曜日4限目、金曜日2限目 研究室: 1号館6階603</p> <p>数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。講義内容は学生の興味を持つような分野から、基礎的なものを選んでいく。学生の積極的な授業参加が求められる。</p> <p>英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。</p> <p>予習・復習については、期末試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 027 囲碁の世界

科目名	囲碁の世界（人間理解）			LAH014	講義
英文名	Introduction to Igo				
担当教員	三谷 哲也				
科目に関連した実務経験	2002年日本棋院に入段、現在七段として東京本院に所属。				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。				
到達目標	1. 全く囲碁を知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。 2. いくつかのパターンの囲碁の心得を覚え、囲碁の考え方を身につける。				
学位授与方針との対応	1. 豊かな人間性と倫理観				
	2. 専門知識・技術の活用力				
	3. 論理的思考力				
	4. チームへの貢献力				
	5. 生涯学習力				
評価方法	毎回の授業貢献度、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2回				
課題に対するフィードバック	試験後に解説を行う。				
使用教材	光文社新書「東大教養囲碁講座」				
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール			
	該当する到達目標	予習	教科書 第1章 1～3に目を通し講義の目的を理解する。		1.5時間
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。		1.5時間
2	講義内容	ルールの復習(1)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章 1-1～1-3に目を通し基本ルールを確認する。		1.5時間
	1,2	復習	囲碁の5つの基本ルールを理解する。		1.5時間
3	講義内容	ルールの復習(2)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章 1-4～1-5に目を通し基本ルールを確認する。		1.5時間

	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 P97 に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な 3 つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 3 章 2 に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習		
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章 1～2 に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P188～199 に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P173～188 に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P158～172 に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9 子局の解説・連碁(対局)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 5 章 1 に目を通し 9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)		

	該当する到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁		
	該当する到達目標	予習	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習		
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	連碁対局 まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
備考	<p>授業内容全てが教員の実務経験と関連する。</p> <p>授業は基本的に講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。</p> <p>囲碁の道具の片づけについても授業の一環である。チュードントアシスタント(SA)の方がいても、積極的に片づけに関わること。</p> <p>オフィスアワーは授業の前後 15 分ずつであるが、状況により次回の授業で対応となる場合がある。</p>			

## 理 028 英語 I A

科目名	英語IA (リテラシー)			LAL001	講義
英文名	English IA				
担当教員	クリストファー・ターン				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。				
到達目標	1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	特に定めない。				
1	講義内容	イントロダクション: 講義の解説・自己紹介			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		1.5 時間
	1, 2	復習	口語表現の復習		1.5 時間
2	講義内容	自己紹介してみよう			
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習		1.5 時間
	1, 2	復習	新出表現の復習・発音の確認		1.5 時間

3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus? 道案内等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that? 予約等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国について調べてくる	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	1.5時間

	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
12	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(Q & A)		
	該当する到達目標	予習	質問内容を考えてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
13	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー：火曜日 3 限、金曜日 3 限</p> <p>メールアドレス：tarn@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室：1 号館 3 階 315 研究室</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

## 理 028 英語 I B

科目名	英語IB(リテラシー)			LAL001	講義
英文名	English IB				
担当教員	出雲 春明				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。				
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	課題や試験にはコメント・添削の上返却する。				
使用教材	荒金房子・村上仁之・Mark Lemon『The Art of Healing 医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語』、南雲堂、2012年。¥1,700+税。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	シラバスとテキストを照らし合わせ、予習、復習、評価方法について確認する。		1.5時間
	1	復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。		1.5時間
2	講義内容	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction ①			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 7-8.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5時間
3	講義内容	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction ②			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 9-10.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5時間
4	講義内容	Chapter 2 Parkinson's Disease ①			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 11-12.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5時間
5	講義内容	Chapter 2 Parkinson's Disease ②			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 13-14.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5時間

	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
6	講義内容	<b>Chapter 3 Osteoporosis ①</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 15-16.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
7	講義内容	<b>Chapter 3 Osteoporosis ②</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 17-18.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
8	講義内容	<b>Chapter 4 Cerebral Apoplexy (Stroke) ①</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 19-20.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
9	講義内容	<b>Chapter 4 Cerebral Apoplexy (Stroke) ②</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 21-22.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
10	講義内容	<b>Chapter 5 Cardiovascular Disease ①</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 23-24.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
11	講義内容	<b>Chapter 5 Cardiovascular Disease ②</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 25-26.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
12	講義内容	<b>Chapter 6 Diabetes Mellitus ①</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 27-28.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
13	講義内容	<b>Chapter 6 Diabetes Mellitus ②</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 29-30.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
14	講義内容	<b>Chapter 7 Respiratory Disease ①</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 31-32.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
15	講義内容	<b>Chapter 7 Respiratory Disease ②</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 33-34.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
備考	<p>辞書必携。最低限の予習として不明な単語を調べておくこと。テキスト付属の CD を用いて発音の確認、ならびに練習をしておくとなおよい。</p> <p>質問などがある場合は、授業の前後、教室ならびに非常勤講師控え室で対応する。</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

## 理 029 英語ⅡA

科目名	英語ⅡA（リテラシー）			LAL002	講義
英文名	English IIA				
担当教員	岩田 道子				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	幅広い現代的トピックをみつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。				
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50% (授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	Linda Lee & Erik Gundersen, <i>Select Readings Pre-Intermediate</i> , Oxford University Press, 2011. 2,500 円				
1	講義内容	イントロダクション:テキストについて、学習の仕方について			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		1.5 時間
	1, 2	復習	新出単語・表現の復習		1.5 時間
2	講義内容	Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube 前半			
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく		1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習		1.5 時間
3	講義内容	Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube 後半			
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく		1.5 時間

	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
4	講義内容	Chapter 2 When to Use Female Nouns 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
5	講義内容	Chapter 2 When to Use Female Nouns 後半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
6	講義内容	Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
7	講義内容	Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career 後半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
8	講義内容	Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
9	講義内容	Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia 後半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
10	講義内容	Chapter 5 What is Creative Thinking? 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
11	講義内容	Chapter 5 What is Creative Thinking? 後半		

	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5時間
12	講義内容	Chapter 6 Listen Up 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5時間
13	講義内容	Chapter 6 Listen Up 後半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5時間
14	講義内容	Chapter 7 Student won't give up their French Fries 前半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5時間
15	講義内容	Chapter 7 Student won't give up their French Fries 後半		
	該当する到達目標	予習	テキストを読み不明点を抽出しておく	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5時間
備考	授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

## 理 029 英語ⅡB

科目名	英語ⅡB（リテラシー）			LAL002	講義
英文名	English IIB				
担当教員	クリストファー・ターン				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。				
到達目標	1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50% (授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	特に定めない。				
1	講義内容	イントロダクション: 講義の解説・自己紹介			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		1.5時間
	1, 2	復習	口語表現の復習		1.5時間
2	講義内容	自己紹介してみよう			
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習		1.5時間
	1, 2	復習	新出表現の復習・発音の確認		1.5時間

3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus? 道案内等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that? 予約等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国について調べてくる	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	1.5時間

	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
12	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(Q & A)		
	該当する到達目標	予習	質問内容を考えてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
13	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー：火曜日 3 限、金曜日 3 限</p> <p>メールアドレス：tarn@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室：1 号館 3 階 315 研究室</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

## 理 030 英語ⅢA

科目名	英語ⅢA（リテラシー）			LAL003	講義
英文名	English IIIA				
担当教員	Stacy Clause				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 前期	必修・単位数	必修 1単位		
講義目標	This class's goal is to help students to use basic conversational English. We will also learn about and discuss issues in global health. Class participation and discussion are essential components of this course.				
到達目標	1. To foster a positive attitude toward communication through English. 2. To understand issues in global health. 3. To develop lifelong skills for learning English				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	平常点 40% (単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	Introductions, greetings			
	該当する到達目標	予習	Prepare presentation		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases		1.0 時間
2	講義内容	About me/my hometown presentation			
	該当する到達目標	予習	Prepare activity		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases		1.0 時間
3	講義内容	Practical English: Explanations -how to use something			
	該当する到達目標	予習	Prepare activity		1.0 時間

	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
4	講義内容	Practical English: Asking and giving information		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
5	講義内容	Practical English: compliments, apologies and other speech acts		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
6	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
7	講義内容	Lifelong learning: Metaphors in songs		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
8	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
9	講義内容	Lifelong learning: Songs (part 2)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
10	講義内容	Practical English: Getting around -at the hotel, restaurant, airport		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
11	講義内容	Presentation on an English speaking country		

	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
12	講義内容	Current health issues (Public Service announcements)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
13	講義内容	Comparative issues in medicine: technology		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
14	講義内容	Comparative issues in medicine: global health		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
15	講義内容	Future of medicine: class presentations		
	該当する到達目標	予習	Complete presentation with group	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
備考	<p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p> <p>オフィスアワー：月曜日 2 限、火曜日 3 限</p> <p>メールアドレス：stacy-c@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室：9 号館 307 研究室</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

## 理 030 英語ⅢB

科目名	英語ⅢB（リテラシー）			LAL003	講義
英文名	English IIIB				
担当教員	飛田 ルミ				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。				
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業参加度(10%)と小テスト/課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションなどの課題に対して評価シートを返却しフィードバックをする。 レポート、小テスト、期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	John S. Lander 著 American Vision 朝日出版社、2015年、1,800円				
1	講義内容	イントロダクション、1. Summer Baseball			
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる		1.5時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す		1.5時間
2	講義内容	1. Summer Baseball			
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる		1.5時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す		1.5時間
3	講義内容	3.American Food			
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる		1.5時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す		1.5時間

				間
4	講義内容	3.American Food		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
5	講義内容	5. Christmas Spirit		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
6	講義内容	5. Christmas Spirit		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
7	講義内容	7.Disney Family Museum		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
8	講義内容	7. Disney Family Museum		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
9	講義内容	8. Google Innovation		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
10	講義内容	8. Google Innovation		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
11	講義内容	11. American Superheroes		

	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
12	講義内容	11. American Superheroes		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
13	講義内容	12. Volunteers – Age in Place		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
14	講義内容	12. Volunteers – Age in Place		
	該当する到達目標	予習	Introduction, Vocabulary Exercise を調べてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Transcript を見直す	1.5 時間
15	講義内容	今学期のまとめ・期末試験		
	該当する到達目標	予習	総括	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	試験に出題された範囲を見直す	1.5 時間
備考	授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

## 理 031 英語ⅣA

科目名	英語ⅣA（リテラシー）			LAL004	講義
英文名	English IVA				
担当教員	クリストファー・ターン				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。				
到達目標	1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50% (授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	特に定めない。				
1	講義内容	イントロダクション: 講義の解説・自己紹介			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		1.5 時間
	1, 2	復習	口語表現の復習		1.5 時間
2	講義内容	自己紹介してみよう			
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習		1.5 時間
	1, 2	復習	新出表現の復習・発音の確認		1.5 時間

3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus? 道案内等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that? 予約等		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国について調べてくる	1.5時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当する到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	1.5時間

	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当する到達目標	予習	スピーチの準備・練習	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
12	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(Q & A)		
	該当する到達目標	予習	質問内容を考えてくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
13	講義内容	英語だけで1時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー：火曜日 3 限、金曜日 3 限</p> <p>メールアドレス：tarn@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室：1 号館 3 階 315 研究室</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

## 理 031 英語IVB

科目名	英語IVB(リテラシー)			LAL004	講義
英文名	English IVB				
担当教員	岡田 和子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。				
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業への参加度・平常点 40%(単語試験、提出物など)、定期試験 60%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	リハビリテーション英会話 三木貴弘ほか(著) メジカルビュー社				
1	講義内容	第1課 初回の挨拶をしよう			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する		1.5時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する		1.5時間
2	講義内容	第2課 痛む部位を聞いてみよう			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する		1.5時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する		1.5時間
3	講義内容	第3課 痛みの種類や程度を聞いてみよう			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する		1.5時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する		1.5時間
4	講義内容	第4課 痛みの経過を聞いてみよう			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する		1.5時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する		1.5時間
5	講義内容	第5課 基本的な肢位を指示してみよう			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する		1.5時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する		1.5時間
6	講義内容	第7課 バイタルサインを確認しよう			

	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
7	講義内容	第 8 課 自動可動域を測定してみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
8	講義内容	第 12 課 筋力を測定してみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
9	講義内容	第 13 課 触覚検査をしてみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
10	講義内容	第 14 課 バランス検査をしてみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
11	講義内容	第 15 課 歩行評価をしてみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
12	講義内容	第 16 課 ホームエクササイズを指導してみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
13	講義内容	第 17 課 RICE処置を指導してみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
14	講義内容	第 19 課 食事の評価と指導をしてみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
15	講義内容	第 22 課 退院後の生活指導をしてみよう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1,2,3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
備考	<p>オフィス・アワー： 火・水曜の 4 限まで。 1 号館 1 階の講師室</p> <p>参考文献： 1. 『沈みゆく大国アメリカ—逃げ切れ！日本の医療』堤未果(著)集英社新書 2015</p> <p>2. 『日本が売られる』堤未果(著)幻冬社新書 2018</p> <p>授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。</p>			

理 032 Integrated English I

科目名	Integrated English I (リテラシー)			LAL005	演習
英文名	Integrated English I				
担当教員	クリストファー・ターン				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標とする。				
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践練習を行う また、海外英語研修にむけた事前準備や説明も行う。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%				
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。個人面接を行う。				
使用教材	開講時に指示する。				
1	講義内容	What is communication?			
	該当する到達目標 1	予習	なし		0 時間
		復習	授業内容についての要約を書く。		1.5 時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to know yourself			
	該当する到達目標 1	予習	自分自身について書く。		1.5 時間
		復習	自分のインターナルコミュニケーションスキルについて書く。		1.5 時間
3	講義内容	Social skills.			
	該当する到達目標 1	予習	社会心理学について事前調べを行う。		1.5 時間
		復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く。		1.5 時間

				間
4	講義内容	The power of imagination and innovation		
	該当する到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由をあげる。	1.5時間
	2	復習	その国について調べる。	1.5時間
5	講義内容	learning to control a conversation		
	該当する到達目標	予習	言葉が理解できない状況でどのようなコミュニケーションが有効かを考える。	1.5時間
	2	復習	ホストファミリーとの会話例を考える。	1.5時間
6	講義内容	Listening strategies		
	該当する到達目標	予習	訪問国の英語発音について調べる。	1.5時間
	2	復習	訪問国の短編映画やアニメを見る。	1.5時間
7	講義内容	Basic English: Self introduction and first steps for communication in English		
	該当する到達目標	予習	自己紹介文を書く。	1.5時間
	3	復習	自己紹介文を仕上げる。	1.5時間
8	講義内容	Create your own English database		
	該当する到達目標	予習	ノートの準備をする。	1.5時間
	3	復習	English Database を作成する。	1.5時間
9	講義内容	Meet a foreigner		
	該当する到達目標	予習	外国人ゲストとの会話を考える。	1.5時間
	2	復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける。	1.5時間
10	講義内容	Speech basics: Talking to an audience		
	該当する到達目標	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる。	1.5時間
	3	復習	大学紹介についてのパワーポイントプレゼンテーションを作成する。	1.5時間
11	講義内容	Presentation 1(power point)		
	該当する到達目標	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを準備する。	1.5時間

	標			間
	3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする。	1.5 時間
12	講義内容	Presentation 2(power point)		
	該当する到達目標	予習	テーマーについてプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする。	1.5 時間
13	講義内容	Make your own textbook 1		
	該当する到達目標	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する。	1.5 時間
	2	復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する。	1.5 時間
14	講義内容	Do group work to improve your textbook		
	該当する到達目標	予習	グループ毎に各自のテキストブックについて話し合い改善する	1.5 時間
	2	復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く。	1.5 時間
15	講義内容	Conclusion		
	該当する到達目標	予習	1～14 回の授業の復習をする	1.5 時間
	1,2,3	復習	全講義を通して学んだことについてレポートを書く。	1.5 時間
備考	<p>本講義は、海外英語研修参加希望者を対象とする。</p> <p>教員より、コミュニケーションを取る必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。</p> <p>予習復習時間については各自補完すること。</p> <p>オフィスアワー：火曜日 3 限、金曜日 3 限</p>			

理 033 Integrated English II

科目名	Integrated English II (リテラシー)			LAL006	講義
英文名	Integrated English II				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	基本文法事項を整理しながら、TOEIC テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を主眼とする。そのため授業では、TOEIC テスト形式の問題演習を中心に据えて、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。また、語彙を増やすことにも重点を置く。				
到達目標	1.TOEIC テストの形式と内容を理解できる。 2.語彙力が身につく。 3.文法事項を理解できる。 4.リスニング力が身につく。 5.リーディング力が身につく。				
学位授与方針との対応	1. 豊かな人間性と倫理観				
	2. 専門知識・技術の活用力				
	3. 論理的思考力				
	4. チームへの貢献力				
	5. 生涯学習力				
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。				
課題に対するフィードバック	課題の解説をする。				
使用教材	妻鳥千鶴子他.(2016). <i>First Time Trainer for the TOEIC® Test</i> . 東京:センゲージラーニング.2,000 円				
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。		1 時間
		復習	講義内容を理解し、TOEIC テストの概要と学習法を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	Unit1:Shopping			
	該当する到達目標 2,3,4,5	予習	Unit1 の語彙の意味を調べる。		1 時間
		復習	Unit1 の練習問題の内容を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	Unit2:Daily Life			
	該当する到達目標	予習	Unit2 の語彙の意味を調べる。		1 時間

	標 2,3,4,5	復習	Unit2 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	Unit3:Transportation		
	該当する到達目	予習	Unit3 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit3 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	Unit4:Jobs		
	該当する到達目	予習	Unit4 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit4 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	Unit5:Meals		
	該当する到達目	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	Unit6:Communication		
	該当する到達目	予習	Unit6 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit6 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	Units1-6 のまとめ		
	該当する到達目	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	1 時間
	標 1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	1.5 時間
9	講義内容	Unit7:Fun		
	該当する到達目	予習	Unit7 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit7 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	Unit8:Office Work		
	該当する到達目	予習	Unit8 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit8 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	Unit9:Meeting		
	該当する到達目	予習	Unit9 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit9 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	Unit10:Travel		
	該当する到達目	予習	Unit10 の語彙の意味を調べる。	1 時間
	標 2,3,4,5	復習	Unit10 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間

13	講義内容	Unit11:Finance		
	該当する到達目標 2,3,4,5	予習	Unit11 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit11 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	Unit12:Business		
	該当する到達目標 2,3,4,5	予習	Unit12 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit12 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	Units7-12 のまとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	1 時間
		復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	1.5 時間
備考	<p>授業は、教科書を使って TOEIC テスト形式の模擬問題演習と受講生同士によるコミュニケーション活動の形で進める。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p> <p>オフィスアワー:木曜日 3 限、金曜日 5 限</p> <p>メールアドレス:shimada-k@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室 : 9 号館 303 研究室</p>			

理 034 ドイツ語

科目名	ドイツ語(リテラシー)		LAL007	講義
英文名	German			
担当教員	大石 桂子			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択・2単位	
講義目標	日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できるようになる。会話練習と文法学習の両面から、理解力(読む、聞く)と表現力(書く、話す)を養い、基礎を定着させる。また、講義中のドイツ文化、風景、歴史などの紹介を通して、ドイツ語圏の魅力に触れる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語であいさつ、自己紹介したり基本の会話表現を活用できる。</li> <li>2. 動詞の人称変化を理解し、活用できる。</li> <li>3. 冠詞の格変化を理解し、活用できる。</li> <li>4. 分離動詞、話法の助動詞を理解し、活用できる。</li> <li>5. 現在完了形を理解し、活用できる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	定期試験(60%)、小テスト・提出課題(40%)に、授業への積極性などを加味する。			
課題に対するフィードバック	小テストや提出課題は採点、解説を記入して返却する。			
使用教材	『アップファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。			
1	講義内容	ガイダンス、ドイツ語の ABC、挨拶①		
	該当する到達目標	予習	テキストの付属 CD でアルファベットの発音を確認する。	1 時間
	1	復習	アルファベット、挨拶の表現を CD で復習する。	1 時間
2	講義内容	挨拶②、発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介医療倫理の四原則		
	該当する到達目標	予習	CD でウムラウトなどの発音を確認する。	1 時間
	1	復習	配布プリントの発音を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	Lektion 1 人と知り合う:名前、出身、住所をたずねる		
	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion1 の会話文を CD で聞く。	1 時間
	1	復習	自己紹介の仕方を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	Lektion 1 動詞の人称変化 (1)、疑問文		
	該当する到達目標	予習	規則変化動詞の現在人称変化を確認する。	1 時間
	2	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間

	講義内容	Lektion 2 人を誘う:友人を紹介する、数、電話番号		
5	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion 2 の会話文を CD で聞く。	1 時間
	1,2	復習	0~20までの数字の発音を定着させる。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 2 動詞の人称変化 (2)、語順など		
6	該当する到達目標	予習	不規則変化動詞の現在人称変化を確認する。	1 時間
	2	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 3 道の尋ね方・答え方:位置・方向を表す語		
7	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion 3 の会話文を CD で聞く。	1 時間
	1,3	復習	道案内の表現を確認する。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 3 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など		
8	該当する到達目標	予習	冠詞の 1 格を確認する。	1 時間
	3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 4 買い物:値段、気に入った?		
9	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion 4 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,3	復習	値段の表現を確認する。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 4 冠詞の3格、前置詞など		
10	該当する到達目標	予習	冠詞の 3 格を確認する。	1 時間
	3	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 5 週末や休暇の予定:天候、一日の行動		
11	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion 5 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,4	復習	予定を表す表現を確認する。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 5 分離動詞、話法の助動詞など		
12	該当する到達目標	予習	分離動詞の仕組みを確認する。	1 時間
	4	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 6 過去のできごと:時を表す表現		
13	該当する到達目標	予習	テキストの Lektion 6 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間
	1,5	復習	過去の表現を確認する。	1.5 時間
	講義内容	Lektion 6 過去分詞、現在完了		
14	該当する到達目標	予習	現在完了文の仕組みを確認する。	1 時間
	5	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当する到達目標	予習	Lektion 1~6 の重要文法を確認する。	1 時間
	1-5	復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間
備考	<p>毎回の講義では、教科書の他に、配布プリントによって文法の演習を行います。</p> <p>オフィスアワー：月曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付けます。</p> <p>研究室：1 号館 6 階 601 メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」</p> <p>予習・復習については試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 035 フランス語

科目名	フランス語（リテラシー）			LAL008	講義
英文名	French				
担当教員	ロワイエ・アンヌ＝ソフィー				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	フランス語に興味を持ってもらう				
到達目標	1.基本の読み書きができる 2.初級文法を用いて基本的な会話を行い、フランス語検定 5 級合格レベルに到達する				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 80%、宿題 20%				
課題に対するフィードバック	宿題を返却する。				
使用教材	「ゼロからは始める書き込み式フランス語 BOOK」成美堂出版				
1	講義内容	アルファベットとつづり字記号、発音			
	該当する到達目標	予習	テキストやシラバスを読んでおく		1.5 時間
	1	復習	テキストを読んでくる		1.5 時間
2	講義内容	リエゾンとアンシュヌマン			
	該当する到達目標	予習	テキストの単語を辞書で女性名詞か男性名詞か調べてくる		1.5 時間
	1	復習	テキストを読んでくる、宿題を出すのでやってくる		1.5 時間
3	講義内容	名詞(性)と冠詞、数字			
	該当する到達目標	予習	テキスト上のそれぞれの名詞に対して、冠詞を書いてくる		1.5 時間
	1	復習	宿題を出すのでやってくる		1.5 時間
4	講義内容	母音の発音			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる、テキスト付属のCDを聴いてくる		1.5 時間
	1	復習	発音練習をしてくる		1.5 時間
5	講義内容	子音の発音			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる、テキスト付属のCDを聴いてくる		1.5 時間
	1	復習	発音練習をしてくる		1.5 時間
6	講義内容	あいさつ表現			
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる、テキスト付属のCDを聴いてくる		1.5 時間
	2	復習	発音練習をしてくる		1.5 時間

	講義内容	依頼の表現		
7	該当する到達目標	予習	自分の依頼表現を使う場面を考えてくる	1.5 時間
	2	復習	発音練習をしてくる	1.5 時間
	講義内容	Be 動詞 (être)		
8	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	宿題を出すのでやってくる	1.5 時間
	講義内容	Have (avoir) 動詞		
9	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	全員の自己紹介文を覚えてくる。練習をしてくる	1.5 時間
	講義内容	第 1 群規則動詞 (-er 動詞) 2		
10	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	自分の好きなものと嫌いなものをフランス語で書いてくる	1.5 時間
	講義内容	否定文		
11	該当する到達目標	予習	第8～10回授業の復習をしてくる	1.5 時間
	2	復習	自分で否定文を作成し、書いてくる。発音練習をする	1.5 時間
	講義内容	時刻・年齢の表現		
12	該当する到達目標	予習	第3回授業の復習をしてくる	1.5 時間
	2	復習	時刻をフランス語で書いてくる	1.5 時間
	講義内容	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)		
13	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	自分のスケジュールをフランス語で書いてくる	1.5 時間
	講義内容	形容詞①		
14	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	宿題を出すのでやってくる	1.5 時間
	講義内容	形容詞②		
15	該当する到達目標	予習	テキストを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	第1～15回授業の復習をしてくる	1.5 時間
備考	教科書の内容を中心に進める。コミュニケーションを目的にした授業のため、フランス語を用いた会話を随時取り入れる。必ず復習すること。質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

理 036 ポルトガル語

科目名	ポルトガル語（リテラシー）			LAL009	講義
英文名	Portuguese				
担当教員	伊勢島 セリア明美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。 又、ポルトガル語圏文化を紹介したいと思います。				
到達目標	1.初歩レベルの日常会話 2.多文化に触れる				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	小テスト(50%)及びミニ会話の発表(50%)で100%評価。 総合評価60%以上を合格とします。				
課題に対するフィードバック	会話の発表前に内容を確認し、必要に応じて補足の説明を行います。				
使用教材	Boa sorte! - Português para conversação -				
1	講義内容	ガイダンス、アルファベット、発音、挨拶の表現			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。		1時間
		復習	文字と発音を確認する。		1.5時間
2	講義内容	自己紹介ができる			
	該当する到達目標 1	予習	動詞 ser の活用形を覚える。		1時間
		復習	挨拶と自己紹介ができるようにする。		1.5時間
3	講義内容	好きなものを伝える			
	該当する到達目標 1,2	予習	動詞 gostar の活用形を覚える。色の名前を覚える。		1.5時間
		復習	自分の好みを表現できるようにする。		1時間
4	講義内容	家族の紹介			
	該当する到達目標	予習	規則動詞の活用形を覚える。		1.5時間

	標			間
	1	復習	家族の紹介とそれぞれの職業が言えるようにする。	1 時間
5	講義内容	予定を伝える		
	該当する到達目	予習	動詞 ir の活用形を覚える。	1 時間
	標 1,2	復習	週末などの予定を言えるようにする。	1.5 時間
6	講義内容	今おこなっていることを伝える		
	該当する到達目	予習	天気の状態を確認する。	1 時間
	標 1,2	復習	動詞 estar の活用形を覚える。現在進行形を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	過去の行動を伝える		
	該当する到達目	予習	規則動詞の完了過去の活用形を覚える。	1.5 時間
	標 1,2	復習	過去の行動や出来事を言えるようにする。	1 時間
8	講義内容	過去の習慣の表現		
	該当する到達目	予習	規則動詞の未完了過去の活用形を覚える。	1.5 時間
	標 1	復習	「どこ」、「誰と」などの疑問詞が使えるようにする。	1 時間
9	講義内容	条件や婉曲の表現		
	該当する到達目	予習	接続法未来の活用形を覚える。	1.5 時間
	標 1,2	復習	「もし～」、「～時」などを用いた表現ができるようにする。	1 時間
10	講義内容	「～してください」など、指示の丁寧な表現		
	該当する到達目	予習	接続法現在の活用形を覚える。	1.5 時間
	標 1,2	復習	接続法現在の不規則動詞の活用形を確認する。	1 時間
11	講義内容	願望や要求の表現		
	該当する到達目	予習	動詞 querer の活用形、及び目的代名詞を覚える。	1.5 時間
	標 1	復習	願望を表現できるようにする。	1 時間
12	講義内容	許可を得るの表現		
	該当する到達目	予習	動詞 poder 活用形、及び数字を覚える。	1.5 時間
	標 1	復習	「～できます」、「～してもいいですか？」などの表現ができるようにする。	1 時間
13	講義内容	依頼の表現		
	該当する到達目	予習	過去未来の活用形を覚える。	1.5 時間
	標 1,2	復習	敬称、丁寧な表現を確認する。	1 時間

14	講義内容	比較の表現		
	該当する到達目標	予習	<形容詞>、<動詞>、<名詞>を使用した比較表現の語順を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	比較表現を通して、相手の好みを確認できるようにする。	1 時間
15	講義内容	別れの挨拶や感謝の表現、小テスト		
	該当する到達目標	予習	感謝の表現、及びお別れの挨拶を覚える。	1.5 時間
	1	復習	小テストの解答例を確認する。	1 時間
備考	<p><b>【授業の進め方】</b>  テキストに沿って、文法事項を確認しながら、練習問題に答えて頂きます。  授業の後半は口頭練習を行い、最後にモデル会話を発表して頂きます。</p> <p><b>【オフィスアワー】</b>  授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。</p> <p><b>【参考文献】</b>  初級 ブラジル ポルトガル語 深沢暁著 東洋書店</p> <p><b>【メッセージ】</b>  予習・復習については、試験前の学習で補完すること。  最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。  第 2 又は第 3 外国語を話す楽しさを味わって頂ければ嬉しく思います。</p>			

理 037 中国語

科目名	中国語（リテラシー）		LAL010	講義
英文名	Chinese			
担当教員	渡邊 賢			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起するとともに、医療現場で役立つ表現に習熟したい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。</li> <li>2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。</li> <li>3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。</li> <li>4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。</li> <li>5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。</li> <li>6. 医学・薬学・看護学に関わる語彙と表現とを習得する。</li> </ol>			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。			
課題に対するフィードバック	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。			
使用教材	教科書『メディカル基礎中国語』劉建著（白帝社） ISBN:978-4-86398-267-3			
1	講義内容	ガイダンス		
	該当する到達目標	予習	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1時間
	0	復習	不要	時間
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。		
	該当する到達目標	予習	不要	時間
	2,3,4,6	復習	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度、発音する。	1時間
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。		
	該当する到達目標	予習	不要	時間
	2,3,4,6	復習	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度、発音する。	1時間

4	講義内容	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当する到達目標	予習	不要	時間
	2,3,4,6	復習	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度、発音する。	1時間
5	講義内容	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
6	講義内容	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当する到達目標	予習	0	0.5時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
7	講義内容	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
8	講義内容	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
9	講義内容	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
10	講義内容	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。2,3,4,5,6		
	該当する到達目標	予習	教科書第6課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
11	講義内容	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
12	講義内容	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5時間
13	講義内容	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5時間

	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。2,3,4,5,6		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
備考	<p>授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。</p> <p>質問等は、授業開始前もしくは授業終了後に応じる。</p>			

## 理 038 ハングル語

科目名	ハングル語（リテラシー）		LAL011	講義
英文名	Korean			
担当教員	徐 明煥			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。			
到達目標	1.韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができる。 2.基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができる。 3.基本的な韓国語の4技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。 4.初級レベルの韓国語運用能力を身につける。			
学位授与方針との対応	1. 豊かな人間性と倫理観			
	2. 専門知識・技術の活用力			
	3. 論理的思考力			
	4. チームへの貢献力			
	5. 生涯学習力			
評価方法	宿題 30%、小テスト 20%、中間・期末試験 50%			
課題に対するフィードバック	宿題にはコメントを付けて返却する。 小テストを毎回返却し解説する。			
使用教材	李淑炫(2011)『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社 ISBN-13:978-4891748593			
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、第1課:母音		
	該当する到達目標 1	予習	テキストを用意し、12頁～14頁を読んでき。韓国語のノートを用意する。	1.5時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5時間
2	講義内容	第2課:子音(平音と有声音)		
	該当する到達目標 1	予習	22頁～25頁を読んでき。	1.5時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5時間
3	講義内容	第2課:子音(激音と濃音)		

	該当する到達目標	予習	26 頁～31 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
4	講義内容	第 3 課: パッチム、パッチム 7 つの代表音		
	該当する到達目標	予習	32 頁～37 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	第 4 課: 二重母音、名前を書く、まとめ		
	該当する到達目標	予習	38 頁～43 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	第 5 課: 発音の変化、発音の基本、パッチム音の変化		
	該当する到達目標	予習	46 頁～54 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	第 6 課: 主題を表す助詞「～は」、体言について、指定詞の丁寧な表現 I		
	該当する到達目標	予習	56 頁～63 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第 7 課: 指示代名詞(これ・それ・あれ)、「～ではありません」		
	該当する到達目標	予習	64 頁～71 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第 8 課: 主語を表す助詞「～が」、「～と」、「いる/ある、ない/いない」について、まとめ		
	該当する到達目標	予習	72 頁～81 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第 9 課: 場所や位置を表す表現、数詞 I		
	該当する到達目標	予習	82 頁～91 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間

				間
11	講義内容	第 10 課: 用言の丁寧形 I (改まった表現)、用言の否定形		
	該当する到達目標	予習	92 頁～97 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第 10 課: 羅列の表現、場所を表す助詞、目的格を表す助詞、まとめ		
	該当する到達目標	予習	97 頁～101 頁を読んでくる。まとめ	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第 6 課～10 課、総合まとめ		
	該当する到達目標	予習	第 6 課から第 10 課まで読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
14	講義内容	第 11 課: 指定詞(丁寧な表現Ⅱ)逆接を表す表現数詞Ⅱや時間の言い方		
	該当する到達目標	予習	102 頁～105 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	第 11 課: 数詞Ⅱや時間の言い方		
	該当する到達目標	予習	106 頁～111 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	数詞Ⅰと数詞Ⅱの使い分けや読み方を理解する。	1.5 時間
備考	<p>授業については、ハンゲルの文字及び単語、文章の発音練習、会話表現の練習を行う。</p> <p>また、毎回小テストを行うため、必ず予習・復習を行うこと。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p> <p>質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくは <a href="mailto:intgvseo21jp@gmail.com">intgvseo21jp@gmail.com</a> までに連絡すること。</p> <p>メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハンゲル語:名前」を必ず記入すること。</p>			

## 理 039 コンピュータ入門 I

科目名	コンピュータ入門 I (リテラシー)			LAL012	講義
英文名	Introduction to Computer I				
担当教員	木幡直樹				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	<p>本科目は、IT 社会における教養としてコンピュータに関する知識を身につけるための講義科目である。</p> <p>内容レベル的には、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級の範囲に関する内容が理解できるようになることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>入門 I では特に、受講者がコンピュータの動作の本質・背景を理解することを目指し、以下の目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータシステムの概要や情報処理の考え方などを理解する。</li> <li>2. コンピュータにおけるデータの表現方法を理解し、特に数を N 進数として表す・基数変換の処理・小数や負数の表し方などを理解し、実践できる。</li> <li>3. 計算の基本となる論理演算や論理回路などを理解し説明できる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験及び課題の提出:90%、授業への参加態度:10% で評価する。講義時にも改めて説明する。				
課題に対するフィードバック	筆記試験及び課題の結果の講評を行い、必要に応じ再テストや再提出を求める。				
使用教材	J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。その他、必要に応じ資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、情報システム、コンピュータシステムとは			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを確認しておく。テキストの該当部分を読んでおく。		1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。		1.5 時間
2	講義内容	コンピュータシステムの特徴、コンピュータの種類			
	該当する到達目標 1	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。		1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。		1.5 時間

				間
3	講義内容	情報処理の手順、フローチャート		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	1	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータが扱うデータ、情報の単位、ビット、バイト、文字コード(標準コード)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
5	講義内容	数の表現(10進数、2進数、8進数、16進数)、小数の表現		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
6	講義内容	基数変換(10進数 ⇄ 2進数・8進数・16進数)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	その他の基数変換(2進数 ⇄ 8進数・16進数、小数の基数変換)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	固定小数点数と浮動小数点数		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	四則演算、補数(1の補数と2の補数)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	負数の表現、補数による減算		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間

	標		く。	
	2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	論理演算 (AND, OR, NOT, EOR, NAND, NOR)、論理記号、ベン図、真理値表		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	3	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	論理回路、MIL 記号		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	3	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	加算回路、乗算回路、除算回路		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	3	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	コンピュータシステムの基本構成、中央処理装置の機能、データと命令		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	1	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	前期のまとめ		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	筆記試験に向けて全体の復習をしておく。	6 時間
備考	<p>授業ではテキストや配布プリントの内容を板書も交えつつ解説し、残り時間で関連する練習問題を実施する。</p> <p>J検(文部科学省後援)の資格取得を奨励する。普段から IT 社会に関するトピックに目を向ける習慣を持つこと。</p> <p>教員のメールアドレス: kohata@takasaki-u.ac.jp (質問等はメールでも受け付ける)。オフィスアワー: 前期 水 4 時限目、後期 水 3 時限目。予習・復習の時間は参考程度であり、自らの理解状況をふまえ必要に応じ各自で補完すること。</p>			

## 理 040 コンピュータ入門Ⅱ

科目名	コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）			LAL013	講義
英文名	Introduction to Computer Ⅱ				
担当教員	木幡直樹				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 後期	必修・単位数	選択 2単位		
講義目標	<p>本科目は、IT 社会における教養としてコンピュータに関する知識を身につけるための講義科目である。</p> <p>内容レベル的には、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級の範囲に関する内容が理解できるようになることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>入門Ⅱでは特に、コンピュータとその周辺を理解するため、受講者がハードウェア及び各種の情報関連機器などに関して基礎的な知識を身につけることを目指し、以下の目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの5大装置、CPU、メモリなどの概要を理解し説明できる。</li> <li>2. 補助記憶装置(ハードディスク)・出力装置(ディスプレイやプリンタ)・入力装置(マウスやキーボード)の概要や、関連するインターフェース規格などを理解し説明できる。</li> <li>3. OSなどのソフトウェア、及び、ネットワーク等に関する概要を理解し説明できる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験及び課題の提出:90%、授業への参加態度:10% で評価する。講義時にも改めて説明する。				
課題に対するフィードバック	筆記試験及び課題の結果の講評を行い、必要に応じ再テストや再提出を求める。				
使用教材	J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。その他、必要に応じ資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、パソコンの仕組み、入出力装置、記憶装置、演算装置、制御装置、CPU			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを確認しておく。テキストの該当部分を読んでおく。		1時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。		1.5時間
2	講義内容	CPUの仕組み、メモリの種類と特徴、問題演習			
	該当する到達目標 1	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。		1時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。		1.5時間

				間	
3	講義内容	記憶媒体の種類と用途、磁気ディスク容量の計算、問題演習			
	該当する到達目標	1	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		1	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
4	講義内容	ハードディスクの仕組みと活用、IDE、SCSI、データのバックアップ			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
5	講義内容	インターフェース、バス、周辺機器との接続ポート、スロット、各種規格			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
6	講義内容	ディスプレイの仕組みと種類、光の3原色、画像データ容量の計算			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	プリンタの仕組みと種類、色の3原色、用紙、プロッタ、イメージセッタ			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	各種入力装置、ポインティングデバイス、キーボード、スキャナ、OMR、OCR			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		2	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	ソフトウェアの種類、システムソフト、応用ソフト、OS の機能、システム開発			
	該当する到達目標	3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		3	復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	これまでのまとめと総合問題演習			
	該当する到達目標		予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間

	標 3		く。	
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	ファイルの概念、ディレクトリ、FAT、各種データ形式、パソコンの保守管理		
	該当する到達目標 3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	ネットワークアーキテクチャ(OSI)、ネットワークプロトコル		
	該当する到達目標 3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	インターネット(歴史、ARPANET、TCP/IP、DNS、SMTP、POP)		
	該当する到達目標 3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	ネットワークにおけるセキュリティ、プライバシー保護、著作権		
	該当する到達目標 3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		復習	授業で配布した課題を授業外でも進めて完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	後期のまとめ		
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	前回学んだ内容の再確認を行い、テキストの今回の該当部分を読んでおく。	1 時間
		復習	筆記試験に向けて全体の復習をしておく。	6 時間
備考	<p>授業ではテキストや配布プリントの内容を板書も交えつつ解説し、残り時間で関連する練習問題を実施する。</p> <p>J検(文部科学省後援)の資格取得を奨励する。普段から IT 社会に関するトピックに目を向ける習慣を持つこと。</p> <p>教員のメールアドレス: kohata@takasaki-u.ac.jp (質問等はメールでも受け付ける)。オフィスアワー: 前期 水 4 時限目、後期 水 3 時限目。予習・復習の時間は参考程度であり、自らの理解状況をふまえ必要に応じ各自で補完すること。</p>			

## 理 041 コンピュータ実習 I

科目名	コンピュータ実習 I (リテラシー)			LAL014	実習
英文名	Computer Practice I				
担当教員	木幡直樹				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習 I においては、コンピュータの基本操作を学習するとともに、入力装置として不可欠なキーボードを自在に操作できるようタッチタイピングを学び、さらに、ワープロソフトやインターネットの活用能力を養う。				
到達目標	1. 主として、受講者が、コンピュータの基本的な操作ができるようになる。 2. マイクロソフトの文書作成ソフト「Word」を用い、簡単な文書を作成できるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	課題の提出状況とその出来栄え 90%、授業への参加態度 10% で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物(ファイル)の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。				
使用教材	「30 時間でマスターOffice2010」(実教出版)。その他、必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、コンピュータの基本操作(PC の起動・ログオン・シャットダウン等)			
	該当する到達目標	1	予習	シラバスを確認しておく。	0.5 時間
		1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間
2	講義内容	Windows の基本操作			
	該当する到達目標	1	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
		1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間
3	講義内容	電子資料の参照方法・課題の電子提出の方法、練習課題			
	該当する到達目標	1	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
		1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間

				間
4	講義内容	本学メールシステムの基本的な使い方		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
5	講義内容	インターネットによる情報検索の基礎		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
6	講義内容	タイピング(タッチメソッド)の基礎、タイピング練習		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
7	講義内容	日本語入力の練習		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	1	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
8	講義内容	Word 基本操作1(起動と終了、日本語入力システム、文章入力、文書の保存 等)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
9	講義内容	Word 基本操作2(文章入力続き、文書の印刷 等)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
10	講義内容	Word の活用1(複写・移動、クリップアートの利用 等)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
11	講義内容	Word の活用2(編集機能、表の作成 等)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時

	標			間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間
12	講義内容	まとめと演習課題		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1 時間
13	講義内容	Word の応用1 (並べ替え、検索と置換、段組、罫線 等)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間
14	講義内容	Word の応用2 (ワードアート、図形描画、テキストボックス)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5 時間
15	講義内容	総合演習課題		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1 時間
備考	<p>教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、関連する実習課題を指示する。</p> <p>普段からコンピュータに接する時間を持つこと。教員のメールアドレスは kohata@takasaki-u.ac.jp (質問等はメールでも受け付ける)。オフィスアワーは前期(水 4 時限目)、後期(水 3 時限目)。予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ必要に応じ各自で補完すること。</p>			

## 理 042 コンピュータ実習Ⅱ

科目名	コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）			LAL015	実習
英文名	Computer Practice Ⅱ				
担当教員	木幡直樹				
科目に関連した実務経					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習Ⅱにおいては、主に表計算ソフトの機能や用途を理解し、演習を通じその基本的な使い方を習得する。				
到達目標	1. 主として、受講者がマイクロソフトの表計算ソフト「Excel」の基本を理解する。 2. 簡単な表の作成・初歩的な集計処理・表のデータからのグラフ作成ができるようになる。 3. データベース的な使い方や多少応用的な関数の活用ができるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	課題の提出状況とその出来栄え 90%、授業への参加態度 10% で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物（ファイル）の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。				
使用教材	「30時間でマスターOffice2010」（実教出版）。その他、必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、Excel 基本操作（起動と終了、データの入力 等）			
	該当する到達目標	1	予習	シラバスを確認しておく。	0.5時間
			復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
2	講義内容	Excel 入門（簡単な表の作成、合計の計算、オートフィル 等）			
	該当する到達目標	1, 2	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
			復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
3	講義内容	ワークシートの活用1（表の編集、平均の計算、計算式の複写と相対参照）			
	該当する到達目標	2	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
			復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間

				間
4	講義内容	ワークシートの活用2(絶対参照、最大・最小値、データ数のカウント、四捨五入、条件判定)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
5	講義内容	まとめの課題1		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1時間
6	講義内容	グラフ1(棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
7	講義内容	グラフ2(3-D グラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
8	講義内容	グラフ3(レーダーチャートグラフ、XY グラフ、絵グラフ)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
9	講義内容	まとめの課題2		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	2	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1時間
10	講義内容	データベース1(データの並べ替え、データの検索・置換)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
11	講義内容	データベース2(データ抽出、オートフィルタ、データ集計、クロス集計)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間

				間
12	講義内容	まとめの課題3		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1時間
13	講義内容	Excel 応用1(順位付け関数、検索用関数)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
14	講義内容	Excel 応用2(文字列操作関数、データベース関数、Word への埋め込み)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	0.5時間
15	講義内容	総合演習課題		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	0.5時間
	3	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だった場合は授業外で完成させる。	1時間
備考	<p>教員が各回の内容を教材や実演を通じて説明し、関連する実習課題を指示する。</p> <p>普段からコンピュータに接する時間を持つこと。教員のメールアドレスは kohata@takasaki-u.ac.jp (質問等はメールでも受け付ける)。オフィスアワーは前期(水4時限目)、後期(水3時限目)。予習・復習の時間は参考程度であり、自らの習熟状況をふまえ必要に応じ各自で補完すること。</p>			

理 043 論理学

科目名	論理学（専門教養）			LSC001	講義
英文名	logic				
担当教員	米田和美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。				
到達目標	論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。） 1. 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。 2. 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	意見文 30 :小テスト 30 :提出物 30 :講義出席状況 10 の割合で評価します。				
課題に対するフィードバック	意見文、提出物はチェックを入れて返します。				
使用教材	使用しない(講義2～3週間前までにプリントを配布します。事前に読んでおくこと。)				
1	講義内容	引用			
	該当する到達目標	予習	先天異常児の助命は絶対かを読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	「引用は一字一句正確に」を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	悪文①			
	該当する到達目標	予習	食欲のない患者に看護師が行う援助を書き改める。		1.5 時間
	1	復習	「段落、箇条書き、しかしの使い方」を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	資料文の読み方			
	該当する到達目標	予習	「物差し狂っている母娘」を読んでおく。		1.5 時間
	1,2	復習	「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうしたか」を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	悪文②			
	該当する到達目標	予習	「専門的な母」を書き改める。		1.5 時間
	1	復習	「かぎカッコ、同じようにの使い方」を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	主張と理由			
	該当する到達目標	予習	「個性と異常の境界線は」を読んでおく。		1.5 時間

	1	復習	「主張を断定、理由を箇条書き」を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	悪文③		
	該当する到達目標	予習	「経静脈栄養注射」を書き改める。	1.5 時間
	1	復習	「( )の使い方、ことこの使い方」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	?変を見つける1		
	該当する到達目標	予習	「体位変換」の変を見つける。	1.5 時間
	1	復習	「体位変換」を正しい文章に書き改める。	1.5 時間
8	講義内容	変を見つける2		
	該当する到達目標	予習	「告知」を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	「問題は何か、なぜ問題か、どうすべきか」を理解する。	1.5 時間
備考	<p>授業は次の①②③を繰り返し行う。</p> <p>①資料文の内容を正確に読みとる。 いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうしたか</p> <p>②登場人物の言動の問題点を抽出する。 問題は何か、なぜ問題か</p> <p>③対処法を提案する。 どうすべきか</p> <p>予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること。</p>			

理 044 人間発達論

科目名	人間発達論（専門教養）			LSC002	講義
英文名	Human development				
担当教員	角野善司				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	本講義は人間の一生涯を受胎から死まで視野に入れて人間発達の理論を学ぶことを目的とする。人間の発達をライフサイクルにそって眺め、各発達段階における発達課題や発達危機の解決、また人格的活力の育成等を柱とする発達過程について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な発達理論について説明できる。</li> <li>2. 生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。</li> <li>3. 発達障害が及ぼす心理的影響について説明できる。</li> <li>4. 発達検査について説明できる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	毎回の宿題 30%（復習課題 15%、予習課題 15%）、学期中 3 回程度のレポート 30%、学期末テスト 40%。宿題の得点が一定水準に達しない場合やレポートの提出状況が不良の場合には、学期末テストの得点に関わらず、単位を付与しない。				
課題に対するフィードバック	宿題・レポートは毎回授業時に、学期末テストは事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材	「ガイドライン生涯発達心理学 第 2 版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012 年				
1	講義内容	発達の基本的視点と諸理論			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。		1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。		1.5 時間
2	講義内容	胎児期・乳児期の発達 (1) 概要			
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。		1.5 時間
3	講義内容	胎児期・乳児期の発達 (2) トピック: 愛着(アタッチメント)			
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。		1.5 時間

4	講義内容	幼児期の発達 (1) 概要		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
5	講義内容	幼児期の発達 (2) トピック: 反抗期		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
6	講義内容	児童期の発達 (1) 概要		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
7	講義内容	児童期の発達 (2) トピック: ギャング・エイジ		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
8	講義内容	青年期の発達 (1) 概要		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。	1.5 時間
9	講義内容	青年期の発達 (2) トピック: 心理的離乳		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
10	講義内容	成人期の発達 (1) 概要		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
11	講義内容	成人期の発達 (2) トピック: 子育て		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
12	講義内容	老年期の発達 (1) 概要		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
13	講義内容	老年期の発達 (2) トピック: 自我の統合		

	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
14	講義内容	発達障害		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。	1.5 時間
15	講義内容	発達検査		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
備考	<p>・オフィスアワー: 決まり次第連絡します。 研究室: 8 号館 4 階 405 室</p> <p>・メールアドレス: <a href="mailto:zsumino@takasaki-u.ac.jp">zsumino@takasaki-u.ac.jp</a></p> <p>・授業期間全体を通じた授業の進め方: 受講者には、予習復習にしっかりと取り組んでもらいたい。教科書の該当箇所に関する講義は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。積極的に質問をすることを期待する。復習課題の解答解説は丁寧さを心掛ける。なお、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。</p> <p>・宿題の提出は、C-learning による。</p>			

理 045 人間行動学

科目名	人間行動学（専門教養）			LSC003	講義
英文名	Behavioral Science				
担当教員	上原 徹・服部 卓				
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている(上原)、臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 30 年、現在に至る(服部)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。				
到達目標	1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	レポートを 80%とし、授業中の態度を 20%程度参考にして総合評価する。授業態度(静肅さ、不必要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は、個別に厳しく減点する。				
課題に対するフィードバック	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。				
使用教材	福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」を教科書として用いるので必携。DVD 教材を用いた授業も加える。				
1	講義内容	青年期の心理と性格			
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		0.5 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。		1 時間
2	講義内容	対人行動			
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間
	1,2	復習	ノートを読むこと。		1 時間
3	講義内容	集 団■			
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間
	2,3,4	復習	ノートを読むこと。		1 時間
4	講義内容	異文化と自己			
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。		1 時間

	3,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
5	講義内容	ヒューマンファクター——労働の心理学		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	1 時間
9	講義内容	健康		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
10	講義内容	学習と学習支援 3,5		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
11	講義内容	知覚		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
12	講義内容	記憶		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
13	講義内容	思考		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場■		
	該当する到達目標	予習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	1 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ■		
	該当する到達目標	予習	ノートを読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科書の講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
備考	授業では配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。複数の学科学生が多数で聴講するので、静粛に臨むこと(成績評価に影響する)。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は厳に慎むこと。予習復習は、試験前後の学習で補完すること。オフィスアワーは、オリエンテーション時に案内			



## 理 046 化学

科目名	化学（専門教養）		LSC004	講義
英文名	chemistry			
担当教員	信田智哉、山際教之、須藤豊			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 2単位	
講義目標	理学を支える基礎的知識として、化学の中で特に病態を理解するために、栄養素と病気について、また医薬品による生体反応や化学計算などを中心に習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子の構造を説明できる。また、放射線を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>2. 電子殻や電子配置を説明できる。</li> <li>3. 周期表を理解し、代表的な元素の特徴を説明できる。</li> <li>4. 化学結合を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>5. 原子量や分子量を理解し、溶液の濃度を説明できる。また、物質の状態を説明できる。</li> <li>6. 物質の溶解を説明できる。また、蒸気圧と浸透圧を説明できる。</li> <li>7. 酸・塩基の定義とその反応を説明できる。</li> <li>8. 酸化・還元の定義とその反応を説明できる。</li> <li>9. 有機化合物の結合を説明できる。また、官能基を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>10. 異性体を列挙し、特徴を説明できる。特に鏡像異性体の特徴を説明できる。</li> <li>11. 化学反応とエネルギーを説明できる。また、有機化学の反応を説明できる。</li> <li>12. 高分子化合物を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>13. 糖類を列挙し、特徴を説明できる。また、脂質を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>14. アミノ酸を列挙し、特徴を説明できる。また、タンパク質の構造や機能を説明できる。</li> <li>15. DNA や RNA の構造や機能を説明できる。また、ビタミンを列挙し、構造や機能を説明できる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観		
		2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	ミニレポートを数回作成し、評価する。筆記試験は行わない。			
課題に対するフィードバック	ミニレポートによる出欠確認および理解度のチェックを行う。 ミニレポートはコメントをつけて返却する。			
使用教材	コ・メディカル化学 医療・看護系のための基礎化学 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著 裳華房、2016年1月30日 第3版2刷発行、2,400円(税抜) また、使用教材として教科書の他に毎回プリントを配布する。			
1	講義内容	原子の構造と放射能(山際)		
	該当する到達目標	予習	教科書第1章に目を通しておく。	
				1.5時間

1	復習	教科書第1章に記載されている演習問題を解いてみる。	1.5 時間
2	講義内容	原子の電子構造(山際)	
	該当する到達目標	予習	教科書第2章に目を通しておく。
	2	復習	教科書第2章に記載されている演習問題を解いてみる。
3	講義内容	周期表と元素(山際)	
	該当する到達目標	予習	教科書第3章に目を通しておく。
	3	復習	教科書第3章に記載されている演習問題を解いてみる。
4	講義内容	化学結合と分子(須藤)	
	該当する到達目標	予習	教科書第4章に目を通しておく。
	4	復習	教科書第4章に記載されている演習問題を解いてみる。
5	講義内容	物質の量と状態(須藤)	
	該当する到達目標	予習	教科書第5章に目を通しておく。
	5	復習	教科書第5章に記載されている演習問題を解いてみる。
6	講義内容	溶液の化学(須藤)	
	該当する到達目標	予習	教科書第6章に目を通しておく。
	6	復習	教科書第6章に記載されている演習問題を解いてみる。
7	講義内容	酸・塩基(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第7章 p. 57~p. 63 に目を通しておく。
	7	復習	教科書第7章に記載されている演習問題 1~6を解いてみる。
8	講義内容	酸化・還元(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第7章 p. 63~p. 67 に目を通してく。
	8	復習	教科書第7章に記載されている演習問題 7~8 を解いてみる。
9	講義内容	有機化合物の構造(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第8章に目を通しておく。
	9	復習	教科書第8章に記載されている演習問題を解いてみる。
10	講義内容	異性体と立体化学(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第9章に目を通しておく。
	10	復習	教科書第9章に記載されている演習問題を解いてみる。
11	講義内容	有機化学反応(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第10章に目を通しておく。
	11	復習	教科書第10章に記載されている演習問題を解いてみる。
12	講義内容	高分子化合物(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第11章に目を通しておく。
	12	復習	教科書第11章に記載されている演習問題を解いてみる。
13	講義内容	糖類と脂質(信田)	
	該当する到達目標	予習	教科書第12章に目を通しておく。
	13	復習	教科書第12章に記載されている演習問題を解いてみる。

	講義内容	アミノ酸とタンパク質(信田)		
14	該当する到達目標	予習	教科書第13章に目を通しておく。	1.5 時間
	14	復習	教科書第13章に記載されている演習問題を解いてみる。	1.5 時間
	講義内容	核酸とビタミン(信田)		
15	該当する到達目標	予習	教科書第14章に目を通しておく。	1.5 時間
	15	復習	教科書第14章に記載されている演習問題を解いてみる。	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワーおよびメールアドレス</p> <p>信田智哉: 火曜日 2 限目、水曜日 2 限目 研究室: 7 号館 2 階 203 室、</p> <p>山際教之: 月曜日 2 限目、火曜日 1 限目 研究室: 7 号館 3 階 308 室、yamagiwa@takasaki-u.ac.jp.</p> <p>須藤 豊: 月曜日 1 限目、金曜日 5 限目 研究室: 7 号館 3 階 324 室、ysuto@takasaki-u.ac.jp.</p> <p>授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。</p> <p>予習・復習については日々の学習で補完すること。</p>			

## 理 047 統計学

科目名	統計学（専門教養）			LSC005	講義
英文名	Statistics				
担当教員	福島博				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	医療に使う基本的な統計学の基礎を学ぶ				
到達目標	1 平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数等の基本的統計量の意味を理解する。 2 統計的手法を学ぶことにより、いろいろの情報の意味を正しく理解できるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験70%とレポート30%で評価する。総合得点60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。				
使用教材	「はじめての統計15講」 小寺平治 講談社				
1	講義内容	平均と分散			
	該当する到達目標	予習	教科書1, 2, 3講を読んでおく。		2時間
	1	復習	平均と分散について、具体例の計算を通して理解する。		2時間
2	講義内容	相関係数			
	該当する到達目標	予習	教科書4講を読んでおく。		2時間
	1	復習	相関係数、共分散について理解する。		2時間
3	講義内容	確率変数			
	該当する到達目標	予習	教科書5講を読んでおく。		2時間
	1	復習	確率変数とその期待値、分散について理解する。		2時間
4	講義内容	正規分布			
	該当する到達目標	予習	教科書6講を読んでおく。		2時間
	2	復習	正規分布とその期待値、標準偏差について理解する。		2時間
5	講義内容	二項分布			
	該当する到達目標	予習	教科書7講を読んでおく。		2時間
	2	復習	二項分布の正規分布近似について理解する。		2時間
6	講義内容	標本平均			

	該当する到達目標	予習	教科書8講を読んでおく。	2時間
	2	復習	標本平均の平均、分散について理解する。	2時間
	講義内容	区間推定		
7	該当する到達目標	予習	教科書9講を読んでおく。	2時間
	2	復習	中心極限定理について理解する。	2時間
	講義内容	母平均の検定		
8	該当する到達目標	予習	教科書10. 11講を読んでおく。	2時間
	2	復習	母比率、t分布について理解する。	2時間
備考	<p>オフィスアワー:木曜日4時限 非常勤講師室</p> <p>その日の講義内容の理解を深めるため、具体例の問題演習を行う。</p> <p>メールアドレス: :fukusima@cup.ocn.ne.jp</p>			

## 理 048 生物学

科目名	生物学(専門教養)		LSC006	講義
英文名	Biology			
担当教員	今井 純、坂井 隆浩 高崎健康福祉大学薬学部			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択・1.5 単位	
講義目標	生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。そこで、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。			
到達目標	(1)細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる (2)細胞内外の情報伝達機構を説明できる (3)遺伝や遺伝子について説明できる (4)発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる (5)免疫反応を分類し説明できる			
学位授与方針との対応	✓	1. 人間理解と倫理観		
	✓	2. 論理的思考・問題解決力		
	✓	3. チームの一員としての協調・協働		
	✓	4. 国際理解		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	定期テスト(90%)と授業中に興味を持った話題に対するアクティブラーニング形式のレポート(10%)で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。			
課題に対するフィードバック	レポートには授業中にコメントをつける。定期試験の解答を掲示し、間違えた部分の復習を促す。			
使用教材	教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著(裳華房) ISBN978-4-7853-5226-4 講義のスライドを随時プリントして配布する。			
1	講義内容	生物学とはどのような学問か		
	該当する到達目標 1	予習	教科書の1~8ページを読んで内容を理解する。	1.5時間
		予習	生物学について理解する。	1.5時間
2	講義内容	生命とはなにか、生物はどのようなものか。		
	該当する到達目標 1	予習	教科書の10~17ページを読んで内容を理解する。	1.5時間

		復習	生物について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	細胞とはどのようなものか。		
	該当する到達目標 1、2	予習	教科書の 19～27 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	細胞について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	体をつくる分子にはどのようなものがあるか		
	該当する到達目標 1、2	予習	教科書の 29～36 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	生体構成分子について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	体の中で物質はどのように変化するか。		
	該当する到達目標 1、2	予習	教科書の 38～45 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	代謝について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	遺伝子と遺伝はどのように関係しているのか。」		
	該当する到達目標 3	予習	教科書の 47～58 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	遺伝現象について理解する	1.5 時間
7	講義内容	ヒトの体はどのようにできているか。		
	該当する到達目標 1、2	予習	教科書の 59～66 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの体の仕組みを理解する	1.5 時間
8	講義内容	エネルギーはどのように獲得されるか。		
	該当する到達目標 1、2	予習	教科書の 68～76 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	呼吸と消化吸収について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ヒトはどのように運動するか。		
	該当する到達目標 1、2、3	予習	教科書の 77～85 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの運動の仕組みを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		

	該当する到達目標 1、2、3、5	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		
	該当する到達目標 1、2、3、5	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ヒトは病原体とどのようにたたかうか。		
	該当する到達目標 4	予習	教科書の 98～106 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	免疫系について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ヒトはどのように進化してきたか。		
	該当する到達目標 4	予習	教科書の 117～125 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの進化について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ヒトをとりまく環境はどのようにになっているか。		
	該当する到達目標 2	予習	教科書の 127～135 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	環境について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ヒトはどのような生き物か。		
	該当する到達目標 1、2、3、4、5	予習	教科書の 137～145 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトについて理解する。	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー：金曜日の 16:00–17:00、メールによる質問は随時  メールアドレス：jimai@takasaki-u.ac.jp、sakai@takasaki-u.ac.jp  研究室：7号館 3階 326(今井)、7号館 3階 330(坂井)  予習・復習については、試験前の学習で補完すること  授業は教科書、自作の配布資料とパワーポイントに基づき進行するとともに、学生が授業中に紹介した生命現象に関連する質問、レポートなどの解説を行い、学生が主体的に学習する習慣を身につけさせる。</p>			

## 理 049 生活科学概論

科目名	生活科学概論（専門教養）			LSC007	講義
英文名	Introduction of Life Science				
担当教員	内田幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	私たちの生活は急激に変化しつつある。生活していく上で出会うさまざまな課題に対し、生活者の立場から総合的に捉えることをめざす。衣食住や環境などのきわめて日常的な生活行為に関する問題を理解し、医療従事者としての自身の生活向上に必要な知識を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活基盤としての生活科学について学習内容を理解する</li> <li>2. 生活していく上で必要な衣食住の知識を身につける</li> <li>3. 授業で学んだ生活科学について理解を深め実生活に活かすことができる</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%で評価する 総合評価 60%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック	レポートは評価して返却する				
使用教材	適宜プリントを配布する 参考図書「生活科学のすすめ」佐藤方彦著(井上書院) ISBN4-7530-2317-6				
1	講義内容	ガイダンス 生活科学とは			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目的などを理解する		1時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する		1.5時間
2	講義内容	衣の生活科学(衣服と人間)			
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1時間
	1,2	復習	衣服の機能と役割について理解する		1.5時間
3	講義内容	衣の生活科学(快適な衣服環境)			
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1時間
	1,2	復習	快適な衣服環境について理解する		1.5時間
4	講義内容	食の生活科学(食生活と栄養管理)			
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1時間

	1,2	復習	食事と健康と関係について理解する	1.5 時間
5	講義内容	食の生活環境(食生活と生活習慣病)		
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	食生活と健康について理解する	1.5 時間
6	講義内容	住の生活科学(快適な住環境整備)		
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	快適な住環境整備について理解する	1.5 時間
7	講義内容	住の生活科学(住環境と生活)		
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1 時間
	1,2	復習	住環境と生活について理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ及び学習到達度の確認		
	該当する到達目標	予習	配布したプリントに目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	衣食住や環境などの課題について生活者の立場から総合的に理解する	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー:月曜日 3 限 水曜日 3 限</p> <p>各回のテーマを決め、講義およびパワーポイントを用いて授業を進めていく</p> <p>メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp</p> <p>研究室:1 号館 5 階 512</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること</p>			

理 050 国際保健医療論

科目名	国際保健医療論（専門教養科目）			LSC008	講義
英文名	Theory of global health				
担当教員	李孟蓉、望月経子				
科目に関連した実務経験	在日外国人への健康支援（経験） 専門家として開発途上国に支援（経験） 青年海外協力隊として開発途上国に支援（経験）				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつグローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。</li> <li>2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解できる。</li> <li>3. 世界の健康問題、それに対する国際的戦略および課題を理解できる。</li> <li>4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■</li> <li>5. 国際保健医療協力の実践手法を理解できる。■</li> <li>6. 在日外国人への健康支援を理解できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	レポート課題 70%、授業参加度 30%（グループワーク、プレゼンテーション等）を総合的に評価する				
課題に対するフィードバック	レポートの中でみられた疑問や課題を授業の中で再確認する。				
使用教材	<p>配布資料、参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館</li> <li>②「国際協力—その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣</li> <li>③「国際保健医療学」第3版 国際保健医療学会編 杏林書院</li> <li>④「国民衛生の動向 2018/2019」 厚生労働統計協会</li> <li>⑤「世界の貧国 1日1ドルで暮らすびと」 ジェレミーシーブルック 青土社、適宜参考書を紹介する</li> </ol>				
1	講義内容	国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念			
	該当する到達目標	予習	国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読む。		1時間
	1, 4	復習	国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念が理解できる。		1.5時間
2	講義内容	グローバルヘルスと国際保健医療協力の歴史			
	該当する到達目標	予習	世界で起きている健康問題に関する新聞・雑誌などの記事を読む。		1時間

	1, 4	復習	世界で起きている健康問題と支援の必要性を理解できる。	1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGO の取り組みと日本の国際協力		
	該当する到達目標	予習	参考書①「世界で一番いのちの短い国 シェアレオネの国境なき医師団」、②国際協力—その新しい潮流に目を通す。	1 時間
	1, 4	復習	国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関や NGO 団体、ODA の活動を理解できる。	1.5 時間
4	講義内容	プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、ミレニアム開発目標の経緯と変遷		
	該当する到達目標	予習	参考書③「国際保健医療学」第 3 版の第 I 部 1~4、10~11 までを読む。	1 時間
	1, 4	復習	世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、ミレニアム開発目標の基本理念と変遷を理解できる。	1.5 時間
5	講義内容	世界における健康の格差		
	該当する到達目標	予習	世界で生じている健康格差について情報を集め、その原因を考える。	1 時間
	1, 2, 4	復習	健康格差の実態とその原因を理解できる。	1.5 時間
6	講義内容	開発途上国における疾病構造		
	該当する到達目標	予習	参考書④「国民衛生の動向 2018/2019」を参考し、日本における疾病構造(平均寿命、死亡統計など)について調べる。	1 時間
	4	復習	発展途上国の保健医療課題とその原因を理解できる。	1.5 時間
7	講義内容	異文化と異文化適応		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する講義資料に目を通す。	1 時間
	1, 2, 4	復習	文化が国際保健医療協力へ与える影響を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■ 事例をもとに異文化の中での国際協力活動の内容について解説を加えて講義する。		
	該当する到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べる。	1 時間
	1, 2, 4	復習	国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応が理解できる。	1.5 時間
9	講義内容	貧困と格差を考えるワークショップ① ■ 国際協力の経験をもとに、国づくりを行うシミュレーションゲームをワークショップという形で取り入れて、各グループが協力しあえるように指導をしながら行う		
	該当する到達目標	予習	参考書⑤「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らすびと」に目を通す	1 時間
	1, 2, 4	復習	世界の不平等や格差に気付くことができ、国の豊かさについて考えることができる。	1.5 時間
10	講義内容	貧困と格差を考えるワークショップ② ■ 国際協力の経験をもとに、国づくりを行うシミュレーションゲームをワークショップという形で取り入れて、各グループが協力しあえるように指導をしながら行う		
	該当する到達目標	予習	参考書④「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らすびと」に目を通す	1 時間
	1, 2, 4	復習	世界の不平等や格差に気付くことができ、国の豊かさについて考えることができる。	1.5 時間

11	講義内容	ディスカッション、まとめ		
	該当する到達目標	予習	第9、10回の授業内容を振り返り、自分の考えをまとめておく	1時間
	1, 2, 4	復習	ディスカッションを通して、グローバルな課題や地域間の格差、SDGsの目標と関連付けて、地球・世界レベルで理解が深まる。	1.5時間
12	講義内容	在日外国人の健康支援 ■ 在日外国人の背景や特性、健康問題、医療機関へのアクセス等について、事例をもとに解説を加えて講義する。		
	該当する到達目標	予習	日本、群馬県内の在日外国人(人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など)について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておく。	1時間
	1, 2, 4	復習	在日外国人が抱えている健康問題と支援が理解できる。	.5時間
13	講義内容	グローバルヘルス グループワーク①		
	該当する到達目標	予習	世界で行われている国際協力を調べる。(ODA)	1時間
	2, 3, 4	復習	国際保健医療協力の活動を理解できる	1.5時間
14	講義内容	グローバルヘルス グループワーク②		
	該当する到達目標	予習	世界で行われている国際協力を調べる。(NGO)	1時間
	2, 3, 4	復習	国際保健医療協力の活動を理解できる	1.5時間
15	講義内容	まとめ、プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	1~14回目の授業資料に目を通す	1時間
	2, 3, 4, 5	復習	地球規模の健康課題や国際協力に必要な知識、方法が理解できる	1.5時間
備考	<p>オフィスアワー:水曜・金曜の2限、質問はメールでも対応する。  メールアドレス:ri@taakasaka-u.ac.jp  研究室:3号館2階208  自作の授業資料や参考書をもとに解説を加えて講義する。講義の中でワークショップやグループワークを取り入れて、参加型、協議型の授業も行う。  ■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 051 解剖学 I

科目名	解剖学 I (専門基礎科目)		PTB100	講義
英文名	Anatomy I			
担当教員	三井 真一			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2 単位	
講義目標	人体の構造と機能との関連について理解する			
到達目標	1.解剖学用語を正しく使用することができる 2.循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系、中枢神経系の構造と機能について説明することができる 3.末梢神経系について分布と支配領域を説明することができる 4.伝導路について説明することができる			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	中間テスト(30%×2)、期末テスト(30%)、小テスト・受講態度等(10%)を総合して評価を行う。			
課題に対するフィードバック	重要な項目について翌週の授業開始時に小テストを行うので、自らの不足している部分を確認し補足すること 中間テスト、期末テストの前に学習すべきポイントをあらかじめ配布するので、学習時に不明な点については授業時やメール等で問い合わせること			
使用教材	教科書;カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで(ISBN 52426969X) 西村書店 授業時に配布するプリントとパワーポイントによる資料提示によって授業を進める			
1	講義内容	解剖学序論、細胞・組織・器官について		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1	復習	プリントで記入した部分を中心に解剖学用語、細胞・組織・器官を理解し、説明できるようにする	1.5 時間
2	講義内容	循環器系;心臓		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に心臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間

3	講義内容	循環器系;リンパ系、血管系		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心にリンパ系、血管系の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
4	講義内容	循環器系;血液		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に血液について成分と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
5	講義内容	呼吸器系;鼻腔～気管支		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に鼻腔～気管支の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
6	講義内容	呼吸器系;肺		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に肺の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
7	講義内容	消化器系;口腔～胃		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に口腔から胃について、構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
8	講義内容	消化器系;小腸～肛門		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に小腸から肛門について、構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
9	講義内容	消化器系;肝臓、胆嚢、膵臓		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
10	講義内容	中間テスト11, 2		
	該当する到達目標	予習	事前に配布された学習ポイントについて配布プリントと教科書で復習し、解答できるようにする	1.5 時間

	1, 2	復習	テストで出来なかった部分を、プリント・教科書等で確認する	1.5 時間
11	講義内容	内分泌系; 序論、視床下部、下垂体		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に内分泌系の概要を理解し、視床下部、下垂体の構造と機能と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
12	講義内容	内分泌系; 甲状腺、副腎、膵臓、腎臓		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に甲状腺、副腎、膵臓、腎臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
13	講義内容	感覚器系; 体性感覚、視覚		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に体性感覚、視覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
14	講義内容	感覚器系; 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚1, 2		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
15	講義内容	泌尿器系; 腎、尿路系		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に腎、尿路系の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
16	講義内容	生殖器系; 男性生殖器		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に男性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
17	講義内容	生殖器系; 女性生殖器		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に女性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
18	講義内容	運動器系; 骨・筋の組織学		

	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に骨・筋の組織構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
19	講義内容	運動器系; 上肢・下肢の主な筋		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に上肢・下肢の主な筋の名称と作用を理解し、説明できるようにする	1.5 時間
20	講義内容	神経系; 総論、組織		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に神経系の概要と神経組織と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
21	講義内容	中間テスト2		
	該当する到達目標	予習	事前に配布された学習ポイントについて配布プリントと教科書で復習し、解答できるようにする	1.5 時間
	1, 2	復習	テストで出来なかった部分を、プリント・教科書等で確認する	1.5 時間
22	講義内容	神経系; 末梢神経系(頭頸部、上肢)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(頭頸部、上肢)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
23	講義内容	神経系; 末梢神経系(下肢、脊髄反射)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(下肢、脊髄反射)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
24	講義内容	神経系; 末梢神経系(自律神経系)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 3	復習	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系(自律神経系)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
25	講義内容	神経系; 中枢神経系(区分、大脳皮質)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(区分、大脳皮質)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間

26	講義内容	神経系;中枢神経系(大脳)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(大脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする。	1.5 時間
27	講義内容	神経系;中枢神経系(間脳)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(間脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
28	講義内容	神経系;中枢神経系(中脳、橋、延髄、小脳)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 2	復習	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系(中脳、橋、延髄、小脳)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
29	講義内容	神経系;伝導路(下行路)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 4	復習	プリントで記入した部分を中心に伝導路(下行路)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
30	講義内容	神経系;伝導路(上行路)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおくこと	1.5 時間
	1, 4	復習	プリントで記入した部分を中心に伝導路(上行路)の構造と機能について理解し、説明できるようにする	1.5 時間
備考	非常勤のためオフィスアワーは授業終了直後以外に設けません。必要があればメール(smitsui@gunma-u.ac.jp)でアポイントを取ってください。毎回、復習テストを行うので、講義資料と教科書を用いてその日の授業内容を復習すること。授業は、パワーポイントとプリントを用いて行う。あらかじめ教科書でその日の単元の部分を予習しておくことが望ましい。			

理 052 解剖学Ⅱ

科目名	解剖学Ⅱ（専門基礎科目）			PTB110	講義
英文名	Anatomy Ⅱ				
担当教員	大野洋一、浅香 満、半田 瞳				
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務（経験）				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	解剖学Ⅰで学習した身体の構造と機能を基軸にして、理学療法士にとって特に重要な神経筋骨格系に焦点をあてて学習する。感覚と神経・筋の触診と起始停止・主要関節の構造と機能を中心に身体機能を系統別に学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の構造と機能を理解する</li> <li>2. 身体の機能解剖（機能と運動）について理解する■</li> <li>3. バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験および受講態度などの総合的評価				
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する				
使用教材	カラー人体解剖学：構造と機能：マイクロからマクロまで（ISBN 52426969X）西村書店 講義資料を適宜プリントにて配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション（系統解剖学概論）			
	該当する到達目標	予習	解剖学Ⅰの配布資料と教科書の確認		1.5時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1.5時間
2	講義内容	感覚器系（特殊感覚と体性感覚）			
	該当する到達目標	予習	解剖学Ⅰの感覚器系資料と教科書の確認		1.5時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1.5時間
3	講義内容	神経系Ⅰ（神経解剖と中枢神経）			
	該当する到達目標	予習	解剖学Ⅰの神経系（神経解剖と中枢神経）資料と教科書の確認		1.5時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1.5時間
4	講義内容	神経系Ⅱ（末梢神経と伝導路）			
	該当する到達目標	予習	解剖学Ⅰの神経系（末梢神経と伝導路）資料と教科書の確認		1.5時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1.5時間

5	講義内容	運動器系Ⅰ(上肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
6	講義内容	運動器系Ⅱ(下肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
7	講義内容	運動器系Ⅲ(体幹の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
8	講義内容	運動器系Ⅳ(上肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
9	講義内容	運動器系Ⅴ(下肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
10	講義内容	運動器系Ⅵ(体幹の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
11	講義内容	運動器系Ⅶ(四肢の関節と靭帯の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
12	講義内容	運動器系Ⅷ(体幹の関節と靭帯の機能解剖・バイオメカニクス)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
13	講義内容	体表解剖学Ⅰ(肩甲帯から上肢)■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
14	講義内容	体表解剖学Ⅱ(骨盤帯から下肢)■		

	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	まとめ(スポーツとリハビリテーションにおける解剖学概論)		
15	該当する到達目標	予習	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
備考	<p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>メールでの連絡先 大野: ohno@takasaki-u.ac.jp 生方: ubukata@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー 大野: 月曜日 16:30-18:00</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 053 解剖学実習

科目名	解剖学実習（専門基礎科目）		PTB111	実習
英文名	Practice of Anatomy			
担当教員	大野洋一、浅香 満、半田 瞳			
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務（経験）			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	人体解剖モデルや解剖体観察によって構造と機能を理解する。特に、分解骨標本を用いて関節の構造と筋の付着を確認する。また、模型を用いて脳の局所機能と神経伝達経路を学習する。さらに、ビデオ教材など視聴覚教材を多用し身体の内部構造をイメージできるようにする。			
到達目標	1 身体の構造と機能を理解する 2 身体の機能解剖（機能と運動）について理解する ■ 3 バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	実技口頭試験および授業態度などの総合的評価			
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する			
使用教材	カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで (ISBN 52426969X) 西村書店) 講義資料を適宜プリントにて配布する。			
1	講義内容	運動における人体の構造と機能1		
	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
2	講義内容	運動における人体の構造と機能2		
	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
3	講義内容	上肢の神経筋1		
	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の上肢の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
4	講義内容	上肢の神経筋2		

	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の上肢の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	下肢の神経筋1		
5	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の下肢の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	下肢の神経筋2		
6	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の下肢の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	体幹の神経筋1		
7	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の体幹の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	体幹の神経筋2		
8	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の体幹の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	頭蓋の神経筋1		
9	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	頭蓋の神経筋2		
10	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	上肢の骨関節1		
11	該当する到達目標	予習	上肢骨の名称を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	上肢の骨関節2		
12	該当する到達目標	予習	上肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	下肢の骨関節1		
13	該当する到達目標	予習	下肢骨の名称を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	下肢の骨関節2		
14	該当する到達目標	予習	下肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	体幹の骨関節1		
15	該当する到達目標	予習	体幹にある骨の名称を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	体幹の骨関節2		
16	該当する到達目標	予習	体幹にある骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認する	1.5 時間

			こと。	
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
17	講義内容	頭蓋の骨関節1		
	該当する到達目標	予習	頭蓋骨の名称を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
18	講義内容	頭蓋の骨関節2		
	該当する到達目標	予習	頭蓋骨の各部位の名称および縫合を教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
19	講義内容	体表解剖1(肩甲帯)■		
	該当する到達目標	予習	肩甲帯を構成する骨およびその機能について教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
20	講義内容	体表解剖2(上肢)■		
	該当する到達目標	予習	上肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
21	講義内容	体表解剖3(骨盤帯)■		
	該当する到達目標	予習	骨盤帯を構成する骨およびその機能解剖について教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
22	講義内容	体表解剖4(下肢)■		
	該当する到達目標	予習	下肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
23	講義内容	まとめ1(解剖体観察)		
	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の人体構成の資料や教科書を確認。	1.5 時間
	1,2	復習	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	1.5 時間
24	講義内容	まとめ2(解剖体観察)		
	該当する到達目標	予習	解剖学 I・II の人体構成の資料や教科書を確認。	1.5 時間
	1,2	復習	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	1.5 時間
備考	<p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。また、自身の体や人体模型などを使用して実習を行う。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>メールでの連絡先 大野:ohno@takasaki-u.ac.jp 生方:ubukata@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー 大野:月曜日 16:30-18:00</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 054 生理学

科目名	生理学（専門基礎科目）			PTB101	講義
英文名	Physiology				
担当教員	大野洋一				
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務（経験） 日本生理学会が認定する生理学エディューケーター認定資格有り				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	医科生理学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な知識を解説する。生命現象の基盤である「体液・血液」「循環・呼吸」「内分泌」「消化・吸収・排泄」「神経」「感覚」等の理解を深めることを目標とする。				
到達目標	1. 人体の多様な生理機能の詳細を理解し説明できる。■ 2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 100%				
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する。				
使用教材	テキスト:「標準理学療法学・作業療法学 生理学」、医学書院、4400円+税 講義資料を適宜プリントにて配布する。				
1	講義内容	PTにとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造と機能、酸塩基平衡■			
	該当する到達目標	予習	テキスト 序説、1、2、11 生理学的機能の原則を理解する。		1.5時間
	1,2	復習	生理学の基礎（PTにとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造、体液・電解質調節、酸-塩基平衡）を理解する。		1.5時間
2	講義内容	血液と免疫系:血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム			
	該当する到達目標	予習	テキスト 7 血液 を理解する。		1.5時間
	1,2	復習	血液と免疫系（血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム）を理解する。		1.5時間
3	講義内容	循環器系(1):循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類			
	該当する到達目標	予習	テキスト 8 心臓と循環 を理解する。		1.5時間
	1,2	復習	循環器系（循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類）を理解する。		1.5時間
4	講義内容	循環器系(2):循環の調節機構、特殊循環(脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)			

	該当する到達目標	予習	テキスト 8 心臓と循環 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	循環器系 {循環の調節機構、特殊循環 (脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)} を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	呼吸と生理学:呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸		
	該当する到達目標	予習	テキスト 9 呼吸とガスの運搬 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	呼吸と生理学 (呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸) を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	内分泌系:内分泌器官の構成、各腺から分泌されるホルモンの作用		
	該当する到達目標	予習	テキスト 13 内分泌 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	内分泌系 (内分泌器官の構成各腺から分泌されるホルモンの作用) を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生殖・成長と老化の生理学:配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性 (勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等)、成長と老化		
	該当する到達目標	予習	テキスト 15 生殖と発生・成長と老化 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	生殖と発生の生理学 {配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性 (勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等)}、成長と老化を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	消化・吸収の生理学:消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝		
	該当する到達目標	予習	テキスト 12、14 消化と吸収、代謝と体温 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	消化・吸収の生理学 (消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝) を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	泌尿器系の生理学:泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿		
	該当する到達目標	予習	テキスト 10 尿と生成と排泄 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	泌尿器系の生理学 (泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿) を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	神経系(1):神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経 ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト 3 神経の興奮伝導と末梢神経 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系 (神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経) を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	神経系(2):中枢神経系、神経路、脳幹、小脳とその障害 ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト 4 中枢神経系 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系 (中枢神経系の構成、神経路、脳幹、小脳とその障害) を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	神経系(3):大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能とその障害 ■		

	該当する到達目標	予習	テキスト 4 中枢神経系 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	神経系（大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能）を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	<b>感覚の生理学:感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚■</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト 6 感覚 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	感覚の生理学（感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚）を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	<b>骨と筋肉の生理学:骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み■</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト 5 筋と骨 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	骨と筋肉の生理学（骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み）を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	<b>運動の生理学:筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化■</b>		
	該当する到達目標	予習	テキスト 16 運動生理 を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	運動の生理学（筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化）を理解する。	1.5 時間
備考	<p><b>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</b>  授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。  質問は随時受け付ける。  メールでの連絡先: ohno@takasaki-u.ac.jp  オフィスアワー: 月曜日 16:30-18:00  ■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 055 生理学実習

科目名	生理学実習（専門基礎科目）		PTB112	実習
英文名	Practice of Physiology			
担当教員	大野洋一、富田洋介			
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務（経験） 日本生理学会が認定する生理学エドゥケーター認定資格有り。			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	生理学の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認し理解を確立することを目標とする。			
到達目標	1. 実験方法の理解と結果の解釈から医学・生物学的なものの見方や論理的な考え方が習得できる。■ 2. 動物を用いた実験の倫理基準と基本的手法について習得することができる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	レポート 90%、学習態度 10%			
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する。			
使用教材	実習毎にプロトコールを配布する。 参考図書：「生理学実習書」、監修-日本生理学会教育委員会、南江堂			
1	講義内容	臓器構造と器官系：ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認①■		
	該当する到達目標	予習	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	人体とラットの臓器構造の違いを理解する	1.5 時間
2	講義内容	臓器構造と器官系：ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認②■		
	該当する到達目標	予習	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	人体とラットの臓器構造の違いを理解する	1.5 時間
3	講義内容	演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（ラット）の臓器における位置関係の比較①		
	該当する到達目標	予習	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（ラット）の臓器における位置関係の比較②		
	該当する到達目標	予習	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。	1.5 時間

5	講義内容	循環器系: 血圧の測定①■		
	該当する到達目標	予習	血圧測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	循環器系: 血圧の測定②■		
	該当する到達目標	予習	血圧測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 血圧測定の定義とその調整機構の理解①		
	該当する到達目標	予習	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 血圧測定の定義とその調整機構の理解②		
	該当する到達目標	予習	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	循環器系: 心電図の測定による心機能の判定①■		
	該当する到達目標	予習	心電図測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心機能に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	循環器系: 心電図の測定による心機能の判定②■		
	該当する到達目標	予習	心電図測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心機能に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 心電図における各成分の意味と読み方の習得①		
	該当する到達目標	予習	心機能と心電図の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 心電図における各成分の意味と読み方の習得②		
	該当する到達目標	予習	心機能と心電図の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	呼吸器系: 呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定①■		
	該当する到達目標	予習	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	呼吸器系: 呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定②■		
	該当する到達目標	予習	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解①		
	該当する到達目標	予習	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	1.5 時間
16	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気		

		量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解②		
	該当する到達目標	予習	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	1.5 時間
17	講義内容	感覚器系: バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)①■		
	該当する到達目標	予習	バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)の測定手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
18	講義内容	感覚器系: バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)②■		
	該当する到達目標	予習	バランス能力と皮膚感覚(2点弁別閾)の測定手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
19	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解①		
	該当する到達目標	予習	バランス能力と感覚器機能: 2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	1.5 時間
20	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解②		
	該当する到達目標	予習	バランス能力と感覚器機能: 2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	1.5 時間
	1	復習	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	1.5 時間
21	講義内容	神経筋系: 筋収縮(筋電図)の演習①■		
	該当する到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
22	講義内容	神経筋系: 筋収縮(筋電図)の演習②■		
	該当する到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定手順を理解する。	1.5 時間
	1	復習	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	1.5 時間
23	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 筋収縮のメカニズムの理解①		
	該当する到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定結果を理解する。	1.5 時間
	1	復習	筋収縮のメカニズムを理解する。	1.5 時間
24	講義内容	演習: 結果の解析とレポートの作成: 筋収縮のメカニズムの理解②		
	該当する到達目標	予習	筋収縮(筋電図)の測定結果を理解する。	1.5 時間
	1	復習	筋収縮のメカニズムを理解する。	1.5 時間
備考	【授業期間全体を通じた授業の進め方】 授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。また、各種測定機器を使用した実習を行う。 質問は随時受け付ける。			

メールでの連絡先 大野:ohno@takasaki-u.ac.jp

富田:tomita-y@takasaki-u.ac.jp

オフィスアワー 大野:月曜日 16:30-18:00

富田:木曜日 13:00-14:30

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 056 運動学

科目名	運動学（専門基礎科目）		PTB201	講義
英文名	Kinesiology			
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、浅香 満、生方 瞳			
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2単位	
講義目標	姿勢および運動・動作を様々な視点から科学的にとらえるために必要な基本的知識を身に付ける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【認知領域】人体の構造・機能に関する基本的知識を述べるができる。</li> <li>【認知領域】姿勢や運動・動作を運動学的見地または運動力学的見地からとらえるために必要な基本的知識を述べるができる。</li> <li>【認知領域】運動療法を安全かつ効果的に行うために必要な基本的知識を述べるができる。■</li> <li>【認知領域】運動の発達・学習に関する基本的知識を述べるができる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	<p>以下の3項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習: 予習したものをまとめてグループ発表(10点×2回)</li> <li>復習: 授業内テスト(第5~15、19~27回の奇数回冒頭実施:40点)</li> <li>筆記試験(中間20点、期末20点)</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	<p>授業内の発表(予習)については発表直後にフィードバックする。</p> <p>授業内テストについてはテスト直後に解答を示し、解説する。</p> <p>筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)</li> <li>配布資料</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(医歯薬出版)</li> <li>エッセンシャル・キネシオロジー(南江堂)</li> </ul>			
1	講義内容	オリエンテーション		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	1~4	復習	特に必要としない。	0時間
2	講義内容	運動学とは		
	該当する到達目標	予習	教科書(p1~18)を用いて、下調べする。	1時間
	1~4	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1時間

講義内容		生体力学の基礎 1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)	
3	該当する到達目標	予習	教科書(p19~35:第1項 身体運動と力学~第7項 モーメント)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 基本肢位、運動の面と軸(図 2-1~3) ・ 筋の張力と重力(図 2-10) ・ 重力と分力(図 2-12)
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。
講義内容		生体力学の基礎 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)	
4	該当する到達目標	予習	教科書(p35~46:第8項 運動法則~第11項 骨と関節の運動)を用いて下調べする。 [予習課題] ・ ヒトにある3つのてこ(図 2-18~21) ・ 筋収縮と運動方向(図 2-22)
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。
講義内容		生体の構造と機能 1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)	
5	該当する到達目標	予習	教科書(p47~88:第1項 解剖学と生理学~第4項 運動器の構造と機能)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 有酸素性エネルギー代謝と無酸素性エネルギー代謝(図 3-2) ・ 筋の形状(図 3-26) ・ 骨格筋の構造と筋フィラメント滑走(図 3-27) ・ 筋の長さ-張力曲線(図 3-40) ・ 筋力増強運動の効果と筋肥大(3-45)
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。
講義内容		生体の構造と機能 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)	
6	該当する到達目標	予習	教科書(p88~116:第5項 神経系)を用いて下調べする。 [予習課題] ・ 脊髄と脊髄神経の外観(図 3-50) ・ 脊髄伝導路(図 3-61) ・ 内包の部位と遠心性(下行性)神経線維の走行(図 3-77) ・ 一次運動野および一次感覚野の機能局在(図 3-84)
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。
講義内容		生体の構造と機能 3(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)	
7	該当する到達目標	予習	教科書(p117~154:第6項 運動の中樞神経機構)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 伸張反射(腱反射)のメカニズム(図 3-88)

			<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢制御機能の階層性(図 3-96)</li> <li>立ち直り反応(反射)(図 3-100)</li> <li>共同筋活動、予測的姿勢制御(図 3-106)</li> </ul>	
1		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	生体の構造と機能 4(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
8	該当する到達目標	予習	教科書(p154~p212:第7項 感覚器の構造と機能~第12項 栄養とエネルギー代謝)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>感覚と知覚・認知(図 3-121)</li> <li>求心性(上行性)神経線維の走行(図 3-127・128)</li> <li>肺気量分画(図 3-142)</li> <li>体循環と肺循環、動脈血と静脈血(図 3-148)</li> </ul>	1 時間
1		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
9	該当する到達目標	予習	教科書(p213~225:第1項 機能解剖学~第2項 上肢帯と上肢の運動 肩関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>肩甲骨の運動と各運動に関係する筋(図 4-12~16、表 4-2)</li> <li>肩関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-19~22、表 4-4)</li> </ul>	1 時間
1		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
10	該当する到達目標	予習	教科書(p224~245:第2項 上肢帯と上肢の運動 肘・手関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>肘関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-25・26、表 4-6)</li> <li>手関節の運動と各運動に関係する筋(図 4-36~38、表 4-9(手関節))</li> </ul>	1 時間
1		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動 3(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
11	該当する到達目標	予習	教科書(p224~245:第2項 上肢帯と上肢の運動 手指)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>手指の運動と各運動に関係する筋(図 4-39~42、表 4-9(MP~CM 関節))</li> <li>握りとつまみ(図 4-44)</li> <li>安静肢位と機能肢位(図 4-45)</li> <li>手指の変形(図 4-46・48)</li> </ul>	1 時間
1		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間

12	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動4(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p246~256:第3項 下肢帯と下肢の運動 股関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 股関節周囲の靭帯(図4-56、表4-10) ・ 頸体角と前捻角(図4-58) ・ 股関節の運動と各運動に関係する筋(図4-59~63、表4-12)	1時間
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1時間
13	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動5(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p256~271:第3項 下肢帯と下肢の運動 膝・足関節)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 膝半月板と靭帯(図4-66、表4-13) ・ 膝関節の運動と各運動に関係する筋(図4-67・68、表4-15) ・ 足関節の運動と各運動に関係する筋(図4-75~80、表4-18)	1時間
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1時間
14	講義内容	四肢と体幹(顔面・頭部含む)の運動6(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p271~296:第4項 体幹の運動)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 頸椎・胸椎・腰椎の運動(表4-19、図4-110) ・ 呼吸筋(表4-23、図4-108) ・ 腰椎椎間板内圧の姿勢による違い(図4-109) ・ 体幹の運動と各運動に関係する筋(図4-100・112・113、表4-25)	1時間
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1時間
15	講義内容	まとめ1(生体力学の基礎、生体の構造と機能)		
	該当する到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第3~8回の授業内容を総括する。	2時間
	1	復習	まとめを再確認する。	1時間
16	講義内容	まとめ2(四肢と体幹の運動)		
	該当する到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第9~14回の授業内容を総括する。	2時間
	1	復習	まとめを再確認する。	1時間
17	講義内容	姿勢1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p347~364:第1項 姿勢とその制御をめぐる~第4項 姿勢の記載と類型)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 基本的立位姿勢と重心線(図7-5) ・ 姿勢安定性と重心の高さ、支持基底面の広さ(図7-6・7)	1時間

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構えと体位(図 7-9)</li> <li>・ 基本体位(臥位、座位、立位)(図 7-11~14)</li> </ul>	
2		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
講義内容 姿勢 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)				
18	該当する到達目標	予習	教科書(p364~377:第 5 項 立位姿勢~第 6 項 立位姿勢の異常)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗重力筋(表 7-3)</li> <li>・ 外乱負荷に対する筋の応答(図 7-25)</li> <li>・ 姿勢制御に関連するシステム(図 7-26)</li> <li>・ ファンクショナルリーチテスト(図 7-29)</li> </ul>	1 時間
2		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
講義内容 運動と動作の分析 1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)				
19	該当する到達目標	予習	教科書(p297~313:第 1 項 運動行動の諸側面~第 3 項 作業・動作の分析)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動分析用語の抽出(表 5-1)</li> <li>・ 腕立て伏せの相分類と筋活動(図 5-2・3、表 5-3)</li> <li>・ 作業の区分(図 5-4)</li> </ul>	1 時間
2		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
講義内容 運動と動作の分析 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)				
20	該当する到達目標	予習	教科書(p313~325:第 4 項 身体運動の検査)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動負荷試験のリスク管理(表 5-4)</li> <li>・ 徒手筋力検査法(MMT)の段階付け(表 5-5)</li> <li>・ 臥位から立位になるまでのバリエーション(図 5-17)</li> </ul>	1 時間
2		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
講義内容 歩行と走行 1(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)				
21	該当する到達目標	予習	教科書(p379~389:第 1 項 歩行と運動学~第 3 項 運動学的分析)を用いて、下調べする。 [予習課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行周期(図 8-3)</li> <li>・ 歩行周期の伝統的分類とランチョロスアミーゴ分類(p381~382)</li> <li>・ 歩行中の下肢関節の角度変化と重心移動(図 8-4・5)</li> </ul>	1 時間
2		復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
講義内容 歩行と走行 2(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)				
22	該当する到達目標	予習	教科書(p390~401:第 4 項 運動力学的分析~第 5 項 筋電図ポリグ	1 時間

			ラフ)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 床反力(図 8-11) ・ 歩行中の主要な筋の活動(図 8-20)	
	2	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	歩行と走行 3(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
23	該当する到達目標	予習	教科書(p401~410:第6項 歩行時のエネルギー代謝~第9項 歩行の神経機構)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 生理的コスト指数(p404) ・ 6分間歩行テスト(p404) ・ 漸増シャトルウォーキングテスト(資料なし) ・ 歩行のCPG説(図 8-26)	1 時間
	2	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	歩行と走行 4(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
24	該当する到達目標	予習	教科書(p410~415:第10項 異常歩行)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 中殿筋(トレンデレンブルグ)歩行(p413) ・ 下垂足(p413) ・ 痙性歩行(p413・414) ・ 小刻み歩行およびすくみ足(p414)	1 時間
	2	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	歩行と走行 5(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
25	該当する到達目標	予習	教科書(p415~439:第11項 走行~付 車いすの推進)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 階段昇降時の筋活動(図 8-32・34) ・ 車椅子駆動における手の軌跡(図 8-38) ・ 車椅子駆動時の筋活動(図 8-47)	1 時間
	2	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	運動処方(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング) ■		
26	該当する到達目標	予習	教科書(p327~345)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 運動療法の諸原理(p343~344) ・ 自覚的運動強度とMETS(表 3-47(p209)、表 6-6) ・ 様々な活動のMETS(運動強度)(表 3-48(p210))	1 時間
	3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
27	講義内容	運動発達(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		

	該当する到達目標	予習	教科書(p441～466)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 運動発達の順序(図 9-5) ・ 乳幼児期の反射の出現と消失(図 9-7)	1 時間
	4	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	運動学習(予習課題のグループ発表:アクティブラーニング)		
28	該当する到達目標	予習	教科書(p467～500)を用いて、下調べする。 [予習課題] ・ 短期記憶と長期記憶(図 10-1) ・ 運動課題の分類(表 10-2) ・ レスポンデント条件付けとオペラント条件付け(p479～480) ・ 結果の知識(KR)とその運動学習に与える効果(表 10-4) ・ 動機付け、不安、覚醒レベルが運動学習に与える影響(図 12～14)	1 時間
	4	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	まとめ 3(姿勢、運動と動作の分析)		
29	該当する到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第 17～20 回の授業内容を総括する。	2 時間
	2, 3, 4	復習	まとめを再確認する。	1 時間
	講義内容	まとめ 4(歩行と走行、運動処方、運動発達、運動学習)		
30	該当する到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第 21～28 回の授業内容を総括する。	2 時間
	2, 3, 4	復習	まとめを再確認する。	1 時間
備考	<p>※ 割り当てられた予習課題について学生に発表してもらうことを基本に授業を進める。不足した情報などがあれば適宜捕捉する。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2 時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3 号館 2 階 201 研究室; <a href="mailto:higuchi-d@takasaki-u.ac.jp">higuchi-d@takasaki-u.ac.jp</a>)</p> <p>※ 1 日につき 2 回(2 コマ)ずつ授業を行う。</p> <p>※ 本学では 45 分を 1 時間とみなす(2 時間=90 分)。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 057 運動学実習

科目名	運動学実習（専門基礎科目）			PTB210	実習
英文名	Practice of Kinesiology				
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、生方 瞳				
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	「運動学」で身につけた知識について実習課題を通じて再確認することによって知識の定着を図るとともに、身につけた知識を活用することを経験する。また、他学生と建設的なディスカッションを通じて運動を論理的にとらえる力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【精神運動領域】骨および筋の基本的触診を行ってみせることができる。■</li> <li>【認知領域】観察された姿勢や動作の特徴について運動学的見地から述べることができる。</li> <li>【認知領域】実習課題の中で運動学に関する知識を活用することができる。</li> <li>【情意領域】他者と共同してひとつの課題に取り組むために必要な姿勢を示すことができる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	<p>以下の4項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験において18点(60%)以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的触診の実技試験(第7・8回実施:15点)</li> <li>予習:授業内テスト(第9回以降奇数回冒頭で実施:40点)</li> <li>グループワークでの成果物(第10回以降偶数回終了時提出:40点)</li> <li>グループワークでの同僚評価(第10回以降偶数回終了時提出:5点)</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<p>実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。          授業内テストについてはテスト直後に解答を示し、解説する。          成果物についてはルーブリックを用いて採点基準および得点を客観化し、返却する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)</li> <li>前期「運動学」の配布資料</li> </ul> <p>【参考書(第1~8回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(メジカルビュー)</li> <li>動画でマスター 機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット(メジカルビュー)</li> </ul>				
1	講義内容	オリエンテーション、肩甲帯(肩甲骨)の触診のグループ練習(アクティブラーニング)			
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。		0時間
	1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。		1時間
2	講義内容	肩甲帯(その他)の触診のグループ練習(アクティブラーニング)■			
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。		0時間

1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。	1 時間
3	講義内容	上腕～前腕の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。
4	講義内容	骨盤～大腿の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。
5	講義内容	下腿～足部の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。
6	講義内容	体幹の触診のグループ練習(アクティブラーニング) ■	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	教材を使いながら実技を同級生と自主練習する。
7	講義内容	上肢の触診技術の確認	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	特に必要としない。
8	講義内容	下肢・体幹の触診技術の確認	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	1	復習	特に必要としない。
9	講義内容	姿勢のとらえかた 1:姿勢の安定性を力学的に考えよう(グループワーク①:アクティブラーニング) 課題 1. 重心の推定 課題 2. 重心線の推定 課題 3. 姿勢の安定性の確認	
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。
10	講義内容	姿勢のとらえかた 1:姿勢の安定性を力学的に考えよう(発表・解説)0	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。
11	講義内容	姿勢のとらえかた 2:姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう(グループワーク②:アクティブラーニング) 課題 4. 異なる感覚条件による立位安定性の比較 課題 5. 外乱付加時の姿勢変化の観察 課題 6. 傾斜反応の観察	
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。
12	講義内容	姿勢のとらえかた 2:姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう(発表・解説)	

	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
13	講義内容	動作のとらえかた:身近な動作を観察・分析してみよう(グループワーク③:アクティブラーニング) 課題 7. 肘関節伸展屈曲運動の運動分析 課題 8. 膝関節伸展屈曲運動の運動分析 課題 9. 前方へのリーチ動作の運動分析		
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。	0 時間
14	講義内容	動作のとらえかた:身近な動作を観察・分析してみよう(発表・解説)0		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
15	講義内容	動作分析の実際 1:基本動作を力学的に分析してみよう(グループワーク④:アクティブラーニング) 課題 10. 寝返り方法の力学的見地からの比較 課題 11. 起き上がり方法の力学的見地からの比較 課題 12. 立ち上がり方法の力学的見地からの比較		
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。	0 時間
16	講義内容	動作分析の実際 1:基本動作を力学的に分析してみよう(発表・解説)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
17	講義内容	動作分析の実際 2:運動学的視点から歩行分析してみよう(グループワーク⑤:アクティブラーニング) 課題 13. 10m 歩行テストの実施 課題 14. 矢状面からの歩行観察 課題 15. 前額面からの歩行観察		
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。	0 時間
18	講義内容	動作分析の実際 2:運動学的視点から歩行分析してみよう(発表・解説)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
19	講義内容	動作分析の実際 3:運動力学的視点から歩行分析してみよう(グループワーク⑥:アクティブラーニング) 課題 16. 立脚各相における床反力の測定 課題 17. 立脚各相において作用している筋の推定		
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。	0 時間

20	講義内容	動作分析の実際 3:運動力学的視点から歩行分析してみよう(発表・解説)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
21	講義内容	歩行分析:異常歩行、杖歩行について考えてみよう(グループワーク⑦:アクティブラーニング) 課題 18. 異常歩行の模倣 課題 19. 異なる杖の高さによる上肢の負担の比較 課題 20. 異なる杖の至適・最大体重支持量の比較		
	該当する到達目標	予習	上記課題に関連する基本的知識を下調べする。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。	0 時間
22	講義内容	歩行分析:異常歩行、杖歩行について考えてみよう(発表・解説)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	2, 3, 4	復習	当日行った課題の要点をまとめる。	1 時間
備考	<p>※ 毎回異なるメンバーのグループで 3 つの課題に取り組んでもらうことを基本に授業を進める。不足した情報などがあれば適宜捕捉する。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2 時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3 号館 2 階 201 研究室; higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>※ 1 日につき 2 回(2 コマ)ずつ授業を行う。</p> <p>※ 本学では 45 分を 1 時間とみなす(1.5 時間≒70 分)。</p> <p>※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 058 生化学

科目名	生化学（専門基礎科目）		PTB102	講義
英文名	Biochemistry			
担当教員	石川 良樹			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	生命の働きと営みを細胞よりも小さな分子レベルで理解できるようになることを目的とする。			
到達目標	分子レベルで疾病を考えられることを目指す。 1. 生体を構成する生体成分の基本的な構造、役割を説明することができる。 2. 生命を特徴づける重要な要素の一つである代謝について説明できる。 3. 遺伝情報とその発現について説明できる。 4. ビタミン、ホルモン、無機物の役割と調節機構について説明できる。 5. 生体レベルでみた代謝の仕組みを説明できる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	学期末テストなど総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	定期試験後には解答を公表し、自己学習を行えるようにする。			
使用教材	人体の構造と機能2 生化学（医学書院） ISBN 978-4-260-01836-4 講義に合わせた空欄のあるプリントを配布する。			
1	講義内容	ガイダンス、第1章 生化学を学ぶための基礎知識		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1時間
	1	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5時間
2	講義内容	第2章 糖質、第12章 糖質代謝		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1時間
	2	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5時間
3	講義内容	第3章 脂質、第13章 脂質代謝		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1時間

	2	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
4	講義内容	第4章 タンパク質、第14章 タンパク質代謝		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1 時間
	2, 3	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
5	講義内容	第5章 核酸、第15章 核酸代謝、第18章 遺伝情報		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1 時間
	3, 4	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
6	講義内容	第6章 水と無機質、第7章血液と尿		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1 時間
	4	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
7	講義内容	第8章 ホルモンと生理活性物質		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1 時間
	4, 5	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
8	講義内容	第10章 酵素、第11章 ビタミンと補酵素、まとめ		
	該当する到達目標	予習	講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1 時間
	5	復習	講義資料も使って復習すること。	1.5 時間
備考	<p>教員の作成したパワーポイントにより、教科書該当部分の抜粋・要約の提示、及びそれに関連する具体例の紹介を行う。同時に、重要部を空欄にしたプリントを配布し、書き込ませながら授業を進める。</p> <p>オフィスアワー: 講義終了後、質問はメールでも受け付ける。</p> <p>メールアドレス: ryoki@gchs.ac.jp</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 059 栄養学 I

科目名	栄養学 I (専門基礎科目)		PTB113	講義
英文名	nutrition I			
担当教員	渡邊美鈴			
科目に関連した実務経験	管理栄養士として病院に勤務(現在)			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	生体は、発育・成長し、生命を維持し、健全な生命活動を営むために食物を摂取し、栄養素を取り込んでいる。摂取した食物の栄養成分がどのように代謝され、エネルギーや体構成成分として利用されるのかを学ぶ。また、栄養状態の評価や判定について学ぶことにより、チーム医療の実践に役立つ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造を知り、その機能と栄養の関係を理解することができる。</li> <li>2. 栄養素を供給する食品の機能を理解することができる。</li> <li>3. 栄養素の役割について理解することができる。</li> <li>4. 健康と栄養の関係を理解することができる。</li> <li>5. チーム医療・栄養ケアマネジメントについて理解することができる。■</li> <li>6. 在宅医療・福祉と栄養の関係を理解することができる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	期末試験で 60%以上を合格とする			
課題に対するフィードバック	小テストを実施し、解説を行う			
使用教材	・「健康と医療福祉のための栄養学 身体のしくみと栄養素の働きを理解する」 渡邊 早苗ほか 医歯薬出版株式会社 2018年 ¥2,500 ※講義(スライド)の予習・復習・補足に教科書を使用する			
1	講義内容	人体の構造と機能に関わる栄養素の代謝について		
	該当する到達目標	予習	教科書の P1～5 を読んでおく。	1.5 時間
	1	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
2	講義内容	栄養素の消化吸収と食品の機能について		
	該当する到達目標	予習	教科書の P6～10、P14～22 を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
3	講義内容	栄養素の役割①三大栄養素について		
	該当する到達目標	予習	教科書の P23～41 を読んでおく。	1.5 時間

	3	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2.5 時間
4	講義内容	栄養素の役割②ビタミン・ミネラル・水について		
	該当する到達目標	予習	教科書のP42～63を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2.5 時間
5	講義内容	健康と栄養の関係について		
	該当する到達目標	予習	教科書のP65～89、P180～188を読んでおく。	1.5 時間
	4	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
6	講義内容	チーム医療・栄養ケアマネジメントについて 病院におけるチーム医療・栄養管理について■		
	該当する到達目標	予習	教科書のP91～100、P119～122、P189～196を読んでおく。	1.5 時間
	5	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
7	講義内容	栄養アセスメント、栄養補給方法について 栄養評価の実際■		
	該当する到達目標	予習	教科書のP101～109を読んでおく。	1.5 時間
	5	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
8	講義内容	在宅医療・福祉と栄養の関係について		
	該当する到達目標	予習	教科書の P110～118、P123～132 を読んでおく。	1.5 時間
	6	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
備考	<p>講義内容の理解を深めるために毎回小テストを実施する。</p> <p>予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 060 栄養学Ⅱ

科目名	栄養学Ⅱ（専門基礎科目）			PTB114	講義
英文名	nutritionⅡ				
担当教員	渡邊美鈴				
科目に関連した実務経験	管理栄養士として病院に勤務（現在）				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	生涯にわたり、健康を維持するためには、ライフステージごとの適正な食生活が大切である。ライフステージ別の栄養管理および、病態別の栄養管理について学ぶ。				
到達目標	1.人生各期の栄養学的背景とその特徴を理解できる。■ 2.主な病態の栄養管理の特徴と食事療法について理解できる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験で60%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック	小テストを実施し、解説を行う				
使用教材	・「健康と医療福祉のための栄養学 身体のしくみと栄養素の働きを理解する」 渡邊 早苗ほか 医歯薬出版株式会社 2018年 ¥2,500 ※講義(スライド)の予習・復習・補足に教科書を使用する				
1	講義内容	ライフステージ別の栄養管理について①(妊娠、授乳期、乳児・幼児期、学童・思春期)			
	該当する到達目標	予習	教科書 P133～152、P1197～199 を読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。		2.5 時間
2	講義内容	ライフステージ別の栄養管理について②(成人、更年期) ■			
	該当する到達目標	予習	教科書 P153～160 を読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。		2.5 時間
3	講義内容	ライフステージ別の栄養管理について③(老年期、障がい者)			
	該当する到達目標	予習	教科書 P161～174、P200 を読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。		2.5 時間
4	講義内容	病態別の栄養管理を学ぶ①(消化器疾患)			
	該当する到達目標	予習	消化器疾患・炎症性腸疾患の病態を理解しておく。		1.5 時間
	2	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。		2 時間
5	講義内容	病態別の栄養管理を学ぶ②(肝疾患・腎疾患)			
	該当する到達目標	予習	肝臓病・腎臓病の病態を理解しておく。		1.5 時間

	2	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
6	講義内容	病態別の栄養管理を学ぶ③(内分泌・代謝性疾患)■		
	該当する到達目標	予習	糖尿病・脂質異常症の病態を理解しておく。	1.5 時間
	2	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
7	講義内容	病態別の栄養管理を学ぶ④(循環器・呼吸器疾患)		
	該当する到達目標	予習	心不全・慢性閉塞性肺疾患の病態を理解しておく。	1.5 時間
	2	復習	講義の内容を確認する(次回小テストを実施)。	2 時間
8	講義内容	病態別の栄養管理を学ぶ⑤(癌・褥瘡)		
	該当する到達目標	予習	癌・褥瘡の病態を理解しておく。教科書 P201～202 を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	講義の内容を確認する	1.5 時間
備考	<p>講義内容の理解を深めるために毎回小テストを実施する。</p> <p>予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること。</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 061 病理学

科目名	病理学（専門基礎科目）		PTB115	講義
英文名	Pathology			
担当教員	福田利夫、瀬川篤記、下田雄輝			
科目に関連した実務経験	福田、瀬川、下田：病理専門医、細胞診専門医として病理診断、細胞診断に従事			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けては通れないものである。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である			
到達目標	1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	期末試験の成績と講義中の小テスト等の成績を総合評価(7:3)し、合計60点以上を可とする。			
課題に対するフィードバック	期末試験後に、問題出題意図の解説を文書で配布する			
使用教材	系統看護講座専門基礎病理学、大橋健一ら著、医学書院、2018年			
1	講義内容	病理学概論		
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバス内容を読んで講義目標など理解する。	1.5時間
	1,2	復習	病理学、病理診断学の医学、医療における意義を確認する。	1.時間
2	講義内容	病理総論1 腫瘍 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の腫瘍の部分に目を通す。	1.5時間
	1,2	復習	ヒトの腫瘍の種類、原因、病理学的特徴を理解する。	1.時間
3	講義内容	病理総論2 炎症 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の炎症の部分に目を通す。	1.5時間
	1,2	復習	炎症の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
4	講義内容	病理総論3 循環障害 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の循環障害の部分に目を通す。	1.5時間
	1,2	復習	循環障害の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
5	講義内容	病理総論4 感染症、免疫異常 ■		

	該当する到達目標	予習	教科書の感染症、免疫異常の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	感染症、免疫異常の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
6	講義内容	病理総論5 代謝障害・生活習慣病・遺伝性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の代謝障害・生活習慣病・遺伝性疾患の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	代謝障害・生活習慣病・遺伝性疾患の原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
7	講義内容	病理各論1 消化器 ■		
	該当する到達目標	予習	消化管の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	消化管の病変の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
8	講義内容	病理各論2 肝、胆、膵臓 ■		
	該当する到達目標	予習	肝・胆・膵臓の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	肝・胆・膵臓の病変の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
9	講義内容	病理各論3 婦人科疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	子宮、卵巣の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	婦人科疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
10	講義内容	病理各論4 乳腺、内分泌臓器 ■		
	該当する到達目標	予習	乳腺、内分泌臓器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	乳腺、内分泌臓器病変の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
11	講義内容	病理各論5 腎、尿路 ■		
	該当する到達目標	予習	腎、尿路の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	腎、尿路病変の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
12	講義内容	病理各論6 呼吸器非腫瘍性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	呼吸器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	呼吸器非腫瘍性疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
13	講義内容	病理各論7 呼吸器腫瘍 ■		
	該当する到達目標	予習	癌の原因、診断法、病理学的特徴を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	呼吸器腫瘍の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.時間
14	講義内容	病理各論8 病理組織検査 ■		
	該当する到達目標	予習	腫瘍の病理学的特徴を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	病理組織検査の意義を理解する。	1.時間
15	講義内容	病理各論9 細胞診検査 ■		
	該当する到達目標	予習	正常細胞と癌細胞の違いを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	細胞診検査の癌の早期発見における意義を理解する。	1.時間
備考	授業全体の進め方: 授業は3人のオムニバス方式で行う。テキストの他に自作の配布プリント及びパワーポイントを活用し、図や表を元に口頭での説明を交えくわしく説明していく。			

病理学は基礎医学と臨床医学を連携する領域であり、診療に深く関わる診断の重要な領域でもあるので、しっかり履修する必要がある。授前には関連する解剖・生理学の復習をし、授業後には病理学、臨床医学の関連する領域を復習する。復習には臨床分野の教科書を参考にして、インターネット等も活用して関連する情報の取得して、知識を確認、更新につとめる。

・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。

・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

理 062 薬理学

科目名	薬理学（専門基礎科目）			PTB202	講義
英文名	Pharmacology				
担当教員	伊藤政明				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	<p>基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬はどのように作用するのか説明できる。</li> <li>2. 薬はどのように体内をめぐるのか説明できる。</li> <li>3. 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題について説明できる。</li> <li>4. 抗感染症薬について説明できる。</li> <li>5. 抗がん薬・免疫治療薬について説明できる。</li> <li>6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬について説明できる。</li> <li>7. 末梢神経系に作用する薬について説明できる。</li> <li>8. 中枢神経系に作用する薬 について説明できる。</li> <li>9. 心臓・血管系に作用する薬 について説明できる。</li> <li>10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について説明できる。</li> <li>11. 物質代謝に作用する薬について説明できる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	受講態度および期末試験の結果から総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	講義の単元ごとに確認問題を提示し、解説を行う。				
使用教材	<p>系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第 14 版          吉岡充弘他編 医学書院 2018 年 2,484 円          講義のスライドを随時プリントして配布する。</p>				
1	講義内容	薬理学の概念			
	該当する到達目標	予習	教科書の総論第 1 章と第 2 章の F に目を通しておくこと。		1 時間
	1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。		1 時間
2	講義内容	薬はどのように作用するのか			

	該当する到達目標	予習	教科書 第2章のAに目を通しておくこと。	1時間
	1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
3	講義内容	薬はどのように体内をめぐるのか		
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章のBに目を通しておくこと。	1時間
	2	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
4	講義内容	薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題		
	該当する到達目標	予習	教科書第2章のC、D、Eに目を通しておくこと。	1時間
	3	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
5	講義内容	抗感染症薬		
	該当する到達目標	予習	教科書 第3章に目を通しておくこと。	1時間
	4	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
6	講義内容	抗がん薬・免疫治療薬		
	該当する到達目標	予習	教科書 第4章と第5章に目を通しておくこと。	1時間
	5	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
7	講義内容	抗アレルギー薬・抗炎症薬		
	該当する到達目標	予習	教科書 第6章に目を通しておくこと。	1時間
	6	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
8	講義内容	末梢神経系に作用する薬(1)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第7章のA、B、Cに目を通しておくこと。	1時間
	7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
9	講義内容	末梢神経系に作用する薬(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第7章のD、Eに目を通しておくこと。	1時間
	7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
10	講義内容	中枢神経系に作用する薬(1)8		
	該当する到達目標	予習	教科書 第8章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1時間
	8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
11	講義内容	中枢神経系に作用する薬(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第8章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1時間
	8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
12	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(1)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第9章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
13	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第9章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1時間
14	講義内容	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬10		
	該当する到達目標	予習	教科書 第10章に目を通しておくこと。	1時間

	10	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
	講義内容	物質代謝に作用する薬		
15	該当する到達目標	予習	教科書 第 11 章に目を通しておくこと。	1 時間
	11	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
備考	<p>教職必修科目</p> <p>オフィスアワー; 木曜 5 限。金曜 5 限。その他適宜対応可能(7 号館 325 研究室)。</p> <p>担当 伊藤政明メールアドレス: mito@takasaki-u.ac.jp</p> <p>各分野ごとに疾患治療に用いられる代表的な薬物を取り上げ、その作用機序を説明する。</p> <p>予習・復習の不足分は、試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 063 公衆衛生学

科目名	公衆衛生学（専門基礎科目）			PTB116	講義
英文名	Public Health				
担当教員	亀尾 聡美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を学びながら、このような公衆衛生学の特徴、社会・環境と健康の関連を理解し、現在の公衆衛生学的なものの方見方や考え方を習得する。				
到達目標	1.公衆衛生学に関する基本的な概念を理解し説明できる。 2.関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連を説明できる。 3.現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
		2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験80%、講義中のミニレポート(2回)20%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	ミニレポートにはコメントを付けて返却する。				
使用教材	教科書:「衛生・公衆衛生学」(アイ・ケイコーポレーション) ISBN978-4-87492-356-6 C3047 講義中に、教科書中の図・表を参照する。また、予習・復習で学習する際に利用する。 講義概要を毎回プリントして配布する。				
1	講義内容	公衆衛生学概論1:公衆衛生学の概念・健康の概念			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容、教科書の前書き・第1章に目を通し、講義の目標を理解する。		1.5時間
	1	復習	講義の目標、公衆衛生学の概念・健康の概念を理解する。		1.5時間
2	講義内容	公衆衛生学概論2:公衆衛生学の歴史			
	該当する到達目標	予習	教科書の第1章・第2章に目を通す。		1.5時間
	1	復習	世界および日本の公衆衛生学の歴史を学び、公衆衛生学の重要性を理解する。		1.5時間
3	講義内容	保健統計 1:人口統計			

	該当する到達目標	予習	教科書の第4章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	代表的な保健統計・主な健康指標を理解する。現在の日本の人口構造の特徴を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	保健統計 2: 死因統計・疾病統計		
	該当する到達目標	予習	教科書の第4章、第8章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	死因順位・疾病構造における日本の特徴を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	環境保健 1: 環境と健康 環境要因		
	該当する到達目標	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	人々の健康に影響を及ぼす環境要因、環境に関する法律・制度を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	環境保健 2: 公害(水質汚濁)		
	該当する到達目標	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	公害の歴史および、公害の例として水俣病などの水質汚濁について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	環境保健 3: 公害(大気汚染)		
	該当する到達目標	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	公害の例として大気汚染と環境基準について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活の中の環境衛生		
	該当する到達目標	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	生活の中の環境衛生に関連する健康障害について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	食品衛生: 食品と健康		
	該当する到達目標	予習	教科書の第7章、第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	食品と健康増進および関連する法律、食中毒について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	食品の安全とリスク分析		
	該当する到達目標	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	食の安全をまもる法律・制度、食品のリスク分析について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	母子保健		
	該当する到達目標	予習	教科書の第11章に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	母子保健の目的・役割、関連する法律・制度について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校保健		
	該当する到達目標	予習	教科書の第12章に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	学校保健の目的・役割、関連する法律・制度について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	産業保健: 職域の健康管理		
	該当する到達目標	予習	教科書の第13章に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	働く人々の安全と健康をまもるための関連する法律・制度について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	高齢者保健		

	該当する到達目標	予習	教科書の第14章に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	高齢者保健の目的・意義、高齢者保健事業などの制度について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域保健		
	該当する到達目標	予習	教科書の第9章、第10章、第14章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	地域保健の目的・役割および関連する法律・地域保健活動について理解する。	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー：毎回講義終了後に質問等を受け付ける。</p> <p>授業期間全体を通じた授業の進め方：講義は教員の作成する講義概要のプリント・教科書および、パワーポイントを使用して、毎回の講義の目標を明らかにし、要点をまとめて説明していく。</p> <p>参考書：「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)</p> <p>講義外学習への助言：講義に関連する報道や新聞記事など実際の社会における公衆衛生学的な内容に関心を持つこと。関連する法律に目を通してみる。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 064 画像診断学

科目名	画像診断学（専門基礎科目）			PTB211	講義
英文名	Diagnostic Imaging				
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、解良 武士、小林 真(非常勤講師)				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	画像診断機器の基本原理と画像診断の理論、ならびに、理学療法で扱う代表的な疾患の画像のみかたを学ぶことにより、臨床実習において最小限の指導の下で、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定計画を立てる際の一助とすることができるようになることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【認知領域】画像の読影に必要な基礎的知識を述べることができる(第1・8回)。</li> <li>【認知領域】代表的疾患の画像から所見を読み取ることができる(第2～8回)。</li> <li>【認知領域】読み取った画像所見と理学療法とを結び付けることができる(第2～8回)。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	以下の1項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。 ・ 筆記試験(100点)				
課題に対するフィードバック	筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>PT・OTのための画像診断マニュアル(医学教育出版社)</li> <li>配布資料</li> </ul>				
1	講義内容	画像診断装置の原理と画像の構成(超音波を除く)			
	該当する到達目標	予習	教科書(p2～15)を用いてX線、CT、MRIの原理について下調べする。	1時間	
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5時間	
2	講義内容	運動器疾患の画像診断(上肢・脊柱)			
	該当する到達目標	予習	教科書(p110～133、158～167)を用いて上肢および脊柱の代表的画像所見について下調べする。	1時間	
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5時間	
3	講義内容	運動器疾患の画像診断(下肢)			
	該当する到達目標	予習	教科書(p168～175)を用いて下肢の代表的画像所見について下調べする。	1時間	
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5時間	
4	講義内容	脳血管疾患の画像診断(脳の機能局在と神経伝導路)			

	該当する到達目標	予習	教科書(p6~15、68~79)を用いてCTとMRIの違いについて下調べするとともに、脳の機能局在と皮質脊髄路(大脳皮質~橋)について下調べする。	1 時間
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
	講義内容	脳血管疾患の画像診断(脳の主要動脈と高次脳機能障害)		
5	該当する到達目標	予習	教科書(p76~79)を用いて脳の主要動脈の名称と走行、支配領域を下調べする。	1 時間
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
	講義内容	脳血管疾患の画像診断(症例検討)		
6	該当する到達目標	予習	配布資料を用いて第5・6回の授業内容を再確認する。	1 時間
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
	講義内容	呼吸・循環器疾患の画像診断		
7	該当する到達目標	予習	教科書(p204~216)を用いて肺および心臓の代表的画像所見について下調べする。	1 時間
	2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 時間
	講義内容	超音波画像診断装置の原理と臨床での活用		
8	該当する到達目標	予習	教科書(p16~17)を用いて超音波診断装置の原理について下調べする。	1 時間
	1, 2, 3	復習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第1~8回の授業内容を総括する。	10.5 時間
備考	<p>※ スライドを用いた講義形式を基本に授業を進める。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2 時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3号館2階201研究室; higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>※ 本学では45分を1時間とみなす(1.5時間≒70分)。</p> <p>※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p>			

## 理 065 臨床医学 I (内科学・外科学)

科目名	臨床医学 I (内科学・外科学) (専門基礎科目)		PTB117	講義
英文名	Clinical medicine I (Internal medicine・Surgery)			
担当教員	田中聡一			
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 2 単位	
講義目標	医学知識・技術はすべての医療・介護・福祉・保健分野で必須のものであり、年々その比重は高まっている。本講義では人間の健康と病気に関する勉強の基礎となるものを学び、将来医療・介護・福祉・保健分野で活躍できる知識・技術を習得する。			
到達目標	1. 人間の解剖、生理を説明できる。 2. 疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	定期試験 70%、授業参加・貢献度 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。定期テスト問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。			
使用教材	教科書「臨床病態学」第2版(1巻、2巻、3巻) 北村聖総編集(ヌーヴェルヒロカワ)ISBN 978-4-86174-049-7 使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだ pdf ファイルを配付			
1	講義内容	脳血管障害 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、脳血管障害に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
2	講義内容	神経系感染症、脱髄性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、神経系感染症、脱髄性疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間

3	講義内容	神経変性症、筋萎縮性側索硬化症		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、神経変性症、筋萎縮性側索硬化症に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
4	講義内容	末梢神経疾患、筋疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、末梢神経疾患、筋疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
5	講義内容	呼吸器感染症 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、呼吸器感染症に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
6	講義内容	呼吸器アレルギー性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、呼吸器アレルギー性疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
7	講義内容	呼吸器閉塞性疾患、拘束性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、呼吸器閉塞性疾患、拘束性疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
8	講義内容	肺循環障害、換気異常 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、肺循環障害、換気異常に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
9	講義内容	肺癌、胸腔疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、肺癌、胸腔疾患に関する pdf 教材をみて、そのライ	1.5 時間

			ンやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
10	講義内容	先天性心疾患 1, 2 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、先天性心疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	虚血性心疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、虚血性心疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
12	講義内容	弁膜症 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、弁膜症に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
13	講義内容	心筋症、肺性心 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、心筋症、肺性心に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
14	講義内容	心不全、血圧異常 1, 2 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、心不全、血圧異常に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
15	講義内容	上室性不整脈 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、上室性不整脈に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間

	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
16	講義内容	心室性不整脈■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、心室性不整脈に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
17	講義内容	血管性疾患■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、血管性疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
18	講義内容	赤血球異常症(貧血、多血症)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、赤血球異常症(貧血、多血症)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
19	講義内容	白血球異常症(白血病)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、白血球異常症(白血病)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
20	講義内容	白血球異常症(リンパ腫、多発性骨髄腫)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、白血球異常症(リンパ腫、多発性骨髄腫)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
21	講義内容	出血性疾患(血小板系、凝固系)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、出血性疾患(血小板系、凝固系)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間

22	講義内容	食道疾患、胃疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、食道疾患、胃疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
23	講義内容	十二指腸疾患、小腸疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、十二指腸疾患、小腸疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
24	講義内容	大腸疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、大腸疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
25	講義内容	肝炎、代謝系肝疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、肝炎、代謝系肝疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
26	講義内容	肝硬変、肝癌 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、肝硬変、肝癌に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
27	講義内容	胆道系疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、胆道系疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
28	講義内容	膵疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、膵疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイ	1.5 時間

			ントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
29	講義内容	急性腎不全、慢性腎不全■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、急性腎不全、慢性腎不全に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
30	講義内容	腎炎、ネフローゼ症候群■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、腎炎、ネフローゼ症候群に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
備考	<p>オフィスアワー: 月曜 3-4 限</p> <p>質問はメールでも受け付ける(メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>研究室 5 号館 6 階 602 研究室</p> <p>授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。教科書にポイントを書き込んだものを配付するので、自分の教科書に授業前に書き込んでおく。授業ではそれと同じものをスライドで映写し、口頭および板書で追加解説する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。</p>			

理 066 臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）

科目名	臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（専門基礎科目）			PTB203	講義
英文名	Clinical medicine Ⅱ (Internal medicine・Surgery)				
担当教員	田中聡一				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	医学知識・技術はすべての医療・介護・福祉・保健分野で必須のものであり、年々その比重は高まっている。本講義では人間の健康と病気に関する勉強の基礎となるものを学び、将来医療・介護・福祉・保健分野で活躍できる知識・技術を習得する。				
到達目標	1. 人間の解剖、生理を説明できる。 2. 疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。定期テスト問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。				
使用教材	教科書「臨床病態学」第2版（1巻、2巻、3巻） 北村聖総編集(ヌーヴェルヒロカワ)ISBN 978-4-86174-049-7 使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだ pdf ファイルを配付				
1	講義内容	内分泌疾患(内分泌器官と生理学的働き)			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、内分泌疾患(内分泌器官と生理学的働き)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
2	講義内容	内分泌疾患(視床下部・下垂体系)■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、内分泌疾患(視床下部・下垂体系)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間

3	講義内容	内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
4	講義内容	内分泌疾患(副腎疾患)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、内分泌疾患(副腎疾患)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
5	講義内容	内分泌疾患(性腺疾患)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、内分泌疾患(性腺疾患)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
6	講義内容	代謝疾患(糖代謝異常症)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、代謝疾患(糖代謝異常症)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
7	講義内容	代謝疾患(脂質代謝異常症、栄養異常、痛風)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、代謝疾患(脂質代謝異常症、栄養異常、痛風)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
8	講義内容	感染症(ウイルス感染症)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感染症(ウイルス感染症)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
9	講義内容	感染症(細菌感染症)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感染症(細菌感染症)に関する pdf 教材をみて、そ	1.5 時間

			のラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
10	講義内容	感染症(真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症)1, 2■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感染症(真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	感覚系疾患(皮膚疾患)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感覚系疾患(皮膚疾患)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
12	講義内容	感覚系疾患(眼疾患)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感覚系疾患(眼疾患)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
13	講義内容	感覚系疾患(耳疾患、鼻疾患)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感覚系疾患(耳疾患、鼻疾患)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
14	講義内容	泌尿器・生殖器疾患 1, 2■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、泌尿器・生殖器疾患に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
15	講義内容	歯科・口腔系疾患(う歯、歯周病)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、歯科・口腔系疾患(う歯、歯周病)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間

	1, 2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
備考	<p>オフィスアワー: 月曜 3-4 限</p> <p>質問はメールでも受け付ける(メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>研究室 5 号館 6 階 602 研究室</p> <p>授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。教科書にポイントを書き込んだものを配付するので、自分の教科書に授業前に書き込んでおく。授業ではそれと同じものをスライドで映写し、口頭および板書で追加解説する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。</p>			

## 理 067 臨床医学Ⅲ（老年医学）

科目名	臨床医学Ⅲ（老年医学）（専門基礎科目）			PTB204	講義
英文名	Clinical medicine Ⅲ (Geriatric medicine)				
担当教員	田中聡一				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	医学知識・技術はすべての医療・介護・福祉・保健分野で必須のものである。特に高齢社会に突入した日本では、ますます高齢者に対する医学知識・技術は重要性を増している。本講義では高齢者の健康と病気に関する勉強の基礎となるものを学び、将来医療・介護・福祉・保健分野で活躍できる知識・技術を習得する。				
到達目標	1. 高齢者の解剖、生理学的特徴を説明できる。 2. 高齢者に多い疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。定期テスト問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。 使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだ pdf ファイルを配付				
使用教材	教科書「老年看護 病態・疾患論」佐々木英忠編(医学書院) ISBN978-4-260-01804-3				
1	講義内容	高齢者の生理学的特徴(認知機能、知覚機能)			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者の生理学的特徴(認知機能、知覚機能)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
2	講義内容	高齢者の生理学的特徴(呼吸機能、循環機能)			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者の生理学的特徴(呼吸機能、循環機能)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
3	講義内容	高齢者の生理学的特徴(代謝機能、排泄機能)			

	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者の生理学的特徴(代謝機能、排泄機能)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
4	講義内容	高齢者の生理学的特徴(免疫機能、性機能)		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者の生理学的特徴(免疫機能、性機能)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
5	講義内容	高齢者の生理学的特徴(運動機能) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者の生理学的特徴(運動機能)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
6	講義内容	老年症候群(意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつ) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、老年症候群(意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつ)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
7	講義内容	老年症候群(熱中症、脱水症、発熱) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、老年症候群(熱中症、脱水症、発熱)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
8	講義内容	老年症候群(腰背痛、膝痛、転倒、骨折) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、老年症候群(腰背痛、膝痛、転倒、骨折)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
9	講義内容	老年症候群(排尿障害、便秘) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、老年症候群(排尿障害、便秘)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ	1.5 時間

			書き込んでおき授業に臨む。	
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
10	講義内容	認知症(総論)2		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、認知症(総論)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	認知症(アルツハイマー病)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、認知症(アルツハイマー病)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
12	講義内容	認知症(脳血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、認知症(脳血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
13	講義内容	治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
14	講義内容	パーキンソン病、うつ病 2■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、パーキンソン病、うつ病に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
15	講義内容	高齢者と薬物■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高齢者と薬物に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間

	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
備考	<p>オフィスアワー: 月曜 3-4 限</p> <p>質問はメールでも受け付ける(メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>研究室 5 号館 6 階 602 研究室</p> <p>授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。教科書にポイントを書き込んだものを配付するので、自分の教科書に授業前に書き込んでおく。授業ではそれと同じものをスライドで映写し、口頭および板書で追加解説する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。</p>			

## 理 068 臨床医学Ⅳ（小児医学）

科目名	臨床医学Ⅳ（小児医学）（看護基盤科目群・健康）		PTB301	講義
英文名	Clinical Medicine Ⅳ（Pediatric medicine）			
担当教員	鈴木 隆			
科目に関連した実務経験	1981年より病院小児科医として勤務（現在）			
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	子どもの疾病についての医学的知識の習得を目的とし、病因・病態・診断・検査・治療等について理解する。			
到達目標	1. 小児に特有な疾患と病態を理解する。■ 2. 診断に必要な所見・検査を理解する。■ 3. 主な治療法について理解する。■ 4. 健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	レポート30% 期末試験70%			
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。			
使用教材	小児臨床看護各論 医学書院			
1	講義内容	人はなぜ病気になるのか、子どもの体と病気の全体像、染色体異常：ダウン症候群■		
	該当する到達目標	予習	進化医学、子どもとメディアについて調べておく。教科書第1章を読んでおく	3時間
	1、2、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1時間
	講義内容	先天性代謝異常・内分泌疾患：糖尿病、下垂体疾患、甲状腺疾患■		
	該当する到達目標	予習	教科書第3章、第4章を読んでおく	1.5時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5時間
3	講義内容	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ性疾患：食物アレルギー、喘息、免疫不全、若年性特発性関節炎■		
	該当する到達目標	予習	教科書第5章を読んでおく	1.5時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5時間
4	講義内容	感染症 1 ウイルス感染症：インフルエンザ、ムンプス、水痘、風疹、麻疹、ヘルペス属ウイルス■		
	該当する到達目標	予習	教科書第6章のB②まで読んでおく	1.5時間

	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
5	講義内容	感染症 2 細菌感染症:肺炎球菌、ヒブ、溶連菌、ブドウ球菌 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の B③以降を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4、	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
6	講義内容	呼吸器疾患:喉頭炎、気管支炎、肺炎 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
7	講義内容	循環器疾患:先天性心疾患、不整脈、心筋疾患、学校心臓健診 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
8	講義内容	消化器疾患:先天異常、胃腸炎、肝炎、腸重積、虫垂炎、炎症性腸疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 9 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
9	講義内容	川崎病:歴史、原因、症状、合併症、検査、治療 についてのレポート発表会 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 章 B③を読んでおく	1 時間
	1、2、3、4	復習	配布された発表レポートを読んでおく	3 時間
10	講義内容	血液疾患・悪性新生物:貧血、出血性疾患、白血病、脳腫瘍、胎児性腫瘍 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 章、11 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
11	講義内容	腎泌尿器疾患・皮膚疾患:尿路奇形、腎炎、ネフローゼ、母斑、湿疹 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 12 章、15 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
12	講義内容	新生児期の疾患・神経疾患:低出生体重児、新生児黄疸、てんかん、脳性マヒ、脳炎 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章、第 13 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
13	講義内容	耳鼻咽喉疾患・眼疾患・精神疾患:中耳炎、副鼻腔炎、斜視、結膜炎、発達障害、PTSD ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 16 章、17 章、18 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
14	講義内容	運動器疾患・事故:先天性股関節脱臼、窒息、交通事故、頭部外傷、誤飲、熱中症 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 14 章、19 章を読んでおく	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当する到達目標	予習	1～14回の講義の重要事項をまとめておく	6 時間
	1、2、3、4	復習	0	0
備考	授業はパワーポイントで説明しながら適時学生に質問する。重要項目、内容を補完する図表などは教員の作製する資料を配布する。教科書は診断基準・管理基準の参考及び、図や写真で疾患の理解を深めるために使用する。			

予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること

毎回の講義では講師の臨床経験を踏まえて実際の症例をなるべく紹介する

・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。

・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

## 理 069 臨床医学Ⅴ（女性医学）

科目名	臨床医学Ⅴ（女性医学）（専門基礎科目）			PTB302	講義
英文名	Clinical Medicine Ⅴ(Women's Medicine)				
担当教員	竹中恒久				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	周産期にある経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。 また女性性器におこる疾患についても理解する。				
到達目標	1.妊娠、分娩、産褥の生理を理解する。■ 2.妊娠、分娩、産褥の病理を理解する。■ 3.出生前診断、不妊症を理解する。■ 4.女性生殖器の解剖・生理・病態生理を理解する。■ 5.女性生殖器の診察・検査と治療・処置を理解する。■ 6.女性生殖器の疾患を理解する。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験				
課題に対するフィードバック	試験の問題文の最後に、その問題に該当するプリントあるいは教科書のページを記載し試験後の学習をやりやすくする。				
使用教材	母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院				
1	講義内容	妊娠の生理① 妊娠の成立、胎児の発育と生理■			
	該当する到達目標	予習	教科書 2冊のはしがきを読んでおいてください。		0.5 時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。		0.5 時間
2	講義内容	妊娠の生理② 妊婦と胎児のアセスメント■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。		0.5 時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。		0.5 時間
3	講義内容	分娩の生理① 分娩の要素■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。		0.5 時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。		0.5 時間
4	講義内容	分娩の生理②産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。		0.5 時間

	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
5	講義内容	妊娠の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
6	講義内容	妊娠の異常② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
7	講義内容	分娩の異常① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
8	講義内容	分娩の異常② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
9	講義内容	分娩の異常③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
10	講義内容	産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
11	講義内容	出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断治療■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	3	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
12	講義内容	女性生殖器の構造と疾患① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	4	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
13	講義内容	女性生殖器の構造と疾患② 診察・検査と治療・処置■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	5	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
14	講義内容	女性生殖器の構造と疾患③ 疾患の理解①■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
15	講義内容	女性生殖器の構造と疾患④ 疾患の理解②■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
備考	教科書、配布プリント、パワーポイントを用いて、聴覚と視覚から理解してもらうよう授業を進める。 ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。			

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

## 理 070 臨床医学Ⅵ（精神医学）

科目名	臨床医学Ⅵ（精神医学）（専門基礎科目）			PTB205	講義
英文名	Psychiatry				
担当教員	上原 徹				
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験30年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	学生が、医療専門職である看護師・保健師・理学療法士として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につけることができる。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法を、自ら考えるきっかけをつかむことができる。				
到達目標	1.精神保健や心理社会的問題の概要を説明できる 2.代表的な疾患の基本的概要を解説できる 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる 4.精神医療における治療法や支援策を解説できる■ 5. チーム医療の担う専門職の役割と医療福祉連携を理解できる				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末筆記試験80%、C ラーニングによる小テスト提出20%で評価するが、授業態度(特に不必要な私語は厳禁)に問題がある場合は、個別に減点する。				
課題に対するフィードバック	専門職としての必要な知識をフィードバックする。小テスト問題の正解を提示する。				
使用教材	教科書は指定しない。ただし資料集として【保健医療福祉関連専門職を目指す人のための精神医学と精神医療】三恵社(上原徹 著)を推薦するので、準備することが望ましい。参考書としては、【専門医がやさしく語る はじめての精神医学】中山書店、渡辺著、改訂第2版などを推奨する。				
1	講義内容	精神医学や精神医療のイントロダクション			
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。		0.5時間
	2,5	復習	資料を用いて自習する。		1時間
2	講義内容	統合失調症とは？			
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。		1時間
	1,2,3	復習	資料を用いて自習する。		1時間
3	講義内容	双極性障害(躁うつ病)とは？			
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。		1時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。		1時間
4	講義内容	うつ病とは？			

	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
5	講義内容	神経症と不安障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
6	講義内容	PTSD 特論		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
7	講義内容	摂食障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
8	講義内容	アルコールや物質依存とは?		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
9	講義内容	睡眠障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
10	講義内容	認知症		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
11	講義内容	小児の精神疾患		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
12	講義内容	外因性・器質性・症状性疾患など		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
13	講義内容	精神科の治療法や支援について■		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
14	講義内容	リハビリテーションや心理社会アプローチ■		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	1 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当する到達目標	予習	資料を用いて自習する。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	試験問題を復習する。	1 時間
備考	授業はDVDを視聴しつつ説明を加えながら進める。後半は資料集を使って、要点をまとめていく。授業の最後に理解度確認のための小テストを行う。			

複数の学部生が多人数で聴講するため、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響する)。予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。

オフィスアワー：月4 金3 研究室:1号館5階501、■:実務経験に基づく内容

## 理 071 言語障害治療学

科目名	言語障害治療学（専門基礎科目）		PTB400	講義
英文名	Speech-Language-Hearing Therapy			
担当教員	平野 哲、丹下 弥生			
科目に関連した実務経験	言語聴覚士として病院に勤務			
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位	
講義目標	理学療法を行う際には、理学療法士として目指す成果に加え、広義のリハビリテーションの目的を達成するためにも、対象者との良い関係作りが欠かせない。授業では、支援者としてのコミュニケーションの基本、聴覚言語障害を引き起こす疾患の病態、コミュニケーションに問題がある方への関わり方を学び、リハビリテーションチームの一員として、臨床の場で言語聴覚障害者とより良いコミュニケーションを取ることが出来る力の獲得を目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの基本、各種言語障害について学び、支援者として必要なコミュニケーションのスキルを習得する</li> <li>2. 失語症の病態について理解し、失語症の方との上手な関わり方を習得する</li> <li>3. 構音障害の病態について理解し、構音障害の方との上手な関わり方を習得する</li> <li>4. 言語聴覚障害がある方と関わる時の、コミュニケーション能力の評価のポイントと使える代替手段について理解する</li> <li>5. 聴覚障害の病態と聴覚障害のある方との適切な関わり方および認知症の病態と認知症の方との適切な関わり方を理解する</li> <li>6. 言語聴覚障害者に適切な対応が出来る力を獲得する</li> <li>7. 講師の実務経験を聞き、コミュニケーション障害者の病態や心情を理解する。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	テスト 80%、授業態度 20%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	各回に質疑応答の時間を設ける。 小テストは配布プリントに対応し講義内容を網羅的に確認できるものとし、知識の確認を促す			
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配布する。 ビデオ供覧			

1	講義内容	コミュニケーション概論		
	該当する到達目標	予習	講義にのぞむにあたって、実習等で感じた自分にとってのコミュニケーションの問題を明確にする	0.5 時間
	1	復習	コミュニケーションの基本、言語障害、言語障害治療の考え方について理解する	1.5 時間
2	講義内容	より良いコミュニケーションのために大切なこと(ワークで学ぶ)		
	該当する到達目標	予習	講義 1(コミュニケーション概論)の配布資料に目を通す	0.5 時間
	1	復習	傾聴、ラポールスキル、上手な聴き方のスキルを理解する	1.5 時間
3	講義内容	失語症 ■		
	該当する到達目標	予習	講義 2(より良いコミュニケーションに大切なこと)の配布資料に目を通す	0.5 時間
	2,7	復習	失語症の病態について理解する	1.5 時間
4	講義内容	失語症の方との関わり方(ワークで学ぶ) ■		
	該当する到達目標	予習	講義 3(失語症)の配布資料に目を通す	0.5 時間
	2,7	復習	失語症の方との関わり方を理解する	1.5 時間
5	講義内容	構音障害がある方との関わり方 ■		
	該当する到達目標	予習	講義 1~4 の配布資料を確認し、関わり方のポイントを理解する	0.5 時間
	3,7	復習	構音障害の病態と、構音障害がある方との関わり方について理解する	1.5 時間
6	講義内容	コミュニケーション評価、AAC ■		
	該当する到達目標	予習	講義 5(構音障害がある方との関わり方)の配布資料に目を通す	0.5 時間
	4,7	復習	コミュニケーションの評価のポイントとコミュニケーション代替手段について理解する	1.5 時間
7	講義内容	聴覚障害、認知症の方との関わり方 ■		
	該当する到達目標	予習	講義 6(コミュニケーション評価、AAC)の配布資料に目を通す	0.5 時間
	5,7	復習	聴覚障害の病態と聴覚障害者への関わり方、認知症の病態と認知症の方との関わり方について理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ(質問作成と解説、小テスト) ■		
	該当する到達目標	予習	言語障害治療学の講義内容についての質問、コミュニケーションの問題についての疑問や感想などを自分なりにまとめておく	1 時間
	6,7	復習	小テスト問題の内容で理解が足りなかったところを配布されたプリント等で確認する	1.5 時間
備考	1,2,7(丹下担当)、3,4,5,6,8(平野担当) メールアドレス:kouikishien@ronenbyo.or.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること 授業では、講義に加えロールプレイも交えて学びを深めていく。■			

理 072 リスクマネジメント

科目名	リスクマネジメント（専門基礎科目）		PTB310	講義
英文名	Risk Management			
担当教員	竹内伸行			
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)</li> <li>・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)</li> </ul>			
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1 単位	
講義目標	理学療法士にとって重要な基本的リスク(転倒、感染等)を理解し、その予防と再発防止のための知識、手法を学ぶ。理学療法領域に加えて、医療界全体のインシデント・アクシデントに関する概要を理解し、要因分析手法の基礎を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法のリスク管理に関する用語を理解できる。</li> <li>2. 理学療法における基礎的なリスク管理が実践できる。■</li> <li>3. 指導を受けながら、インシデント事例の要因分析を実施できる。■</li> <li>4. 指導を受けながら、インシデントの再発予防策を立案し実施できる。■</li> <li>5. 医療および理学療法におけるリスク管理の必要性を理解し、他者に説明できる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	主に期末試験で評価する(期末試験 90%、授業への参加度 10%)。			
課題に対するフィードバック	グループワークの提出物や個人レポートについては、授業終了後に個別に確認しフィードバックする。			
使用教材	担当教員が作成した講義資料を配付し使用する。参考図書は適宜紹介する。			
1	講義内容	リスクマネジメントの概要 ・リスクおよびリスクマネジメントは何か、理学療法におけるリスクとは何かを学ぶ。リスクマネジメントの必要性を理解する。■		
	該当する到達目標	予習	理学療法士が関与するリスクの概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	リスクマネジメントの必要性を他者に説明できるように知識を整理する。	1.5 時間
2	講義内容	リスクマネジメントの重要性 ・なぜインシデントが生じるのか、インシデントやアクシデントの発生要因を理解する。インシデント、アクシデントレポートの意義と書き方、その活用について学ぶ。リスクマネジメントにおける情報の重要性を学ぶ。■		
	該当する到達目標	予習	理学療法士が関与するインシデントの発生要因の概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	理学療法士が関与するインシデントの発生要因を整理する。	1.5 時間

3	講義内容	危険予知トレーニングと事故要因分析 ・危険予知トレーニングの目的と方法を理解する。基本的な事故要因分析手法を理解する。■		
	該当する到達目標	予習	インシデントの予防的取り組みの概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	基本的な危険予知トレーニングと事故要因分析手法に関する知識を整理する。	1.5 時間
4	講義内容	事故要因分析の実際 ・グループに分かれて過去に実際に起こった事例あるいは模擬事例の事故要因分析を実施する。		
	該当する到達目標	予習	実際の事故要因分析の流れを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	事故要因分析について、その目的、方法、結果の活用方法を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	災害時の理学療法とリスクマネジメント■ ・災害医療とは何かを学ぶ。・災害時の理学療法の必要性を理解する。 ・災害時に活動する理学療法士に必要なリスクマネジメントを理解する。		
	該当する到達目標	予習	災害時に理学療法士が担う役割について理解する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	災害現場での活動の注意点、他職種との連携、役割等の知識を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	理学療法対象者における転倒、転落、廃用症候群および薬の副作用の概略■ ・転倒、転落の要因とその予防を学ぶ。 ・廃用症候群の要因とその予防、薬の副作用の概要を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	転倒、転落、廃用症候群に関する基礎的知識を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	理学療法士に必要な転倒、転落、廃用症候群、薬に関する基礎的知識を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	感染管理■ ・理学療法士に必要な感染管理・感染とその予防を学ぶ。 ・手洗いの方法と重要性を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	理学療法士に求められる感染管理に関する基礎的知識を確認する。	1.5 時間
	1,2,5	復習	理学療法士に必要な感染管理の知識、技術を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術(まとめ) ・これまでの講義を振り返り、リスクマネジメントの知識、技術を確認する。		
	該当する到達目標	予習	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を整理する。	1.5 時間
備考	基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。また各講義の後半にグループワークによる演習を行いながら、質疑応答形式を進めていく。 授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上および PC プレゼンテーションを用いながら要点をまとめていく。			

この科目に関する問い合わせ先: 竹内伸行(保健医療学部理学療法学科; 5号館 5階 502 研究室;  
ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp)

科目責任者のオフィスアワー: 月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)

■: 実務経験に基づく内容を示す。

## 理 073 整形外科学 I

科目名	整形外科学 I (専門基礎科目)		PTB206	講義
英文名	Orthopaedics I			
担当教員	小林勉			
科目に関連した実務経験	整形外科疾患の保存的治療および手術治療の経験から、整形外科疾患や病態の関する実例を多く紹介することが可能である。また、整形外科疾患の疫学調査やスポーツ整形外科に関する多くの横断的および縦断的研究成果を解説することで、整形外科学のより深い理解へと導くことが可能である。			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2 単位	
講義目標	1. 四肢体幹の機能に関する臨床医学である整形外科学の基本事項を理解する。 2. 整形外科における運動器外傷学について理解する。 3. 整形外科における運動器変性疾患について理解する。 提示した症例に対して、理学療法を中心とした治療方針を決定する能力を身につける。			
到達目標	運動器外傷、障害、疾患に対応した整形外科的考え方を身につけ、そのリハビリテーション法を会得する。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験により評価する。60%以上の評価で合格と判断する。			
課題に対するフィードバック	特に課題は設けない。 各講義について、定期試験で問う可能性の高い重要な点について情報提供する。			
使用教材	教科書「標準整形外科学 第13版」中村 利孝 (著) ISBN-10: 4260025376 ISBN-13: 978-4260025379 講義内容をまとめたものを随時プリントして配布する。			
1	講義内容	整形外科とは 歴史、名前の由来、整形外科的診断法、肢位の表示、切断		
	該当する到達目標	予習	教科書 p118-134 に目を通す。	1.5 時間
	1, 4	復習	整形外科学の総論および整形外科診断法の基本事項について理解する。	1.5 時間
2	講義内容	骨と疾患 基本構造、骨代謝、骨軟化症、骨粗鬆症、骨髄炎		
	該当する到達目標	予習	教科書 p52-60、p210-329 に目を通す。	1.5 時間
	1, 4	復習	骨の基本構造、骨代謝、骨粗鬆症について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	骨折と腫瘍 骨折の定義、分類、診断、治療、骨軟部腫瘍		
	該当する到達目標	予習	教科書 p44-51、p355-412、p734-761 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2	復習	骨折の基本事項、骨軟部腫瘍について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	関節 基本構造、関節外傷、関節炎、関節リウマチ、痛風		

	該当する到達目標	予習	教科書 p52-78、p248-250、p257-280、p281-289 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	関節の基本構造、関節疾患の基本事項、関節リウマチについて理解する。	1.5 時間
5	講義内容	関節の疾患 変形性関節症、神経病性関節症、血友病性関節症、関節腫瘍		
	該当する到達目標	予習	教科書 p281-285、p290、p291、p401-402 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	変形性関節症を中心とした関節疾患について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	末梢神経 基本構造、末梢神経損傷、絞扼性神経障害、腕神経叢損傷		
	該当する到達目標	予習	P130、p163、p868-884 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	末梢神経の基本構造およびその疾患各論について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	脊椎 基本構造と機能、弯曲異常、斜頸、脊椎脊髄腫瘍		
	該当する到達目標	予習	教科書 p511-529、p544-549、p551-559、p585-598 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	脊椎の基本構造と弯曲異常、斜頸、脊椎脊髄腫瘍について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	脊椎の外傷と疾患 骨折、脊髄損傷、椎間板ヘルニアを中心に、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p532-539、p572-585 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2	復習	骨折を中心とした脊椎外傷と椎間板ヘルニアについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	脊椎の疾患 ■感染症、脊椎カリエス、変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症について、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p529-532、p560-572、p841-867 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	脊椎変性疾患および感染症について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	股関節 基本構造、■先天性股関節脱臼、ペルテス病や股関節領域の外傷について、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p599-642、p797-811 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	股関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	膝関節 基本構造、■靭帯損傷、半月損傷、変形性膝関節症を中心に、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p657-668、p672、p674-683、p687-692、p812-819 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	膝関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	足と足関節 基本構造、靭帯損傷、内反足、扁平足、外反母趾		
	該当する到達目標	予習	教科書 p701-709、p714-717、p820-828 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	足部および足関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	肩と肘 基本構造、■肩肘の外傷と疾患について、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p435-446、p449-450、p776-782 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 4	復習	肩関節・肘関節の基本構造と代表的外傷について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	手と手関節 基本構造と機能、■外傷(骨折、屈筋腱・伸筋腱損傷)について、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p458-468、p474-490 に目を通す。	1.5 時間

	1, 2	復習	手・手関節の基本構造と代表的外傷について理解する。	1.5 時間
	講義内容	手の疾患各論 ■キーンベック病、手部の腱鞘炎など実際の症例を紹介する。		
15	該当する到達目標	予習	教科書 p490-510、p788-795 に目を通す。	1.5 時間
	1, 3	復習	手領域の代表的疾患について理解する。	1.5 時間
備考	<p>授業は自作したプリントと教科書を軸にパワーポイントによる画像を活用し、実例を交えながら進めていく。</p> <p>オフィスアワー：月曜日の1時限、質問はメールでも受け付ける。</p> <p>メールアドレス「kobayashi-t@takasaki-u.ac.jp」</p> <p>各講義後の復習で生じた疑問等は早めに処理すること。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 074 整形外科学Ⅱ

科目名	整形外科学Ⅱ（専門基礎科目）			PTB212	講義
英文名	Orthopaedic Ⅱ				
担当教員	小林勉				
科目に関連した実務経験	スポーツ整形外科治療の経験から、多くの事例を紹介することが可能である。また、スポーツ整形外科に関する多くの横断的および縦断的研究成果を解説することで、スポーツ整形外科学のより深い理解へと導くことが可能である。				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	スポーツ活動における運動器の外傷、障害、疾患と身体の運動連鎖を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科学の基本事項について、スポーツ整形外科学に特化した知識を身につける。</li> <li>2. スポーツ整形外科における外傷、病態を理解する。</li> <li>3. 提示した症例に対して、理学療法を中心とした治療方針を決定する能力を身につける。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験により評価する。60%以上の評価で合格と判断する。				
課題に対するフィードバック	<p>特に課題は設けない。</p> <p>各講義について、定期試験で問う可能性の高い重要な点について情報提供する。</p>				
使用教材	<p>教科書「標準整形外科学 第13版」中村 利孝（著）</p> <p>ISBN-10: 4260025376</p> <p>ISBN-13: 978-4260025379</p> <p>講義内容をまとめたものを随時プリントして配布する。</p>				
1	講義内容	下肢筋の特性と運動連鎖:基本構造、筋損傷、運動連鎖			
	該当する到達目標	予習	教科書 p767に目を通す。		1.5 時間
	1, 2	復習	下肢筋の特性と運動連鎖について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	膝関節のスポーツ障害:膝関節の基本構造、■膝関節領域のスポーツ障害・外傷の各論について、実際の症例提示を交えて解説する。			
	該当する到達目標	予習	教科書 p657-699 に目を通す。		1.5 時間
	1, 2, 3	復習	膝関節の基本構造とスポーツ障害について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	足・足関節のスポーツ障害:足・足関節の基本構造、■足関節領域のスポーツ障害・外傷の各論について、実際の症例提示を交えて解説する。			
	該当する到達目標	予習	教科書 p701-724 に目を通す。		1.5 時間
	1, 2, 3	復習	足部・足関節の基本構造とスポーツ障害について理解する。		1.5 時間

4	講義内容	体幹・脊椎のスポーツ障害：■体幹および脊椎領域のスポーツ障害およびスポーツ外傷について、実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p511-593 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	体幹・脊椎の基本構造とスポーツ障害について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	骨盤・下肢のスポーツ障害：■骨盤・下肢領域のスポーツ障害および外傷について実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p767、797 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	骨盤・下肢の基本構造とスポーツ障害について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	肩関節のスポーツ障害1：肩関節の基本構造、障害・外傷各論。■実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p435-446、p449-450、p776-782 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	肩関節の基本構造とスポーツ障害に関する基本事項について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	肘関節・手関節・手のスポーツ障害：肘関節・手関節・手のスポーツ外傷・障害各論。■実際の症例提示を交えて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p458-468、p474-490、p776-782 に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	肘関節・手関節・手部の代表的スポーツ障害について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	成長期のスポーツ障害と外傷のついて解説する。		
	該当する到達目標	予習	教科書 p52-60 に目を通し、成長期の運動器の特徴を理解する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	骨の基本構造および成長期の運動器の特徴を理解する。	1 時間
備考	<p>授業は自作したプリントと教科書を軸にパワーポイントによる画像を活用し、実例を交えながら進めていく。</p> <p>備考 オフィスアワー：月曜日の1時限、質問はメールでも受け付ける。</p> <p>メールアドレス「kobayashi-t@takasaki-u.ac.jp」</p> <p>各講義後の復習で生じた疑問等は早めに処理すること。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 075 神経内科学 I

科目名	神経内科学 I (専門基礎科目)			PTB207	講義
英文名	Neurology I				
担当教員	田中聡一				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	神経内科は神経系の疾患を扱う学問で、大きく中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患に分けられる。本講義では、人間における神経生理学的特徴、診察、疾患、治療にいたるまで、広い視点で臨床医学としても使用できるように知識と技術を習得する。				
到達目標	1. 神経系の解剖(含む血管系)、生理が説明できる。 2. 神経系評価のための診察ができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。定期テスト問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。				
使用教材	作製した製本				
1	講義内容	神経解剖学(中枢神経と血管系)			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、神経解剖学(中枢神経と血管系)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
2	講義内容	神経解剖学(末梢神経系)			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、神経解剖学(末梢神経系)に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
3	講義内容	脳の機能と生理			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、脳の機能と生理に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでお		1.5 時間

			き授業に臨む。	
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
4	講義内容	<b>脳神経診察</b> ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、脳神経診察に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
5	講義内容	<b>脳神経診察の実際</b> ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
6	講義内容	<b>体性神経、自律神経診察</b> ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、体性神経、自律神経診察に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
7	講義内容	<b>体性神経、自律神経診察の実際</b> ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
8	講義内容	<b>協調運動診察</b> ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、協調運動診察に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
9	講義内容	<b>協調運動診察の実際</b> ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
10	講義内容	<b>感覚系診察</b> ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、感覚系診察に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	<b>感覚系診察の実際</b> ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間

	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
12	講義内容	反射診察		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、反射診察に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
13	講義内容	反射診察の実際■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
14	講義内容	高次脳機能 1		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
15	講義内容	高次脳機能の実際■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で学習したことを自分なりに行き、授業に臨む。	1.5 時間
	2	復習	この講義で学習したことを実演し、知識と技術を修得する。	1 時間
備考	<p>オフィスアワー：月曜 3-4 限</p> <p>質問はメールでも受け付ける(メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>研究室 5 号館 6 階 602 研究室</p> <p>授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。授業で使用するスライドをすべてを含んだ教材を使用して、それに書き込みながら授業を進行する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。</p> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>			

## 理 076 神経内科学Ⅱ

科目名	神経内科学Ⅱ（専門基礎科目）			PTB213	講義
英文名	Neurology II				
担当教員	田中聡一				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務（現在）				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	神経内科は神経系の疾患を扱う学問で、大きく中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患に分けられる。本講義では、人間における神経生理学的特徴、診察、疾患、治療にいたるまで、広い視点で臨床医学としても使用できるように知識と技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経疾患を起こす原因、病態が説明できる。</li> <li>2. 神経疾患の症状が説明できる。■</li> <li>3. 神経疾患の治療法が説明できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。定期テスト問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。				
使用教材	作製した製本				
1	講義内容	脳血管障害の種類と病態■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
2	講義内容	脳血管障害の運動症状と治療■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。		1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。		1 時間
3	講義内容	脳血管障害の非運動症状と治療■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインや		1.5 時間

			ポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
4	講義内容	パーキンソン症候群 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
5	講義内容	多系統萎縮症 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
6	講義内容	運動ニューロン疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
7	講義内容	脱髄性疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
8	講義内容	末梢神経疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
9	講義内容	筋疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間

	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
10	講義内容	神経筋接合部疾患 1,2,3 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
11	講義内容	神経感染症 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
12	講義内容	先天性異常、脳性麻痺 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
13	講義内容	脳腫瘍、外傷 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
14	講義内容	自律神経疾患 1,2,3 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間
15	講義内容	機能的疾患 ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、高次脳機能に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。	1 時間

オフィスアワー：月曜 3-4 限

質問はメールでも受け付ける（メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp）

研究室 5号館 6階 602 研究室

授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。授業で使用するスライドをすべてを含んだ教材を使用して、それに書き込みながら授業を進行する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

## 理 077 リハビリテーション概論 I

科目名	リハビリテーション概論 I (専門基礎科目)		PTB103	講義
英文名	Introduction of Rehabilitation 1			
担当教員	浅香 満・居村 茂幸・解良 武士・田中 繁弥			
科目に関連した実務経験	(浅香)医療機関での臨床経験(33年6ヶ月)理学療法教育(8年) (居村)医療機関での臨床経験(40年)・理学療法学教育(17年) (解良)研究機関で地域在住高齢者研究(5年) (田中)理学療法士として病院、介護保険施設に勤務(5年)			
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	リハビリテーションの歴史と理念を理解し、障害構造の理解およびリハビリテーション専門職としての使命について学習する。国際障害分類として ICF 分類の理念と理学療法との関連性、医学分野、職業分野、教育分野、社会的リハビリテーション分野など各分野について理解し、理学療法士としてどのように地域社会と連携をとるべきかグループワークなども活用しながら学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションとは何かについて説明できる。■</li> <li>2. リハビリテーションにおける流れについて説明でき、それぞれの時期に行うべき項目について挙げられる。■</li> <li>3. リハビリテーションを構成する職種について説明でき、それぞれの役割について言える。チームアプローチの必要性を説明できる。■</li> <li>4. 障がいの分類と障がい者の心理・受容のプロセスについて説明できる。■</li> <li>5. リハビリテーションで使用する専門用語について理解し説明できる。■</li> <li>6. 高齢者や障がい者を取り巻く諸制度について説明できる。■</li> <li>7. 理学療法士に求められる知識・技術・人間性について自分の考えを言える。■</li> <li>8. 日本のリハビリテーションの課題と今後の方向性を言える■</li> <li>9. リハビリテーションを理解し、医療人・理学療法士学生であることを自覚し、今後の勉学の方向性を立てられる。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	1.筆記試験 80%(小テスト・期末テスト) 2.授業への参加度 20%			
課題に対するフィードバック	ポートフォリオへのコメント等			
使用教材	(テキスト) 医学生・メディカルのための手引書「リハビリテーション概論」			

	<p style="text-align: center;">上好 昭孝・土肥 信之編集 永井書店</p> <p>(参考文献)</p> <p>1.岩波新書 リハビリテーション 砂原 茂一著 岩波書店 2009</p> <p>2.成人看護学 リハビリテーション患者の看護 氏家幸子監修 廣川書店</p> <p>3.リハビリテーション総論 椿原 彰夫編 診断と治療社 2011</p>			
	講義内容	リハビリテーションの概念・歴史・展望 ■		担当:居村
1	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p,1-16)	1,5 時間
	1,2,8,9	復習	リハビリテーションの概要を説明できる	1,5 時間
	講義内容	疾病と障害の概念と分類、障害の受容 ■		担当:居村
2	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p,19-30)	1,5 時間
	1,3,4,5	復習	障害とは何か説明できる	1,5 時間
	講義内容	リハビリテーションの流れ ■		担当:居村
3	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p,69-79)	1,5 時間
	2,3,5	復習	リハビリの過程と評価をいえる	1,5 時間
	講義内容	リハビリテーションのチームと専門職の役割 ■		担当:浅香
4	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p,99-124)	1,5 時間
	3,7,8,9	復習	チームアプローチを理解する	1,5 時間
	講義内容	リハビリテーションの展開 ■		担当:浅香
5	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1,5 時間
	1,2,7	復習	リハビリテーションの実際を理解する	1,5 時間
	講義内容	ADL・QOLの概念と評価 ■		
6	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p, 127-134)	担当:田中 1,5 時間
	5,9,10	復習	ADL・QOLを説明できる	1,5 時間
	講義内容	地域リハビリテーションについて ■		担当:解良
7	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p, 137-150)	1,5 時間
	3,5,6	復習	地域リハビリテーションを説明できる	1,5 時間
	講義内容	高齢者を取り巻く諸制度(発表・質疑応答) ■		担当:田中
8	該当する到達目標	予習	テキストの範囲を読む(p, 152-196)	1,5 時間
	5,6,8	復習	社会保障制度を理解し、説明できる	1,5 時間
備考	<p>各講師の経験に基づき、作成した資料とテキストを中心に講義を進める</p> <p>オフィスアワー:在室時はいつでも質問を受ける。</p> <p>研究室:5 号館5階アドレス:imura-s@takasaki-u.ac.jp(居村)</p> <p>asaka@takasaki-u.ac.jp(浅香)    kera@takasaki-u.ac.jp(解良)    tanaka-s@takasaki-u.ac.jp(田中)</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 078 リハビリテーション概論Ⅱ

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ（専門基礎科目）			PTB118	講義
英文名	Introduction of Rehabilitation 2				
担当教員	吉田 剛				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	1.リハビリテーション専門職種としての働き、他職種との連携の必要性を理解する。 2.障がい者を具体的に把握し、障害者の生活に経時的に発生する様々な問題を認識する 3.問題の解決には、広くリハビリテーションの視点が必要であることを理解する。 4.1年前期で学んだリハ概論Ⅰ、チーム医療論、PT 概論を関連付けた知識にする。				
到達目標	1.生活感をもって障がいを捉えることができるようになる。■ 2.ICF の理念を理解して、広い視野で問題を捉え、前向きな解決法を考えることができる。■ 3.問題分析の思考過程を理解して、関連図を作成することができる。■ 4.今後の学習のための資料づくりの方法を習得し、実践できる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	講義で提出されるレポート 30%、グループワークにおける役割と講義参加状況 20%、期末試験 50%で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題については10点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。				
使用教材	特に指定しない(前期のリハビリテーション概論Ⅰを参照)				
1	講義内容	理学療法とリハビリテーションの関係			
	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。		1時間
	1,4	復習	理学療法とリハビリテーションの関係について理解する。		0.5時間
2	講義内容	生活とリハビリテーション■			
	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。		1時間
	1	復習	生活とリハビリテーションの関係について理解する。		0.5時間
3	講義内容	障がい時期とリハビリテーション■			
	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。		1時間
	1,3	復習	障がい時期ごとのリハビリテーションについて理解する。		0.5時間
4	講義内容	訪問リハと住宅改修■			

	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1	復習	訪問リハと住宅改修について理解する。	1 時間
	講義内容	廃用症候群とリスク管理■		
5	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,3	復習	廃用症候群とリスク管理について理解する。	1 時間
	講義内容	ICF の分類と臨床における評価■		
6	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	課題についてグループワークを行い、レポートを作成する。	2 時間
	講義内容	ICF の理念を生かした評価の実際(グループ学習および発表)■		
7	該当する到達目標	予習	グループワークを元に発表準備を行う。	3 時間
	1,2,3	復習	グループワークでの学習で不足していた点を見直し、理解を深める。	1 時間
	講義内容	運動器系リハビリテーションの実際(脊髄損傷)■		
8	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	運動器系リハビリテーションの実際について理解する。	1 時間
	講義内容	神経系リハビリテーションの実際(脳卒中)■		
9	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	神経系リハビリテーションの実際について理解する。	1 時間
	講義内容	内部障害系リハビリテーションの実際(糖尿病)■		
10	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	内部障害系リハビリテーションの実際について理解する。	1 時間
	講義内容	認知症に対するリハビリテーション■		
11	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	認知症に対するリハビリテーションについてノートに整理して理解する	1 時間
	講義内容	症例検討(VTR)(グループ学習)■		
12	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1 時間
	1,2,3,4	復習	症例検討について考え理解する。VTR の内容を整理する。	3 時間
	講義内容	問題解決のための臨床思考過程■		
13	該当する到達目標	予習	第 12 回の症例についてレポートをまとめ、ポイントを整理する。	4 時間
	1,2,3,4	復習	問題解決のための臨床思考過程について理解する。	0.5 時間
	講義内容	これからの超高齢社会における地域リハビリテーション■		
14	該当する到達目標	予習	参考資料を参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5 時間
	1	復習	社会状況を把握し地域リハビリテーションについて理解する。	0.5 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当する到達目標	予習	本講義の資料を参考に、まとめの自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容について整理し、総合的に理解する。	2 時間
備考	ICF の分類および症例検討においてグループディスカッションおよび発表を通して主体的に学修する 疾患別リハビリテーションでは、実際のケースの写真や動画をみながら学ぶ			

毎回リフレクションシートに学んだことを整理して書き, 提出する

オフィスアワーは金曜日の3時限(13:00-14:30)

不在の場合は、メール([tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp](mailto:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp))にて質問を受け付ける

予習・復習については、試験前の学習で補完すること

■:実務経験に基づく内容を示す

理 079 リハビリテーション統計学

科目名	リハビリテーション統計学（専門基礎科目）			PTB303	講義
英文名	Statistics for Rehabilitation				
担当教員	竹内伸行, 富田洋介				
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)</li> <li>・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)</li> </ul>				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	基礎的な統計用語を理解し、リハビリテーション領域で用いられる主な統計解析手法を学ぶ。統計ソフトの基本的操作を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な統計学用語を理解できる。</li> <li>2. 基本的な統計解析手法を理解し、リハビリテーション関連論文を読解できる。</li> <li>3. 卒業研究において必要となる統計解析手法を選択し、統計ソフトを使用して実際に解析が行える。</li> <li>4. リハビリテーション医療において統計学の必要を理解し、他者に説明できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	授業中に行う演習課題(80%)および出席状況(20%)で評価する。				
課題に対するフィードバック	演習課題の個人レポートについては、授業終了後に個別に確認しフィードバックする。				
使用教材	<p>教科書</p> <p>リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学、中山書店、2,592 円 ISBN 978-4-521-73667-9</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学理学療法研究法第 2 版、奈良勲監修、医学書院、2006、4,935 円</li> <li>・4Steps エクセル統計第 3 版、柳井久江、オーエムエス出版、2011、4,200 円</li> </ul>				
1	講義内容	<p>オリエンテーション・統計の必要性和概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ理学療法および理学療法研究において統計処理が必要なのか?を学ぶ。■</li> <li>・基本統計量および記述統計について学ぶ。</li> </ul>			
	該当する到達目標	予習	基本的な統計用語を理解する。		1.5 時間
	1,4	復習	統計解析の必要性、基本統計量トは何かを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	<p>データの尺度、作表とグラフ化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの分類を理解する。データを表でまとめ、グラフを作成することによる視覚化を学ぶ。</li> </ul>			

	該当する到達目標	予習	パラメトリックデータとノンパラメトリックデータの違いを理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	作表および作図の方法、作表および作図の目的、長所を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定、差の検定 ・基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解し、2 群の差の検定を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	相関係数、信頼性係数 ・2 つのデータの関連性を明らかにする手法を学ぶ。 ・信頼性係数を理解し、検者内と検者間の信頼性を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	相関係数と信頼性係数、および両者の違いを理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	信頼性係数、相関係数の目的、解析方法を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	分散分析と多重比較検定、基本的な分散分析とその後に行われる多重比較検定を理解する。		
	該当する到達目標	予習	分散分析と多重比較検定について理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	分散分析と多重比較検定の目的、解析方法を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	理統計解析ソフトによる演習 ① ・模擬研究データを設定し、基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	基本的な信頼性の検定および 2 群間の相関、差の検定を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	統計解析ソフトによる演習 ② ・模擬データを設定し、基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	統計解析ソフトによる演習 ③ ・模擬データを活用しながら統計解析ソフトを操作し、これまでの学習内容を振り返る。 ・リハビリテーションに必要な基本的統計手法を再確認する。		
	該当する到達目標	予習	基本的なデータの作表、グラフ化を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	基本的なデータの作表、グラフ化を確認する。	1.5 時間
備考	<p>各授業の前半は PC プレゼンテーションを用いた講義形式で統計解析手法の概要および詳細を説明し、後半は統計解析ソフトを用いて模擬データによる統計解析を演習形式で行うことで進めていく。</p> <p>授業は教員が作成した資料および指定教科書を用いて、要点をまとめていく。</p> <p>この科目に関する問い合わせ先: 竹内伸行(保健医療学部理学療法学科; 5 号館 5 階 502 研究室; ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>科目責任者のオフィスアワー: 月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 080 臨床心理学

科目名	臨床心理学（専門基礎科目）			PTB208	講義
英文名	Medical treatment clinical psychology				
担当教員	千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験	過去の場合：心理相談員として大学内付属相談センターで勤務経験 現在の場合：心理相談員として本大学内「子ども・家族支援センター」で勤務				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	医療臨床による対人援助の基本を学び、ロールプレイを実践することで、クライアントの心理や家族に必要な治療方法や支援方法について実践的に考え学び、医療従事者として力量を高めることを目指す				
到達目標	1.医療臨床による臨床心理学を理解する事が出来る 2.医療療育における臨床心理学の役割と関連性について理解する事が出来る 3.具体的な事例検討を通じクライアントの思いや家族の関わりを臨床場面で応用する事が出来る 4.体験的治療法を学ぶことにより、より実践的な治療や支援について考える事が出来る■ 5.様々事例検討を行うことで、治療方法や支援方法に気づき具体的な関わりが出来る				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	事前の予習、積極的な授業参加 授業後の感想シート 20% 定期試験を判断する 80%				
課題に対するフィードバック	感想シートの記述された内容を授業でフィードバックする。試験について課題をフィードバックする				
使用教材	小林重雄監修「医療臨床心理学」2012 コレール社				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	医療臨床について事前に第 1.3 章を読んで予習する		1.5 時間
	1	復習	医療臨床について学んだことを復習する		1.5 時間
2	講義内容	医療領域の臨床心理学の理解			
	該当する到達目標	予習	医療領域と臨床心理学の関連性について事前に p12-p15 を調べ予習する		1.5 時間
	1.2.	復習	医療領域と臨床心理学の関連性について復習する		1.5 時間
3	講義内容	医療領域の臨床心理学の役割			
	該当する到達目標	予習	医療領域における臨床心理学の役割について事前に p25-p29 を調べ予習する		1.5 時間
	1.2.	復習	医療領域における臨床心理学の役割について学んだ事を復習する		1.5 時間
4	講義内容	心理面接について(面接の方法)			
	該当する到達目標	予習	心理面接について面接方法を事前に第 2 章を調べ学習する		1.5 時間

	1.2.3.	復習	クライアントに添った心理面接について第1章で必要な事項を復習する	1.5時間
5	講義内容	面接の留意点について■		
	該当する到達目標	予習	面接についての留意点について p16-p28 p36-p42 を事前に調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.	復習	クライアントに添った対応を留意点など学んだ事を復習する	1.5時間
6	講義内容	カウンセリング・心理療法について		
	該当する到達目標	予習	カウンセリングと心理療法の違いについて p44-p47 を事前に予習する	1.5時間
	1.2.3.	復習	カウンセリングと心理療法の違いについて学んだ事を復習する	1.5時間
7	講義内容	行動療法・集団心理療法について		
	該当する到達目標	予習	行動療法や集団心理療法について事前に p47-p56 を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.	復習	行動療法や集団心理療法について学んだ事を復習する	1.5時間
8	講義内容	ロールプレイ事例検討1(幼児期 児童期)■		
	該当する到達目標	予習	幼児期・児童期に必要な対応を事前に第3章 p63-p74 を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	事例検討で対応したロールプレイを振り返り、支援から得られた事を復習する	1.5時間
9	講義内容	ロールプレイ事例検討2(思春期 青年期)■		
	該当する到達目標	予習	思春期・青年期に必要な対応を事前に p74-p90 を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	事例検討で対応したロールプレイを振り返り、支援から得られた事を復習する	1.5時間
10	講義内容	ロールプレイ事例検討3(成人期 高齢期)1.2.3.4.5.		
	該当する到達目標	予習	成人期 高齢期に必要な対応を事前に p90-p103 を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	事例検討で対応したロールプレイを振り返り、支援から得られた事を復習する	1.5時間
11	講義内容	ロールプレイ事例検討4(神経・精神領域医療)		
	該当する到達目標	予習	神経・精神領域医療に必要な支援について事前に第4章を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	事例検討で対応した神経・精神医療の振り返り p122-132 p137-p141 を行い必要な支援を復習する	1.5時間
12	講義内容	リハビリテーション・高齢期医療での対応(事例検討・実践例)		
	該当する到達目標	予習	リハビリテーション・高齢期と臨床心理学について第5章を事前に調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	P163-p171 p173-182 事例検討から得られた支援方法を振り返り復習する	1.5時間
13	講義内容	医療の新しい領域のアプローチ(事例検討・実践例)		
	該当する到達目標	予習	医療の新しい領域アプローチについて事前に第5章を調べ予習する	1.5時間
	1.2.3.4.5.	復習	終末期(死への臨床)p189-p197 で得られた支援内容を整理し復習する	1.5時間

			る	
14	講義内容	箱庭療法(体験授業)1.2.3.4.5.■		
	該当する到達目標	予習	箱庭療法を体験的に学ぶための事前に配布した資料を読み予習する	1.5 時間
	1.2.3.4.5.	復習	箱庭療法を体験的に学ぶ事によって得られた事柄を復習する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	臨床心理学を受講する事によって得られた内容を事前に調べ整理する	1.5 時間
	1.2.3.4.5.	復習	臨床心理学を受講する事で得られた必要事項や内容を総合的に復習する	1.5 時間
備考	<p>授業の進め方:事例検討した後、グループワークを行い、授業で得た学びを感想シートに記載しまとめを行う。また「大学内「子ども家族支援センター」で箱庭体験授業を行う。オフィスアワー 火曜日 4.5 限目 8号館 4階 KEY WORD 医療臨床 対人援助 クライアントと家族 実践力 chiba@takasaki-u.ac.jp (■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>			

理 081 保健医療福祉行政論

科目名	保健医療福祉行政論（看護基盤科目群・環境）			NRB204	講義
英文名	Social Welfare and Policy in Health Care				
担当教員	小出 省司				
科目に関連した実務経験	福祉系大学を卒業後群馬県庁に奉職し、40 数年の勤務で約 3 分の2を福祉、保健医療関係の業務に従事した(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	地域看護における保健・医療・福祉活動を深く理解するため、保健・医療・福祉活動に関わる多面的な法的基盤や財政の状況を知る。あわせて、地域における活動の現状と今後の課題を考える機会とする。				
到達目標	1.国・都道府県及び市町村で実施している保健・医療・福祉施策について学ぶと共に、それぞれの役割を理解し、説明できるようになる。■ 2.医療の専門職として、それぞれの事業へどのような関わりができるかを考え、説明することができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	期末試験(90%)及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等(10%)により総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	授業中、可能な限り質問を受けたり、各課題に対する学生の意見を聞く中でフィードバックしていきたい。				
使用教材	1標準保健師講座「保健医療福祉行政論」(医学書院) 2「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会) その他、必要により関連する資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション■			
	該当する到達目標	予習	この科目を受講する意味を考えて、問題意識を深める。		1 時間
	1,2	復習	今まで学んだ看護各科目の知識との関連を考察する。		1 時間
2	講義内容	保健・医療・福祉の連携■			
	該当する到達目標	予習	保健・医療・福祉の各分野の概要を修得する。(教科書1の2~16 頁)		1 時間
	1,2	復習	相互の関連制等を理解する。		1 時間
3	講義内容	保健・医療・福祉の行政■			
	該当する到達目標	予習	行政がどのような役割を果たしているか理解する。(教科書1の54~61 頁)		1 時間

	1,2	復習	各行政機関の役割分担は機能しているか。	1 時間
4	講義内容	保健・医療・福祉の財政■		
	該当する到達目標	予習	財政は制度に一番の影響を与えるが内容を理解する。(教科書1の74~80)	1 時間
	1,2	復習	社会保障給付費の動きに注目。	1 時間
5	講義内容	保健・医療・福祉の法律■		
	該当する到達目標	予習	日本国憲法をはじめとする各法律を理解する。(教科書1の91~92)	1 時間
	1,2	復習	関係法律と各事業の実施状況の関連。	1 時間
6	講義内容	保健・医療・福祉の歴史		
	該当する到達目標	予習	今日の制度はどのような変遷を経てきたか理解する。(教科書1の18~52)	1 時間
	1,2	復習	社会経済の発展に併せて保健・医療・福祉も変遷して来たかを理解する。	1 時間
7	講義内容	1 社会保障制度、2 衛生行政の体系■		
	該当する到達目標	予習	1で社会保障制度の内容理解(教科書1の126~132)	1 時間
	1,2	復習	2で衛生行政の体系を理解する。(教科書2の7~41)	1 時間
8	講義内容	1 地域保健、2 衛生の主要指標■		
	該当する到達目標	予習	1で地域保健の概要を理解する。(教科書1の150~173)	1 時間
	1,2	復習	2で衛生の主要指標を理解する。(教科書2の44~86)	1 時間
9	講義内容	1 社会福祉制度、2 生活習慣病と健康増進対策■		
	該当する到達目標	予習	1で社会福祉制度の各論を理解する。(教科書1の134~148)	1 時間
	1,2	復習	2で生活習慣病と健康増進対策の中身を検証(教科書2の88~98)	1 時間
10	講義内容	1 医療制度、2 保健対策、感染症対策、疾病対策 1,2■		
	該当する到達目標	予習	1で医療制度の課題について理解する。(教科書1の95~109)	1 時間
	1,2	復習	2で保健、感染症、疾病等の対策を理解する。(教科書2の104~179)	1 時間
11	講義内容	1 介護保険制度、2 医療保健制度■		
	該当する到達目標	予習	1で介護保険制度の概要を理解する。(教科書1の114~125)	1 時間
	1,2	復習	2で医療保険制度について理解する。(教科書2の227~246)	1 時間
12	講義内容	1 保健、医療、福祉の専門職、2 薬事対策■		
	該当する到達目標	予習	1で関係の専門職の役割等を理解する。(関係資料)	1 時間
	1,2	復習	2で薬事対策の概要を理解する。(教科書2の261~287)	1 時間
13	講義内容	1 保健医療福祉計画、2 労働衛生、環境保健、学校保健■		
	該当する到達目標	予習	1で保健医療福祉計画を何故立てるのかを理解する。(教科書1の176から222)	1 時間
	1,2	復習	2で労働衛生、環境保健、学校保健の制度を理解する。(教科書2の318~384)	1 時間
14	講義内容	保健・医療・福祉の今後の課題 1,2■		

	該当する到達目標	予習	既に学習した各論が今後どのような課題を持つか検討していく。	1 時間
	1,2	復習	将来の仕事等にどう活かすべきか考察する。	1 時間
	講義内容	まとめ■		
15	該当する到達目標	予習	この科目で学ぶべきことは何だったのかを考察する。	1 時間
	1,2	復習	もう一度教科書等を復習してポイントを押さえていく。	1 時間
備考	<p>授業については、教科書の内容を確認しながら、原則パワーポイントで説明していく。①前置き、②本論(前半)、③休憩、④本論(後半)、⑤まとめと進め、学生からの質問も受けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。</li> <li>・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。</li> </ul> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>			

理 082 社会調査特論

科目名	社会調査特論（専門基礎科目）			PTB311	講義
英文名	Social Research				
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	保健医療分野における実証的研究の手法として、社会調査の基本的な知識や技法を解説することによって、現代の看護師の業務における社会調査の大きな意義を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法学を専攻する大学生としての基礎的知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。</li> <li>2. 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。</li> <li>3. 社会調査の技法を学ぶことで、専門知識・技術の活用力を身につけることができる。■</li> <li>4. 社会調査を学ぶことで、論理的思考力を身につけることができる。</li> <li>5. 社会調査の技法を会得することで、理学療法の現場のチームの一員としての協調・協働を身につけることができる。</li> <li>6. 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての生涯学習力を身につけることができる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	第2回以降に毎回、提出する作業レポート(50%)、ならびに学期末レポート(50%)により、評価する。				
課題に対するフィードバック	第2回以降に毎回、提出する作業レポートにコメントがつけられて返却されるので、これを参考にしながら、最終的な学期末レポートを作成する。				
使用教材	毎回の講義において、適宜、資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーションをおこなう。配布資料(第1回分)に基づいて社会調査の概要を解説する。			
	該当する到達目標	予習	不要。		1.5時間
	1,2,3	復習	社会調査の概要について理解しておくこと。		1.5時間
2	講義内容	配布資料(第2回分)に基づいて、社会調査のための情報資源にいかにかアクセスするか、それをどのように活かしていくのかを解説する。			
	該当する到達目標	予習	第1回で配布される資料(第2回分)を読んでおくこと。		1.5時間
	1,2,3,4	復習	各自が自分の関心にしたがって、調査にむけての情報を収集して、次回に小レポートを作成する。		1.5時間
3	講義内容	配布資料(第3巻分)に基づいて、量的調査(質問紙調査)と質的調査(面接調査)について解			

		説する。小レポートを回収する。実務での調査経験の事例を提示する。■		
	該当する到達目標	予習	第2回で配布される資料(第3回分)を読んでおくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	とくに質問紙調査の手法について理解することによって、各自の関心に基づいたテーマと仮説を小レポートとして作成する。	1.5時間
4	講義内容	各自のテーマと仮説を全体で相互に検討し議論することを通じて、チームの一員としての協調・協働を理解する。その後、配布資料に基づいて調査票の作成方法を解説する。小レポートにコメントをつけて返却する。		
	該当する到達目標	予習	第3回で配布された資料(第4回分)を読んでおくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	講義中のコメントを参考にして、各自のテーマと仮説を修正しておくこと。また、その仮説を検証するための調査票を小レポートとして作成すること。	1.5時間
5	講義内容	データの分析方法について、配布資料に基づいて解説する。小レポートにコメントをつけて返却する。		
	該当する到達目標	予習	第4回で配布された資料(第5回分)を読んでおくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	データの分析の方法について復習しておくこと。	1.5時間
6	講義内容	教室内で各自の修正された調査票を配布して、実査(調査者側と被調査者側)を体験しながら、質疑応答をおこなう。小レポートにコメントをつけて返却する。		
	該当する到達目標	予習	第5回で配布された資料(第6回分)を読んでおくこと。	1.5時間
	1,2,3,4	復習	各自の記入済みの調査票を点検しておく。	1.5時間
7	講義内容	調査報告書のまとめ方について、配布資料で解説する。専門家として理学療法の現場や地域活動の調査をおもない、報告書をまとめるという能力を養うことは、生涯教育の一環となる。		
	該当する到達目標	予習	第6回で配布された資料(第7回分)を読んでおく。	1.5時間
	1,2,3,4,5,6	復習	データの分析方法を復習して、データの分析をおこなうこと。	1.5時間
8	講義内容	全講義を振り返って、あらためて社会調査のやり方について解説する。社会調査法を身につけることが、専門家としての生涯教育において重要であることを理解させる。		
	該当する到達目標	予習	これまでの講義の配布資料を読んでおく。	3時間
	1,2,3,4,5,6	復習	これまでの講義の配布資料に基づいて、調査報告書を作成する。	3時間
備考	<p>講義の進め方としては、調査研究をおこなうプロセスに沿いながら、テーマの決定、仮説の設定、質問紙の作成、実査のやり方、データの分析・考察、報告書の書き方といった段階に応じた受講生に作業レポートを提出してもらい、最終的にはそれらのレポートを総合的にまとめた学期末レポートを提出してもらい、調査研究のプロセスへの理解を深めるようにしている。</p> <p>1度でも欠席すると講義に参加できなくなるので、8回すべてに出席することが不可欠です。</p> <p>オフィスアワーは、火曜日5限と水曜日3限です。</p> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 083 チーム医療アプローチ演習

科目名	チーム医療アプローチ演習（専門基礎科目）		PTB401	演習
英文名	Interprofessional Practice			
担当教員	小笠原映子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子(薬学)			
科目に関連した実務経験	急性期および回復期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。 生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。			
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位	
講義目標	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各専門職の役割と活動について理解できる。</li> <li>2. 患者・家族に必要な福祉・医療活動が理解できる。</li> <li>3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性が理解できる。■</li> <li>4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	グループ発表(発表資料内容・発表態度)60%、演習参加への積極性・授業態度 20%、ふりかえりシート 20%			
課題に対するフィードバック	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。			
使用教材	関連する資料を随時配布する。			
1	講義内容	ガイダンス / チーム医療アプローチについて		
	該当する到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1時間
	1,2,3,4	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1時間
2	講義内容	チームにおける各職種の役割■		
	該当する到達目標	予習	専門職について調べておく。	1時間
	1,2,3,4	復習	各職種の役割と活動を整理する。	1時間
3	講義内容	効果的な情報伝達と共有①		
	該当する到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1時間
4	講義内容	効果的な情報伝達と共有②		
	該当する到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1時間

5	講義内容	チームビルディング／模擬症例検討・発表準備①		
	該当する到達目標	予習	疾病と治療について学習し、各専門職のかかわり方をまとめる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	各専門職の役割と協働の必要性を整理する。	1 時間
6	講義内容	模擬症例検討・発表準備②		
	該当する到達目標	予習	疾病と治療について学習し、各専門職のかかわり方をまとめる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	グループ内で発表資料をまとめる。	1 時間
7	講義内容	発表・フィードバック①■		
	該当する到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	発表された各症例について復習しておく。	1 時間
8	講義内容	発表・フィードバック②■		
	該当する到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	発表された各症例について復習しておく。	1 時間
備考	<p>予習・復習については、グループワークや発表の準備にかかる学習で補完すること</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。</p> <p>2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。</p> <p>【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携</p> <p>【オフィスアワー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原(看護)：月曜 3 限(4 号館 505 研究室)、随時メールで問い合わせを受け付けます (ogasawara@takasaki-u.ac.jp)</li> <li>・篠原(理学)：水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</li> <li>・大林(薬学)：月曜 1 限(7 号館 307 研究室)、随時メールで問い合わせを受け付けます (obayashi@takasaki-u.ac.jp)</li> </ul> <p>■：実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 084 社会福祉概論

科目名	社会福祉概論（専門基礎科目）			PTB209	講義
英文名	Study of Social Welfare				
担当教員	石坂公俊				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	選択 2単位		
講義目標	社会福祉は多くの人々の生活に密接に関わっている。「すべての人が幸せに生活するために」という福祉の目標は、全てに共通する価値(=あるべき姿)である。一方で解決すべき問題は、個人の問題として、家族の問題としてあるいは社会の問題として現れる。本講義では、社会福祉の枠組み及び基礎的知識、課題や問題の理解などを学習することを目的としている。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の課題及びニーズを理解できる。</li> <li>2. 社会福祉の法制度・仕組みを理解できる。</li> <li>3. 社会福祉の援助の方法・技術などを理解できる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 60%, レポート 10%, 学修意欲 30% 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートにはコメントを付けて返却する。				
使用教材	講義レジュメを配付する。				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
	1	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。		1 時間
2	講義内容	社会福祉を取り巻く諸状況			
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。		1 時間
	1., 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。		1.5 時間
3	講義内容	社会福祉の歴史と展開			
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。		1 時間
	1., 3	復習	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。		1.5 時間
4	講義内容	社会福祉の機関と施設、専門職と連携			
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整		1 時間

			理する。	
	1., 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
5	講義内容	社会福祉の援助と方法		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	公的扶助・貧困問題① 生活困窮(貧困)の理解		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	公的扶助・貧困問題② 生活保護制度の理解		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
8	講義内容	子ども家庭福祉① 子どもの貧困		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
9	講義内容	子ども家庭福祉② 子育て支援		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
10	講義内容	高齢者福祉① 生活の実態 1, 2, 3		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	高齢者福祉② 保健福祉制度		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
12	講義内容	障害者福祉① 障害論		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
13	講義内容	障害者福祉② 権利保障		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間

	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
14	講義内容	地域福祉 1, 2, 3		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
15	講義内容	復習・まとめ		
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて確認し, 関連資料を収集し, 疑問点等について整理する。	1 時間
	1, 2, 3	復習	配付されたレジュメを読み返し, 学習内容を再確認する。	1.5 時間
備考	<p>基本的に講義形式で行いますが, 講義の中ではVTR等も援用します。リアクションペーパーを課すことがあります, 提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出してください。</p> <p>オフィスアワー: 水曜日 5 時限, 質問はメールでも受け付ける。</p> <p>メールアドレス: kimi@takasaki-u.ac.jp</p> <p>予習・復習については, 試験前の学習で補完すること。</p>			

## 理 085 理学療法概論

科目名	理学療法概論（専門科目）			PTS100	講義
英文名	Introduction of Physical Therapy				
担当教員	浅香 満				
科目に関連した実務経験	医療機関での臨床経験(33年6ヶ月) 理学療法教育(8年) 理学療法概論テキスト 責任編集				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	リハビリテーションの中における理学療法の全体像を理解し、関連法規や倫理などを学習することにより、理学療法士としてふさわしい人間像を構築し、理学療法業務の対象や具体的方法を学ぶことにより、今後の学習へのモチベーションの向上と、体系付けた学習計画が立案できるようになる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法の定義を正しく理解し、説明できる。</li> <li>2. 理学療法士の法的立場について説明できる。■</li> <li>3. 理学療法の職業倫理について理解し、実行できる。</li> <li>4. 理学療法士に望まれる人間像についてイメージし、自分の考えを言える。■</li> <li>5. 理学療法の対象・治療内容について概説できる。■</li> <li>6. 管理・リスクマネジメントについて説明できる。■</li> <li>7. 協会組織について説明でき、その役割・必要性について認識する。■</li> <li>8. 廃用症候群について理解し、その発生因子について説明でき、予防・治療法が行える。■</li> <li>9. 専門用語を理解し、使うことができる。■</li> <li>10. 今後学習する科目の意義・関連性を理解し取り組める。</li> <li>11. 日本におけるこれからの理学療法のあり方・可能性について自分の考えを述べる</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 60% レポート10% 小テスト10% ポートフォリオ10% 授業態度 10%(積極性・参加度・貢献度等)				
課題に対するフィードバック	ポートフォリオを通して、コメントする				
使用教材	1.石川 朗・浅香 満 15レクチャーシリーズ 理学療法概論、中山書店 2017 2.配布資料				
1	講義内容	オリエンテーション、理学療法の職域の概略、学習方法について			
	該当する到達目標	予習	教科書:レクチャー1(p、6-7)・レクチャー4(p、39)レクチャー5(p、52)		1.5 時間
	1,9,10	復習	配布資料・スライド・ポートフォリオ作成		1.5 時間

2	講義内容	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法士の役割		
	該当する到達目標	予習	教科書:レクチャー1(p、1-10)	1.5 時間
	1,2,11	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
3	講義内容	理学療法の歴史、理学療法士・作業療法士法、理学療法士の役割理学療法士ガイドライン・業務指針、理学療法士の倫理規定・これからの理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー3(p、23-34)レクチャー2(p、18-20)・配布資料	1.5 時間
	3,4	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
4	講義内容	理学療法の実践へ向けて(理学療法の構成・理学療法に必要な知識と実習) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー4(p、35-44)・教科書レクチャー5(p、45-54)	1.5 時間
	5,9,10	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
5	講義内容	理学療法の対象(中枢神経疾患) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー6(p、55-64)	1.5 時間
	5,9,10	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
6	講義内容	理学療法の対象(運動器系) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー7(p、65-74)	1.5 時間
	5,9,10	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
7	講義内容	理学療法の対象(内部障害) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー8(p、75-84)	1.5 時間
	5,8,9	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
8	講義内容	理学療法の対象(がん・介護予防) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー9(p、85-94)	1.5 時間
	5,8,9	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
9	講義内容	病期・職域別の理学療法(急性期) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー10(p、95-104)	1.5 時間
	1,5,9	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
10	講義内容	病期・職域別の理学療法(回復期)		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー11(p、105-11)	1.5 時間
	1,5,9	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
11	講義内容	病期・職域別の理学療法(生活期・維持期)		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー12(p、115-126)	1.5 時間
	3,4	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
12	講義内容	病期・職域別の理学療法(在宅における役割) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー13(p、127-136)	1.5 時間
	3,4	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
13	講義内容	病期・職域別の理学療法(在宅における役割) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー13(p、137-146)	1.5 時間
	6,9	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間

	講義内容	病気・職域別の理学療法(研究における役割)		
14	該当する到達目標	予習	教科書レクチャー15(p. 147-156)	1.5 時間
	1-11	復習	ポートフォリオ作成	1.5 時間
	講義内容	作成したポートフォリオ・ポスター発表会		
15	該当する到達目標	予習	ポスター・発表原稿作成	1.5 時間
	1-11	復習	発表・質疑応答をまとめる	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー : 月曜日以外の在室時はいつでも質問を受ける。  研究室: 5号館5階      アドレス asaka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>1、配布したシラバス等を参照し、次回の予習課題を作成してくる  (キーワード・内容の要約・自分の考え・疑問、質問等  特に、ステップアップの項は、自分の考えや感じたことなどを)</p> <p>2、講義形式は原則として、1/3グループワーク(予習してきたことの確認等)  1/3全体でのディスカッション、1/3講義で行う</p> <p>3、キーワードは、各回ごとに調べたり・関連文献を検索したり・質問して作成する。  ポートフォリオに入れ込む。ファイルに使いやすくまとめておく。</p> <p>前回のキーワードなどから小テストを行なう。(出欠の確認も含めて)</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

理 086 理学療法基礎学

科目名	理学療法基礎学（専門科目）		PTS201	講義
英文名	Basis of Physical Therapy			
担当教員	吉田剛, 高橋裕子			
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2単位	
講義目標	<p>1. 理学療法の基礎となる運動療法について、原則や生理学的背景などの基礎的知識を身につける。</p> <p>2. 運動強度や負荷量などの運動処方を行うための基礎となる知識を総合的に学ぶ。</p> <p>3. 基本的運動療法として、関節可動域練習、筋収縮の種類別の筋力強化を中心に、その基礎を学ぶ。</p> <p>4.1 年次に受講した解剖生理学、平行して開講される運動学・理学療法評価法Ⅰ・物理療法学などと関連付けて学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1. 運動療法の総論について、一般の人に分かるように説明できる。</p> <p>2. 運動療法のための基礎知識を整理してまとめる。</p> <p>3. 理学療法評価法では、治療を通して評価することを学ぶが、その治療方法についてイメージできる。■</p>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	<p>講義で出されるレポート40%、期末試験50%、講義参加状況・講義中の指名に対する対応10%で総合的に評価する。（その他の提出物による加点を行う場合がある）</p> <p>成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。</p>			
課題に対するフィードバック	<p>課題については10点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。</p>			
使用教材	標準理学療法学 専門分野シリーズ 運動療法学総論 第3版 医学書院 4,935円			
1	講義内容	運動療法とは？ 運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1時間
2	講義内容	運動療法の基礎① 関節の構造と機能および筋の構造と機能		
	該当する到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3時間

	1,2	復習	関節の構造と機能および筋の構造と機能について理解する。	1 時間
3	講義内容	運動療法の基礎② 関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序		
	該当する到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序について理解する。	1 時間
4	講義内容	運動療法の基礎③ 運動と呼吸・循環・代謝系		
	該当する到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動と呼吸・循環・代謝系について理解する。	1 時間
5	講義内容	運動療法の基礎④ 運動制御と運動学習		
	該当する到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動制御と運動学習について理解する。	1 時間
6	講義内容	運動療法の基礎⑤ 運動発達および老化による運動機能の低下		
	該当する到達目標	予習	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	運動発達および老化による運動機能の低下について理解する。	1 時間
7	講義内容	運動処方の基礎 運動の種類と運動方法、リスク管理 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	運動の種類と運動方法、リスク管理について理解する。	1 時間
8	講義内容	運動指導の実際:コミュニケーション、コーチング、指示方法、動機付け ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	運動指導の実際について理解する。	1 時間
9	講義内容	基礎的運動療法①関節可動域運動 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	関節可動域運動について理解する。	1 時間
10	講義内容	基礎的運動療法②伸張運動 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	伸張運動について理解する。	1 時間
11	講義内容	基礎的運動療法③筋力増強運動・持久力増強運動 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	筋力増強運動・持久力増強運動について理解する。	1 時間
12	講義内容	基礎的運動療法④バランス改善運動・姿勢改善運動・筋弛緩運動 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	バランス改善運動・姿勢改善運動・筋弛緩運動について理解する。	1 時間
13	講義内容	基礎的運動療法⑤協調性運動 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間
	1,2,3	復習	協調性運動について理解する。	1 時間
14	講義内容	基礎的運動療法⑥痛みに対する運動療法 ■		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当ページを読む。	1 時間

	1,2,3	復習	痛みに対する運動療法について理解する。	1 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当する到達目標	予習	これまで学習した内容をまとめて整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	理学療法基礎学の総合的な内容を理解する。	1 時間
備考	<p>基礎知識は事前にレポートを作成して学び、実例を示し視覚的理解を得ながら基礎的運動療法を学ぶ。          オフィスアワーは火曜日の 3 時限 (13:00-14:30)          不在の場合は、メール(tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp)にて質問を随時受け付ける。          予習・復習については、試験前の学習で補完すること          ■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

理 087 理学療法基礎学実習

科目名	理学療法基礎学実習（専門科目）		PTS210	実習
英文名	Practice of Basis of Physical Therapy			
担当教員	吉田剛, 高橋裕子			
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)			
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	1.理学療法基礎学で学んだ知識をもとに、基礎的な運動療法を行うための心構えを身につける。 2.用手接触・動作誘導・移乗介助法の基礎を实践できる。 3.基礎的運動療法の技術を身につける。 4.臨床実習に向けて、対象者への基本的対応能力を高める。			
到達目標	1.実習科目のメモの取り方、学び方について理解し、実践できる。 2.運動学などの基礎知識をもとに、相手の状態を評価し、適切な対応ができる。■ 3.基礎的な運動療法を一般の人に危険のないレベルで実施できる。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	実技確認テスト 30%、講義ノート 10%、実技試験 50%、講義参加状況 10%で総合的に評価する。 (その他の提出物による加点を行う場合がある) 成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。			
課題に対するフィードバック	開始時の実技確認テストについては、その場で 10 点満点の評価を伝え、全員に対してできていないポイントをフィードバックする。また、講義ノートについても 10 点満点で評価し、書き方について全員に指導する。			
使用教材	理学療法基礎学と同じ 〈参考書〉 1.運動療法学:障害別アプローチの理論と実際 文光堂 7,350 円 2.運動療法学 改訂第 2 版 金原出版 6,510 円			
1	講義内容	オリエンテーション		
	該当する到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義の進め方などを学習する。	0.5 時間
	1	復習	講義内容をノートに整理する。	1 時間
2	講義内容	姿勢と動作の観察および介入 ■		
	該当する到達目標	予習	使用教材の該当ページを読む。	1 時間
	1,2	復習	講義ノートを整理して、姿勢と動作の観察について理解する。	1 時間
3	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(寝返り) ■		

	該当する到達目標	予習	ハンドリングについて調べてポイントを整理しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	講義時の実技のポイントについてノートに整理する。	1 時間
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(起き上がり) ■		
4	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して起き上がりのハンドリングについて理解する。	1 時間
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(いざり移動) ■		
5	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ヒューマンムーブメントといざり時のハンドリングについて理解する。	1 時間
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(立ち上がり) ■		
6	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して立ち上がり時のハンドリングについて理解する。	1 時間
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(歩行①) ■		
7	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ヒューマンムーブメントと歩行時のハンドリングについて理解する。	1 時間
	講義内容	ヒューマンムーブメントとハンドリング(歩行②) ■		
8	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して歩行時のハンドリングについて理解する。	1 時間
	講義内容	治療的トランスファーのポイント ■		
9	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	治療的トランスファーのポイントについて整理し、理解する。	1 時間
	講義内容	治療的トランスファーの実際 ■		
10	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して治療的トランスファーについて理解する。	1 時間
	講義内容	関節可動域運動(基本的ポイントおよび肩甲帯) ■		
11	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	関節可動域運動のポイントについてノートに整理する。	1 時間
	講義内容	関節可動域運動(肩関節) ■		
12	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して上肢帯の関節可動域運動について理解する。	1 時間
	講義内容	関節可動域運動(股関節①)		
13	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 時間
	講義内容	関節可動域運動(股関節②)		
14	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 時間
15	講義内容	関節可動域運動(膝関節)		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間

	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 時間
16	講義内容	関節可動域運動(足関節)		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 時間
17	講義内容	筋力強化運動のポイントおよびブリッジ運動		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して筋力強化運動のポイントについて理解する。	1 時間
18	講義内容	筋力強化運動(スクワット, その他)		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢の筋力強化運動について理解する。	1 時間
19	講義内容	筋力強化運動(その他, 下肢筋群)		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して下肢筋群の筋力強化運動について理解する。	1 時間
20	講義内容	筋力強化運動(コア筋)		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理してコア筋の筋力強化運動について理解する。	1 時間
21	講義内容	協調運動練習		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して協調運動練習について理解する。	1 時間
22	講義内容	バランス練習		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理してバランス練習について理解する。	1 時間
23	講義内容	各種運動療法		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して各種運動療法について理解する。	1 時間
24	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	講義ノートを整理して基本的運動療法全般について理解する。	2 時間
備考	<p>本講義は実習科目のため 2 コマ連続で講義が行われ, 毎回最初に実技確認テストを行う。          オフィスアワーは木曜日の 1 時限(9:00-10:30)          不在の場合は、随時メール(tsu Yoshida@takasaki-u.ac.jp)にて質問を受け付ける          予習・復習についての不足時間は、試験前の学習で補完する          ■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

## 理 088 理学療法セミナー 1

科目名	理学療法セミナー 1 (専門科目)			PTS110	演習
英文名	Physiotherapy Seminar 1				
担当教員	千木良佑介、理学療法学科教員				
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務(経験) 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務(現在)				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	1年次の早期体験実習をより効果的に行えるよう、基本的な接遇、専門職としての態度、理学療法の概要について学ぶ。対象者との人間関係、社会人としての基本的態度、臨床実習における対人関係、記録のとり方、資料の整理、提出物の記載方法、わからないことがある場合の解決方法(文献検索および質問)などを学ぶ。またグループワークを用いて、自分の考えの表出、プレゼン能力の向上などを図る。また実習後の学生へのフィールドバックなどを行う。				
到達目標	1.理学療法士の基本態度を身につけ、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになる。■ 2.不足点を自分で気づき、自己学習できるようになる。 3.理学療法の概要を理解し、理学療法士としての使命と倫理について説明できる。 4.大学で理学療法を学ぶ意味を理解し、主体的学習態度で授業に参加出来るようになる。■				
学位授与方針との対応	✓	1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	発表担当学生の①発表の内容とわかりやすさ、②レジュメの質、③質問に対する受け答えのスムーズさと、聞いている学生の質問する姿勢に関してそれぞれ優・良・可の3段階で評価し得点化する。早期体験実習のグループでレジュメ等作成するが、各自必ず1回は発表すること。				
課題に対するフィードバック	実習や発表の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。				
使用教材	適宜資料を配布				
1	講義内容	オリエンテーション(発表方法や実習注意、実習目標の設定等) + 実習の感想発表			
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。		1.5時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。		1時間
2	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック1 ■ + 実習の感想発表			
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。		1.5時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。		1時間
3	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック2 ■ + レジュメ・レポート作成のポイント			
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。		1.5時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。		1時間

4	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 3 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
5	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 4 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
6	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 5 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
7	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 6 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
8	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 7 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
9	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 8 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
10	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 9 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
11	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 10 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
12	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 11 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
13	講義内容	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 12 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	1,2,4	復習	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	1 時間
14	講義内容	早期体験実習の体験を発表 + 各教員の専門分野の紹介 3 分野 2,3,4 ■		
	該当する到達目標	予習	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	各教員の専門分野について調べ、まとめ直すこと。	1 時間
15	講義内容	現状の問題点の整理と今後の目標設定 まとめ;各実習地の指導者の先生をお招きし、講義・ディスカッション ■		
	該当する到達目標	予習	各実習地の特性について再確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	各実習地指導者の意見を踏まえ今後の目標についてまとめる	1 時間

本講義は早期体験実習と平行して実施される科目であり、早期体験実習のグループごとの発表に対するフィードバックを基本とする。また授業の前半では文献検索方法やレポートのまとめ方、有効なプレゼンテーションの方法等の講義を行う。予習・復習の不足時間については、試験前の学習で補完すること。

問い合わせ先: 千木良佑介

保健医療学部理学療法学科: 5号館 5階 504 研究室: chigira@takasaki-u.ac.jp

オフィスアワー ①金曜 13:00~16:30

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

## 理 089 理学療法セミナー 2

科目名	理学療法セミナー 2 (専門科目)		PTS211	実習
英文名	Physiotherapy Seminar 2			
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、篠原 智行、大野 洋一			
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)			
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	理学療法評価の基礎となる検査・測定に関する基本的臨床技能について、運動器疾患および中枢神経疾患を例に修得する。また、自ら計画を立て、実行に移し、うまくいかなかった部分の改善策を検討するといった一連の問題解決過程を経験することにより、理学療法の専門性を高め、チームにおいて理学療法士として意見を述べるができるようになるためには継続的に学修を行う必要があることを認識する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【精神運動領域】模擬症例に応じたリスク管理を適切に行ってみせることができる。■</li> <li>【精神運動領域】模擬症例に対する検査・測定計画を立ててみせることができる。■</li> <li>【精神運動領域】模擬症例に基本的検査・測定を適応してみせることができる。■</li> <li>【情意領域】継続学修が重要であるとランクづけする。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	<p>以下の3項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験において48点(60%)以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 症例①レポート(10点)</li> <li>・ 症例②レポート(10点)</li> <li>・ 実技試験=Pre-OSCE(80点)</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	<p>レポートについてはルーブリックを用いて採点基準および得点を客観化し、返却する。</p> <p>実技試験の採点結果は全体に概要を示し(必要に応じて個別に示す)、問題の解説を行う。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学</li> <li>・ これまでの授業の教科書および配布資料</li> </ul> <p>《1.5mのテーブメジャーを各自準備すること》</p>			
1	講義内容	オリエンテーション、医療面接のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p20~29)を用いて医療面接について復習する。	1時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1時間
2	講義内容	整形外科疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	1時間

	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
3	講義内容	形態測定(四肢長・周径)のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p46~59)を用いて形態測定について復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
4	講義内容	ROM-T のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p62~91)を用いて上肢のROM-Tについて復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
5	講義内容	MMT のグループ練習(アクティブラーニング) 症例①提示		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p94~107)を用いて上肢・体幹のMMTについて復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
6	講義内容	症例①検討(グループ練習:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	症例①に対する検査・測定の計画を立て、レポートにまとめる。	2 時間
	1, 2, 3	復習	症例①に対する検査・測定の計画を修正する。	1 時間
7	講義内容	中枢神経疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
8	講義内容	感覚検査のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p110~123)を用いて反射および感覚検査について復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
9	講義内容	反射検査のグループ練習(アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p126~137)を用いて反射および感覚検査について復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
10	講義内容	片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ)のグループ練習(アクティブラーニング) 症例②提示		
	該当する到達目標	予習	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(p154~165)を用いて片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ)について復習する。	1 時間
	1, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1 時間
11	講義内容	症例②検討(グループ練習:アクティブラーニング)		

	該当する到達目標	予習	症例②に対する検査・測定の計画を立て、レポートにまとめる。	2 時間
	1, 2, 3	復習	症例②に対する検査・測定の計画を修正する。	1 時間
	講義内容	症例①および②再検討(グループ練習:アクティブラーニング)		
12	該当する到達目標	予習	特に必要としない	0 時間
	1, 2, 3	復習	症例①および②に対する検査・測定の計画を再修正する。	2 時間
	講義内容	症例①まとめ■		
13	該当する到達目標	予習	症例①に対する検査・測定の計画を完成させる。	1 時間
	1, 2, 3	復習	特に必要としない。	0 時間
	講義内容	症例②まとめ■		
14	該当する到達目標	予習	症例②に対する検査・測定の計画を完成させる。	1 時間
	1, 2, 3	復習	特に必要としない。	0 時間
	講義内容	症例①・②フィードバック		
15	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	症例①および②に対する検査・測定の模範的計画について整理し、授業内容をまとめる。	1 時間
備考	<p>※ 毎回異なる 2 人組を作り、ひとりが理学療法士役、もうひとりが患者役となって検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める。留意事項は適宜教示する。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2 時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3 号館 2 階 201 研究室; higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>※ 本学では 45 分を 1 時間とみなす(3 時間=135 分)。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p> <p>※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p>			

## 理 090 理学療法セミナー 3

科目名	理学療法セミナー 3 (専門科目)			PTS310	実習
英文名	Physiotherapy Seminar 3				
担当教員	大野洋一、樋口大輔、田中繁弥				
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務(経験)				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	検査・測定だけでなく、臨床現場でより治療志向的な理学療法評価が行えるように、評価・観察方法や臨床思考過程を学ぶ。また客観的臨床能力試験(OSCE)を通して、3年次の機能能力診断学実習に出る前の準備を行う。				
到達目標	1. 基本的な評価を行うための準備, 説明, 手順の実施, 結果の考察を学生の標準レベルで行うことができる。 2. 治療志向的な思考過程を踏みながら, 評価・観察を行うことができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	OSCE の結果 80%, OSCE への取り組み・授業態度 20%の総合評価				
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する。				
使用教材	配布資料を中心に行う				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	2年次 機能・能力診断学臨床実習の振り返り		1.5 時間
	1	復習	評価に関する知識の再学修		1.5 時間
2	講義内容	模擬症例 1 の紹介,説明,練習 ■			
	該当する到達目標	予習	模擬症例 1に関する基礎知識の学修		1.5 時間
	1,2	復習	模擬症例 1の練習		1.5 時間
3	講義内容	模擬症例 1 の練習,フィードバック,まとめ			
	該当する到達目標	予習	模擬症例 1に関する不足知識の学修		1.5 時間
	1,2	復習	模擬症例 1のまとめ		1.5 時間
4	講義内容	模擬症例 2 の紹介,説明,練習 ■			
	該当する到達目標	予習	模擬症例 1に関する基礎知識の学修		1.5 時間
	1,2	復習	模擬症例 2 の練習		1.5 時間
5	講義内容	模擬症例 2 の練習,フィードバック,まとめ			
	該当する到達目標	予習	模擬症例 2に関する不足知識の学修		1.5 時間

	1,2	復習	模擬症例 2 のまとめ	1.5 時間
6	講義内容	模擬症例 3 の紹介,説明,練習 ■		
	該当する到達目標	予習	模擬症例 3 に関する基礎知識の学修	1.5 時間
	1,2	復習	模擬症例 3 の練習	1.5 時間
7	講義内容	模擬症例 3 の練習,フィードバック,まとめ		
	該当する到達目標	予習	模擬症例 3 に関する不足知識の学修	1.5 時間
	1,2	復習	模擬症例 3 のまとめ	1.5 時間
8	講義内容	OSCE 課題提示,練習		
	該当する到達目標	予習	模擬症例 1,2,3 のまとめ	1.5 時間
	1,2	復習	OSCE 課題の練習	1.5 時間
9	講義内容	OSCE 練習 OSCE での各自のもつ課題を提示し,十分な練習を行う		
	該当する到達目標	予習	OSCE 課題に関する不足知識の学修	1.5 時間
	1,2	復習	OSCE 課題の練習	1.5 時間
10	講義内容	OSCE 実施		
	該当する到達目標	予習	OSCE 課題のまとめ	1.5 時間
	1,2	復習	OSCE 実施における不足部分の練習	1.5 時間
11	講義内容	OSCE フィードバック		
	該当する到達目標	予習	OSCE 実施内容に対する自己分析	1.5 時間
	1,2	復習	フィードバックに対する自己分析	1.5 時間
12	講義内容	OSCE のまとめ・練習 ■		
	該当する到達目標	予習	フィードバックを踏まえての不足部分の練習	1.5 時間
	1,2	復習	OSCE のまとめ	1.5 時間
13	講義内容	レポート・レジユメの記載方法		
	該当する到達目標	予習	レポート・レジユメの記載方法の事前学修	1.5 時間
	1	復習	レポート・レジユメの記載方法の理解	1.5 時間
14	講義内容	症例報告・プレゼンテーションの方法 1		
	該当する到達目標	予習	症例報告・プレゼンテーションの方法の事前学修	1.5 時間
	1	復習	症例報告・プレゼンテーションの方法の理解	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの学修のまとめ	1.5 時間
	1,2	復習	セミナー3 目標の理解	1.5 時間
備考	<p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>授業は配布資料を使用して実習を行いながら進める。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>メールでの連絡先 大野: ohno@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー 大野: 月曜日 16:30-18:00</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 091 理学療法セミナー 4

科目名	理学療法セミナー 4 (専門科目)			PTS400	実習
英文名	Physiotherapy Seminar 4				
担当教員	中川和昌 ■、篠原智行、冨田洋介、高橋裕子				
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)				
学年・開講期	4年 前期	必修・単位数	必修 1単位		
講義目標	3年次までの実習で指摘された点を個々に見直し、不足している点、修正すべき点を明確にする。特に、治療志向的評価および一般的な理学療法プログラムについて、具体的に例題を用い、グループワークなども取り入れながら臨床思考過程および基本的技術の適用方法を学ぶ。それらの過程を通して、客観的臨床技能テスト(応用編)をクリアして総合臨床実習に向かうための準備ができる。				
到達目標	1.治療志向的評価に基づいた治療計画の策定および一部治療実施を総合臨床実習で行えるようになる。 2.臨床版客観的臨床能力試験(advanced OSCE)および症例発表を通して、総合臨床実習に必要な対象者に対する基本的理学療法を行う準備ができる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	advanced OSCE の結果 70%、症例への取り組み状況および発表 30%				
課題に対するフィードバック	各模擬症例に対する実技練習中に対応方法及び技術について適切性をフィードバックする。				
使用教材	配布資料を中心に行う				
1	講義内容	オリエンテーション:これまでの実習の振り返り			
	該当する到達目標	予習	実習の資料やレポート、レジュメなどを見直す。		1.5 時間
	1	復習	実習の振り返りを行い、今後の実習を理解する。		1 時間
2	講義内容	担当症例の紹介:評価計画			
	該当する到達目標	予習	評価計画の立案方法について学習する。		2 時間
	1	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価計画の立案方法について理解する。		1 時間
3	講義内容	担当症例の評価実施			
	該当する到達目標	予習	評価方法について、配布資料や教科書を参考に予習する。		2 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、評価方法について理解する。		1 時間
4	講義内容	担当症例の治療計画			

	該当する到達目標	予習	治療計画の立案方法について、配布資料や教科書を参考に予習する。	2 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療計画の立案方法について理解する。	1 時間
5	講義内容	担当症例の治療実施		
	該当する到達目標	予習	治療の実施方法について、配布資料や教科書を参考に予習する。	2 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	1 時間
6	講義内容	フィードバック,まとめ		
	該当する到達目標	予習	1～5 回の授業内容について、資料などで確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック、まとめの内容について理解する。	1 時間
7	講義内容	OSCE 課題提示、説明、練習		
	該当する到達目標	予習	各種疾患に対する知識や評価、治療について学習する。	1.5 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、OSCE の課題、説明、練習を行う。	1 時間
8	講義内容	OSCE 練習		
	該当する到達目標	予習	評価方法や治療などについて学習する。	1.5 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、OSCE の練習を行う。	1 時間
9	講義内容	OSCE 実施		
	該当する到達目標	予習	課題について理解・練習を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、OSCE の内容について理解する。	1 時間
10	講義内容	OSCE フィードバック		
	該当する到達目標	予習	OSCE を振り返り、各自の反省点をまとめる。	1.5 時間
	1,2	復習	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	1 時間
11	講義内容	臨床実習オリエンテーション		
	該当する到達目標	予習	臨床実習の手引を読む。	1 時間
	1,2	復習	実習の進め方について考え、理解する。実習の目標を作成する。	1 時間
12	講義内容	総合臨床実習 I 発表		
	該当する到達目標	予習	発表の準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	他者の発表を理解する。	1 時間
13	講義内容	総合臨床実習 I フィードバック		
	該当する到達目標	予習	実習について振り返りを行う。	1 時間
	1,2	復習	フィードバックの内容について理解する。2 期目の実習の目標を作成する。	1 時間
14	講義内容	総合臨床実習 II 発表		

	該当する到達目標	予習	発表の準備を行う。	3 時間
	1,2	復習	他者の発表を理解する。	1 時間
	講義内容	総合臨床実習Ⅱフィードバック		
15	該当する到達目標	予習	実習について振り返りを行う。	1 時間
	1,2	復習	フィードバックの内容について理解する。不足していた点を見直す。	1 時間
備考	<p>総合臨床次週および実習前の Advanced-OSCE に向けて準備できるように必要な知識・技術の整理, 復習を目的に実施する。複数の教員で適宜フィードバックを実施しながら展開する。</p> <p>オフィスアワー: 水曜日 1 時限 (9:00-10:30)</p> <p>不在の場合は、メール(nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp)にて随時質問を受け付ける。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること</p>			

理 092 理学療法研究法

科目名	理学療法研究法（専門科目）			PTS300	講義
英文名	Physical Therapy Research Methods				
担当教員	竹内伸行, 千木良祐介, 田中繁弥, 富田洋介				
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)</li> <li>・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)</li> </ul>				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	理学療法における研究の必要性を学問的観点と臨床的観点から学び、また、研究のプロセスとして、研究テーマの選択、研究対象の選択、測定方法の考案、研究デザインの決定、倫理的配慮、データ処理と解析法、研究結果の分析と報告について実例を通して理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法における研究の必要性を理解し、説明できる。■</li> <li>2. 基本的な研究プロセスを理解し、各項目を説明できる。</li> <li>3. 基礎的な研究論文を検索し、入手できる。またその論文を読解できる。</li> <li>4. 学んだ知識・体験をもとに模擬研究が実施できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	模擬研究の成果(内容、解析、発表)の状況で評価する(100%)。				
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別またはグループごとにフィードバックを行う。				
使用教材	標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法第3版、内山 靖編、医学書院、2013年、5076円 ISBN 978-4-260-01547-9				
1	講義内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・理学療法における研究の必要性、倫理的配慮を学ぶ。■</li> </ul>			
	該当する到達目標	予習	自然科学系の研究とは何かを確認する。	1.5時間	
	1,2	復習	理学療法における研究の必要性と重要性を確認する。	1.5時間	
2	講義内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法研究の概要</li> <li>・研究の流れと論文の構成を学ぶ。</li> <li>・研究デザインを学ぶ。</li> </ul>			
	該当する到達目標	予習	学術論文の構成を理解する。	1.5時間	
	1,2,3	復習	理学療法研究の基本的な研究デザインを確認する。	1.5時間	
3	講義内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマの設定</li> <li>・研究テーマ設定のポイント(先行研究のレビュー、実現可能性)を学ぶ。</li> </ul>			
	該当する到達目標	予習	文献レビューの方法を理解する。	1.5時間	

	1,2,3	復習	文献レビューの必要性、重要性、方法を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	・評価尺度および測定信頼性と妥当性を学ぶ		
	該当する到達目標	予習	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを確認する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬研究のオリエンテーションと準備 ・グループのリーダー選出、今後の研究計画、他の検討。 ・グループごとに先行研究のレビューを行い、情報収集と研究テーマの検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	グループにて文献レビューを実施し、必要な情報を収集する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループにて、今後実施する模擬研究に必要な情報を整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬研究実施 ・研究計画の立案、研究計画書作成を行う。		
	該当する到達目標	予習	グループにて研究計画の立案を検討する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループにて研究計画書を作成し、研究内容を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬研究実施 ・予備研究の実施と計画書の修正を行う。		
	該当する到達目標	予習	予備研究の必要性を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	予備研究で得た情報を基に研究計画を修正する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬研究計画発表会 ・グループ毎に研究計画を発表し、ディスカッションを行う。		
	該当する到達目標	予習	研究計画を他者に伝える準備を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	他者からの指摘や助言を基に研究計画を修正する。	1.5 時間
9	講義内容	模擬研究実施 ・データ測定①		
	該当する到達目標	予習	データの測定方法を確認し理解する。必要な器材を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	測定したデータの誤差などを確認する。	1.5 時間
10	講義内容	模擬研究実施 ・データ測定②、統計解析①		
	該当する到達目標	予習	統計解析手法を確認し理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	統計解析結果を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	模擬研究実施 ・データ測定③、統計解析②		
	該当する到達目標	予習	統計解析手法を確認し理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	統計解析結果を確認し、研究発表に向けた考察を行う。	1.5 時間
12	講義内容	模擬研究実施 ・模擬研究成果の検討・考察¥ ・模擬研究発表会資料作成①		
	該当する到達目標	予習	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5 時間

	1,2,3,4	復習	発表資料を確認する。	1.5 時間
13	講義内容	模擬研究実施 ・模擬研究発表会資料作成②		
	該当する到達目標	予習	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発表資料を確認し、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5 時間
14	講義内容	模擬研究成果の発表 ・グループ毎に模擬研究の成果を発表しディスカッションを行う。		
	該当する到達目標	予習	研究発表の準備を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発表会での指摘や助言を基に研究を振り返り、結果や考察を再考する。	1.5 時間
15	講義内容	・まとめ(理学療法に必要な研究に関する知識を整理しながら、最新の理学療法研究成果に触れる) ■		
	該当する到達目標	予習	これまでに学んだ知識を整理する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	最新の理学療法研究の動向や成果を確認する。	1.5 時間
備考	<p>授業の前半は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。後半はグループ毎に研究課題を設定し、質疑応答を行いながら研究を進める。</p> <p>授業は教員が作成した資料および教科書を用いて、要点をまとめていく。</p> <p>この科目に関する問い合わせ先: 竹内伸行(保健医療学部理学療法学科; 5 号館 5 階 502 研究室; ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>科目責任者のオフィスアワー: 月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 093 臨床運動学

科目名	臨床運動学（専門科目）			PTS301	講義
英文名	Clinical Kinesiology				
担当教員	吉田剛、浅香満				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	<p>1.解剖学や運動学で学んだ基礎知識を基盤にして、身体構造と姿勢・運動の関係について臨床的に学ぶ。</p> <p>2.身体各部位と全身との関係を踏まえて、臨床症状の出現との因果関係を推定する考え方や活動分析に運動学の知識を生かす方法を学ぶ。</p> <p>3.特徴的な疾患について病態運動学を学び、動作障害を引き起こす原因を理解する。</p> <p>4.子どもや高齢者の姿勢とその影響について運動学的視点で予防を考えることができる。</p>				
到達目標	<p>1.運動学的視点をもって症状や動作障害を引き起こす原因を説明できる。■</p> <p>2.局所と全身との関連性について理解し、姿勢と動作の関係を説明できる。■</p> <p>3.疾患の特徴を運動学的視点から説明できるようになる。■</p>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	課題レポート 20%、期末試験 70%、講義参加状況 10%で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題は 10 点満点で採点し、全体に課題のポイントや理解不十分な点についてのフィードバックを行う。				
使用教材	<p>テキストは特に指定しない</p> <p>参考書：標準理学療法学「病態運動学」5800 円+税 医学書院 「運動学」5000 円+税 医学書院 「臨床動作分析」4700 円+税 医学書院 「臨床実践 動きのとらえかた」6500 円+税 文光堂 「動作分析 臨床活用講座」5600 円+税 メジカルビュー</p>				
1	講義内容	全身の姿勢と局所の運動との関係について■			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する。		1.5 時間
	2	復習	全身の姿勢と局所の運動との関係について理解する。		1 時間
2	講義内容	体幹の臨床運動学			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する。		1.5 時間
	1,2,3	復習	体幹の臨床運動学について理解する。		1 時間
3	講義内容	下肢の臨床運動学			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する。		1.5 時間

	1,2,3	復習	下肢の臨床運動学について理解する.	1 時間
4	講義内容	上肢の臨床運動学		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	上肢の臨床運動学について理解する.	1 時間
5	講義内容	腰痛・頸部痛についての病態運動学 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	腰痛・頸部痛についての病態運動学について理解する.	1 時間
6	講義内容	下肢疾患についての病態運動学 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	下肢疾患についての病態運動学について理解する.	1 時間
7	講義内容	上肢疾患についての病態運動学 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	上肢疾患についての病態運動学について理解する.	1 時間
8	講義内容	基礎的運動療法における臨床運動学的視点 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	2	復習	基礎的運動療法における臨床運動学的視点について理解する.	1 時間
9	講義内容	運動連鎖と生体力学的視点について ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1	復習	運動連鎖と生体力学的視点についてについて理解する.	1 時間
10	講義内容	基本動作についての臨床運動学の知識(起居動作) ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	基本動作についての臨床運動学について理解する.	1 時間
11	講義内容	基本動作についての臨床運動学(歩行) ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	基本動作についての臨床運動学について理解する.	1 時間
12	講義内容	片麻痺者の動作障害についての運動学的分析(起居動作) ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の動作障害についての運動学的分析について理解する.	1 時間
13	講義内容	片麻痺者の動作障害についての運動学的分析(歩行) ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の動作障害についての運動学的分析について理解する.	1 時間
14	講義内容	発達期の子どもに生じるロコモとその予防について ■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	子どものロコモ予防について考え整理する.	1 時間
15	講義内容	高齢期の姿勢・バランスの問題と転倒予防 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書のすべてのページを確認する.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢期の姿勢・バランスの問題と転倒予防について整理する.	1 時間

運動学の基礎知識を応用してよくある症状の評価や治療につながる知識として再編するように学ぶ  
オフィスアワーは火曜日の3時限(13:00-14:30)  
不在の場合は随時メール(tsu Yoshida@takasaki-u.ac.jp)で質問を受け付ける  
予習・復習については、試験前の学習で補完すること  
■:実務経験に基づく内容を示す

理 094 理学療法評価学 I

科目名	理学療法評価学 I (専門科目)		PTS202	講義
英文名	Physiotherapy Evaluation Method I			
担当教員	中川和昌 ■・篠原智行・高橋裕子			
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2単位	
講義目標	理学療法を実施する上で必要となる基本的な評価について学び、各評価の意義・方法について理解する。基本的な評価方法を基に、リスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた一連の流れを学習する。			
到達目標	1. 基本的な理学療法評価を理解し、その意義を説明できる。 2. 基本的な理学療法評価を理解し、その方法を説明できる。 3. 理学療法評価におけるリスクについて理解できる。 4. 理学療法評価から得た結果を解釈することができる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験及び、毎回の小テスト			
課題に対するフィードバック	毎回の小テストは次回の授業で解答・解説を行うことでフィードバックを行う。 また、小テストの内容は前回の授業で扱った内容とし、授業内容の理解度についても小テストにてフィードバックを行う。			
使用教材	(1) ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社 (2) 新・徒手筋力検査法 第9版 協同医書出版社 その他必要な資料は適宜配布します。			
1	講義内容	オリエンテーション, 理学療法評価概論		
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き, シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1時間
	1	復習	講義内容, 到達目標, 学位授与方針, 成績評価方法などを確認する。	1.5時間
2	講義内容	理学療法評価の流れ		
	該当する到達目標	予習	教科書1章—Iを読み, 理学療法評価の目的について理解する。	1時間
	1	復習	教科書1章—IIを読み, 理学療法評価の流れについて理解する。	1.5時間
3	講義内容	視診・触診 / バイタルサイン		
	該当する到達目標	予習	教科書4章を読み, 内容を理解する。	1時間
	1.2.3.4.	復習	視診・触診及びバイタルサイン評価を行う目的と実際について理解する。	1.5時間

4	講義内容	形態計測		
	該当する到達目標	予習	教科書 5 章を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	形態計測の意義と方法について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	関節可動域測定 : 体幹		
	該当する到達目標	予習	教科書 6 章を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	関節可動域測定 (体幹)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	関節可動域測定 : 上肢		
	該当する到達目標	予習	上肢の関節の参考可動域とその制限因子を確認する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	関節可動域測定(上肢)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	関節可動域測定 : 下肢		
	該当する到達目標	予習	下肢の関節の参考可動域とその制限因子を確認する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	関節可動域測定(下肢)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	筋力		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	筋力測定をする意義と方法について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	徒手筋力テスト : 体幹		
	該当する到達目標	予習	各筋の起始・停止, 支配神経について復習する	1 時間
	1,2,3,4	復習	徒手筋力テスト(体幹)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	徒手筋力テスト : 上肢		
	該当する到達目標	予習	各筋の起始・停止, 支配神経について復習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	徒手筋力テスト(上肢)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	徒手筋力テスト : 下肢		
	該当する到達目標	予習	各筋の起始・停止, 支配神経について復習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	徒手筋力テスト(下肢)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	神経学的検査 : 感覚検査		
	該当する到達目標	予習	教科書 8 章を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	神経学的検査(感覚検査)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	神経学的検査 : 反射		
	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— I を読み, 内容を理解する	1 時間
	1,2,3,4	復習	神経学的検査(反射)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	神経学的検査 : 筋トーン		
	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— II を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	神経学的検査(筋トーン)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	神経学的検査 : 協調運動機能		
	該当する到達目標	予習	教科書 11 章を読み, 内容を理解する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	神経学的検査(協調運動機能)の意義と方法について理解する。	1.5 時間
備	講義と実習を連続的に実施することで, 基礎的な技術の習得ができるように学習します。実技の際には			

考

複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。  
質問は随時受け付けます。

メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

オフィスアワー:水曜 9:00~10:30 研究室:3 号館 2 階 204 号室

## 理 095 理学療法評価学Ⅱ

科目名	理学療法評価学Ⅱ（専門科目）			PTS212	講義
英文名	Physiotherapy Evaluation Method Ⅱ				
担当教員	中川和昌 ■・篠原智行				
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、様々な理学療法の対象となる代表的な疾患別の評価方法、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学ぶ。 また特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。				
到達目標	1. 代表的な疾患の理学療法評価の流れを理解し、各評価の意義を説明できる。 2. 代表的な疾患の理学療法評価の方法について説明できる。 3. 身体各部位における理学療法評価の意義を説明できる。 4. 身体各部位における理学療法評価の方法について説明できる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験、毎回の小テスト				
課題に対するフィードバック	毎回の小テストは次回の授業で解答・解説を行う。また、小テストの内容は前回の授業で扱った内容とし、授業内容の理解度についても小テストにてフィードバックを行う。				
使用教材	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1時間
2	講義内容	姿勢・歩行の評価			
	該当する到達目標	予習	教科書13章を読み、内容を理解する。		1時間
	1,2	復習	自分の歩行を歩行周期で分けて観察し、正常との違いを比較する。		1.5時間
3	講義内容	バランス評価			
	該当する到達目標	予習	教科書12章を読み、内容を理解する。		1時間
	1,2	復習	教科書253～257ページの臨床評価指標を読み、内容を理解する		1.5時間
4	講義内容	体力評価			
	該当する到達目標	予習	教科書15章を読み、内容を理解する。		1時間

	1,2	復習	体力評価を行う際のリスクについて確認し、その内容を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ		
	該当する到達目標	予習	教科書 1 章を読み、内容を理解する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、理学療法評価の流れを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test		
	該当する到達目標	予習	人体の神経・血管系, 骨, 軟部組織の解剖について確認する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (上肢・体幹)		
	該当する到達目標	予習	上肢・体幹の代表的な運動器疾患について調べる。	1 時間
	3,4	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (下肢)		
	該当する到達目標	予習	下肢の代表的な運動器疾患について調べる。	1 時間
	3,4	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	機器を用いた評価 : 呼吸・代謝系		
	該当する到達目標	予習	呼吸・循環・代謝に関する基礎知識に関して復習し、理解する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	機器を用いた評価 : 重心動揺計, 筋電計 1,2		
	該当する到達目標	予習	教科書 12 章を読み、立位バランスに関わる要素を理解する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	機器を用いた評価 : 等速性筋力, 等尺性筋力		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章—II を読み、内容を理解する。	1 時間
	1,2	復習	機器を用いた筋力評価の利点・欠点について理解する	1.5 時間
12	講義内容	神経系疾患の評価 : 脳血管障害 (片麻痺)		
	該当する到達目標	予習	教科書 11 章—II・4 を読み、内容を理解する。	1 時間
	1,2	復習	脳血管障害の評価の流れを確認し、その方法について説明する。	1.5 時間
13	講義内容	神経系疾患の評価 : 高次脳機能評価		
	該当する到達目標	予習	運動と感覚に関係する神経伝導路を確認する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	神経系疾患の評価 : 各疾患における評価 1,2		
	該当する到達目標	予習	中枢及び末梢神経疾患を挙げ、その概要を理解する。	1 時間
	1,2	復習	配布資料を読み、各疾患の評価の流れを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	日常生活活動・生活の質の評価		
	該当する到達目標	予習	教科書 14 章を読み、内容を理解する。	1 時間
	1,2	復習	教科書 259~266 ページの臨床評価指標を読み、内容を理解する。	1.5 時間
備考	講義と実習を連続的に実施することで、基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。			

質問は随時受け付けます。

メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

オフィスアワー:水曜 9:00~10:30 研究室:3 号館 2 階 204 号室

理 096 理学療法評価学実習 I

科目名	理学療法評価学実習 I (専門科目)		PTS203	実習
英文名	Physiotherapy Evaluation Practice I			
担当教員	中川和昌 ■・篠原智行・高橋裕子			
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	理学療法を実施する上で必要となる基本的な評価について学び、各評価の意義・方法について理解する。基本的な評価方法を基に、リスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた一連の流れを、実際の実技を通じて学習する。			
到達目標	1. 基本的な理学療法評価を理解し、その意義や方法について説明できる。 2. リスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた上での検査・測定が遂行できる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	実技試験および出席点 ・ 授業態度で評価する。			
課題に対するフィードバック	授業時間内は教員 2 名が常に質問に対応できるようにし、技術的な指導を行う。 実技テストは書面及び口頭にて結果をフィードバックする。			
使用教材	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社 新・徒手筋力検査法 第 9 版 協同医書出版社			
1	講義内容	オリエンテーション		
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	視診・触診		
	該当する到達目標	予習	視診・触診に必要な解剖学的知識を復習する。	1 時間
	1,2	復習	視診・触診の評価を実施し、結果の解釈を遂行する。	1.5 時間
3	講義内容	バイタルサイン		
	該当する到達目標	予習	教科書 4 章を読み、方法について理解する。	1 時間
	1,2	復習	バイタルサインの評価を実施し、結果の解釈を遂行する。	1.5 時間
4	講義内容	形態計測 (四肢長計測)		
	該当する到達目標	予習	教科書 5 章を読み、方法について理解する。	1 時間
	1,2	復習	四肢長計測の評価を実施し、結果の解釈を遂行する。	1.5 時間

5	講義内容	形態計測(周径計測)		
	該当する到達目標	予習	教科書 5 章を読み, 方法について理解する。	1 時間
	1,2	復習	周径計測の評価を実施し, 結果の解釈を遂行する。	1.5 時間
6	講義内容	関節可動域測定 : 体幹		
	該当する到達目標	予習	教科書 6 章を読み, 方法について理解する。	1 時間
	1,2	復習	関節可動域測定の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
7	講義内容	関節可動域測定 : 上肢		
	該当する到達目標	予習	上肢の関節可動域測定に関わる基本軸, 移動軸を確認する。	1 時間
	1,2	復習	上肢の関節可動域測定の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
8	講義内容	関節可動域測定 : 下肢		
	該当する到達目標	予習	下肢の関節可動域測定に関わる基本軸, 移動軸を確認する。	1 時間
	1,2	復習	下肢の関節可動域測定の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
9	講義内容	関節可動域測定:まとめ		
	該当する到達目標	予習	第 6~8 回の授業内容を復習しておく。	1 時間
	1,2	復習	別法を含め, 関節可動域測定の方法を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	徒手筋力テスト : 体幹		
	該当する到達目標	予習	体幹の関節運動とその主動筋を確認する。	1 時間
	1,2	復習	各テストにおける代償動作を確認し, テストが正確に実施できるようにする。	1.5 時間
11	講義内容	徒手筋力テスト : 上肢		
	該当する到達目標	予習	上肢の関節運動とその主動筋を確認する。	1 時間
	1,2	復習	各テストにおける代償動作を確認し, テストが正確に実施できるようにする。	1.5 時間
12	講義内容	徒手筋力テスト : 下肢		
	該当する到達目標	予習	下肢の関節運動とその主動筋を確認する。	1 時間
	1,2	復習	各テストにおける代償動作を確認し, テストが正確に実施できるようにする。	1.5 時間
13	講義内容	徒手筋力テスト:まとめ		
	該当する到達目標	予習	第 10~12 回の授業内容を復習しておく	1 時間
	1,2	復習	別法を含め, 徒手筋力テストの方法を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	その他の筋力テスト		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章を読み, 筋力テストの種類とその意義について理解する。	1 時間
	1,2	復習	機器を用いた筋力テストの方法と結果の解釈について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	神経学的検査 : 感覚検査(表在感覚)		
	該当する到達目標	予習	教科書 8 章を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	感覚検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
16	講義内容	神経学的検査 : 感覚検査(深部感覚)		

	該当する到達目標	予習	教科書 8 章を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	感覚検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 感覚検査(複合感覚)		
17	該当する到達目標	予習	教科書 8 章を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	感覚検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 深部腱反射		
18	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— I を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	反射の検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 病的反射		
19	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— I を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	反射の検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 筋トーン		
20	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— II を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	筋トーン検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 筋トーン		
21	該当する到達目標	予習	教科書 9 章— II を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	筋トーン検査の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 協調運動機能		
22	該当する到達目標	予習	教科書 11 章を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	協調運動機能評価の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	神経学的検査 : 協調運動機能		
23	該当する到達目標	予習	教科書 11 章を読み, その方法を理解する。	1 時間
	1,2	復習	協調運動機能評価の実際を結果の解釈まで実施する。	1.5 時間
	講義内容	理学療法評価の実際		
24	該当する到達目標	予習	これまで学習した評価項目の目的, 方法をまとめる。	1 時間
	1,2	復習	必要な評価の流れが分かりやすいよう各自まとめる。	1.5 時間
備考	<p>講義と実習を連続的に実施することで, 基礎的な技術の習得ができるように学習します。実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し, 個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>メールアドレス: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー: 水曜 9:00~10:30 研究室: 3 号館 2 階 204 号室</p>			

## 理 097 理学療法評価学実習Ⅱ

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ（専門科目）		PTS213	実習
英文名	Physiotherapy Evaluation Practice Ⅱ			
担当教員	中川和昌 ■・篠原智行			
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)			
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、代表的な疾患の評価方法を理解し、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学び練習する。また、特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。			
到達目標	1. 代表的な疾患・部位別の理学療法において、基本的な評価を適応し実践できる。 2. 特別な機器を用いた評価を実施し、その意義を説明できる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	実技試験および各種グループワークやプレゼンテーションの点数、出席点・授業態度で評価する。			
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの評価は数値化して採点し結果をフィードバックする。実技試験の結果は書面及び口頭にてフィードバックを実施する。			
使用教材	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社			
1	講義内容	オリエンテーション		
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1時間
2	講義内容	姿勢の評価の実際		
	該当する到達目標	予習	教科書13章を読み、評価方法を理解する。	1時間
	1	復習	正常姿勢と異常姿勢を見分け、異常の部位が特定できるよう復習する。	1.5時間
3	講義内容	歩行の評価の実際		
	該当する到達目標	予習	教科書218ページにある歩行のパラメータを用いた評価を理解する。	1時間
	1	復習	歩行の評価の流れを復習し、自分で測定できるように練習する。	1.5時間
4	講義内容	バランス評価		
	該当する到達目標	予習	教科書12章を読み、評価方法を理解する。	1時間

	1	復習	バランスの評価の流れを復習し、自分で測定できるように練習する。	1.5 時間
5	講義内容	体力評価・持久力評価		
	該当する到達目標	予習	教科書 15 章を読み、評価方法を理解する。	1 時間
	1	復習	配布資料を読み、体力・持久力評価結果の解釈を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	各疾患における理学療法評価の流れ		
	該当する到達目標	予習	教科書 1 章を読み、評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	1 時間
	1	復習	配布資料を読み、各疾患における理学療法評価の流れを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test(上肢)		
	該当する到達目標	予習	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	1 時間
	1	復習	各種 Special Test の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
8	講義内容	運動器疾患の評価 : Special test(下肢)		
	該当する到達目標	予習	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	1 時間
	1	復習	各種 Special Test の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
9	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (頸椎)		
	該当する到達目標	予習	頸椎の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
10	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (腰椎・骨盤)		
	該当する到達目標	予習	腰椎・骨盤の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
11	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (上肢)		
	該当する到達目標	予習	上肢の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
12	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (股関節)		
	該当する到達目標	予習	股関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
13	講義内容	運動器疾患の評価 : 各部位, 疾患における評価 (膝・足関節)		
	該当する到達目標	予習	膝関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
14	講義内容	機器を用いた評価 : 呼吸・代謝系 1		
	該当する到達目標	予習	呼気ガス分析装置で評価できる項目について確認する。	1 時間
	1	復習	配布資料を読み、評価方法について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	機器を用いた評価 : 重心動揺計		
	該当する到達目標	予習	重心動揺計で評価できる項目について確認する。	1 時間

	2	復習	配布資料を読み、評価方法について理解する。	1.5 時間
16	講義内容	機器を用いた評価：筋電計		
	該当する到達目標	予習	筋電計で評価できる項目について確認する。	1 時間
	2	復習	配布資料を読み、評価方法について理解する。	1.5 時間
17	講義内容	機器を用いた評価：等速性筋力、等尺性筋力		
	該当する到達目標	予習	筋収縮様式について確認し、その特徴を調べる。	1 時間
	2	復習	配布資料を読み、評価方法について理解する。	1.5 時間
18	講義内容	神経系疾患の評価：脳血管疾患に対する評価		
	該当する到達目標	予習	脳血管疾患の症状について調べる。	1 時間
	2	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
19	講義内容	神経系疾患の評価：高次脳機能評価		
	該当する到達目標	予習	高次脳機能障害の症状について調べる。	1 時間
	2	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
20	講義内容	神経系疾患の評価：各疾患における評価		
	該当する到達目標	予習	代表的な神経系疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
21	講義内容	内部障害系疾患の評価：呼吸器疾患における評価		
	該当する到達目標	予習	代表的な内部障害系疾患の症状について調べる。	1 時間
	1	復習	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	1.5 時間
22	講義内容	日常生活活動・生活の質の評価		
	該当する到達目標	予習	教科書 14 章を読み、その方法を理解する。	1 時間
	1	復習	教科書 259～266 ページの臨床評価指標を確認し、評価方法を理解する。	1.5 時間
23	講義内容	統合と解釈(グループワーク)		
	該当する到達目標	予習	教科書 1 章を読み、評価結果のまとめ方について理解する。	1 時間
	1	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料をまとめる	1.5 時間
24	講義内容	統合と解釈(プレゼンテーション・ディスカッション)		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルを行う。	1 時間
	1	復習	ディスカッションで生じた課題に取り組み、評価結果の捉え方について学ぶ。	1.5 時間
備考	<p>講義と実習を連続的に実施することで、基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー:水曜 9:00～10:30 研究室:3 号館 2 階 204 号室</p>			

## 理 098 動作解析学

科目名	動作解析学（専門科目）			PTS302	講義
英文名	Motion Analysis				
担当教員	中川和昌 ■、富田洋介				
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	動作を通じた臨床思考過程を学び、それを通じて必要な基礎知識を再学習する。				
到達目標	1. 正常な動作と比較して、動作の特徴を観察することができる。 2. 動作の特徴について、その原因を話し合うことができる。 3. 動作の特徴について、文章および口頭で表現することができる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	毎回の小テスト、筆記試験で基礎知識面の評価を行う。毎回の講義でディスカッションやプレゼンテーションの評価を行う。筆記試験で思考過程、表現力の評価を行う。				
課題に対するフィードバック	毎回の小テストは次回の授業で答案を返却し、解説を行う。 期末試験後、問題の出題意図について説明する。				
使用教材	必要な資料等は配布します。				
1	講義内容	オリエンテーション、動作解析の目的			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
	0	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1 時間
2	講義内容	動作解析と力学的視点：ベクトル・てこ			
	該当する到達目標	予習	基礎運動学 p.28,29 「ベクトル」、p.38 「身体とてこ」の項を読み、理解する。		1 時間
	3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	動作解析と力学的視点：関節モーメント・仕事量			
	該当する到達目標	予習	基礎運動学 p.29 「関節モーメント」の項を読み、理解する。		1 時間
	3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	基本動作の動作解析：臥位～寝返り～起き上がり			
	該当する到達目標	予習	基礎運動学 p.15 「運動の捉え方」の項を読み、理解する。		1 時間
	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	基本動作の動作解析：座位～立ち上がり			
	該当する到達目標	予習	基礎運動学 p.33 「運動の法則」の項を読み、理解する。		1 時間

	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	基本動作の動作解析 : 立位～立位バランス		
	該当する到達目標	予習	抗重力筋を確認し, その働きについて理解する。	1 時間
	1,3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	基本動作の動作解析 : 歩行		
	該当する到達目標	予習	基礎運動学 p.362 「歩行周期」の項を読み, 理解する。	1 時間
	1,3	復習	歩行周期と関節運動を関連付けて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 概論		
	該当する到達目標	予習	1～7回で配布した資料を確認し, 動作解析の基礎を理解する。	1 時間
	3	復習	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	基本動作の動作解析 : 歩行 2		
	該当する到達目標	予習	歩行の関節運動と筋活動について理解する。	1 時間
	1,3	復習	異常歩行とその原因について関連付けて理解する。	1.5 時間
10	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 運動器疾患 , グループワーク 1		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動器疾患に関する知識を整理する。	1 時間
	1	復習	グループワークで実施した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる	1.5 時間
11	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 運動器疾患 , プレゼンテーション・ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	課題の運動器疾患の特徴と概要について理解する。	1 時間
	1,2,3,	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	1.5 時間
12	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 神経系疾患 , グループワーク		
	該当する到達目標	予習	基本的な神経系疾患に関する知識を整理する。	1 時間
	0	復習	グループワークで実施した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる	1.5 時間
13	講義内容	臨床における動作解析の実際 : 神経系疾患 , プレゼンテーション・ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	課題の神経系疾患の特徴と概要について理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	臨床における動作解析の実際 : その他の疾患 , グループワーク		
	該当する到達目標	予習	今まで学習した動作解析に関する知識を整理する。	1 時間
	1,2,3	復習	グループワークで実施した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる	1.5 時間
15	講義内容	臨床における動作解析の実際 : その他の疾患 , プレゼンテーション・ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	課題の疾患の特徴と概要について理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	1.5 時間
備考	国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施しますが, 実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施します。グループワークの際には複数の教員で各学生の状況を確認し, 個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。			

質問は随時受け付けます。

メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

オフィスアワー:水曜 9:00~10:30 研究室:3 号館 2 階 204 号室

理 099 動作解析学実習

科目名	動作解析学実習（専門科目）			PTS311	実習
英文名	Practice of Motion Analysis				
担当教員	中川和昌 ■、富田洋介				
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■非常勤理学療法士としてクリニックに勤務(現在)				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	「動作解析学」で学んだ内容を基に、各種測定機器を使用しながら動作解析を実施し、その理解を深める。 また治療につながる動作の見方を、実際の体験を通じて学んでいく。				
到達目標	1. 観察による動作解析結果を科学的・客観的に捉えることが出来る。 2. 自分の言葉でその特徴を説明し、積極的にディスカッションすることが出来る。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	レポート、発表及び筆記試験で評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。 期末試験終了後、その出題意図について説明する。				
使用教材	必要な資料等は配布します。				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
	0	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1 時間
2	講義内容	動作解析の実際			
	該当する到達目標	予習	動作を観察するための基本知識を復習しておく。		1 時間
	1	復習	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。		1.5 時間
3	講義内容	機器を用いた動作解析：筋電計			
	該当する到達目標	予習	筋収縮と活動電位について調べておく。		1 時間
	1	復習	筋電計を用いた動作解析の意義、利点、欠点について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	機器を用いた動作解析：重心動揺計			
	該当する到達目標	予習	姿勢制御と重心動揺について調べておく。		1 時間
	1	復習	重心動揺計を用いた動作解析の意義、利点、欠点について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	機器を用いた動作解析：2次元動作解析装置			
	該当する到達目標	予習	各関節の運動方向とその観察面、運動軸について確認しておく。		1 時間

	1	復習	2次元動作解析装置を用いた動作解析の意義, 利点, 欠点について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	機器を用いた動作解析 : 3次元動作解析装置		
	該当する到達目標	予習	加速度と角速度について調べておく	1 時間
	1	復習	3次元動作解析装置を用いた動作解析の意義, 利点, 欠点について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	グループワーク1 : 立ち上がり動作の特徴の把握		
	該当する到達目標	予習	基本となる立ち上がり動作の観察ができるようにしておく。	1 時間
	1,2	復習	グループワーク課題に関して測定・評価する項目について話し合う。	1 時間
8	講義内容	グループワーク1 : 立ち上がり動作の測定・評価		
	該当する到達目標	予習	立ち上がり動作を相分けして観察できるようにしておく。	1 時間
	1,2	復習	グループワーク課題で必要と思われる身体機能の評価項目について話し合う。	1 時間
9	講義内容	グループワーク1 : 立ち上がり動作に関わる身体機能の評価		
	該当する到達目標	予習	立ち上がり動作に関わる身体機能が挙げられるよう準備しておく。	1 時間
	1,2	復習	0	0 時間
10	講義内容	グループワーク1 : 統合と解釈		
	該当する到達目標	予習	7~9回の授業内容について再度復習しておく。	1 時間
	1,2	復習	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	3 時間
11	講義内容	グループワーク1 : プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	1 時間
	1,2	復習	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	1.5 時間
12	講義内容	グループワーク1 : ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	自分の言葉で今回のグループワークで評価した動作の特徴を説明できるように準備する。	1 時間
	1,2	復習	ディスカッションから生じた課題について追加学習を進める。	1.5 時間
13	講義内容	グループワーク2 : 立位姿勢・バランスの特徴の把握		
	該当する到達目標	予習	基本となる立位姿勢及びバランスの観察ができるよう準備する。	1 時間
	1,2	復習	グループワーク課題に関して測定・評価する項目について話し合う。	1 時間
14	講義内容	グループワーク2 : 立位姿勢・バランスの測定・評価		
	該当する到達目標	予習	バランスの評価を要素ごとに観察できるようにしておく。	1 時間
	1,2	復習	グループワーク課題で必要と思われる身体機能の評価項目について話し合う。	1 時間
15	講義内容	グループワーク2 : 立位姿勢・バランスに関わる身体機能の評価		
	該当する到達目標	予習	立位姿勢やバランスに関わる身体機能が挙げられるよう準備しておく。	1 時間
	1,2	復習	0	0 時間

16	講義内容	グループワーク2：統合と解釈		
	該当する到達目標	予習	13~15回の授業内容について再度復習しておく。	1時間
	1,2	復習	次回プレゼンテーションが行えるように資料を準備する。	3時間
17	講義内容	グループワーク2：プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	1時間
	1,2	復習	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	1.5時間
18	講義内容	グループワーク2：ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	自分の言葉で今回のグループワークで評価した動作の特徴を説明できるように準備する。	1時間
	1,2	復習	ディスカッションから生じた課題について追加学習を進める。	1.5時間
19	講義内容	グループワーク3：歩行動作の特徴の把握		
	該当する到達目標	予習	基本となる歩行動作の観察ができるようにしておく。	1時間
	1,2	復習	グループワーク課題に関して測定・評価する項目について話し合う。	1時間
20	講義内容	グループワーク3：歩行動作の測定・評価		
	該当する到達目標	予習	歩行動作を周期に分けて各関節について観察できるようにしておく。	1時間
	1,2	復習	グループワーク課題で必要と思われる身体機能の評価項目について話し合う。	1時間
21	講義内容	グループワーク3：歩行動作に関わる身体機能の評価		
	該当する到達目標	予習	歩行動作に関わる身体機能が挙げられるよう準備しておく。	1時間
	1,2	復習	0	0時間
22	講義内容	グループワーク3：統合と解釈		
	該当する到達目標	予習	19~21回の授業内容について再度復習しておく。	1時間
	1,2	復習	次回プレゼンテーションが行えるように資料を準備する。	3時間
23	講義内容	グループワーク3：プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	1時間
	1,2	復習	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	1.5時間
24	講義内容	グループワーク3：ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	自分の言葉で今回のグループワークで評価した動作の特徴を説明できるように準備する。	1時間
	1,2	復習	ディスカッションから生じた課題について追加学習を進める。	1.5時間
備考	<p>国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施しますが、実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施します。グループワークの際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー:水曜 9:00~10:30 研究室:3号館2階204号室</p>			

理 100 症候障害論

科目名	症候障害論（専門科目）		PTS401	講義
英文名	Symptomatological Disability			
担当教員	吉田 剛			
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）			
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位	
講義目標	1. 機能的制限をきたしている動作から、その原因を症候障害学的に捉える思考過程を学ぶ。 2. 症状が生じる原因について総合的（内科的・神経的・整形外科的）に考える基礎を学ぶ。 3. 実際の症例について仮説を立てて検証する過程を学ぶ。			
到達目標	1. 動作から、その原因を症候障害学的に捉える思考過程が身につく。■ 2. 症状が生じる原因について総合的（内科的・神経的・整形外科的）に考えることができる。■ 3. 実際の症例について仮説を立てて検証する過程について理解する。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	課題として提出したレポート 70%、講義中の演習を通じた課題理解 30%			
課題に対するフィードバック	課題は 10 点満点で評価し、そのポイントについてフィードバックする。			
使用教材	配布資料中心 参考書：症候障害学序説：文光堂（1800 円＋税）			
1	講義内容	症候障害論とは		
	該当する到達目標	予習	参考書をよく読み、症候障害学の概観について調べる。	1.5 時間
	1	復習	症候障害論について学んだポイントを整理してまとめる。	1.5 時間
2	講義内容	動作時の疼痛とその評価■		
	該当する到達目標	予習	疼痛の原因について整理してまとめる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	疼痛の評価方法について、様々な病態に関連付けて整理する。	1.5 時間
3	講義内容	評価と治療の進め方①（整形疾患）■		
	該当する到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
4	講義内容	評価と治療の進め方②（中枢神経疾患）■		
	該当する到達目標	予習	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	臨床思考過程の実際①（整形疾患）■		
	該当する到達目標	予習	提示された模擬症例について必要な評価項目を列挙する。	1.5 時間

	1,2,3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する.	1.5 時間
6	講義内容	臨床思考過程の実際②(中枢神経疾患)■		
	該当する到達目標	予習	提示された模擬症例について必要な評価項目を列挙する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する.	1.5 時間
7	講義内容	問題解決のためのアプローチの実際■		
	該当する到達目標	予習	提示された模擬症例について必要な治療法を考える.	1.5 時間
	1,2,3	復習	学んだ模擬症例について考え方を整理する.	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	今まで学んだ症例に関するまとめを行い、疑問点を列挙する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	今まで学んだ症例を元に実習に生かせる資料を作成する.	1.5 時間
備考	<p>講義は実際の症例を題材にしてグループディスカッション形式で問題を解決するための評価やアプローチを模索する</p> <p>オフィスアワーは月曜日の 4 時限(14:45-16:15)</p> <p>不在の場合は、メール(tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp)にて質問を受け付ける。</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す</p>			

理 101 運動器系理学療法学

科目名	運動器系理学療法学（専門科目）			PTS303	講義
英文名	Musculoskeletal Physiotherapy				
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、千木良 佑介、生方 瞳				
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	代表的な運動器系疾患に関する基本的知識を身に付けるとともに、これら運動器系疾患に対して行われている理学療法の考え方や方法、注意点を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【認知領域】代表的運動器系疾患の概要を述べるができる。</li> <li>【認知領域】代表的運動器系疾患の理学療法評価に必要な検査・測定・調査項目を列挙することができる。■</li> <li>【認知領域】代表的運動器系疾患の理学療法を行う上で注意すべき点を述べるができる。</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	<p>以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習: 授業内テスト(第2～13回冒頭実施:40点)</li> <li>復習: 授業内テスト(第2～13回授業後実施:20点)</li> <li>筆記試験(40点)</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<p>授業内小テストについてはテスト直後に解答を示し、解説する。</p> <p>筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールドマスターテキスト 整形外科系理学療法学(メジカルビュー)</li> <li>配布資料</li> </ul>				
1	講義内容	オリエンテーション、運動器系理学療法のとらえかた			
	該当する到達目標	予習	教科書(p2～7)を用いて下調べする。		1時間
	1	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1時間
2	講義内容	骨折とその理学療法			
	該当する到達目標	予習	教科書(p10～22)を用いて下調べする。		2時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		2時間
3	講義内容	脱臼とその理学療法			
	該当する到達目標	予習	教科書(p23～31)を用いて下調べする。		2時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。		2時間
4	講義内容	変形性関節症(骨壊死性疾患含む)その理学療法			
	該当する到達目標	予習	教科書(p32～43)を用いて下調べする。		2時間

	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
5	講義内容	関節リウマチとその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p45～55)を用いて下調べする	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
6	講義内容	肩関節周囲炎とその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p56～65)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
7	講義内容	靱帯・腱・筋損傷(スポーツ障害)とその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p102～127、134～144)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
8	講義内容	脊髄損傷とその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p166～192)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
9	講義内容	腰椎・腰部疾患(非特異的腰痛含む)とその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p193～213)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
10	講義内容	頸・胸椎疾患とその理学療法 1, 2, 3		
	該当する到達目標	予習	教科書(p214～221、頸椎疾患については整形外科学の教科書などを参照)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
11	講義内容	末梢神経障害とその理学療法(総論:末梢神経損傷の重症度分類など)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p224～246)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
12	講義内容	末梢神経障害とその理学療法(各論:正中神経麻痺など)		
	該当する到達目標	予習	教科書(p247～281)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
13	講義内容	運動器系疾患の疼痛(慢性疼痛含む)とその理学療法		
	該当する到達目標	予習	教科書(p90～99)を用いて下調べする。	2 時間
	1, 2, 3	復習	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
14	講義内容	運動器系疾患に対する理学療法の実際(症例検討:アクティブラーニング) ■		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0 時間
	1, 2, 3	復習	配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書とこれまでの配布資料を用いて第 1～14 回の授業内容を総括する。	6 時間
	1, 2, 3	復習	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	2 時間
備	※ スライドを用いた講義形式を基本に授業を進める。ただし、第 14 回はグループでのディスカッション			

考

を中心に授業を進める。

- ※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2 時限
- ※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3号館 2階 201 研究室;  
higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)
- ※ 本学では 45 分を 1 時間とみなす(2 時間=90 分)。
- ※ ■は実務経験に基づく内容を示す。
- ※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

理 102 運動器系理学療法学実習

科目名	運動器系理学療法学実習（専門科目）		PTS312	実習
英文名	Practice of Musculoskeletal Physiotherapy			
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、千木良 佑介、生方 瞳			
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)			
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	代表的な運動器系疾患に対して行われている理学療法の考え方や方法、注意点を確認するとともに、その実際を学ぶことで、最小限の指導で基本的理学療法が行えるだけの技能を身につける。また、生活・運動指導書の作成、自助具の作成といった運動療法以外の介入手段の重要性を認識する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>【認知領域】代表的な運動器系疾患に関する基礎的知識を述べることができる。</li> <li>【精神運動領域】代表的な運動器系疾患に関連するリスクを管理してみせることができる。■</li> <li>【精神運動領域】代表的な運動器系疾患に対する基本的理学療法を行ってみせることができる。■ <ol style="list-style-type: none"> <li>適切なオリエンテーション、声かけを行ってみせることができる。</li> <li>適切な運動・動作介助を行ってみせることができる。</li> <li>適切な運動および生活指導を行ってみせることができる。</li> </ol> </li> <li>【情意領域】運動療法以外にも介入手段があることを認識し、その重要性についての意見を示すことができる。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	<p>以下の4項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験において36点(60%)以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習:授業内テスト(第1・5・9・13・15・17回冒頭実施:20点)</li> <li>運動・生活指導書の発表(第11・12回:10点)</li> <li>自助具についてのレポート(第20回後提出:10点)</li> <li>実技試験(60点)</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	<p>授業内小テストについてはテスト直後に解答を示し、解説する。</p> <p>レポートについてはルーブリックを用いて採点基準および得点を客観化し、返却する。</p> <p>実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(中山書店)</li> </ul>			
1	講義内容	骨折・脱臼を有する人に対する理学療法(基本的知識の確認)		
	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅰ:p21~72)を用いて骨折・脱臼を有する人に対する理学療法のイメージを持つ。	1時間

1	復習	特に必要としない。	0 時間
2	講義内容	骨折を有する人に対する術後理学療法:臥床期(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
3	講義内容	骨折を有する人に対する術後理学療法:離床期(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
4	講義内容	骨折を有する人に対する術後理学療法:歩行開始期(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
5	講義内容	変形性関節症を有する人に対する理学療法(基本的知識の確認)	
	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅰ:p73~116)を用いて変形性関節症を有する人に対する理学療法のイメージを持つ。
	1	復習	特に必要としない。
6	講義内容	変形性股関節症を有する人に対する術後理学療法:THA(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
7	講義内容	変形性膝関節症を有する人に対する術後理学療法:TKA(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
8	講義内容	変形性膝関節症を有する人に対する保存的理学療法(実技練習:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。
9	講義内容	関節リウマチを有する人に対する理学療法(基本的知識の確認)	
	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅰ:p117~138)を用いて関節リウマチを有する人に対する理学療法のイメージを持つ。
	1	復習	特に必要としない。
10	講義内容	関節リウマチを有する人に対する理学療法(生活・運動指導書の作成:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	生活・運動指導書を作成する上で参考になる資料を下調べする。
	2, 3, 4	復習	特に必要としない。
11	講義内容	関節リウマチを有する人に対する理学療法(生活指導書の発表:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3, 4	復習	生活指導書の作成ポイントを整理する。
12	講義内容	関節リウマチを有する人に対する理学療法(運動指導書の発表:アクティブラーニング)	
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。
	2, 3, 4	復習	運動指導書の作成ポイントを整理する。
13	講義内容	肩関節疾患を有する人に対する理学療法(基本的知識の確認)	

	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅱ:p67~106)を用いて肩関節疾患を有する人に対する理学療法のイメージを持つ。	1時間
	1	復習	特に必要としない。	0時間
14	講義内容	肩関節疾患を有する人に対する理学療法(実技練習:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1時間
15	講義内容	頸部痛を有する人に対する理学療法(基礎的知識の確認)		
	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅱ:p1~20)を用いて頸部痛を有する人に対する理学療法のイメージを持つ。	1時間
	1	復習	特に必要としない	0時間
16	講義内容	頸部痛を有する人に対する理学療法(実技練習:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1時間
17	講義内容	腰痛を有する人に対する理学療法(基礎的知識の確認)		
	該当する到達目標	予習	教科書(Ⅱ:p21~44)を用いて腰痛を有する人に対する理学療法のイメージを持つ。	1時間
	1	復習	特に必要としない。	0時間
18	講義内容	腰痛を有する人に対する理学療法(実技練習:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	2, 3	復習	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	1時間
19	講義内容	運動器系疾患と自助具(基本的知識の確認)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	1	復習	授業で紹介された基本的知識を整理する。	1時間
20	講義内容	運動器系疾患と自助具(実技練習:アクティブラーニング)		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	2, 3	復習	特に必要としない。	0時間
21	講義内容	模擬症例の提示		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	1	復習	模擬症例に理学療法を行う上で必要な情報を収集する。	1時間
22	講義内容	模擬症例に対する理学療法の検討(実技練習:アクティブラーニング)■		
	該当する到達目標	予習	特に必要としない。	0時間
	2, 3, 4	復習	模擬症例に対する理学療法の実技を同級生と練習する。	1時間
備考	<p>※ 2人組で実技練習を行うことを基本に授業を進める。必要に応じてデモンストレーションを交える。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜 1・2時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3号館2階201研究室;higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>※ 本学では45分を1時間とみなす(2時間=90分)。</p>			

※ ■は実務経験に基づく内容を示す。

※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。

理 103 神経系理学療法学

科目名	神経系理学療法学（専門科目）			PTS304	講義
英文名	Neurological Physiotherapy				
担当教員	吉田剛、富田洋介				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	1.神経系疾患に対する理学療法の基礎を理解する。 2.脳卒中に対する理学療法を時期別におさえて、流れを理解する。 3.神経系理学療法を行なう上でのリスクについて理解する。 4.神経系理学療法の評価と治療の組み立てについて理解する。 5.各種神経系疾患についての理学療法についても基礎知識を身につける。				
到達目標	1.基本的な神経系疾患に対する理学療法について概要を説明することができる。■ 2.脳卒中の理学療法について各期で行う評価と治療のポイントを説明することができる。■ 3.神経系理学療法を行ううえで必要なリスク管理項目を挙げることができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	12 回の小テスト 20%、実習室講義ノート(5 回分)10%、講義で出されるレポート 15%、期末試験 50%、授業参加状況・授業態度 5%で総合的に評価する。(提出物による加点を行う場合あり) 成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。				
課題に対するフィードバック	各回の小テストの点数を開示し、不足点はフィードバックする。講義ノートの取り方について 10 点満点で採点し、参考例を示してフィードバックする。レポートについても 10 点満点で採点し、全体にフィードバックする。				
使用教材	潮見泰蔵 脳卒中に対する標準的理学療法介入(第 2 版) 文光堂 6,510 円				
1	講義内容	オリエンテーション 神経系理学療法の範囲とリハビリテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容とテキストを確認し、講義の目標などを学習する。	1.5 時間	
	1	復習	神経系理学療法の範囲とリハビリテーションについて理解する。	1 時間	
2	講義内容	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法			
	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間	
	1	復習	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法について理解する。	1 時間	
3	講義内容	理学療法評価としての脳卒中評価■			
	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	脳卒中者に対する理学療法評価について整理し理解する。	1 時間	
4	講義内容	画像診断とリスク管理■			

	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1	復習	画像診断とリスク管理について整理し理解する。	1 時間
	講義内容	<b>高次脳機能障害に対する理学療法(デモ)■</b>		
5	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	高次脳機能障害に対する理学療法について整理し理解する。	1 時間
	講義内容	<b>急性期理学療法 (デモ)■</b>		
6	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における急性期理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>回復期理学療法 (デモ)■</b>		
7	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における回復期理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>生活期理学療法 (デモ)■</b>		
8	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	神経系疾患における生活期理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>脳卒中者に対する装具療法(デモ)■</b>		
9	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	脳卒中者に対する装具療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>脳卒中における様々な症状とADLへの対応■</b>		
10	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	2,3	復習	脳卒中における様々な症状とADLへの対応について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>パーキンソン病に対する理学療法■</b>		
11	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1	復習	パーキンソン病に対する理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>小脳疾患に対する理学療法(脊髄小脳変性症など)■</b>		
12	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1,2	復習	小脳疾患に対する理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>進行性神経疾患に対する理学療法■</b>		
13	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行性神経疾患に対する理学療法について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>神経疾患に対する理学療法の実際■</b>		
14	該当する到達目標	予習	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 時間
	1	復習	神経疾患に対する理学療法の実際について理解する。	1 時間
	講義内容	<b>まとめ</b>		
15	該当する到達目標	予習	今までの授業を総合的に振り返り、理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経系理学療法について総合的に理解する。	1 時間
備考	講義の一部は、教員のデモおよび解説に基づいて行い、実際のケースの動画などを見ながら実践的に学修する。			

オフィスアワーは火曜日の 3 時限 (13:00-14:30)

不在の場合は、メール (tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp) にて随時質問を受け付ける。

予習・復習については、試験前の学習で補完すること

■: 実務経験に基づく内容を示す

理 104 神経系理学療法学実習

科目名	神経系理学療法学実習（専門科目）		PTS313	実習
英文名	Practice of Neurological Physiotherapy			
担当教員	吉田剛、富田洋介			
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）			
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	神経系の理学療法でよく用いられる評価手技および治療手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。理学療法基礎学実習、理学療法評価学実習などを踏まえて、基本的なハンドリング能力の確認から、脳卒中模擬患者に対する動作誘導、歩行練習、感覚刺激、認知へのアプローチなどの治療手技について身につける。			
到達目標	1.基本的な神経系疾患に対する理学療法評価手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■ 2.基本的な神経系疾患に対する理学療法治療手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■ 3.各時期に見合った評価・治療を適切に選択できる。■ 4.神経疾患患者の生活を考えたアプローチの必要について理解し、説明できる。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	レポート 20%、実技確認テスト 10%、講義ノート 10%、実技テスト 50%、授業貢献度 10%			
課題に対するフィードバック	課題については 10 点満点で採点し、全体にポイントをフィードバックする。実技確認テストについても個別にその場で点数を伝え、全体に注意点をフィードバックする。			
使用教材	神経系理学療法学テキストおよび配布資料＋自作ノート			
1	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 1-①リスク管理, 姿勢管理, 評価■		
	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する.	1 時間
2	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 1-②環境適応へのアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理し、理解する.	1 時間
3	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 2-① 関節可動域へのアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理し、理解する.	1 時間
4	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 2-② 運動促通■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理し、理解する.	1 時間

5	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 3-① 離床への準備(運動経験と身体図式)■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理し、理解する.	1 時間
6	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 3-② 離床への準備(機能的座位)■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理し、理解する.	1 時間
7	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 4-① ベッドサイド立位および歩行■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
8	講義内容	片麻痺者への急性期理学療法 4-② ベッドサイド立位および歩行■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
9	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 1-① 運動麻痺へのアプローチ(上肢)■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
10	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 1-② 運動麻痺へのアプローチ(下肢)■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
11	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 2-① 両側同時活動を用いた運動療法■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
12	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 2-② 交互活動を用いた運動療法■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
13	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 3-① 歩行獲得に向けたアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
14	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 3-② 応用歩行練習■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
15	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 4-① ADL改善に向けたアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	4	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
16	講義内容	片麻痺者への回復期理学療法 4-② 退院準備のためのアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について練習する.	1.5 時間
	4	復習	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する.	1 時間
17	講義内容	片麻痺者への生活期理学療法(評価)■		

	該当する到達目標	予習	前回の講義で教わった実技について実技試験に向けて練習する.	1.5 時間
	4	復習	片麻痺者への生活期理学療法における評価について整理する.	1 時間
	講義内容	片麻痺者への生活期理学療法(アプローチ) ■		
18	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	4	復習	片麻痺者への生活期理学療法について整理して理解する.	1 時間
	講義内容	片麻痺者の ADL とそれを保証する生活環境についての指導(グループ学習) ■		
19	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の ADL と生活環境について整理して理解する.	1 時間
	講義内容	片麻痺者の ADL および生活環境についての指導について(発表) ■		
20	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の ADL、生活環境についての指導について理解する.	1 時間
	講義内容	片麻痺者の装具療法と理学療法 1 ■		
21	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の装具療法についてノートに整理して理解する.	1 時間
	講義内容	片麻痺者の装具療法と理学療法 2 ■		
22	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者の装具療法についてノートに整理して理解する.	1 時間
	講義内容	特殊な症状に対する理学療法 ①痙縮 ■		
23	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	特殊な症状に対する理学療法についてノートに整理して理解する.	1 時間
	講義内容	特殊な症状に対する理学療法 ②高次脳機能障害 ■		
24	該当する到達目標	予習	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく.	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	特殊な症状に対する理学療法についてノートに整理して理解する.	1 時間
備考	<p>本講義は実習科目であり時間割上 2 コマ連続で開講し、前回の内容について毎回実技試験を行う生活に関する内容では、グループ学習および発表を行う</p> <p>オフィスアワーは火曜日の 3 時限(13:00-14:30)</p> <p>不在の場合は随時メール【<a href="mailto:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp">tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp</a>】で質問を受け付ける。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習でも補完すること</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す</p>			

理 105 内部障害系理学療法学

科目名	内部障害系理学療法学（専門科目）			PTS305	講義
英文名	Internal Physical Therapy				
担当教員	解良 武士				
科目に関連した実務経験	常勤：大学病院(5年間)および急性期一般病院(2年間) 非常勤：急性期病院・慢性期病院等(20年)				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	呼吸理学療法について学習し、包括的呼吸リハビリテーションにおいて、その役割を果たすことができるようになること。 呼吸に関する基礎知識をしっかりと復習・確認し、疾患についての理解を深めながら、呼吸理学療法の知識と技術が身に付くように、予習や復習、実技の練習等を自主的に行うよう心掛けること。				
到達目標	1.呼吸器・循環器の解剖・生理学を説明できる。(特に肺の構造、ガス交換、代謝など) 2.呼吸器の主な疾患について、その症状、特徴、治療等を説明できる。■ 3.呼吸器・循環器疾患患者の理学療法評価ができる。■ (視診、聴診、打診、画像診断、肺機能、運動耐容能、ADL, QOL など) 4.呼吸器・循環器疾患患者に対する理学療法の立案と一部実施できる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 70% 課題レポート 20% ポートフォリオ 10%				
課題に対するフィードバック	提出物については総評をフィードバックし、小テストについてはテスト直後にできていない点を中心に実技的にフィードバックを行う。				
使用教材	【教科書】石川 朗・玉木 彰(編)理学療法テキスト 内部障害 呼吸 中山書店 2010 【参考書】3学会編 呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法 照林社 2003				
1	講義内容	呼吸リハビリテーション総論			
	該当する到達目標	予習	呼吸リハビリテーションの概念について調べておく		1.5 時間
	2,3	復習	大まかな呼吸リハビリテーションの内容について整理する。		1 時間
2	講義内容	呼吸器系の解剖学・運動学			
	該当する到達目標	予習	基礎的な生理学/運動生理学について調べておく		1.5 時間
	2,3	復習	主な呼吸/循環器障害について正常な生理反応を踏まえて説明する		1 時間
3	講義内容	呼吸理学療法に必要な基礎知識			
	該当する到達目標	予習	ガス交換/換気の生理学と障害について調べておく		1.5 時間
	2,3	復習	呼吸器障害が運動を妨げるメカニズムについて整理する		1 時間
4	講義内容	呼吸理学療法評価 I (画像・血ガス・栄養・身体など)■			
	該当する到達目標	予習	呼吸器障害に対する理学療法施行に必要な評価項目を調べる		1.5 時間

	2,3	復習	各種検査結果の解釈について整理する	1 時間
5	講義内容	呼吸理学療法評価Ⅱ(呼吸機能・呼吸困難感・呼吸パターンなど) ■		
	該当する到達目標	予習	スパイロメトリーについて調べる	1.5 時間
	2,3	復習	各種理学療法評価について整理する	1 時間
6	講義内容	呼吸理学療法評価Ⅲ(呼吸機能検査実習) ■		
	該当する到達目標	予習	前回までの評価手技について復習する	1.5 時間
	2,3	復習	手技について練習する	1 時間
7	講義内容	呼吸理学療法手技Ⅰ(換気増大のための) ■		
	該当する到達目標	予習	換気の運動学について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	各種実技について練習する	1 時間
8	講義内容	呼吸理学療法手技Ⅱ(排痰のための) ■		
	該当する到達目標	予習	気道の構造について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	各種実技について練習する	1 時間
9	講義内容	呼吸理学療法手技Ⅲ(呼吸困難改善のための) ■		
	該当する到達目標	予習	息切れの知覚について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	各種実技について練習する	1 時間
10	講義内容	呼吸理学療法手技Ⅲ(実技練習) ■		
	該当する到達目標	予習	前回までの手技について復習しておく	1.5 時間
	2,3	復習	手技について練習する	1 時間
11	講義内容	運動療法(糖尿病・高血圧・高脂血症) 運動処方原則(運動強度・時間・頻度・種類・手順、中止基準などウォーミングアップ・クールダウン等の手順)		
	該当する到達目標	予習	最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値について調べておく	1.5 時間
	2,3	復習	運動処方へどのように役立てるか考える	1 時間
12	講義内容	呼吸理学療法手技Ⅲ(運動療法・日常生活動作等) ■		
	該当する到達目標	予習	運動や日常生活動作を制限する因子について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	各種運動療法・日常生活動作指導について整理する	1 時間
13	講義内容	疾患別呼吸理学療法(1)－慢性呼吸不全		
	該当する到達目標	予習	COPD について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	COPD に対する運動療法の考え方について整理する。	1 時間
14	講義内容	疾患別呼吸理学療法(2)－急性呼吸不全(外科手術前後)		
	該当する到達目標	予習	外科術後の生体反応について調べる	1.5 時間
	2,3	復習	リスク管理について整理する	1 時間
15	講義内容	ケーススタディー		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ出されたケースについてまとめておく	1.5 時間
	2,3	復習	発表されたケースについてレポートを作成する。	1 時間
備考	教科書を用いて各回のテーマに沿って解説する。実技については、まず理論の解説とデモンストレーションで方法を示し、学生同士で練習を行うものとする。			

問い合わせ先: 研究室: 5号館 5階 503 : [kera@takasaki-u.ac.jp](mailto:kera@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー 月曜 2限目、金曜 2限目

理 106 内部障害系理学療法実習

科目名	内部障害系理学療法実習（専門科目）			PTS314	実習
英文名	Practice of Internal Physical Therapy				
担当教員	千木良 佑介				
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験） 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	呼吸・循環・代謝疾患の理学療法でよく用いられる手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。呼吸理学療法では、介助呼吸手技や排痰法などの実技練習を行い、心疾患や糖尿病に対する運動療法では、リスク管理方法、運動処方などを実際に体験するよう実習を行う。				
到達目標	1.呼吸器や循環器疾患について理解できる。 2.呼吸器や循環器疾患患者の理学療法評価ができる。 （視診、聴診、打診、画像診断、肺機能、運動耐容能、ADL, QOL など） 3.呼吸・循環・代謝の理学療法の立案・実施ができる。 （評価からの考察、プログラミング）				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 70% 授業態度 20% 課題レポート 10%				
課題に対するフィードバック	筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。				
使用教材	配布資料 【参考資料】石川 朗・玉木 彰(編)理学療法テキスト 内部障害循環・代謝 中山書店 2015				
1	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅰ			
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。		1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間
2	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅱ			
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。		1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間
3	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅲ			
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。		1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間

4	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅳ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
5	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅴ ■		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
6	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅵ ■		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
7	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅶ ■		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
8	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅷ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
9	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅸ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
10	講義内容	循環器疾患の理学療法Ⅹ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
11	講義内容	循環器疾患の理学療法ⅩⅠ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
12	講義内容	循環器疾患の理学療法ⅩⅡ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
13	講義内容	人工呼吸器についてⅠ		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
14	講義内容	人工呼吸器についてⅡ 2,3,4		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
15	講義内容	人工呼吸器についてⅢ ■		
	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
16	講義内容	人工呼吸器についてⅣ ■		

	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	排痰・吸引について I		
17	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	排痰・吸引について II		
18	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	排痰・吸引について III ■		
19	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	排痰・吸引について IV ■		
20	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	外科の術前後の呼吸理学療法 I		
21	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	外科の術前後の呼吸理学療法 II		
22	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	閉塞性肺疾患の呼吸理学療法 I		
23	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	閉塞性肺疾患の呼吸理学療法 II		
24	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	糖尿病の理学療法 I		
25	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	糖尿病の理学療法 II		
26	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	腎疾患の理学療法 I		
27	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	腎疾患の理学療法 II		
28	該当する到達目標	予習	当該項目について調べておく。	1.5 時間

	2,3,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
備考	<p>授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。予習・復習の不足時間については、小テストや試験前の学習で補完することを説明する。</p> <p>問合せ先: 千木良佑介</p> <p>保健医療学部理学療法学科: 5号館5階504研究室: chigira@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー①金曜 13:00~16:30</p> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>			

理 107 日常生活活動学

科目名	日常生活活動学（専門科目）			PTS204	講義
英文名	Activity of Daily Living				
担当教員	篠原智行、田中繁弥				
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。 生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 2単位		
講義目標	日常生活活動(ADL)の概念や範囲を知り、基本的な ADL である、起居・移動動作、食事、整容、更衣、排泄、入浴について、各動作に必要な運動要素を学ぶ。また障害によってどのような ADL に制限が生じるか、主な疾患の特徴的な ADL 障害の評価や支援方法を学ぶ。				
到達目標	1.ADL とは何か一般の人が理解できるように説明できる。 2.自分の行っている ADL を理学療法士の視点で動作分析し、説明できる。 3.障害により、どのような ADL 制限が生じるか想像できる。■ 4.疾患により特徴的な ADL 制限とその支援方法に関して説明できる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	発表内容 20%、筆記試験 80%				
課題に対するフィードバック	発表の際にコメントをする。試験に関しては解説を行う。				
使用教材	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第 5 版、鶴見隆正編集、医学書院				
1	講義内容	総論 ADL の概念と範囲、ADL と障害(ICF)、ADL と QOL			
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p4-33)を学習する。		1.5 時間
	1	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1.5 時間
2	講義内容	ADL と運動学①寝返り・立ち上がり動作分析■			
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p34-47)を学習する。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1.5 時間
3	講義内容	ADL と運動学② ADL の評価■			
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p48-71)を学習すること。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1.5 時間
4	講義内容	グループワーク ADL 動作の各段階に必要な機能を考える			
	該当する到達目標	予習	これまで配布した資料を読み復習する。		1.5 時間
	1,2	復習	各グループの課題の動作について考えてまとめる。		1.5 時間
5	講義内容	食事グループ発表 20 分+食事動作のポイント体験（プリン、ゼリー、ヨーグルト持参）			
	該当する到達目標	予習	発表準備をしておく。		1.5 時間

	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
6	講義内容	整容グループ発表 20分+整容動作のポイント体験(髭剃り、クシ持参)		
	該当する到達目標	予習	発表準備をしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習すること。	1.5 時間
7	講義内容	更衣グループ発表 20分+更衣動作のポイント体験(大きめのズボン、上着持参)		
	該当する到達目標	予習	発表準備をしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
8	講義内容	排泄グループ発表 20分+排泄動作のポイント体験(大きめのズボン持参)		
	該当する到達目標	予習	発表準備をしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
9	講義内容	入浴グループ発表 20分+入浴動作のポイント体験(タオル持参)		
	該当する到達目標	予習	発表準備をしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
10	講義内容	自助具・日常生活用具 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p72-86)を学習する。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
11	講義内容	歩行補助具と車いす ■		
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p87-100)を学習する。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
12	講義内容	疾患別 ADL 脳血管障害		
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p102-118)を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
13	講義内容	疾患別 ADL 脊髄損傷		
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p119-136)を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
14	講義内容	疾患別 ADL 大腿骨頸部骨折術後		
	該当する到達目標	予習	教科書で該当範囲(p161-167)を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料を読み返し復習する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの配布資料や教科書範囲を確認し、理解が不十分な部分を把握しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	これまでの配布資料および教科書を読み返し復習する。	1.5 時間
備考	<p>予習・復習について、筆記試験および発表にかかる学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。グループ発表にあたっては、発表内容や方法を随時指導する。</p> <p>【オフィスアワー】</p>			

篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます(shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 108 日常生活活動学実習

科目名	日常生活活動学実習（専門科目）			PTS214	実習
英文名	Practice of Activity of Daily Living				
担当教員	篠原智行、田中繁弥				
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。 生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	模擬的障害設定を行い、生活上で生じる活動制限を体験し、その中でどのように解決していくのか、生活環境設定や動作方法の変更などを考えながら学習する。障害がある場合の段差やドアの開閉、トイレ動作、入浴動作、車椅子や杖を使用した場合の困難さ、生活環境による影響などをシミュレーション機器を用いながら、体験し、生活上の工夫や障害に見合った動作方法の選定ができるように実習する。				
到達目標	1.日常生活場面における様々な問題について、自分で解決方法を考えることができる。 2.患者家族や他職種に伝わるように日常生活の援助方法を説明できる。■ 3.実習に出て、指導者の見守りのもと、患者さんをベッドから起こし、車椅子に移乗させ、リハ室等へお連れできる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	実技試験 70%、レポート課題 20%、授業態度 10%				
課題に対するフィードバック	実技テストに関しては解説を行う。レポートは採点して返却する。				
使用教材	日常生活活動学に準ずる				
1	講義内容	基本動作の考察①			
	該当する到達目標	予習	シラバスを確認しておく。		1.5時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1時間
2	講義内容	基本動作の考察②			
	該当する到達目標	予習	各基本動作の特徴を把握する。		1.5時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1時間
3	講義内容	基本動作の介助:寝返り■			
	該当する到達目標	予習	寝返り動作の特徴を把握する。		1.5時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。		1時間
4	講義内容	基本動作の介助:起き上がり■			
	該当する到達目標	予習	起き上がり動作の特徴を把握する。		1.5時間

	1,2,3	復習	起き上がりの介助技術を練習する。	1 時間
5	講義内容	基本動作の介助:立ち上がり■		
	該当する到達目標	予習	立ち上がり動作の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	立ち上がりの介助技術を練習する。	1 時間
6	講義内容	基本動作の介助:移乗■		
	該当する到達目標	予習	移乗動作の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	移乗の介助技術を練習する。	1 時間
7	講義内容	基本動作と ADL 体験と支援(片麻痺)		
	該当する到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への介助技術を練習する。	1 時間
8	講義内容	基本動作と ADL 体験と支援(片麻痺)		
	該当する到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者への介助技術を練習する。	1 時間
9	講義内容	基本動作と ADL 体験と支援(脊髄損傷)		
	該当する到達目標	予習	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	脊髄損傷者への介助技術を練習する。	1 時間
10	講義内容	基本動作と ADL 体験と支援(脊髄損傷)		
	該当する到達目標	予習	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	脊髄損傷者への介助技術を練習する。	1 時間
11	講義内容	高齢者の日常生活活動と支援		
	該当する到達目標	予習	高齢者の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。	1 時間
12	講義内容	高齢者の日常生活活動と支援		
	該当する到達目標	予習	高齢者の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。	1 時間
13	講義内容	基本動作の考察③■		
	該当する到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者に対する基本動作の介助技術を練習する。	1 時間
14	講義内容	基本動作の考察④■		
	該当する到達目標	予習	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	片麻痺者に対する基本動作の介助技術を練習する。	1 時間
15	講義内容	車いすの名称と調整■		
	該当する到達目標	予習	車いすの構造や名称を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。	1 時間
16	講義内容	補助具の調節■		
	該当する到達目標	予習	補助具の名称や種類を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および教科書を読み返し復習する。	1 時間

	講義内容	ADL 指導 ■		
17	該当する到達目標	予習	セルフケアと移乗動作について復習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ADL 指導の技術を練習する。	1 時間
	講義内容	地域住民の活動と支援①		
18	該当する到達目標	予習	IADL や活動の概念を復習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	地域住民の活動と理学療法に関わりについて考察する。	1 時間
	講義内容	地域住民の活動と支援②		
19	該当する到達目標	予習	IADL や活動の概念を復習する。	1.5 時間
	1,2	復習	地域住民の活動と理学療法に関わりについて考察する。	1 時間
	講義内容	生活活動範囲の拡大:車椅子での買い物体験①		
20	該当する到達目標	予習	事前に配布した資料を読み実習内容を把握する。	1.5 時間
	1,2	復習	体験した内容をまとめて考察する。	1 時間
	講義内容	生活活動範囲の拡大:車椅子での買い物体験②		
21	該当する到達目標	予習	事前に配布した資料を読み実習内容を把握する。	1.5 時間
	1,2	復習	体験した内容をまとめて考察する。	1 時間
	講義内容	家事動作:片手でのカレー作り①		
22	該当する到達目標	予習	事前に配布した資料を読み実習内容を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	体験した内容をまとめて考察する。	1 時間
	講義内容	家事動作:片手でのカレー作り②		
23	該当する到達目標	予習	事前に配布した資料を読み実習内容を把握する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	体験した内容をまとめて考察する。	1 時間
備考	<p>予習・復習について、実技試験およびレポートにかかる学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>主に配布資料を用い、見学・体験・練習を繰り返す実習を行う。20～23 回目は体験型実習を行う。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 109 義肢装具学

科目名	義肢装具学（専門科目）		PTS215	講義
英文名	Prosthetics and Orthotics			
担当教員	千木良佑介			
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験） 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）			
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1 単位	
講義目標	切断者に適応される義肢と様々な目的で用いられる装具について、その適応および種類、チェックアウトの方法などについて広く学ぶ。特に、大腿切断、下腿切断、上腕切断、前腕切断に対する、義肢の適応について、義肢の種類、パーツの種類、適合評価などを学ぶ。			
到達目標	1.義肢の種類、適応について言える。 2.装具の種類、適応が言える。 3.義肢装具を用いた理学療法について説明できる。■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験 80% 授業態度 10% 課題レポート 10%			
課題に対するフィードバック	筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。			
使用教材	配布資料 【教科書】石川 朗・永富史子(編)理学療法テキスト 義肢学 中山書店 2010			
1	講義内容	オリエンテーション(義肢とは・装具とは・装着を成功させるためにはなど)		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
2	講義内容	切断の理学療法の流れ・処方因子と支給制度		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
3	講義内容	切断の適応疾患と切断術		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
4	講義内容	切断術後の合併症と術後管理■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間

5	講義内容	大腿義足について(ソケット・膝継手・足継手・足部)		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
6	講義内容	下腿義足・その他の義足について(種類・アライメントなど)		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
7	講義内容	切断者の日常生活・断端管理法 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
8	講義内容	装具総論(適応疾患・処方因子と支給制度)		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
9	講義内容	上肢・体幹装具について 1 (種類・チェックアウトなど) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
10	講義内容	上肢・体幹装具について 2 (種類・チェックアウトなど) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
11	講義内容	下肢・靴型装具について 1 (種類・チェックアウトなど) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
12	講義内容	下肢・靴型装具について 2 (種類・チェックアウトなど) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
13	講義内容	下肢・靴型装具について 3 (種類・チェックアウトなど) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
14	講義内容	車椅子・歩行補助具について 1 (種類・適応・使用方法)2,4		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
15	講義内容	車椅子・歩行補助具について 2 (種類・適応・使用方法)		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当ページを確認しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
備考	<p>授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。予習・復習の不足時間については、試験前の学習で補完 すること。</p> <p>問い合わせ先: 千木良佑介</p> <p>保健医療学部理学療法学科: 5 号館 5 階 504 研究室: chigira@takasaki-u.ac.jp</p>			

オフィスアワー ①金曜 13:00～16:30

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

理 110 義肢装具学演習

科目名	義肢装具学演習（専門科目）			PTS306	演習
英文名	Practice of Prosthetics and Orthotics				
担当教員	千木良佑介				
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験） 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	実際に義肢・装具の作成過程を体験し、また作成した補装具を用いた練習方法などについても学ぶ。また、どのようにして必要な補装具を選択するかについてもグループワークなどを利用しながら主体的に学ぶ。義足ソケット作成、アライメント調整、適合判定の一連の過程を経験する。また、義足完成後の歩行練習の実際についても学ぶ。簡易装具の作成についても経験し、装具を使用した歩行練習についても学ぶ。				
到達目標	1.義肢の種類、適応について説明できる。 2.装具の種類、適応が説明できる。 3.義肢装具を用いた理学療法が行える。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 70% 授業態度 20% 課題レポート 10%				
課題に対するフィードバック	筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。				
使用教材	配布資料 【参考資料】石川 朗・佐竹将弘(編)理学療法テキスト 装具学 中山書店 2010				
1	講義内容	切断者の理学療法評価(ソケット・義足作成のための) I			
	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。		1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間
2	講義内容	切断者の理学療法評価(ソケット・義足作成のための) II			
	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。		1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間
3	講義内容	大腿義足・ソケット作成 I ■			
	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。		1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		1 時間
4	講義内容	大腿義足・ソケット作成 II ■			

	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	ベンチアライメント・ダイナミックアライメント I ■		
5	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	ベンチアライメント・ダイナミックアライメント II ■		
6	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	下腿義足の作成 I ■		
7	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	下腿義足の作成 II ■		
8	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験 I ■		
9	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験 II ■		
10	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成 I ■		
11	該当する到達目標	予習	該当項目の装具について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成 II ■		
12	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	体幹・上肢装具のチェックアウト I ■		
13	該当する到達目標	予習	該当項目の装具について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	体幹・上肢装具のチェックアウト II ■		
14	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
	講義内容	車椅子操作・保守点検。歩行補助具の使い方 ■		
15	該当する到達目標	予習	該当項目について調べておく。	1.5 時間
	2,4	復習	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1 時間
備考	予授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。習・復習の不足時間については、試験前の学習で補完することを説明す			

る。

問い合わせ先:千木良佑介

保健医療学部理学療法学科:5号館5階504研究室:chigira@takasaki-u.ac.jp)

オフィスアワー ①金曜 13:00~16:30

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

## 理 111 物理療法学

科目名	物理療法学（専門科目）		PTS205	講義
英文名	Physical Agents			
担当教員	竹内伸行			
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)</li> <li>・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)</li> </ul>			
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	各種物理的刺激の性質と生体に対する作用を理解する。物理療法の適応となる症状や障害を理解し、適切な物理療法を選択できるように、その基本的知識を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理療法の歴史や今日の医療における位置づけ、重要性を理解し、他者に説明できる。■</li> <li>2. 物理療法の基礎的理論、適応、禁忌、リスクを理解し、他者にできる。■</li> <li>3. 基本的な病態に応じた物理療法の選択およびその作用メカニズムを理解し、他者に説明できる。■</li> <li>4. 各物理療法機器の名称や基本的操作方法を覚え、治療の流れを理解する。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験で評価する(100%)。			
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。			
使用教材	<p>エビデンスから身につける物理療法 第1版、庄本康治編、羊土社、2017 5200 円＋税 ISBN 978-4-7581-0221-6</p> <p>【参考図書】 最新物理療法の臨床適応 庄本康治編集 文光堂 2012 8400 円 理学療法テキスト 15 物理療法学・実習 石川 朗編 中山書店 2014 2400 円</p>			
1	講義内容	<p>オリエンテーション、物理療法の歴史と分類■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法における物理療法の歴史、位置づけとその分類を学ぶ。</li> <li>・物理療法の必要性、重要性を学ぶ。</li> </ul>		
	該当する到達目標	予習	物理療法の歴史、今日の医療における物理療法の位置づけを理解する。	1.5 時間
	1	復習	物理療法の必要性や重要性を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	<p>生体における物理現象■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の身体における物理現象、物理的特性を学ぶ。また、その特性と物理療法の関係を学ぶ。</li> </ul>		

	該当する到達目標	予習	生体で生じる物理現象を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	生体の物理学的特性と物理療法の関連性を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 1(温熱、寒冷) ・熱とは何か、温熱および寒冷の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における温熱療法、寒冷療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	熱、寒冷の物理学的性質を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	温熱療法、寒冷療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
4	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 2(水) ・水の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における水治療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	水の物理学的性質を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	水治療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
5	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 3(光) ・光の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における光線療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	光の物理学的性質を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	光線療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
6	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 4(紫外線、極超短波) ・紫外線の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における紫外線療法とそれを応用した治療を学ぶ。 ・極超短波の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における極超短波療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	紫外線、極超短波の物理学的性質を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	紫外線療法、極超短波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
7	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 5(超音波) ・超音波の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における超音波療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	超音波の物理学的特性を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	超音波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 6(電気 1) ・電気の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における電気刺激療法(治療的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	電気の物理学的特性を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	治療的電気刺激療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
9	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 7(電気 2) ・物理療法における電気刺激療法(機能的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	運動機能と電気の関連性を確認する。	1.5 時間

	1,2,3,4	復習	機能的電気刺激療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
10	講義内容	物理的エネルギーと生体反応 8(牽引) ・牽引(脊椎に対する力学的負荷)の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における牽引療法とそれを応用した治療を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	力の物理学的性を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	牽引療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	1.5 時間
11	講義内容	病態別物理療法 1(疼痛) ・痛みの生理学的メカニズムを学ぶ。 ・痛みに対する物理療法を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	痛みの生理学的メカニズムを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	痛みに対する物理療法を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	病態別物理療法 2(軟部組織伸張性低下) ・軟部組織伸張性向上のための部地理療法を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	軟部組織伸張性低下の生理学的メカニズムを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	軟部組織伸張性低下に対する物理療法を確認する。	1.5 時間
13	講義内容	病態別物理療法 3(筋委縮、筋力低下、運動麻痺) ・筋委縮、筋力発揮、運動麻痺の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・筋委縮の予防と改善、筋力向上、運動麻痺改善のための物理療法を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	筋力低下、運動麻痺の生理学的メカニズムを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	筋力低下、運動麻痺に対する物理療法を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	病態別物理療法 4(末梢循環障害、浮腫) ・末梢循環障害および浮腫の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	研究発表の準備を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発表会での指摘や助言を基に研究を振り返り、結果や考察を再考する。	1.5 時間
15	講義内容	物理療法のトピックス ・物理療法の研究成果を紹介し、世界の理学療法士が行っている最新の物理療法に関する知見を学ぶ。		
	該当する到達目標	予習	これまでに学んだ知識を整理する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	最新の物理療法研究の動向や成果を確認する。	1.5 時間
備考	基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。各回の授業終了時に質疑応答形式で、理解が曖昧な部分を明確にしていく。授業は教員が作成した資料および教科書を用いながら、また PC プレゼンテーションを使用して要点をまとめていく。この科目に関する問い合わせ先：竹内伸行(保健医療学部 理学療法学科;5号館5階502研究室;ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp) 科目責任者のオフィスアワー：月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること) ■：実務経験に基づく内容を示す。			

## 理 112 物理療法学実習

科目名	物理療法学実習（専門科目）		PTS216	実習
英文名	Practice of Physical Agents			
担当教員	竹内伸行			
科目に関連した実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)</li> <li>・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)</li> </ul>			
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	必修 1 単位	
講義目標	物理療法学で学習した様々な物理的刺激を用いた治療法について、実際の物理療法機器を使用して実習を行うことにより、各物理療法の適切な治療条件、リスク管理、機器の取り扱い、適応、禁忌等について理解する。また、疾患や障害と物理療法との関連性を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各物理療法について、適切な治療条件、リスク管理、適応、禁忌、機器の取り扱い等について述べるができる。■</li> <li>2. 基本的な疾患、病態に対して、適切な物理療法を選択できる。■</li> <li>3. 基本的な疾患、病態に対して、物理療法を実践できる。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験で評価する(100%)。			
課題に対するフィードバック	実習後の課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。			
使用教材	<p>エビデンスから身につける物理療法 第1版、庄本康治編、羊土社、2017 5200 円＋税 ISBN 978-4-7581-0221-6</p> <p>【参考図書】 最新物理療法の臨床適応 庄本康治編集 文光堂 2012 8400 円 理学療法テキスト 15 物理療法学・実習 石川 朗編 中山書店 2014 2,400 円</p>			
講義内容	<p>第1回 オリエンテーション、実習のリスク管理・各物理療法機器の概要、リスク管理について学ぶ 第2～13回 各物理療法の実施・グループに分かれて、以下の各物理療法について、安全に、且つ効果的に実施する方法を学ぶ。(各グループで週ごとにローテーションして、毎週異なる実習を行う) ■</p> <p>①表在性温熱療法 1:ホットパック・ホットパックの適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。②表在性温熱療法 2:パラフィン浴・パラフィン浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。③極超短波療法・極超短波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。④超音波療法・超音波療法の適応、禁忌を理解し、安全に</p>			

且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑤電気刺激療法 1:疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法・痛みに対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑥電気刺激療法 2:筋機能改善のための筋電気刺激療法・筋機能に対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑦電気刺激療法 3:運動麻痺改善のための筋電誘発型電気刺激療法・筋電誘発型電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑧直線偏光近赤外線療法・直線偏光近赤外線療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑨牽引療法 1:頸椎牽引療法・頸椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑩牽引療法 2:腰椎牽引療法・腰椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑪水治療法:渦流浴・渦流浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。⑫寒冷療法:アイスパック、クリッカー・アイスパックおよびクリッカーの適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

第 14 回 各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。

第 15 回 各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。

予習	各グループが行う実習項目について、適応、禁忌、生理学的メカニズムを理解する。	1.5 時間
復習	実施した物理療法に関して、適応、禁忌、生理学的メカニズム、リスク管理を確認する。	1.5 時間

備考

各回の授業はグループ毎に設定された内容に沿って実習を進めるが、質疑応答を行いながら不明確な点を明らかにしていく。

授業は教員が作成した実習資料および教科書を用いて要点をまとめていく。

この科目に関する問い合わせ先:竹内伸行(保健医療学部理学療法学科;5号館5階502研究室; ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp)

科目責任者のオフィスアワー:月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること

■:実務経験に基づく内容を示す。

## 理 113 理学療法症例基盤型演習 I

科目名	理学療法症例基盤型演習 I (専門科目)			PTS315	演習
英文名	Problem-based Learning 1				
担当教員	竹内伸行				
科目に関連した実務経験	・常勤理学療法士として病院に勤務(経験) ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)				
学年・開講期	3年 後期	必修・単位数	必修 1単位		
講義目標	運動器疾患、中枢神経疾患、内部障害など、主な理学療法対象疾患の模擬症例を通して、一連の理学療法過程を学ぶ。理学療法における評価、問題点抽出、治療計画立案の位置づけとその必要性を学習する。またこれらを実践するための知識・技術を学習する。理学療法士が接する機会の多い症例について、その症例検討の基礎的知識を身につける。				
到達目標	1. 模擬症例を通して、代表疾患における基本的な理学療法過程を理解できる。■ 2. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列挙、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案ができる。■ 3. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列挙、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案を行い他者へ伝えることができる。■ 4. 他の学生と協調しながら、一人の患者(模擬症例)の理学療法過程を考えることができる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	主に期末試験で評価する(期末試験 80%、授業への参加度 20%)。				
課題に対するフィードバック	課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。グループによる演習のレジュメは、グループごとに確認しフィードバックする。				
使用教材	担当教員が準備した資料を配布する。 <b>【参考図書】</b> 嶋田智明:ケースで学ぶ理学療法臨床思考:文光堂 2006 6,190円(税込み)				
1	講義内容	・オリエンテーション・理学療法における問題基盤型学習(problem based learning:PBL)について、肩関節周囲炎を例に学ぶ。■			
	該当する到達目標	予習	問題基盤型学習(problem based learning:PBL)の概要を理解する。	1.5時間	
	1,2,3,4	復習	PBLの視点にたった理学療法対象疾患の学習方法について確認する。	1.5時間	
2	講義内容	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループによる症例検討) ■			
	該当する到達目標	予習	一般的な大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5時間	

	1,2,3,4	復習	一般的な大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループによる症例検討) ■		
	該当する到達目標	予習	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
6	講義内容	変形性膝関節症の理学療法過程(グループによる症例検討) ■		
	該当する到達目標	予習	一般的な変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	変形性膝関節症の理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	脳梗塞の理学療法過程(グループによる症例検討) ■		
	該当する到達目標	予習	一般的な脳梗塞の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な脳梗塞の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
9	講義内容	脳梗塞の理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	脳梗塞の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	脳梗塞の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	関節リウマチの理学療法過程(グループによる症例検討)1,2,3,4 ■		
	該当する到達目標	予習	一般的な関節リウマチの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な関節リウマチの一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
11	講義内容	関節リウマチの理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	関節リウマチの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	関節リウマチの一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	廃用症候群の理学療法過程(グループによる症例検討) ■		
	該当する到達目標	予習	一般的な廃用症候群の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な廃用症候群の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
13	講義内容	廃用症候群の理学療法過程(グループ発表)		
	該当する到達目標	予習	廃用症候群の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	廃用症候群の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループによる症例検討) ■		

	該当する到達目標	予習	一般的な慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一般的な慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
	講義内容	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループ発表)		
15	該当する到達目標	予習	慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	1.5 時間
備考	<p>各回の前半は講義形式で模擬症例を提示しながら、疾患や障害についての理解を深めるよう解説する。後半はグループワークによる演習を行いながら、質疑応答形式で進めていく。</p> <p>授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上および PC プレゼンテーションを用いながら要点をまとめていく。</p> <p>この科目に関する問い合わせ先: 竹内伸行(保健医療学部理学療法学科; 5 号館 5 階 502 研究室; ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>科目責任者のオフィスアワー: 月曜 6 限、金曜 6 限(不在時はメールで問い合わせること)</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 114 理学療法症例基盤型演習Ⅱ

科目名	理学療法症例基盤型演習Ⅱ（専門科目）			PTS402	演習
英文名	Problem-based Learning 2				
担当教員	大野洋一				
科目に関連した実務経験	理学療法士として大学病院に勤務（経験）				
学年・開講期	4年 前期	必修・単位数	必修 1単位		
講義目標	<p>1. 総合臨床実習に向けて、理学療法の治療計画を立て実施し、経過を追って治療の見直しができるまでに行う思考過程を理解する。</p> <p>2. 広い視野で問題点の抽出と構造分析を行うために、評価項目の抽出と結果の統合と解釈、妥当な優先順位の判断と具体的な目標設定、それに対応した治療計画の策定を行うまでについて理解する。</p> <p>3. 動作分析などの観察評価、徒手的操作による潜在能力の評価、立てたプログラムの施行とそ          中で行う評価について実施できるレベルとなる。■</p>				
到達目標	1. 症例を評価し、治療計画を考えるための臨床思考過程を実践する。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	レポート 90%（講義ノート 30%、ケースのレジュメ各 30%）、学習態度 10%				
課題に対するフィードバック	講義内にてフィードバックを実施する。				
使用教材	参考書：嶋田智明 障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考続 文光堂 嶋田智明 生活機能障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 文光堂				
1	講義内容	オリエンテーション、情報収集講義			
	該当する到達目標	予習	機能・能力診断学臨床実習を振り返り自分の問題点を把握する		1.5 時間
	1,2	復習	情報収集の理解		1.5 時間
2	講義内容	情報収集演習、評価計画の立案、検査・測定の実施について講義			
	該当する到達目標	予習	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習		1.5 時間
	1,2	復習	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解		1.5 時間
3	講義内容	統合と解釈・問題点の抽出について講義			
	該当する到達目標	予習	統合と解釈・問題点の抽出の事前学習		1.5 時間
	1,2	復習	統合と解釈・問題点の抽出の理解		1.5 時間
4	講義内容	統合と解釈演習、問題構造の分析について講義			

	該当する到達目標	予習	統合と解釈演習、問題構造の分析の事前学習	1.5 時間
	1,2	復習	統合と解釈演習、問題構造の分析の理解	1.5 時間
5	講義内容	目標設定・プログラム立案について講義と演習		
	該当する到達目標	予習	目標設定・プログラム立案の事前学習	1.5 時間
	1,2	復習	目標設定・プログラム立案の理解	1.5 時間
6	講義内容	治療経過、考察について講義と演習		
	該当する到達目標	予習	治療経過、考察の事前学習	1.5 時間
	1,2	復習	治療経過、考察の理解	1.5 時間
7	講義内容	ケース①-1 情報の整理、評価計画立案(全体、第1回)→発表		
	該当する到達目標	予習	ケース①の情報の整理、評価計画立案に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース①に関する情報の整理、評価計画立案の理解	1.5 時間
8	講義内容	ケース①-2 データから統合と解釈、問題点の抽出→学生デモ(評価実施)■		
	該当する到達目標	予習	ケース①の統合と解釈、問題点の抽出に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	ケース①に関する統合と解釈、問題点の抽出の理解	1.5 時間
9	講義内容	ケース①-3 ゴール設定、プログラム作成→発表		
	該当する到達目標	予習	ケース①のゴール設定、プログラム作成に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース①に関するゴール設定、プログラム作成の理解	1.5 時間
10	講義内容	ケース①-4 治療実施と再評価→デモ(治療実施)1■		
	該当する到達目標	予習	ケース①の治療実施と再評価に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	ケース①に関する治療実施と再評価の理解	1.5 時間
11	講義内容	ケース②-1 情報の整理、評価計画立案(全体、第1回)→発表		
	該当する到達目標	予習	ケース②の情報の整理、評価計画立案に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース②に関する情報の整理、評価計画立案の理解	1.5 時間
12	講義内容	ケース②-2 データから統合と解釈、問題点の抽出→デモ(評価実施)■		
	該当する到達目標	予習	ケース②の統合と解釈、問題点の抽出に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース②に関する統合と解釈、問題点の抽出の理解	1.5 時間
13	講義内容	ケース②-3 ゴール設定、プログラム作成→発表		
	該当する到達目標	予習	ケース②のゴール設定、プログラム作成に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース②に関するゴール設定、プログラム作成の理解	1.5 時間
14	講義内容	ケース②-4 治療実施と再評価→デモ(治療実施)1■		
	該当する到達目標	予習	ケース②の治療実施と再評価に関わる疾患の基礎知識の学習	1.5 時間

	1,2,3	復習	ケース②に関する治療実施と再評価の理解	1.5 時間
15	講義内容	ケース②-5 退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ		
	該当する到達目標	予習	ケース②の退院前訪問指導と生活面へのアプローチに関する基礎知識の学習	1.5 時間
	1,2	復習	ケース②に関する退院前訪問指導と生活面へのアプローチの理解	1.5 時間
備考	<p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>授業は配布資料を使用してグループワークと実習を行いながら進める。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>メールでの連絡先: ohno@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー: 月曜日 16:30-18:00</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 115 理学療法技術実習 I

科目名	理学療法技術実習 I (専門科目)		PTS307	実習
英文名	Physiotherapy Techniques I			
担当教員	浅香 満・生方 瞳			
科目に関連した実務経験	(浅香)医療機関での臨床経験(33年6ヶ月)理学療法教育(8年)			
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	特によく用いられる理学療法技術について、その理論的背景やコンセプトを学び、実技練習を通して技術を習得する。各治療技術を学ぶ中で、対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行うリスク管理や観察評価についても学び、理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応についても学ぶ。			
到達目標	1.症状の運動学的考察ができる■ 2.触診の技術が身についている■ 3.関節モビライゼーションに必要な評価ができる■ 4.関節モビライゼーションの適応・禁忌が分かっている■ 5.正確な手技が実施できる■ 6.理学療法技術について基本的概念を身につける■ 7.対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる■			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
		3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	1.実技試験 50% 2.筆記試験 40% 3.講義参加度 10%			
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ等で対応する			
使用教材	配布資料			
1	講義内容	オリエンテーション(担当:浅香・生方)		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1.5時間
	6	復習	すでに学習した科目と統合できる	1.5時間
2	講義内容	関連基礎知識のまとめ(担当:浅香)		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読む、上肢の基礎運動学の確認	1.5時間
	1,2,3,4,5,6,7	復習	関節の構造と生理学・疾患をまとめる	1.5時間

3	講義内容	AKAアプローチ①概要(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	関節の構造と生理学・疾患について	1.5 時間
	0	復習	AKAとは何か.	1.5 時間
4	講義内容	AKAアプローチ②肩関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	肩関節の構造と運動学・疾患をまとめる・肩関節周囲の触診ができる	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6,7	復習	肩関節のAKAができる・	1.5 時間
5	講義内容	AKAアプローチ③肘・手関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	肘・手関節の構造と運動学・疾患について. 触診ができる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	肘・手関節のAKAができる	1.5 時間
6	講義内容	AKAアプローチ④肘・手関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	肘・手関節の構造と運動学・疾患について. 触診ができる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	肘・手関節のAKAができる	1.5 時間
7	講義内容	AKAアプローチ⑤股関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	股関節の構造と運動学・疾患について. 股関節周囲の触診ができる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	股関節のAKAができる	1.5 時間
8	講義内容	AKAアプローチ⑥股関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	股関節の構造と運動学・疾患について. 股関節周囲の触診ができる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	股関節のAKAができる	1.5 時間
9	講義内容	AKAアプローチ⑦膝。足関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	膝・足関節の構造と運動学・疾患についてまとめる. 触診もできる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	膝・足関節のAKAができる	1.5 時間
10	講義内容	AKAアプローチ⑧膝・足関節(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	膝・足関節の構造と運動学・疾患についてまとめる. 触診もできる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	膝・足関節のAKAができる	1.5 時間
11	講義内容	AKAアプローチ⑨体幹(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	頸椎・胸椎・腰椎の構造と運動学・疾患. 触診もできる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	頸椎・胸椎・腰椎のAKAができる	1.5 時間
12	講義内容	AKAアプローチ⑩体幹(担当:浅香)■		
	該当する到達目標	予習	頸椎・胸椎・腰椎の構造と運動学・疾患. 触診もできる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	頸椎・胸椎・腰椎のAKAができる	1.5 時間
13	講義内容	関節可動域運動Ⅰ(担当:生方)		
	該当する到達目標	予習	関節の形状・機能解剖・運動学を復習しておくこと。	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
14	講義内容	関節可動域運動Ⅱ(担当:生方)		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
15	講義内容	筋力強化法Ⅰ(担当:生方)		

	該当する到達目標	予習	関節の形状、機能解剖、運動学を復習しておくこと。	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	筋力強化法Ⅱ(担当:生方)		
16	該当する到達目標	予習	筋の生理学について復習しておくこと	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	時間
	講義内容	脊柱の評価と治療Ⅰ-1(担当:生方)		
17	該当する到達目標	予習	筋の生理学について復習しておくこと	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	脊柱の評価と治療Ⅰ-2(担当:生方)		
18	該当する到達目標	予習	脊柱の解剖学、運動学を復習しておくこと	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	脊柱の評価と治療Ⅱ-1(担当:生方)		
19	該当する到達目標	予習	脊柱の解剖学、運動学を復習しておくこと	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	脊柱の評価と治療Ⅱ-2(担当:生方)		
20	該当する到達目標	予習	脊柱の解剖学、運動学を復習しておくこと	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1.5 時間
	講義内容	癌の理学療法①(担当:浅香)■		
21	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	癌の理学療法の概要、必要性が理解できる	1.5 時間
	講義内容	癌の理学療法②(担当:浅香)■		
22	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	癌の治療に伴う症状の理解と、それへの理学療法的対応ができる	1.5 時間
	講義内容	癌の理学療法③(担当:浅香)■		
23	該当する到達目標	予習	配布資料を読む	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	リンパについて理解し、リンパ浮腫への対応ができる	1.5 時間
	講義内容	まとめ(担当:浅香・生方)■		
24	該当する到達目標	予習	ポートフォリオを見て、質問等をまとめてくる	1.5 時間
	1,2,5,6,7	復習	自分の課題を確認し、今後の対応を計画する	1.5 時間
備考	<p><b>【授業の進め方】</b></p> <p>教員の作成したスライド、配布資料を用いてデモンストレーション、実技練習を交えながら進めていく。デモンストレーションの中で随時質問を受けつけ、理解度を深めるよう進める。</p> <p>オフィスアワー: 研修日以外の在室時はいつでも質問を受ける</p> <p>浅香研究室: 5号館5階 ) アドレス asaka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>生方研究室 3号館2階 アドレス ubukata@takasaki-u.ac.jp</p>			

## 理 116 理学療法技術実習Ⅱ

科目名	理学療法技術実習Ⅱ（専門科目）			PTS316	実習
英文名	Physiotherapy Techniques Ⅱ				
担当教員	吉田剛, 富田洋介				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し, 臨床実習指導を行ってきた(経験) 非常勤理学療法士として病院および施設で指導(現在)				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	特によく用いられる理学療法技術について, その理論的背景やコンセプトを学び, 実技練習を通して技術を習得する。各治療技術を学ぶ中で, 対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行うリスク管理や観察評価についても学び, 理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応についても学ぶ。				
到達目標	1.理学療法技術について基本的概念を身につける。■ 2.対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる。■ 3.ボース概念や PNF について概要を理解し、説明および一部手技の実施ができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	実技試験 70%, 実技確認テスト 20%, 講義参加度 10%				
課題に対するフィードバック	実技確認テストについては、毎回個別に採点すると同時に全体にポイントをフィードバックする。				
使用教材	配布資料				
1	講義内容	オリエンテーション, PNF の概念			
	該当する到達目標	予習	シラバスを確認して PNF について参考文献を確認しておく。		1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF の概念について理解し、修得する。		1 時間
2	講義内容	PNF 肩甲帯パターン 1■			
	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。		1.5 時間
	1,2,3	復習	肩甲帯パターンについてポイントを理解し、修得する。		1 時間
3	講義内容	PNF 肩甲帯パターン 2■			
	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。		1.5 時間
	1,2	復習	PNF 肩甲帯パターンについてポイント理解し、修得する。		1 時間
4	講義内容	PNF 骨盤帯パターン 1■			
	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。		1.5 時間
	1,2,3	復習	骨盤帯パターンについてポイントを理解し、習得する。		1 時間
5	講義内容	PNF 骨盤帯パターン 2■			

	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 骨盤帯パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 上肢パターン 1■		
6	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 上肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 上肢パターン 2■		
7	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 上肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 上肢パターン 3■		
8	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 上肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 下肢パターン 1■		
9	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 下肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 下肢パターン 2■		
10	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 下肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	PNF 下肢パターン 3■		
11	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF 下肢パターンについてポイントを理解し、習得する。	1 時間
	講義内容	体幹パターン(上部・下部)■		
12	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	特殊テクニックについて理解し、ノートにまとめる。	1 時間
	講義内容	特殊テクニック 1 reversals など■		
13	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF の臨床における応用について理解し、ノートにまとめる。	1 時間
	講義内容	特殊テクニック 2 relaxation technicke, stabilization technicke■		
14	該当する到達目標	予習	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF の臨床における応用について理解し、ノートにまとめる。	1 時間
	講義内容	PNFの臨床応用 1■		
15	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、PNFについて自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF についてノートを整理して臨床応用について理解する。	1 時間
	講義内容	PNFの臨床応用 2■		
16	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、PNFについて自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	PNF についてノートを整理して全体的に理解する。	1 時間
	講義内容	神経発達学的アプローチ 1 ボバース概念■		
17	該当する到達目標	予習	事前にボバースアプローチに関する書籍に目を通しておく。	1.5 時間

	1,2,3	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
18	講義内容	神経発達学的アプローチ 2 ハンドリングの復習■		
	該当する到達目標	予習	基礎学実習で学修したハンドリングについてノートを参考に予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
19	講義内容	神経発達学的アプローチ 3 運動の促通および誘導■		
	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
20	講義内容	神経発達学的アプローチ 4 治療経験(学生同士で左右差解消へのアプローチ)■		
	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
21	講義内容	神経発達学的アプローチ 5 コアへのアプローチ■		
	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
22	講義内容	神経発達学的アプローチ 6 片麻痺者に対する治療の組み立て■		
	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	神経発達学的アプローチについて理解し、習得する。	1 時間
23	講義内容	トランスファーテクニック(古武術介護)		
	該当する到達目標	予習	古武術介護について参考書を参考に事前学習を行う。	1.5 時間
	0	復習	テクニックのまとめをノートに整理する。	1 時間
24	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	配布資料を参考に、本講義全体について自己学習を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	本実習について総合的に理解し、技術を確認する。	1 時間
備考	<p>本講義は実習科目であり2コマ連続で開講し、前回の実習内容について確認の実技試験を行う          オフィスアワーは火曜日の3時限(13:00-14:30)          不在の場合は随時メール(tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp)で質問を受け付ける。          予習・復習については、試験前の学習で補完すること          ■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

理 117 スポーツ障害系理学療法

科目名	スポーツ障害系理学療法（専門科目）		PTS403	講義
英文名	Sports Physiotherapy			
担当教員	中川和昌 ■			
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去) ■アスレティックトレーナー免許所有＋非常勤理学療法士としてスポーツクリニックに勤務(現在)			
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位	
講義目標	スポーツ外傷・障害に対する理学療法およびアスレティックリハビリテーションの概要，その予防について学ぶ。また幅広い分野でスポーツ理学療法を捉え，健康づくりのための理学療法の応用について考える。			
到達目標	1. スポーツ理学療法の範囲を理解し，その活動のために必要な知識・技術を学ぶ。 2. 基本的なスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解し，説明できる。			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	プレゼンテーション課題 50%，レポート課題 50%とする。			
課題に対するフィードバック	口頭にて適宜実施する。			
使用教材	必要な資料等は配布します。			
1	講義内容	オリエンテーション：スポーツ理学療法概論		
	該当する到達目標	予習	シラバスに目を通し，到達目標を確認する。スポーツ理学療法の範囲を考える。	1.5時間
	1	復習	配布資料を読み，必要な知識について確認する。	時間
2	講義内容	スポーツ外傷・障害に対する理学療法		
	該当する到達目標	予習	自らのスポーツ経験やスポーツ外傷について理学療法士の視点から振り返る。	時間
	2	復習	配布資料を読み，必要な知識について確認・整理する。	時間
3	講義内容	スポーツフィールドにおける理学療法活動		
	該当する到達目標	予習	スポーツフィールドでの理学療法士の役割について考えてみる。	時間
	1, 2	復習	配布資料を読み，必要な知識について確認・整理する。	時間
4	講義内容	年齢・性別から見たスポーツ理学療法（成長期・女性・中高年者）		
	該当する到達目標	予習	年齢や性別によるスポーツ分野での理学療法士の関わりについて考えてみる。	時間
	2	復習	配布資料を読み，必要な知識について確認・整理する。	時間

5	講義内容	障害者スポーツ		
	該当する到達目標	予習	障害者スポーツにおける理学療法士の役割を考えてみる。	時間
	1, 2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。	時間
6	講義内容	外傷・障害予防とスポーツの位置付け		
	該当する到達目標	予習	スポーツ障害予防において理学療法士の役割を考えてみる。	時間
	1, 2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認・整理する。	時間
7	講義内容	健康増進とスポーツ理学療法		
	該当する到達目標	予習	健康増進のためのスポーツの必要性, 理学療法士の役割について考えてみる	時間
	1, 2	復習	配布資料を読み, 必要な知識について確認する。	時間
8	講義内容	スポーツ外傷・障害予防の実際：実技		
	該当する到達目標	予習	実技に必要な基礎知識(解剖学・運動学等)について再確認する。	時間
	1, 2	復習	学習した技術に関して再度練習する。	時間
備考	<p>原則講義形式で実施しますが, 理解を深めるためにグループワークや実技実習も実施します。グループワークや実習の際には担当教員の方で各学生の状況を確認し, 個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。</p> <p>質問は随時受け付けます。</p> <p>メールアドレス:nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー:水曜 9:00~10:30 研究室:3 号館 2 階 204 号室</p>			

理 118 嚥下障害系理学療法

科目名	嚥下障害系理学療法（専門科目）			PTS404	講義
英文名	Physiotherapy for Dysphagia				
担当教員	吉田剛、富田洋介				
科目に関連した実務経験	理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験） 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）				
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	現在行われている嚥下障害に対するリハビリテーションについて知ったうえで、嚥下運動障害について、理学療法の視点から学び、姿勢や呼吸などの全身状態が嚥下運動に与える影響およびそれに対する理学療法介入について説明できるようになることを目的とする。特に、嚥下のメカニズムを知り、嚥下筋および各器官の運動について深く学習する。				
到達目標	1.嚥下メカニズムと嚥下リハビリテーションの流れについて説明することができる。 2.嚥下に関する運動学的な基礎知識を身につけ、嚥下運動のイメージができる。 3.理学療法士として、姿勢や呼吸、頸部・体幹機能などの嚥下運動阻害因子とその評価法、およびそれに対する理学療法の一部を行うことができる。■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	レポート 30%、筆記テスト 60%、授業参加度 10%で評価				
課題に対するフィードバック	課題は 10 点満点で採点し、ポイントを全体にフィードバックする。				
使用教材	配付資料中心 参考書：栄養・嚥下理学療法 医歯薬出版 4600 円+税 摂食嚥下リハビリテーション 第 3 版 医歯薬出版 7600 円+税 脳卒中の摂食嚥下障害 第 3 版 医歯薬出版 5800 円+税				
1	講義内容	摂食・嚥下の基礎知識			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間
	1	復習	摂食・嚥下の基礎知識についてノートに整理し理解する。		1 時間
2	講義内容	摂食・嚥下障害のメカニズム			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間
	1,2	復習	摂食・嚥下障害のメカニズムについてノートに整理し理解する。		1 時間
3	講義内容	摂食・嚥下リハビリテーションの最新情報とエビデンス			
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。		1.5 時間
	1	復習	摂食・嚥下リハの最新情報とエビデンスについて理解する。		1 時間

4	講義内容	嚥下機能評価法■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	1,2	復習	嚥下機能評価法についてノートに整理し理解する。	1 時間
5	講義内容	嚥下リハビリテーション手技■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	3	復習	嚥下リハビリテーション手技についてノートに整理し理解する。	1 時間
6	講義内容	摂食・嚥下障害に対する理学療法■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	3	復習	摂食・嚥下障害に対する理学療法についてノートに整理し理解する。	1 時間
7	講義内容	実技練習■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	2,3	復習	講義で行った実技練習について理解する。	1 時間
8	講義内容	実技練習■		
	該当する到達目標	予習	参考書の該当ページを読む。	1.5 時間
	2,3	復習	講義で行った実技練習について理解する。	1 時間
備考	<p>講義中心ではあるが実際のケースの写真や動画をみながら実践的に学ぶ。</p> <p>オフィスアワーは木曜日の 2 時限(10:30-12:15)</p> <p>不在の場合は随時メール(tsuoyoshida@takasaki-u.ac.jp)で質問を受け付ける。</p> <p>予習・復習については、試験前の学習で補完すること</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す</p>			

## 理 119 発達障害系理学療法

科目名	発達障害系理学療法（専門科目）		PTS405	講義
英文名	Developmental Physiotherapy			
担当教員	臼田 由美子、吉田 剛、高橋 裕子			
科目に関連した実務経験	小児施設および小児医療センターで30年以上勤務している（現在）。 総合病院で20年以上勤務し、小児疾患患者を担当した（経験）。			
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位	
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常運動発達と対比した異常運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえながら学ぶ。</li> <li>2. 先天性疾患の中でも運動機能に関わる代表的な疾患を学習する。</li> <li>3. 脳性麻痺とその他の疾患について、その原因、症状、予後、障害に特有な評価方法及び理学療法について学習する。</li> <li>4. 従来行われてきた治療方法に加え、両親の関わりを含めた環境設定についても学ぶ。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異常運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえて理解する。</li> <li>2. 先天性疾患の中でも運動機能に関わる代表的な疾患の特徴について理解する。■</li> <li>3. 脳性麻痺やその他の疾患について、特有な評価方法及び理学療法について知識を身につける。■</li> <li>4. 子供の理学療法に必要な両親の関わりを含めた環境設定について理解する。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	期末試験 50%、課題として提出するレポート 30%、講義中の参加・貢献度 20%			
課題に対するフィードバック	課題は10点満点で評価し、ポイントについて全体にフィードバックする。			
使用教材	配布資料			
1	講義内容	正常発達の見方		
	該当する到達目標	予習	正常発達について参考書で調べてまとめておく。	1.5時間
	1	復習	正常発達の見方について整理しておく。	1.5時間
2	講義内容	脳性麻痺の基礎知識		
	該当する到達目標	予習	脳性まひについて事前に調べて病態を理解しておく。	1.5時間
	1, 2	復習	脳性まひについての基礎知識を整理してまとめる。	1.5時間
3	講義内容	脳性まひに対する理学療法（評価と治療）■		
	該当する到達目標	予習	脳性まひに対する理学療法評価について調べる。	1.5時間

	1, 2, 3	復習	脳性まひに対する理学療法評価と治療法について整理する。	1.5 時間
4	講義内容	NICU における理学療法 ■		
	該当する到達目標	予習	NICU とは何か調べておく。	1.5 時間
	2, 4	復習	NICU における理学療法についてまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	その他の小児領域の理学療法①(染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患) ■		
	該当する到達目標	予習	小児の染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患について調べておく。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	小児の染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患に対する理学療法をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	その他の小児領域の理学療法②(進行性筋ジストロフィー症) ■		
	該当する到達目標	予習	進行性筋ジストロフィー症とそのリハビリテーションについて調べておく。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法についてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	その他の小児領域の理学療法③(二分脊椎・先天性股関節脱臼、ペルテス病) ■		
	該当する到達目標	予習	二分脊椎・先天性股関節脱臼、ペルテス病について調べておく。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	二分脊椎・先天性股関節脱臼、ペルテス病に多雨する理学療法をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ ■		
	該当する到達目標	予習	今まで学んだ小児に対する理学療法について整理し疑問点を明らかにする。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	今まで学んだ小児に対する理学療法についてまとめる。	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワーは木曜日の 3 時限(13:00-14:30)</p> <p>不在の場合は、メール(tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp)にて質問を受け付ける。</p> <p>講義はオムニバス形式で行い、配布するパワーポイント資料と実際の治療場面をビデオや写真で示しながら進める。レポートは脳性麻痺のタイプ別の特徴と、脳性麻痺に用いる代表的な評価について第 3 回の講義までに作成する。</p> <p>■実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 120 産婦人科系理学療法学

科目名	産婦人科系理学療法学（専門科目）			PTS406	講義
英文名	Gynecological Physiotherapy				
担当教員	生方 瞳				
科目に関連した実務経験	週に1回産婦人科での理学療法を実施				
学年・開講期	4年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	解剖生理運動学の知識と、運動系理学療法学実習の技能を実際に生かした研究と臨床の実践を学習する。特に女性医学への適用、とりわけ産婦人科に注目し、解剖生理・機能解剖・姿勢分析から評価治療までを系統的に学習する。				
到達目標	1.女性のライフステージにおける身体変化について理解する■ 2.産婦人科理学療法に対する理解を深める■				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	課題提出(60%)、課題発表(40%)による評価				
課題に対するフィードバック	毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、その回答について各自振り返りを行い、次回の授業に活かすこと。				
使用教材	配布資料				
1	講義内容	オリエンテーション 女性医学の理学療法			
	該当する到達目標	予習	腹部や骨盤帯、膀胱のしくみについて復習しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1 時間
2	講義内容	産婦人科概論 1(解剖生理)			
	該当する到達目標	予習	腹部や骨盤帯、膀胱およびホルモンの働きについて復習しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1 時間
3	講義内容	産婦人科概論 2(機能解剖)			
	該当する到達目標	予習	腹部や骨盤帯、膀胱およびホルモンの働きについて復習しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1 時間
4	講義内容	産婦人科概論 3(姿勢分析) ■			
	該当する到達目標	予習	正常な姿勢について解剖学、運動学の教科書で復習しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。		1 時間
5	講義内容	産婦人科理学療法の実際(月経とホルモンの関係)			
	該当する到達目標	予習	上肢、体幹の機能について解剖学および運動学の教科書で復習しておくこと。		1.5 時間

	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1 時間
6	講義内容	産婦人科理学療法の実際(骨盤帯と腰痛) ■		
	該当する到達目標	予習	腰痛の発生機序、種類、理学療法について復習しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1 時間
7	講義内容	産婦人科理学療法の実際(腹圧と尿失禁) ■		
	該当する到達目標	予習	膀胱、尿道の解剖学、生理学について復習しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1 時間
8	講義内容	まとめ(産前産後のリハビリトレーニング) ■		
	該当する到達目標	予習	これまでの配布資料をよく読んで復習しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること。	1 時間
備考	<p>講義中にディスカッションも交えながら、ダイナミックに変化する女性の体を捉えていきます。</p> <p>メールアドレスは次の通りです。ubukata@takasaki-u.ac.jp、オフィスアワーは木曜日(3,4 限目)です。</p> <p>メールでの質問は随時受け付けます。</p>			

理 121 地域在宅理学療法学

科目名	地域在宅理学療法学（専門科目）			PTS317	講義
英文名	Community-based Physiotherapy				
担当教員	田中、解良				
科目に関連した実務経験	田中：理学療法士として病院、介護保険施設に常勤・非常勤勤務(9年)。 解良：特別養護老人ホーム非常勤勤務(19年間)				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	高齢化社会の到来にともない、地域社会の中で生活する障がい者およびその家族に対して支援する地域理学療法の重要性は保健・医療・福祉の分野のみならず、社会・経済の観点からも注目されつつある。地域理学療法の様々な場面でどのような理学療法を提供すればよいか学習する。				
到達目標	1. 介護保険制度と各サービスについて説明できる 2. 地域における理学療法士の役割について説明できる 3. 認知症や虚弱高齢者の特性を正しく理解し、効果的な理学療法を提供できる				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	症例発表内容 40%、定期試験 60%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	毎回の講義で各学生に「学びの記録」を配付し、そこに記載された質問事項に対して次の講義で補足を行う。 症例検討発表会では発表に対してコメントする。				
使用教材	資料は必要に応じてプリントして配付する。				
1	講義内容	地域理学療法概論・地域包括ケア 担当：解良			
	該当する到達目標	予習	地域理学療法の概念、関連機関との地域連携等の関連用語を調べる		1.5 時間
	1,2	復習	地域理学療法や地域包括ケア・地域リハの概要を理解する		1.5 時間
2	講義内容	福祉関連法的諸制度 担当：解良			
	該当する到達目標	予習	福祉関連法的諸制度、介護保険制度、要介護認定とケアマネジメントについて関連用語を調べる		1.5 時間
	1,2	復習	関連法規やサービスの種類・内容を理解する		1.5 時間
3	講義内容	介護保険制度とサービス・介護保険の理学療法 担当：田中			
	該当する到達目標	予習	入所・通所・訪問部門の理学療法について把握する		1.5 時間
	1,2	復習	介護保険分野の理学療法の実際や役割、理学療法士の考え方を理解する		1.5 時間

4	講義内容	高齢者の体と心の変化		担当: 田中
	該当する到達目標	予習	健康状態の評価、居宅高齢者の体力増進とリスク管理を理解する	1.5 時間
	2,3	復習	高齢者の解剖学的・生理学的・心理社会的特徴を理解する	1.5 時間
5	講義内容	認知症の正しい理解とリハビリテーション		担当: 田中
	該当する到達目標	予習	認知症およびリハビリテーション介入について把握する	1.5 時間
	2,3	復習	認知症の病態・対応の原則を理解する	1.5 時間
6	講義内容	症例検討(グループワーク)		担当: 田中
	該当する到達目標	予習	これまでの講義資料を読む	1.5 時間
	2,3	復習	グループワークの内容をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	症例検討発表会		担当: 田中
	該当する到達目標	予習	グループワークの内容を整理し、発表内容の要点をまとめる	1.5 時間
	2,3	復習	各疾患における地域理学療法のか考え方を理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ(筆記試験)		担当: 田中
	該当する到達目標	予習	講義資料を熟読する	1.5 時間
	1-3	復習	試験内容を振り返り、各々が感じる不足点を復習する	1.5 時間
備考	<p>問い合わせ先: 田中繁弥(tanaka-s@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>オフィスアワー: 火曜 3・4 限、質問はメールでも受け付ける</p> <p>欠席、遅刻する場合は「欠席届」、「遅刻届」を事前(もしくは事後 1 週間以内)に提出すること</p> <p>予習・復習については試験前の学習で補完すること</p>			

## 理 122 生活環境支援学

科目名	生活環境支援学（専門科目）		PTS308	講義
英文名	Living Environmental Support			
担当教員	篠原智行、田中繁弥			
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。			
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	包括的な理学療法の提供のために、対象者の生活環境は極めて重要な情報となる。また、得られた生活環境の情報から適切な支援方法を選択・適用することで、対象者の生活をより豊かなものにすることができる。本講義では理学療法で必要となる生活環境に関連する知識および支援方法について学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連する保健・医療・福祉制度を挙げることができる。</li> <li>2. 生活支援を共に行う他職種とその役割を述べるができる。</li> <li>3. 福祉用具の種類や特徴を述べるができる。■</li> <li>4. 住宅改修のポイントを述べるができる。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
		5. 生涯学習力		
評価方法	筆記試験 80%、レポート 10%、授業態度 10%			
課題に対するフィードバック	レポートは採点して返却する。試験に関しては解説を行う。			
使用教材	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版、鶴見隆正編集、医学書院			
1	講義内容	オリエンテーション、生活環境支援の考え方		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.222-230 を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
2	講義内容	生活環境と法的諸制度		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.246-274 を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
3	講義内容	生活環境の評価と改善計画■		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.231-245 を読む。	1.5 時間
	1,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
4	講義内容	車いすのシーティング・ポジショニング■		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.87-100 を読む。	1.5 時間
	1,3	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間

5	講義内容	高齢者の在宅支援サービス		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.303-310 を読む。	1.5 時間
	1,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
6	講義内容	高齢者の転倒と環境支援■		
	該当する到達目標	予習	教科書 p.311-317 を読む。	1.5 時間
	3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
7	講義内容	地域在住高齢者の身体測定■		
	該当する到達目標	予習	地域在住高齢者の特徴を把握する。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
8	講義内容	これまでの講義を振り返り、生活環境支援の知識、技術を確認する		
	該当する到達目標	予習	理学療法士に必要な生活環境支援に関する知識と技術を確認する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	これまでの配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
備考	<p>予習・復習について、筆記試験およびレポートにかかる学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。本授業内容を踏まえて同演習を展開する。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 123 生活環境支援学演習

科目名	生活環境支援学演習（専門科目）			PTS309	実習
英文名	Practice of Living Environmental Support				
担当教員	篠原智行、田中繁弥				
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。				
学年・開講期	3年 前期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	包括的な理学療法の提供のために、対象者の生活環境は極めて重要な情報となる。また、得られた生活環境の情報から適切な支援方法を選択・適用することで、対象者の生活をより豊かなものにすることができる。本講義ではフィールドワークや評価・改修案の提示など、理学療法で実際に体験する内容を演習して、知識の定着化を図る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境が、障害のある人にとって適切かどうか評価し、改善案を提示できる。</li> <li>2. 生活支援を共に行う他職種とその役割を述べるができる。</li> <li>3. 対象者に適した福祉用具を選択し、その適合を評価できる。■</li> <li>4. 生活環境を評価し、適切な改修点・課題を提示できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	レポート 40%、発表 40%、授業態度 20%				
課題に対するフィードバック	レポートは採点して返却する。発表の際にコメントをする。				
使用教材	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版、鶴見隆正編集、医学書院				
1	講義内容	フィールドワークの手法			
	該当する到達目標	予習	環境評価手法の概要を理解する。		1.5 時間
	1,4	復習	環境評価手法を踏まえてグループワークとして評価し、記録する。		1.5 時間
2	講義内容	フィールドワークを通して環境評価、解決案を検討し学ぶ			
	該当する到達目標	予習	環境評価から解決案までの思考過程を理解する。		1.5 時間
	1,3,4	復習	環境評価から解決案をグループワークとして検討し、まとめる。		1.5 時間
3	講義内容	フィールドワーク発表会①■			
	該当する到達目標	予習	フィールドワークを発表の資料を作成する。		1.5 時間
	1,3,4	復習	フィールドワークの発表資料の内容を整理する。		1.5 時間
4	講義内容	フィールドワーク発表会②■			
	該当する到達目標	予習	発表資料をもとに質疑ができるように準備をする。		1.5 時間
	1,3,4	復習	発表会での指摘や助言を基に、フィールドワークの結果を整理する。		1.5 時間
5	講義内容	福祉用具の種類、目的			

	該当する到達目標	予習	福祉用具の種類を把握する。	1.5 時間
	1,3	復習	福祉用具の種類と目的を整理し、レポートにまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	対象者に適した福祉用具を検討する手法■		
	該当する到達目標	予習	福祉用具の目的や使用方法を理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	適応する対象者を検討し、レポートにまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	車いすのシーティング・ポジショニングの方法■		
	該当する到達目標	予習	車いすのシーティング・ポジショニングの方法を理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	車いすのシーティング・ポジショニングの実践方法を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	グループワークにて症例の家屋評価の方法を学ぶ		
	該当する到達目標	予習	生活環境の評価の方法を理解する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	模擬症例の生活環境を評価し、資料としてまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	グループワークにて住宅改修案を検討する手法を学ぶ		
	該当する到達目標	予習	生活環境を改善する方法を理解する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	模擬症例の生活環境の改善案を検討し、資料としてまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	住宅改修案のグループワーク発表会①■		
	該当する到達目標	予習	発表の資料を作成する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	発表資料の内容を整理する。	1.5 時間
11	講義内容	住宅改修案のグループワーク発表会②■		
	該当する到達目標	予習	資料をもとに質疑ができるように準備をする。	1.5 時間
	1,3,4	復習	発表会での指摘や助言を基に、発表資料を整理する。	1.5 時間
12	講義内容	在宅高齢者や障害者に対する生活および生活環境支援		
	該当する到達目標	予習	医療保険および介護保険における理学療法の形態を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	医療保険および介護保険における理学療法の違いを整理する。	1.5 時間
13	講義内容	認知症者に対する生活および生活環境支援		
	該当する到達目標	予習	認知症者に対する理学療法士の関わりを理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	認知症者に対する理学療法士の具体的介入を整理する。	1.5 時間
14	講義内容	介護保険サービスでの理学療法の支援		
	該当する到達目標	予習	介護保険サービスにおける理学療法を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	介護保険サービスにおける理学療法内容を整理する。	1.5 時間
15	講義内容	地域在住高齢者の身体測定方法と説明方法		
	該当する到達目標	予習	地域在住高齢者に対する理学療法評価を理解する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	地域在住高齢者に対する理学療法評価と結果の解釈を整理する。	1.5 時間
備考	<p>予習・復習について、発表およびレポートにかかる学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】同学の授業内容を踏まえて、グループワークや発表を中心に行う。5、6、12～14 回目は学外施設の見学実習を行う。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</p>			

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 124 介護予防理学療法学

科目名	介護予防理学療法学（専門科目）			PTS318	講義
英文名	Physiotherapy on Preventative Care for Elderly People				
担当教員	篠原 智行、田中繁弥				
科目に関連した実務経験	急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。				
学年・開講期	3年 後期	必選・単位数	必修 1単位		
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険下での理学療法の制度について学ぶ。</li> <li>2. 介護保険サービスにおける理学療法士の役割について学ぶ。</li> <li>3. 介護予防についての評価方法について学ぶ。</li> <li>4. 介護予防についてのアプローチ方法について学ぶ。</li> </ol>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険下での理学療法の制度について理解する。</li> <li>2. 介護保険サービスにおける理学療法士の役割について説明することができる。■</li> <li>3. 介護予防についての評価方法について理解する。■</li> <li>4. 介護予防についてのアプローチ方法についてその根拠などを説明できる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
	✓	3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	筆記試験 70%、グループワーク発表 20%、授業態度 10%				
課題に対するフィードバック	発表の際にコメントをする。試験に関しては解説を行う。				
使用教材	配布資料				
1	講義内容	介護予防が必要とされる背景と関連する制度を学ぶ。			
	該当する到達目標	予習	本邦の実情と介護保険制度を把握する。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。		1.5 時間
2	講義内容	介護予防に関連する理学療法評価と介入(身体機能) ■			
	該当する到達目標	予習	高齢者の特徴を踏まえた身体機能を把握する。		1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。		1.5 時間
3	講義内容	介護予防に関連する理学療法評価と介入(認知機能) ■			
	該当する到達目標	予習	高齢者の特徴を踏まえた認知機能を把握する。		1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。		1.5 時間
4	講義内容	介護予防における理学療法介入の実践検討			
	該当する到達目標	予習	介護予防における理学療法介入を把握する		1.5 時間
	2,4	復習	グループワークとして、模擬集団に対する理学療法介入を検討する。		1.5 時間

5	講義内容	介護予防における理学療法介入の実践■		
	該当する到達目標	予習	実践発表の準備をする。	1.5 時間
	2,4	復習	発表に対する助言から、自身が検討した実践内容を振り返る。	1.5 時間
6	講義内容	地域ケア会議の模擬実施■		
	該当する到達目標	予習	介護予防・日常生活支援総合事業について把握する。	1.5 時間
	1,2	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
7	講義内容	介護予防と地域づくり■		
	該当する到達目標	予習	介護予防・日常生活支援総合事業について把握する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5 時間
8	講義内容	介護予防における理学療法のまとめ。		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業内容を把握する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料および授業メモを読み返し復習すること。	1.5 時間
備考	<p>予習・復習について、実技試験およびレポートにかかる学習にて補完すること。</p> <p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。4～6 回目は演習授業を行い、体験や発表グループ発表を行う。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>篠原(理学):水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

理 125 理学療法早期体験実習

科目名	理学療法早期体験実習（専門科目）		PTS111	実習
英文名	Early Clinical Practicum			
担当教員	千木良佑介、理学療法学科教員			
科目に関連した実務経験	大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験） 非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）			
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	必修 1単位	
講義目標	<p>1)各病院・施設の特徴及び役割を理解するとともに、理学療法及び理学療法士の役割や施設内での位置づけ、リハビリテーション関連機器の使用目的など理学療法の業務内容を理解する。</p> <p>2)各病院・施設等におけるリハビリテーションの場において、障害者と向き合うスタッフの支援活動や方法を見学し、スタッフとのやり取りの中で臨床の雰囲気を感じる。理学療法における臨床実習に臨む姿勢、態度、行動を確認する。</p> <p>3)各病院・施設の見学を通じて、発症からの期間や障害の種類により、対処すべき問題が様々であることを知る。そして今後の学習意欲の向上と学生個人の将来像構築の一助とする。</p>			
到達目標	<p>1.臨床で重要な基本的態度を身につける■ (対象者への接遇やスタッフの皆様との良好な関係の構築に足る基本的態度が必要とされる)。</p> <p>2.理学療法部門及びその関連職種部門の見学により理学療法業務の内容を理解する。</p> <p>3.見学・体験実習から既修科目の復習及び今後の学習意欲を高める。</p> <p>4.臨床実習に必要な積極的な学習態度を身につける。■</p>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	実習態度(60%)、レポートの成績(40%)			
課題に対するフィードバック	レポートノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付して返却する。実習報告に向けて作成したレジュメはセミナー I で配布を予定している。			
使用教材	早期体験実習の手引き			
講義内容	指定された実習施設において、実習指導者の指導のもと見学する。理学療法業務全般を学習するため、様々な分野の病院、施設を見学する。その内容も、単に治療場面の見学のみならず、理学療法士の1日の流れに合わせて様々な業務を見学する。患者(家族)、理学療法士や他職種のスタッフなど理学療法に関連する人を理解するため、質問や見学内容をまとめる。			
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認		期間中

			適宜
	復習	<p>期間中適宜</p> <p>実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料(レポート・レジュメ)準備</p>	<p>期間中 適宜</p>
備考	<p>事前に実習施設の特色を調べ、見学したい内容や目標を決める。実習後は自己評価表の作成、実習内容や実習時にわからなかった事を調べたレポート等を作成し提出すること。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。また、セミナー I での報告会を各実習終了の 1 週間後に予定している。</p> <p>問い合わせ先: 千木良佑介</p> <p>保健医療学部理学療法学科: 5 号館 5 階 504 研究室: chigira@takasaki-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー ①金曜 13:00~16:30</p> <p>(■:実務経験に基づく内容を示す。)</p>		

理 126 機能・能力診断学臨床実習

科目名	機能・能力診断学臨床実習（専門科目）		PTS230	実習
英文名	Practice of Functional Assessment			
担当教員	樋口 大輔(科目責任者)、篠原 智行、理学教員			
科目に関連した実務経験	理学療法士として病院非常勤勤務(現在)			
学年・開講期	2年 後期 3年 後期	必選・単位数	必修 4単位	
講義目標	理学療法の対象者が有する問題を解決するために、情報の収集および理学療法評価における各種検査・測定を計画し、実践する能力を修得するとともに、結果の分析と解釈が行えるようになることを目指す。			
到達目標	<p><b>【2年次】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 対象者に必要な理学療法評価項目を列挙することができる。</li> <li>2 対象者の情報収集および検査・測定が実施することができる。■</li> <li>3 情報収集および検査・測定の結果を適切に記録し、報告することができる。</li> <li>4 理学療法士としての基本的態度を身につける(対象者への接遇や職員との良好な関係の構築に足る基本的態度を身に付ける)。</li> <li>5 理学療法士と他職種の間わりから、理学療法部門および他部門の役割や業務内容、多職種の連携を理解する。</li> <li>6 以後の臨床実習のための積極的学修学習態度を身につける。</li> </ol> <p><b>【3年次】</b></p> <p>上記到達目標に加え、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 検査・測定の結果を統合・解釈し全体像を捉えることができる。■</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	<p>以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床実習到達目標の達成状況(70点)</li> <li>・ 臨床実習後提出物および学内発表(30点)</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	<p>臨床実習の日々の状況、成果については臨床実習指導者がフィードバックする。 提出物、学内発表に関する質問については個別に対応し、説明する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機能・能力診断学臨床実習の実施要項</li> <li>・ これまでの授業の教科書および配布資料</li> </ul>			
講義内容	<p>医療・福祉施設における理学療法検査・測定の計画・実践、および、その記録の体験 ■ 3年次においては、上記に加え、検査・測定結果の統合と解釈の体験 ■</p>			

	予習	翌日に予定された実習内容に関連する事項を下調べする。	期間中 適宜
	復習	当日行われた実習において指導されたことを再確認する。	期間中 適宜
備考	<p>※ 学外の医療・福祉施設において理学療法検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める(2年後期1週+3年後期3週=計4週)。医療・福祉施設に在籍する臨床教育者と協働して指導にあたる。</p> <p>※ 科目責任者のオフィスアワー:木曜1・2時限</p> <p>※ この科目に関する問い合わせ先:樋口大輔(保健医療学部理学療法学科;3号館2階201研究室;higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)</p> <p>※ 1日あたり9時間(自宅学習時間含む)の実習が行われる。</p> <p>※ ■は実務経験に基づく内容を示す。</p> <p>※ 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p>		

理 127 理学療法総合臨床実習 I

科目名	理学療法総合臨床実習 I (専門科目)		PTS410	実習
英文名	Comprehensive Clinical Practicum 1			
担当教員	理学療法学科教員 ■			
科目に関連した実務経験	■病院に理学療法士として勤務(過去)			
学年・開講期	4年 後期	必選・単位数	必修 7単位	
講義目標	4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術, 対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより, 評価から治療までの一連の過程を体験し, 実際の理学療法の理解を深める。			
到達目標	治療志向的な評価, 統合と解釈, 目標の設定, 治療計画の立案を行うことができる			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	臨床実習成績評価表 70%, セミナー発表 10%, 教員評価 20%			
課題に対するフィードバック	臨床実習指導者より毎日, 各施設で課す課題に対するフィードバックを実施する。 セミナー発表後は, 内容, 改善点について教員より説明する。			
使用教材	特になし			
講義内容	実習目標 1. 理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。2. 理学療法士としての資質を高める。3. 理学療法士としての評価技術・臨床思考過程・基本的な治療法を学習する。4. 治療志向的な評価, 統合と解釈, 目標の設定, 治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において, 実習指導者の指導・監視の下, 症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し, 実際の理学療法の理解を深めることで, 治療志向的な評価及び統合と解釈, 目標の設定, 治療計画の立案が行えることを目標とする。			
	予習	0		0
	復習	0		0
備考	実習開始前に, 解剖学, 生理学, 運動学といった人体の基礎となる知識の復習と, 理学療法の実践に関わる理学療法評価, 理学療法, 物理療法などの技術の復習をしっかりと実施する。 実習開始前に, 目標を明確に立て, 実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。 実習終了後は, セミナー発表で指摘を受けた箇所について修正・加筆し, 臨床思考過程について整理する。また, 臨床実習期間中に学習しきれなかった内容については補習として自己学習を進める。			

理 128 理学療法総合臨床実習Ⅱ

科目名	理学療法総合臨床実習Ⅱ（専門科目）		PTS411	実習
英文名	Comprehensive Clinical Practicum 2			
担当教員	理学療法学科教員 ■			
科目に関連した実務経験	■ 病院に理学療法士として勤務(過去)			
学年・開講期	4年 後期	必選・単位数	必修 7単位	
講義目標	4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術，対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより，評価から治療までの一連の過程を体験し，実際の理学療法の理解を深める。理学療法課程全般を実体験して，卒後の理学療法業務に直結できるようにする。			
到達目標	治療志向的な評価，統合と解釈，目標の設定，治療計画の立案を行うことができる			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
	✓	4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	臨床実習成績評価表 70%，セミナー発表 10%，教員評価 20%			
課題に対するフィードバック	臨床実習指導者より毎日，各施設で課す課題に対するフィードバックを実施する。 セミナー発表後は，内容，改善点について教員より説明する。			
使用教材	特になし			
講義内容	実習目標 1. 理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。2. 理学療法士としての資質を高める。3. 理学療法士としての評価技術・臨床思考過程・基本的な治療法を学習する。4. 治療志向的な評価，統合と解釈，目標の設定，治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において，実習指導者の指導・監督の下，症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し，実際の理学療法の理解を深める。			
	予習	0		0
	復習	0		0
備考	<p>実習開始前に，解剖学，生理学，運動学といった人体の基礎となる知識の復習と，理学療法の実践に関わる理学療法評価，理学療法，物理療法などの技術の復習をしっかりと実施すること。また，理学療法総合臨床実習Ⅰの実習を終えて明らかとなった自分の課題について特に重点的に取り組む。</p> <p>実習開始前に，目標を明確に立て，実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。</p> <p>実習終了後は，セミナー発表で指摘を受けた箇所について修正・加筆し臨床思考過程について整理する。また，理学療法士として社会に出ることを見据えて臨床実習期間中に学習しきれなかった課題に取り組む。</p>			

理 129 卒業研究

科目名	卒業研究（卒業研究）		PTT340	演習
英文名	Graduation Research			
担当教員	理学療法学科教員			
科目に関連した実務経験				
学年・開講期	3年 後期 4年 前期	必選・単位数	必修 4 単位	
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学んだことの中からリサーチクエスチョンを抽出し、主体的にテーマを選ぶ方法を学ぶ。</li> <li>2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする手法を学ぶ。</li> <li>3. 目的に沿った研究計画を立案する過程を学ぶ。</li> <li>4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表するまでの過程を学ぶ。</li> <li>5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する過程を学ぶ。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学んだことの中からリサーチクエスチョンを抽出し、主体的にテーマを選ぶ。</li> <li>2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする。</li> <li>3. 目的に沿った研究計画を立案する。</li> <li>4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表する。</li> <li>5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する。</li> </ol>			
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観		
	✓	2. 専門知識・技術の活用力		
	✓	3. 論理的思考力		
		4. チームへの貢献力		
	✓	5. 生涯学習力		
評価方法	研究計画 30%、論文 30%、発表 30%、研究への取り組み 10%で、指導教員が総合的に判断する。			
課題に対するフィードバック	逐次研究ゼミの中で具体的にフィードバックする。			
使用教材	理学療法研究法に準じる。			
講義内容	<p>関心を持つテーマに関連の深い指導教員の研究ゼミに所属し、ゼミ単位で研究計画の作成までを3年後期に行い、必要な審査を経て4年前期に研究計画に基づいて研究を行う。3年後期希望で出された研究テーマを元に、関連論文の考証を行ってテーマを絞り、研究目的に合った方法を抽出しながら研究計画を立てる。研究計画は3年後期に計画発表会で発表し指導を受ける。4年前期データ収集および結果をまとめて考察を行い、発表および論文作成の準備を行う。研究結果は卒業研究発表会で発表し、卒業研究論文にまとめる。</p>			
	予習	毎回のゼミで予定されている発表ができるよう、準備を行い、資料を作成する。		3 時間 × 15 回

	復習	研究ゼミで指導されたポイントをまとめて、次回のゼミに備える。	1 時間 × 15 回
備考	<p>【授業期間全体を通じた授業の進め方】</p> <p>ゼミでの学習を中心に、適宜、資料等を使用して進める。</p> <p>質問は随時受け付ける。</p> <p>連絡先は、指導教員のメールアドレスとする。</p> <p>オフィスアワーは各指導教員の示す時間とする。</p> <p>最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。</p>		

理 130 運動指導実践論

科目名	運動指導実践論（健康運動）			PTK210	講義
英語名	Practical theory of exercise instruction				
担当教員	入澤孝一				
科目に関連した実務経験	①中学校・高等学校の保健体育教諭及び県教委指導主事としての実務経験実務経験 ②日本スケート連盟上級コーチとして医科学研究及びオリンピックヘッドコーチとしての実務経験				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	選択必修 1単位		
講義目標	運動が身体にどのような影響を与え、健康の維持にどのような役割を果たしているかを理解する。また、生活における正しい運動習慣の獲得を指導するための基礎について理解し、運動を指導するために必要な知識を身につけるとともに、対象者にあった運動プログラムの作成ができる能力を身につける。				
到達目標	1.安全で効果的な運動プログラムを作成するための基礎知識を身につける。 2.トレーニングや技術習得の基礎を踏まえた指導方法を実践例通じて習得する。 3.スポーツ活動の倫理について身に付け、運動指導の評価・改善ができる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 年齢に応じたトレーニングの専門知識・技術の活用力			
		3. スポーツ医科学を活用した論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 健康年齢の延長を目指した生涯学習力			
評価方法	授業後の課題レポート及び試験により評価する 80% 出席により評価する 20%				
課題に対するフィードバック	課題レポートは評価し、コメントを付けて返却する。 授業時の小テストについては、前時の講義内容の定着化を図るために実施する。 筆記試験については、健康運動実践指導者試験に対応した内容とする。				
使用教材	健康運動実践指導者養成テキスト 及びパワーポイントによる作成資料をプリントして配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション 実力テスト			
	該当する到達目標	予習	養成テキスト第6章の前書き、シラバス内容を読んで講義の目標を理解する。		1.5時間
		復習	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。		1.5時間
2	講義内容	健康づくりのための運動指針2013 生活習慣病の予防・改善について理解する■			
	該当する到達目標	予習	必携ハンドブックp73～88の統計資料に目をとおしておく。		1.5時間
		復習	健康体力づくりに関する統計データを確認する。		1.5時間
3	講義内容	健康づくりのための運動指針2013 アクティブガイド2013の実践方法を知る。■			

	該当する到達目標	予習	養成テキスト 6 章 1 に目をとおしてくる。	1.5 時間
	1	復習	アクティブガイドについて確認する。	1.5 時間
4	講義内容	子どもの運動と親子エクササイズについて理解する■		
	該当する到達目標	予習	必携ハンドブックp58～72まで目をとおしてくる。	1.5 時間
	1,2	復習	未来を担う子供たちの運動の重要性について確認する。	1.5 時間
5	講義内容	トレーニング総論（トレーニングの目的、原則及び体力トレーニングとの関係）■		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 2 章 について目をとおしてくる。	1.5 時間
	1	復習	トレーニング効果を上げるための原則について確認する。	1.5 時間
6	講義内容	有酸素機能(全身持久力・筋持久力)、有酸素トレーニングについて理解する。■		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 6 章 について目をとおしてくる	1.5 時間
	1,2	復習	有酸素運動の意味、方法、指導上の注意点について確認する。	1.5 時間
7	講義内容	無酸素機能(筋力・パワー) 無酸素トレーニングについて理解する。■		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 6 章 について目をとおしてくる	1.5 時間
	1,2	復習	無酸素運動の意味、方法、指導上の注意点について確認する。	1.5 時間
8	講義内容	レジスタンス運動・神経機能(敏捷性・スピード・バランス)と、動作について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 7 章 について目をとおしてくる。	1.5 時間
		復習	レジスタンス運動について確認する。	1.5 時間
9	講義内容	ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践。■		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 8 章 について目をとおしてくる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	アップとダウンの理論について確認する。	1.5 時間
10	講義内容	技術スキルの指導方法について学び実践する■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料で予習してくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	運動プログラムの作成上の原則・ポイント・効果について確認する。	1.5 時間

				間
11	講義内容	① レジスタンス運動・初動負荷トレーニングについての知識を学び実践する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料に目をとおしてくる。	1.5時間
	1	復習	初動負荷トレーニングの理論について確認する	1.5時間
12	講義内容	② レジスタンス運動・初動負荷トレーニングについての知識を学び実践する。■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料に目をとおしてくる。	1.5時間
	1	復習	初動負荷トレーニングの効果について確認する。	1.5時間
13	講義内容	アドバイス(声掛け)とコミュニケーション方法についての知識を学び、実践する。		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料に目をとおしてくる。	1.5時間
	1,2	復習	初動負荷マシンによるトレーニングを実践し、方法について確認する。	1.5時間
14	講義内容	トレーニング計画(運動プログラム)を発表する。■		
	該当する到達目標	予習	トレーニング計画を作成する	1.5時間
	1,2,3	復習	トレーニングプログラムを修正する	1.5時間
15	講義内容	評価、筆記試験		
	該当する到達目標	予習	養成テキスト 6章を詳細に読んでくる。	1.5時間
		復習	筆記試験の解答について確認する。	1.5時間
備考	<p>健康運動実践指導者 認定試験受験資格</p> <p>授業の流れ</p> <p>① 座学による説明 40分</p> <p>② 検討課題についてグループで検討し、意見発表する 30分</p> <p>③ 各自でレポートにまとめる 20分</p> <p>フィスアワー: 木曜日1~2時限 メールアドレス:<a href="mailto:irisawa@takasaki-u.ac.jp">irisawa@takasaki-u.ac.jp</a> 研究室 3号館 202</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す.</p>			

理 131 運動指導の心理学的基礎

科目名	運動指導の心理学的基礎（健康運動）			PTK200	講義
英文名	Sports and social psychology				
担当教員	入澤孝一				
科目に関連した実務経験	① 中学校・高等学校の保健体育教諭及び県教委指導主事としての実務経験 ② 日本スケート連盟上級コーチとして医科学研究及びオリンピックヘッドコーチとしての実務経験				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	運動実践指導者として必要な社会・心理・環境要因と運動の実践によって得られる心理的・社会的効果について理解する。行動変容理論やコーチングについての知識を身に付け運動を継続するための集団や個別指導方法習得する。				
到達目標	1.運動実践に関わる社会・心理・環境要因について理解する。 2.行動変容やコーチング理論について理解する。 3.様々な状態の人に対する行動変容理論に基づいたプログラムを作成できる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
	✓	5. 生涯学習力			
評価方法	毎時間のレポート60% 出席20%で評価する。 試験40%				
課題に対するフィードバック	毎時間のレポートには、評価点、コメントを付けて返却する。 定期試験の内容は、健康運動実践指導者筆記試験を想定した内容とする。				
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 及び講義用パワーポイント資料をプリントして配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション及び授業概要運動環境に係る現状について理解する。			
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標を理解する。		1.5 時間
	0	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	運動の心理・社会的効果について理解する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書 7章 1・2を読んでくる。		1.5 時間
	1,2	復習	成人における身体活動と決定要因との関連について確認する。		1.5 時間
3	講義内容	行動変容のモデル及び技法について理解する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書 7章 3について読んでくる。		1.5 時間
	1,2	復習	行動変容プロセスと介入方法を確認する		1.5 時間
4	講義内容	指導のミスマッチについて理解する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書 7章 5について読んでくる。		1.5 時間
	1,2	復習	指導と受講のミスマッチと解決方法を確認する。		1.5 時間
5	講義内容	コーチングスキルの概要をビデオ教材によって理解する■			
	該当する到達目標	予習	コーチングスキルの概要について事前配布資料を読んでくる。		1.5 時間
	1,2	復習	コーチングスキルの概要(目的、方法等)について確認する。		1.5 時間

6	講義内容	ビデオ教材を参考として、コーチングスキルを実践する。■		
	該当する到達目標	予習	コーチングスキルの実践内容について、事前配布資料を読んてくる。	1.5 時間
	1,2	復習	コーチングスキルを確認する。	1.5 時間
7	講義内容	ビデオ教材を参考として、コーチングスキルを実践する。グループ内で相互評価する。■		
	該当する到達目標	予習	コーチングスキル内容について、事前配布資料により練習してくる。	1.5 時間
	1,2	復習	相互評価された内容について確認し、修正する。	1.5 時間
8	講義内容	運動継続(行動変容)のためのサポートについて理解する。■		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章 6 について読んでくる。	1.5 時間
	0	復習	個別指導における動機付けについて確認する。	1.5 時間
9	講義内容	指導の方法、技術を習得する。(集団指導) ■		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章 4 について読んでくる。	1.5 時間
	1,2	復習	ソーシャルマーケティングの考え方について確認する。	1.5 時間
10	講義内容	個別指導における動機付けとカウンセリング方法について理解する 1,2 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章 6 について読んでくる。	1.5 時間
	1,2	復習	動機付けとカウンセリング方法について確認する	1.5 時間
11	講義内容	成人不適格者に対する行動変容プログラムを作成し発表する。■		
	該当する到達目標	予習	成人不適格者に対する行動変容プログラムを考えてくる。	1.5 時間
	3	復習	行動変容プログラムを確認・修正する。	1.5 時間
12	講義内容	肥満児に対する行動変容プログラムを作成し発表する。■		
	該当する到達目標	予習	肥満児に対する行動変容プログラムを考えてくる。	1.5 時間
	3	復習	行動変容プログラムを確認・修正する。	1.5 時間
13	講義内容	高齢者に対する行動変容プログラムを作成し発表する。■		
	該当する到達目標	予習	高齢者に対する行動変容プログラムを考えてくる。	1.5 時間
	3	復習	行動変容プログラムを確認し修正する。	1.5 時間
14	講義内容	高齢者向けウオーキング教室の広報資料(パンフレット)を作成する。■		
	該当する到達目標	予習	広報パンフレットを作成し、パワーポイントで発表する。	1.5 時間
	3	復習	広報パンフレットについて確認し、修正を行う。	1.5 時間
15	講義内容	筆記試験		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 章を読んでくる。	1.5 時間
	0	復習	本講義で学んだことを整理してまとめる。	1.5 時間
備考	<p>健康運動実践指導者 認定試験受験資格</p> <p>授業の流れ</p> <p>① 座学による講義、説明、質疑等 50 分</p> <p>② 本時の検討課題についてグループ討議 20 分</p> <p>③ 課題について個人レポート 20 分</p> <p>④ 毎時間、復習のための課題をプリントして配布する。</p> <p>オフィスアワー: 木曜日 1~2 時 限目 メールアドレス: irisawa@takasaki-u.ac.jp 研究室 3 号館 202 号室</p>			

■:実務経験に基づく内容を示す。

理 132 エアロビックダンスの実際

科目名	エアロビックダンスの実際（健康運動）			PTK211	実習
英文名	Theory and Practice for Aerobic Dancing				
担当教員	河野 さゆり				
科目に関連した実務経験	エアロビックダンスインストラクターとして高校非常勤講師, ダンススタジオインストラクター(現在)				
学年・開講期	2年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	<p>少子超高齢化社会を健康で活力のあるものにするには、病気の早期発見や治療だけでなく、健康増進、発病予防(第1次予防)を重視していかなければなりません。健康運動実践指導者は、「適切な運動プログラムを構成する能力」「自ら見本を示せる実演能力」を併せ持った指導者の資格です。</p> <p>エアロビックダンスの正しい模範的な動きと、対象者に正しくタイミングよく伝達する指導能力を学び、楽しく運動して、健康増進ができるような指導者を目指していきましょう！</p> <p>みんなで楽しくエアロビックダンスを行いましょう！</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.エアロビックダンスの健康に対する効果や特性について理解する</li> <li>2.ウォームアップやクールダウンで使用するストレッチングについて正しく理解、実践できるようにする</li> <li>3.エアロビックダンスの正しい動きを習得し、模範となる動きを実演できるようになる</li> <li>4.エアロビックダンスの指導法を学び、受講者に適切な配慮をもって指導できる</li> <li>5.健康運動実践指導者としての自覚を持って、運動の効果や特性を説明できる</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	実技試験(実演能力・実演指導能力)2回、70%、レポート3回 30% で評価する 総合評価 70%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック	レポートについては、コメントをつけて返却する。 実技試験について、できない内容については、個別で対応、再指導する。				
使用教材	教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」公益財団法人 健康・体力づくり財団 発行 なお、随時、資料を配布して指導実習を行う。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章D エアロビックダンスに目を通す		0.5 時間
	1	復習	講義資料を見て、次回からの目標を確認しておく		1.5 時間
2	講義内容	エアロビックダンスのレッスン体験（流れとストレッチングの理解）■			
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章D 5 エアロビックダンスの実際に目を通す		0.5 時間
	1,3	復習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく		1.0 時間
3	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ローインパクト)とストレッチングの習得 ①■			

	該当する到達目標	予習	教科書の第8章D 5 エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
	2,3	復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	0.5 時間
4	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ローインパクト)とストレッチングの習得 ②■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章D 5 エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
	2,3	復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1.0 時間
5	講義内容	エアロビックダンスの基本ステップ(ハイインパクト)とストレッチングの習得 ③■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章D 5 エアロビックダンスの実際に目を通す P174 ステップの種類に目を通す	0.5 時間
	2,3	復習	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1.0 時間
6	講義内容	ウォームアップとウォームダウンの留意点と正しいストレッチングの習得■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章Bストレッチングに目を通す	1.0 時間
	2	復習	エアロビックダンスについてまとめる(レポート作成)	1.0 時間
7	講義内容	エアロビックダンスの実演能力の試験の練習■		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	3	復習	出来なかったステップについて、確認、練習しておく	0.5 時間
8	講義内容	エアロビックダンスの実演能力の試験■		
	該当する到達目標	予習	試験の課題動作を練習しておく	1.5 時間
	3	復習	試験で不明確なステップについて、確認、練習しておく	0.5 時間
9	講義内容	エアロビックダンスの指導テクニックを学ぶ(キューだし)■		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	4	復習	音楽を聞きながら、指導のタイミングを練習しておく	0.5 時間
10	講義内容	エアロビックダンスの指導練習 ①■		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	1.0 時間
	3.4	復習	指導課題のステップを正確にダイナミックにできるよう練習する	0.5 時間
11	講義内容	エアロビックダンスの指導練習 ② ■		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVD(ステップ)を見ておく	0.5 時間
	3,4	復習	指導法についてまとめる(レポート作成)	0.5 時間
12	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験の練習①■		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVDを見ておく	0.5 時間
	1.3.4.5	復習	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5 時間
13	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験の練習②		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されているDVDを見て、指導のイメージをつかんでおく	0.5 時間
	1.3.4.5	復習	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5 時間
14	講義内容	エアロビックダンスの実演指導試験■		
	該当する到達目標	予習	実演指導試験の練習をしておく	1.0 時間

	3,4,5	復習	試験でできなかった課題の練習をする	0.5 時間
15	講義内容	エアロビックダンスの理論について理解する(レポート)		
	該当する到達目標	予習	教科書に添付されている DVD や教科書を参考に、レポートを作成する	1.0 時間
	1,5	復習	返却されたレポートを見て、できなかった箇所を確認しておく	0.5 時間
備考	<p>オフィスアワー:水曜日、質問はメールでも受け付けます。</p> <p>授業はウォーミングアップから始まり、課題ステップの確認、指導の練習を行う。授業内で教科書や教員の作成するプリントを使用する。</p> <p>アドレス:sayuriaerobic1023@gmail.com</p> <p>■:実務経験に基づく内容を示す。</p>			

## 理 133 ジョギング・ウォーキングの実際

科目名	ジョギング・ウォーキングの実際（健康運動）			PTK100	実習
英文名	Walking/Jogging				
担当教員	入澤孝一				
科目に関連した実務経験	① 中学校・高等学校の保健体育教諭、及び県教委指導主事としての実務経験 ② 日本スケート連盟上級コーチとしての医科学研究及びオリンピックヘッドコーチとしての実務経験				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	ジョギング・ウォーキングの正しい動きに習熟するとともに、指導方法を習得する。また、有酸素運動における健康づくりの知識と適切な指導プログラム作成のための方法を習得する。				
到達目標	1.ジョギング・ウォーキングの技術に習熟し、指導できる能力を身につける。 2.適切な運動プログラムを作成するための基礎知識を身につける。 3.運動実践プログラムを作成できる。 4.自作の運動プログラムを実践し評価し、改善できる。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	実技試験50% 筆記試験(授業開始時小テスト、課題レポート)50%				
課題に対するフィードバック	課題レポートは評価、コメントを付けて返却する。 授業開始時小テストは、前時の内容とし、講義内容の定着度を評価する。				
使用教材	健康運動実践指導者養成テキスト 及び自作パワーポイントプリント資料				
1	講義内容	オリエンテーション（授業概要・評価方法・模範実技ビデオ、事前テスト）			
	該当する到達目標	予習	教科書第8章 C ウォーキングとジョギング 1について読んでくる。		1.5 時間
	0	復習	授業の概要、到達目標、評価方法等について確認する。		1.5 時間
2	講義内容	実施上の留意点、安全上の対策及び年齢や性差による歩行速度・特徴について理解する■			
	該当する到達目標	予習	教科書8章 p161～165を読んでくる。		1.5 時間
	1 2	復習	ウォーキングの特性、安全上の留意点について確認する。		1.5 時間
3	講義内容	ウォーミングアップ及びクールダウンの効果と必要性について理解する■			
	該当する到達目標	予習	教科書8章 p167～168 を読んでくる。		1.5 時間
	1 2	復習	アップとダウンの方法について確認する。		1.5 時間
4	講義内容	ウォーミングアップ及びクールダウンの運動プログラムを作成し、実践する■			
	該当する到達目標	予習	教科書8章 p165～167 を読んでくる。		1.5 時間
	1 2	復習	プログラムを実践し、結果について確認し、修正する。		1.5 時間
5	講義内容	ウォーキング実技① 姿勢、歩幅、速度の関係を理解する■			
	該当する到達目標	予習	教科書8章 160～161 を読んでくる。		1.5 時間
	1 2	復習	速度と時間・距離・心拍数の関係について確認する。		1.5 時間

6	講義内容	ウォーキング実技② 姿勢、歩幅、速度の関係を理解する■		
	該当する到達目標	予習	1日1時間のウォーキング実践を1週間実施してくる。	1.5時間
	1 2	復習	速度と心拍数・主観的運動強度について確認する。	1.5時間
7	講義内容	実技 5速度のウォーキングを実施し速度と心拍数・主観的運動強度の関係を理解する。■		
	該当する到達目標	予習	1日1時間のウォーキング実践を1週間実施してくる。	1.5時間
	1 2 3	復習	速度の違うウォーキングと運動効果について確認する。	1.5時間
8	講義内容	実技 5速度のウォーキングを実施し、身体に負担のない基本的なフォームを習得する。■		
	該当する到達目標	予習	1日1時間のウォーキング実践を1週間実施してくる。	1.5時間
	1 2	復習	ジョギングの基本のフォームについて確認する。	1.5時間
9	講義内容	ジョギングの特徴について理解し、障害リスクやシューズの選定、水分摂取方法等指導上の留意点について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	教科書 8章 160～168 を読んでくる。	1.5時間
	1 2	復習	安全なジョギングを行うための方法について確認する	1.5時間
10	講義内容	ジョギングによるエネルギー消費量を速度と時間の関係から理解し、消費カロリーを基準とした運動プログラムを作成する。■		
	該当する到達目標	予習	教科書 8章 156～160 を読んでくる。	1.5時間
	1 2	復習	エネルギー消費量について確認する。	1.5時間
11	講義内容	実技 姿勢や体幹支持の必要性を理解し、身体に負担の少ない基本的なフォームを習得する。■		
	該当する到達目標	予習	教科書 8章 152～155 を読んでくる。	1.5時間
	1,2,3	復習	毎日30分程度のジョギングを実施する。	1.5時間
12	講義内容	実技 3種類の速度と継続時間を設定してジョギングを実施し、走行距離、心拍数や主観的運動強度の関係を理解する。■		
	該当する到達目標	予習	3速度のジョギングを事前に練習しておく。	1.5時間
	2,3	復習	速度と継続時間による身体に対する負担を確認する。	1.5時間
13	講義内容	2種類の速度を設定した運動プログラムを実施し、ジョギングとランニングの違いを理解する。■		
	該当する到達目標	予習	ジョギングとランニングの練習を実施しておく	1.5時間
	1,2,3	復習	ジョギング、ウォーキングの相違と基本動作について確認する。	1.5時間
14	講義内容	実技試験 ジョギング ウォーキングの実技 ■		
	該当する到達目標	予習	ジョギング、ウォーキングの正しいフォームを練習しておく。	1.5時間
	2	復習	自分のジョギング・ウォーキング、の基本について確認し、修正する。	1.5時間
15	講義内容	筆記試験 ジョギング・ウォーキングの筆記試験		
	該当する到達目標	予習	教科書 151～168 までを読んでくる。	1.5時間
	1 2 3 4	復習	0	1.5時間
備考	①小テスト 10分 ②座学講義又は実技 60分 ③まとめの課題レポート 20分 オフィスアワー：木曜日1～2時限 研究室 3号館 202 メールアドレス:irisawa@takasaki-u.ac.jp 健康運動実践指導者 認定試験受験資格			

■:実務経験に基づく内容を示す

理 134 水泳・水中運動の実際

科目名	水泳・水中運動の実際（健康運動）			PTK101	実習
英文名	Swimming & Underwater exercise				
担当教員	三吉学 入澤孝一				
科目に関連した実務経験	① スミングスクールを運営し、優秀な選手及び水泳を通じた健康増進に長年尽力している。ている。 ② 中学校・高校で保健体育教諭として指導経験及び県教委指導主事としての経験を有する。				
学年・開講期	1年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	水の性質を理解し、水中での運動の利点、注意点などを理解する。運動実践指導者として必要なバイタルサインや衛生管理について習熟する。水中でのレジスタンス運動野有酸素運動及び各種泳法について習熟し同時に指導方法を習得する。				
到達目標	1.水中運動の注意点、バイタルサインのチェック法、救急法について理解する 2.各種レジスタンス運動に習熟し指導方法を習得する。 3.各種の泳法を習得し指導方法を理解する。				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	水中レジスタンス運動実技 40% 泳法 40% 出席及び毎時のレポート 20%				
課題に対するフィードバック	毎授業終了後：提出した課題レポートを評価し、コメントをつけて返却する。				
使用教材	教科書：健康運動実践指導者養成テキスト				
1	講義内容	オリエンテーション（授業内容・水と体の衛生・安全対策・評価方法）■			
	該当する到達目標	予習	教科書：8章 E 1・2を読んでくる。		1.5 時間
	1	復習	授業の内容について確認する。		1.5 時間
2	講義内容	水中運動療法（健康のための水泳水中運動）について理解し、実施方法を習得する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書：8章 4 を読んでくる		1.5 時間
	1	復習	水中運動療法の方法を確認する。		1.5 時間
3	講義内容	バイタルサインのチェック方法について理解し、水中運動療法について習熟する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書：8章 5 を読んでくる		1.5 時間
	1	復習	安全に対する注意について確認するとともに、水中運動療法について習熟する。		1.5 時間
4	講義内容	水中運動療法の指導実践 I（各班で実践）■			
	該当する到達目標	予習	水中運動療法及び指導方法の練習をしてくる。		1.5 時間
	1	復習	各班で実践した内容を確認する。		1.5 時間

	講義内容	水中運動療法の指導実践 II (各班で指導実践 評価) ■		
5	該当する到達目標	予習	水中運動療法及び指導方法の練習をしてくる。	1.5 時間
	1	復習	指導方法について確認する	1.5 時間
	講義内容	各種の水中エアロビ・レジスタンス運動について理解し実技を習得する。■		
6	該当する到達目標	予習	教科書:8章 4 を読んでくる。	1.5 時間
	2	復習	水中エアロビ・レジスタンス運動の動きを陸上で練習する。	1.5 時間
	講義内容	各種の水中エアロビ・レジスタンス運動について理解し実技を習得する。■		
7	該当する到達目標	予習	前時で数得した動きを陸上で練習してくる。	1.5 時間
	2	復習	習得した新たな動きを陸上で練習する。	1.5 時間
	講義内容	各種の水中エアロビ・レジスタンス運動プログラムを作成し、指導実践をする。■		
8	該当する到達目標	予習	習得した動きを基にして、運動プログラムを考えてくる。	1.5 時間
	2	復習	運動プログラムについて修正や補充をし、プログラムを完成させる	1.5 時間
	講義内容	各種の水中エアロビ・レジスタンス運動プログラムに沿って指導し、指導力を身につける。■		
9	該当する到達目標	予習	各自で作成した運動プログラムに沿って指導する練習をしてくる。	1.5 時間
	2	復習	指導した結果について、改善箇所を確認する。	1.5 時間
	講義内容	運動プログラムの実技指導の評価 2 ■		
10	該当する到達目標	予習	指導実技試験に備えて、指導の練習をしてくる。	1.5 時間
	2	復習	評価結果を確認する。	1.5 時間
	講義内容	各種泳法 自由形(クロール)について習得する ■		
11	該当する到達目標	予習	クロールの基本的な動きについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	基本的な動きが出来ているかを確認する。	1.5 時間
	講義内容	各種泳法 背泳ぎについて習得する。■		
12	該当する到達目標	予習	背泳ぎの基本的な動きについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	基本的な動きが出来ているかを確認する。	1.5 時間
	講義内容	各種泳法 平泳ぎについて習得する。■		
13	該当する到達目標	予習	平泳ぎの基本的な動きについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	基本的な動きが出来ているかを確認する。	1.5 時間
	講義内容	各種泳法 バタフライについて習得する。■		
14	該当する到達目標	予習	バタフライの基本的な動きについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	基本的な動きが出来ているかを確認する。	1.5 時間
	講義内容	各種泳法の評価(得意種目の泳法評価) ■		
15	該当する到達目標	予習	実技試験で実施する得意種目の練習をしてくる	1.5 時間
	3	復習	評価結果について確認する	1.5 時間
備考	<p>オフィスアワー:木曜日1~2時限 研究室 3号館 202 メールアドレス:irisawa@takasaki-u.ac.jp</p> <p>健康運動実践指導者 受験資格</p> <p>授業形態</p> <p>①本時の内容についての説明(座学)20分 ②プール内での実技60分 ③まとめレポート10分</p>			

■:実務経験の基づく内を示す.

理 135 ストレッチングおよび補強運動の理論と実際

科目名	ストレッチングおよび補強運動の理論と実際（健康運動）			PTK201	実習
英文名	Theory and practice of resistance training and Stretching				
担当教員	入澤孝一 高橋裕子				
科目に関連した実務経験	① 体育教諭としての実務及びスピードスケート上級コーチとしてのトレーニング指導経験 ② 理学療法士としての実務経験				
学年・開講期	2年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	健康運動指導者には、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力が求められる。ストレッチやレジスタンストレーニングの基本を学び適切なプログラムを構成できる能力、自ら動きの見本を示せる能力、治療できる能力を身につけることを目標とする。				
到達目標	1 ストレッチングの目的を理解する 2 静的ストレッチの正しい技法を習得し、指導ができる。 3 レジスタンス運動の目的を理解する 4 フリーウエイトを使ったレジスタンス運動の動作ができる 5 自重によるレジスタンス運動が正しい動作で出来る 6 レジスタンス運動のプログラムを作成し指導ができる				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
		4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	1 基礎知識 40% 2 指導プログラムの作成と指導方法 20% 3 実技試験 40%				
課題に対するフィードバック	ストレッチの正しい方法について学んだ事を、友達と復習する時間を多く持つ 解剖学と密接な関係があるため、解剖学の復習を兼ねて行う。				
使用教材	教科書:健康運動実践指導者養成テキスト 参考書:鈴木重行編集「IDストレッチング・アクティブIDストレッチング」各 4500 円(三輪書店)				
1	講義内容	オリエンテーション 筆記テスト			
	該当する到達目標	予習	教科書 141～150 について読んでくる。	1.5 時間	
	1	復習	講義目標、内容・評価方法などについて確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	ストレッチングの意義と効果、静的、動的ストレッチングの相違について理解し、目的に応じたストレッチング種目の選択について理解する。■			
	該当する到達目標	予習	教科書 141～142 について読んでくる。	1.5 時間	
	1	復習	ストレッチングの意義と効果について確認する。	1.5 時間	
3	講義内容	実習①各部位の静的ストレッチングの実習を通じて安全な方法や留意点について理解する。■			
	該当する到達目標	予習	参考書:ストレッチングの基本事項について目をとおしてくる。	1.5 時間	
	2	復習	実習したストレッチについて友達同士で確認する	1.5 時間	

4	講義内容	実習②各部位の静的ストレッチの実習を通じて安全な方法や留意点について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	参考書:ストレッチの基本事項について目をとおしてくる。	1.5 時間
	2	復習	実習したストレッチについて友達同士で確認する	1.5 時間
5	講義内容	目的や運動種目別に応じたストレッチ種目の選択について理解し、プログラムを作成する■		
	該当する到達目標	予習	参考書:種目別ストレッチについて目をとおしてくる。	1.5 時間
	1,2	復習	種目別プログラムを実践する。	1.5 時間
6	講義内容	実技テスト 正しいストレッチ方法の実技テストを実施する。■		
	該当する到達目標	予習	基本的なストレッチ種目について練習してくる。	1.5 時間
	1,2	復習	実技テストの結果を評価し、技術の向上につなげる。	1.5 時間
7	講義内容	補強運動の必要性、筋肉の活動様式及び実施上の留意点について理解する■		
	該当する到達目標	予習	教科書 187～189 を読んでくる。	1.5 時間
	3	復習	補強運動の必要性と方法について確認する	1.5 時間
8	講義内容	実技① 自重負荷を使ったレジスタンスエクササイズの方法を理解し、実習をする。■		
	該当する到達目標	予習	教科書 191～201 を読んでくる	1.5 時間
	3,5	復習	実習したエクササイズを練習し、習熟する。	1.5 時間
9	講義内容	実技② 自重負荷を使ったレジスタンスエクササイズについて習熟する■		
	該当する到達目標	予習	実習したエクササイズを練習してくる。	1.5 時間
	3,5	復習	実習した自重負荷エクササイズを友達同士で確認する	1.5 時間
10	講義内容	実技③ 自重負荷エクササイズの指導方法を習得する■		
	該当する到達目標	予習	自重負荷エクササイズの説明と実技を練習してくる	1.5 時間
	3.5	復習	実習した自重負荷エクササイズの指導を友達同士で確認する	1.5 時間
11	講義内容	実技④ 主要な部位の補強を目的に、フリーウエイトを使ったレジスタンストレーニングについて理解し、器具の使用方法を習得する■		
	該当する到達目標	予習	教科書 192～193 を読んでくる。	1.5 時間
	4,5	復習	フリーウエイトの使用方法を練習する	1.5 時間
12	講義内容	実技⑤ フリーウエイトを使ったレジスタンストレーニングの指導法について習得する■		
	該当する到達目標	予習	フリーウエイトを使ったトレーニングを練習してくる	1.5 時間
	4,5	復習	正しい使用方法について相互に確認する	1.5 時間
13	講義内容	マシントレーニングとフリーウエイトの違いを理解し、特性に応じて効果的な利用について理解するとともに指導方法を習得する■		
	該当する到達目標	予習	トレーニングマシンの種類について調べてくる。	1.5 時間
	3,4,5	復習	フリーウエイトとトレーニングマシンの相違について確認する	1.5 時間
14	講義内容	実技試験 3種目(ビック3)のフリーウエイトエクササイズの正しいフォームについて実技試験をする■		
	該当する到達目標	予習	3 種目の練習をしてくる	1.5 時間
	4,5	復習	実技試験の結果を踏まえ、フォームの修正をする	1.5 時間
15	講義内容	基礎知識:筆記試験 ストレッチ及び補給運動について筆記試験を行う		

	該当する到達目標	予習	教科書を読んで筆記試験の予習をしてくる	1.5 時間
	1～6	復習	試験結果を踏まえ、課題を確認する。	1.5 時間
備考	<p>授業形態</p> <p>① 座学 30 分(本時の内容について理論的な知識を学ぶ)</p> <p>② 実技 50 分</p> <p>③ まとめレポート 10 分</p> <p>本時のオフィスアワー : 木曜日 1～2 時限</p> <p>メールアドレス: <a href="mailto:irisawa@takasaki-u.ac.jp">irisawa@takasaki-u.ac.jp</a> (研究室 202)</p> <p>健康運動実践指導者 認定試験受験資格</p> <p>■: 実務経験に基づく内容を示す</p>			

## 理 136 救急処置

科目名	救急処置（健康運動）			PTK110	実習
英文名	Methods of First Aid				
担当教員	田中聡一 中川和昌				
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務（現在）				
学年・開講期	1年 後期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	不意の事故はいつでも起こりえるものであり、救急処置の知識、技術を修得することは重要なことである。本講義では一次救命処置を中心に一般市民でも通常行われる救急処置を学問的に学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急対応の必要性の有無を説明できる。</li> <li>2. 救急処置が必要な疾患を挙げられる。</li> <li>3. 救急処置の方法が説明できる。</li> <li>4. 外傷の対応ができる。■</li> </ol>				
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と倫理観			
	✓	2. 専門知識・技術の活用力			
		3. 論理的思考力			
	✓	4. チームへの貢献力			
		5. 生涯学習力			
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	その日行った授業についての質問事項を紙面にて受ける。次の授業時間でその解説を毎回行う。実技や説明を含んだ DVD 問題を持ち帰ってもらい、原則得点公開をし、自己学習を促す。				
使用教材	教科書「写真と動画でわかる一次救命処置」平山敦監修(学研)ISBN: 978-4780910469 教科書「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」小出清一編集(南江堂)ISBN: 978-4524240340 使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだ pdf ファイルを配付				
1	講義内容	JCR 救急蘇生法（田中聡一）■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、JCR 救急蘇生法に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。		1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。		1 時間
2	講義内容	BLS アルゴリズム（田中聡一）■			
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、BLS アルゴリズムに関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。		1.5 時間

	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
3	講義内容	BLS 開始の判断 (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、BLS 開始の判断に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
4	講義内容	心肺蘇生法 (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、心肺蘇生法に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
5	講義内容	人工呼吸 (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、人工呼吸に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
6	講義内容	気道確保 (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、気道確保に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
7	講義内容	AED (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、AED に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
8	講義内容	小児の BLS (田中聡一)■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、小児の BLS に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間

9	講義内容	RICE 処置 (田中聡一) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、RICE 処置に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
10	講義内容	熱中症 (田中聡一) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、熱中症に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
11	講義内容	アナフィラキシーショック (田中聡一) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、アナフィラキシーショックに関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
12	講義内容	頭部外傷 (田中聡一) ■		
	該当する到達目標	予習	既に配付してある、頭部外傷に関する pdf 教材をみて、そのラインやポイントを、自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおき授業に臨む。また、付属の DVD をみて予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	pdf 教材以外に授業で板書したこと、口頭で伝えたことをさらに教科書に書き込み、その日の授業の理解を深める。付属の DVD も復習する。	1 時間
13	講義内容	捻挫、骨折の救急対応 (中川和昌)		
	該当する到達目標	予習	捻挫、骨折の基礎知識に関して事前に予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	授業で扱った、捻挫・骨折に対する救急処置について実際に演習して知識を確認する。	1 時間
14	講義内容	テーピングの準備・意味 (中川和昌)		
	該当する到達目標	予習	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、上肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	1 時間
15	講義内容	テーピングの実際(上肢・下肢) (中川和昌)		
	該当する到達目標	予習	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、下肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	1 時間

オフィスアワー：月曜 3-4 限

質問はメールでも受け付ける(メールアドレス stanaka@takasaki-u.ac.jp)

研究室 5号館 6階 602 研究室

第 1-12 回では、授業冒頭で前回の授業終了後に受けた質問に対する解答をパワーポイントで説明。教科書にポイントを書き込んだものを配付するので、自分の教科書に授業前に書き込んでおく。授業ではそれと同じものをスライドで映写し、口頭および板書で追加解説する。授業最後に全員から質問事項を提出してもらう。第 13-15 回では、実技を中心とした講義を行う。